



DEPARTMENT OF ANESTHESIOLOGY
SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE

札幌医科大学医学部麻酔科学講座 開講70周年記念
2027年，札幌にて

札幌医科大学医学部麻酔科学講座

山蔭道明 教授就任15周年
記録集

2024年12月

札幌医科大学医学部麻酔科学講座

山蔭道明 教授就任15周年 記録集



札幌医科大学シンボルマーク

楕円（枠組み）：宇宙の調和

1945：本学の創基年（女子医専が開校した年）

七光星：道章および道旗の原型，北海道を象徴

羽：本学の一層の発展と活躍

柏の葉：英智と質実を象徴

杖：医学のシンボルであるアスクレピオスの杖

へび：健康，不老不死の象徴，かつ札幌医科大学の頭文字「S」

山蔭 道明

札幌医科大学 医学部 麻酔科学講座（Homepage： <https://web.sapmed.ac.jp/masui/>）

Sapporo Medical University School of Medicine, Department of Anesthesiology

札幌医科大学 医学研究科 分子・器官制御医学 感染・免疫制御医学 侵襲制御医学

Graduate School of Medicine, Program of Molecular and Organ Regulation, Division of Infection and Immune Regulation, Anesthesiology

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目291番地

Tel：011-611-2111（内線35700），011-688-9662（教授室直通）

Fax：011-614-8430

2024年12月



札幌医科大学麻醉科学講座 ロゴと歴史

このロゴは、札幌医科大学麻醉科学講座の長い歴史と卓越した業績を象徴しています。
青と緑：広大な空と大地を表し、北海道の豊かな自然と、この地域に根ざした医療を意味しています。これは、私たちが地域医療に貢献する姿勢を反映しています。
白文字：白衣を象徴し、医師としての純粋で誠実な気持ちを表しています。患者に対する揺るぎない責任感と倫理観がここに示されています。
1957年：この年は、札幌医科大学麻醉科学講座が開講しました。当講座は、日本の麻醉科学講座の中でも早い時期に独立し、卓越した教育と研究を誇る存在としてその地位を確立しました。

70年近くにわたる歩みと3代の教授の業績

初代 高橋長雄教授：30年間にわたり当講座を主宰し、基盤を築きました。高橋教授の指導のもと、日本麻醉学会を主催し、その後、文部科学大臣賞ならびに勲三等旭日中綬章を受賞。これにより、当講座は日本の麻醉科学において確固たる地位を築きました。
二代 並木昭義教授：22年間にわたり教室を率い、日本麻醉学会をはじめとする多くの全国学会を主催し、麻醉科学の発展に大きく貢献しました。さらに、学内では病院長や学生部長を歴任し、また日本麻醉科学会理事長を務め、その指導力と卓越した業績が国内外で高く評価されました。
三代 山蔭道明教授：2024年で教授就任15周年を迎える山蔭教授は、これまでにいくつかの全国学会を主催し、2026年には日本麻醉科学会を主催する予定。現在、日本麻醉科学会の理事長を務め、学術的リーダーシップを発揮し続けています。その尽力により、当講座は更なる飛躍を遂げ、未来の麻醉科学医療を牽引する存在として成長を続けています。



札幌医科大学医学部麻醉科学講座 同門会「赤富士会」のロゴ

札幌医科大学医学部麻醉科学講座の開講60周年を記念して、教室員および同門会員の間で公募された名称の中から、第二代教授であり名誉教授でもある並木昭義先生の提案によって、「赤富士会」が採用されました。
「赤富士」とは、晩夏から初秋にかけて、早朝の特定の気象条件が揃った時のみ、雲や霧、朝陽の光が富士山を赤く染め上げる現象です。その現象は一年の中で限られた時期にしか見られず、昔から縁起の良いものとして知られてきました。赤く染まる富士山は、まるで麻醉科学の専門知識を磨き続ける私たちの姿勢を象徴しているかのようです。
このロゴは、並木先生の古希祝いに贈られた赤富士の絵からインスピレーションを得て生まれたもので、教室員の関根利佳先生のご尊父であり書道家の長沼透石氏に特別に依頼し、力強くも洗練された筆致で描かれました。
赤富士の姿が象徴するのは、私たちが共に歩む道のりにおける力強さと、困難を乗り越える精神、そして未来へと続く明るい希望です。このロゴは、赤富士会の一員としての誇りを胸に、さらなる高みを目指す我々の姿を象徴しています。

目 次

ご挨拶	2
略 歴	3
巻頭言	6
研究費・奨学金	16
学位指導論文	18
業績目録 著書	24
総説	30
原著	33
その他	51
学会発表 国際学会	56
講演・シンポジスト	68
優秀演題, 他	74
全国学会 (略)	
地方会・研究会 (略)	
教育活動 学内担当 (略)	
参加・研修等 (略)	
その他教育活動 (略)	
学外 of 教育活動 (略)	
学会・社会活動 審議会・委員会等への就任状況 (学内) (略)	
学会・学術団体への貢献 (学外) (略)	
その他の社会貢献 (略)	
その他: 座長, 司会, モデレータなど (略)	
論文の査読 (略)	
今後の抱負	79
今後の主催学会	80
ここ15年での身の回りの出来事	82
開講70周年記念行事案内	裏表紙

札幌医科大学医学部麻酔科学講座の教授就任15周年を迎えるにあたり、皆様にご挨拶申し上げます。振り返れば、この15年間は激動の時期であり、多くの試練と成果が交錯する年月でした。私が教授に就任した当初、札幌医科大学麻酔科学講座はすでに確固たる伝統と実績を持つ講座であり、その重責を担うことに身の引き締まる思いでございました。しかし、多くの教室員や関係者の皆様のご支援に支えられ、この責務を全うすることができたことを心から感謝しております。

麻酔科医の業務は、手術室内の麻酔にとどまらず、救急医療や集中治療、ペインクリニックや緩和医療、さらには病院運営業務にまで広がっております。これらの分野は、患者の命と健康を守るために不可欠であり、私たち麻酔科医が果たすべき使命は多岐にわたります。とくに、この15年の間には、東日本大震災や北海道胆振東部地震など、日本全体を揺るがす災害が発生しました。これらの未曾有の災害時において、麻酔科医として医療の最前線で活動し、多くの命を救うために全力を尽くしてきました。災害対応はもちろん、日々の救急や集中治療においても、常に冷静な判断と迅速な対応が求められ、困難な状況の中で培った経験と知識が、私たちの技術と信念をさらに強固なものとなりました。

また、教育活動においても、私たちの講座は多くの若手医師を育成し、北海道内外で活躍する麻酔科医を輩出してまいりました。教育は次世代の医療を支える最も重要な基盤であり、私たちの講座の使命でもあります。未来を担う医師たちに、高度な医療技術と倫理観を伝えることは、私自身の大きな責務であり、それを実現するために全力を尽くしてきました。これまで育て上げた若い医師たちが、今では自らの専門領域で活躍し、さらなる発展を遂げている姿を見ることは、私にとって何よりの喜びであり、誇りでもあります。

研究活動においても、私たちの講座は多くの成果を挙げてきました。国内外の学会での発表や、数々の研究論文の出版を通じて、私たちの研究は高く評価されてきました。これもまた、教室員一人ひとりのたゆまぬ努力と探求心によるものであり、その成果を共有できることを誇りに思います。医療は日々進化しており、その変化に対応し続けるためには、常に新しい知識を探求し、技術を磨く姿勢が不可欠です。私たちはこれからも、臨床に直結する研究を推進し、患者様に還元できる医療の質を追求してまいります。

これから先、医療を取り巻く環境は一層厳しさを増し、私たち麻酔科学講座に求められる役割もますます大きくなっていくことでしょう。しかしながら、この15年間で築き上げた基盤と信頼関係を礎に、さらに前進し続ける所存です。新しい技術や知見を積極的に取り入れつつ、患者様に最良の医療を提供するため、そして次世代の医師たちがより良い環境で成長できるよう、全力を尽くしてまいります。

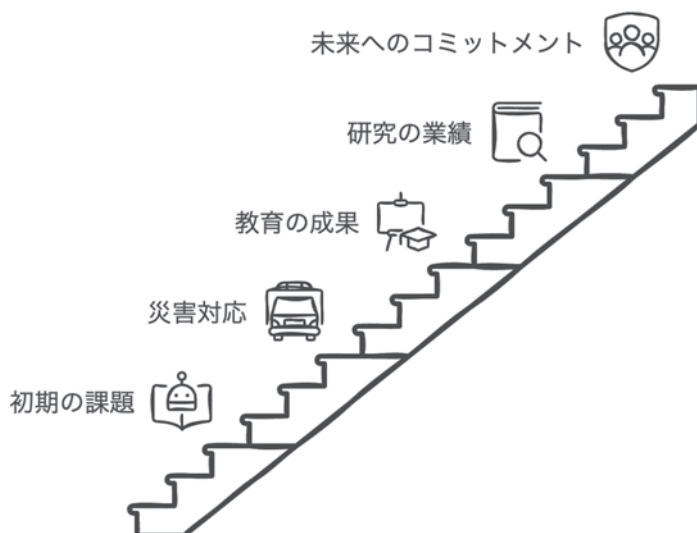
最後になりますが、これまで支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。私たち麻酔科学講座のさらなる発展のために、そして地域医療への貢献を続けるために、引き続きご支援をいただければ幸いです。

2024年12月吉日

札幌医科大学医学部麻酔科学講座 教授

山蔭 道明

麻酔科学における15年間の進展



略 歴

【経 歴】

- ◆ 1963年4月4日：北海道室蘭市に生を受ける。幼少期から自然豊かなこの地で育ち、人生の基盤を築く。
- ◆ 1968年4月：父の転勤に伴い茨城県神栖町（現神栖市）へ移住。ここで過ごした高校時代は、アントラーズの町として知られる地域での豊かな経験が、彼の人生観に深い影響を与えた。
- ◆ 1982年3月：私立清真学園高等学校を卒業し、同年4月に札幌医科大学に入学。ここで医療の道を志し、その後のキャリアを決定づける重要な時期を過ごすこととなる。
- ◆ 1988年3月：札幌医科大学を卒業し、医師としての第一歩を踏み出す。同年4月には札幌医科大学麻酔学講座に研究生として所属し、麻酔科学の道を歩み始める。
- ◆ 1988年10月：旭川赤十字病院麻酔科で研修医として実践的な経験を積み、医師としての基礎を固めた。
- ◆ 1989年4月：札幌医科大学大学院に入学し、さらなる知識と技術の研鑽に励む。1993年3月に同大学院を修了し、医療の最前線での活動を開始。
- ◆ 1993年4月：北海道立小児総合保健センター麻酔科に医員として着任し、とくに小児麻酔の分野で重要な役割を果たした。
- ◆ 1994年1月：世界的な名声を誇る米国Johns Hopkins大学医学部麻酔学講座に研究員として赴任。日本学術振興会の海外特別研究員として、国際的な視野を広げ、麻酔科学の最前線で活躍する。
- ◆ 1996年2月：札幌医科大学医学部麻酔学講座に戻り、助手として教育と研究に従事。ここでの経験が、彼の後のキャリアに大きな影響を与える。
- ◆ 2000年8月：同講座の講師に昇進。教育者として、次世代の医療人の育成に力を注ぐ。
- ◆ 2009年9月：札幌医科大学医学部麻酔科学講座の教授に就任。麻酔科学の発展に寄与し、多くの医師を育てるとともに、学会や研究活動でもリーダーシップを発揮する。

兼務として、2010年9月から南檜山周産期医学講座の兼任教授、2010年5月からは緩和医療学推進講座の教授（寄付講座）を務め、幅広い分野での指導と研究を行っている。2012年4月から2017年3月まで集中治療医学の教授も兼務し、その後も麻酔科学の発展に貢献し続けている。

医師としての道を歩む：キャリアの軌跡



【資 格】

- ◆ 1988年6月 医師免許証（第318029号）
- ◆ 1991年1月 麻酔科標榜医（第5511号）
- ◆ 1994年4月 麻酔科専門医（第3258号）
- ◆ 1999年4月 麻酔科指導医（第3258号）
- ◆ 2002年1月 臨床修練指導医（第2341号）
- ◆ 2004年1月 医療安全推進者（第0310648号）

- ◆ 2005年3月 ペインクリニック専門医（第20050150号）
- ◆ 2006年11月 ボトックス®注使用許可認定

【学会役職】

- ◆ 日本麻酔科学会：理事長，代議員
- ◆ 日本臨床麻酔学会：評議員
- ◆ 日本心臓血管麻酔学会：評議員
- ◆ 日本ペインクリニック学会：評議員
- ◆ 日本蘇生学会：評議員
- ◆ 日本手術医学会：評議員
- ◆ 日本循環制御学会：評議員
- ◆ 日本臨床モニター学会：理事，事務局長
- ◆ 日本静脈麻酔学会：理事，評議員
- ◆ 日本老年麻酔学会：評議員
- ◆ 日本区域麻酔学会：評議員
- ◆ 日本神経麻酔集中治療学会：評議員
- ◆ 日本Awake-Craniotomy学会：評議員
- ◆ International Anesthesia Research Society：Affiliate Member
- ◆ American Society of Anesthesiologists：Affiliate Member
- ◆ European Society of Anaesthesiology：Affiliate Member

※定年に向け，入会学会を縮小

【学内役職】

- ◆ 2009年～現在 医学部同窓会 常任幹事
- ◆ 2017～2018年 附属病院 手術部部長
- ◆ 2019年～2022年 医学部 副医学部長（教務委員長）
- ◆ 2023年～現在 国際交流委員長



昭和38年（1963年）04月04日生まれ（61歳）
出生地 北海道 室蘭市
（2024年 日本麻酔科学会創設70周年記念ビデオ撮影時）

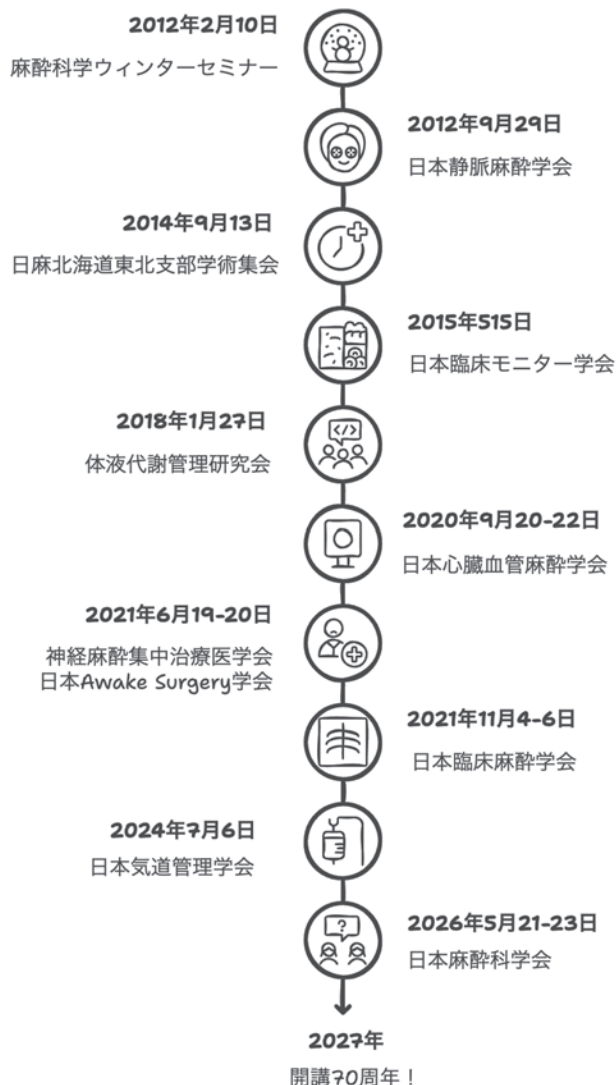
【主催学会】

札幌医科大学麻酔科学講座は、国内外の麻酔科学の発展に貢献し続けており、その象徴として多くの重要な学会を主催してきました。以下は、その輝かしい実績の一部と、パンデミックの中で迎えた試練の記録です。

ることが期待されています。この大会は、麻酔科学の最前線を象徴し、最新の研究成果と技術の共有を通じて、麻酔医療の未来を見据える場となるでしょう。札幌医科大学麻酔科学講座にとっても、その重要な役割を果たす機会として大変意義深いものとなることが期待されています。

- ◆ 2010年11月27日 第26回北海道ペインクリニック学会：北海道の地で痛み治療の最前線を議論し、新たな知見を共有する場を提供しました。
- ◆ 2012年2月10日-12日 第12回麻酔科学ウィンターセミナー：冬の厳しい寒さの中でも、熱い議論と先端的な研究が交わされ、麻酔科学の未来を見据えるセミナーが開催されました。
- ◆ 2012年9月29日 第19回日本静脈麻酔学会：日本全国から集まった専門家たちが、静脈麻酔の新たな技術とその応用について深く掘り下げました。
- ◆ 2013年9月21日 第29回北海道ペインクリニック学会：北海道の広大な地で痛みの管理に関する最新の研究と実践が紹介されました。
- ◆ 2014年9月13日 日麻北海道東北支部第4回学術集会：北海道と東北地方を結び、麻酔科学の最前線で活躍する医師たちが知見を交換し合いました。
- ◆ 2015年2月6日-8日 第15回麻酔科学ウィンターセミナー：雪に覆われたニセコで、麻酔科学の課題と未来について活発な討論が行われました。
- ◆ 2015年5月15日-16日 第26回日本臨床モニター学会：臨床モニタリングの進化を議論し、患者安全の向上に向けた新しい基準を模索しました。
- ◆ 2016年9月17日 第32回北海道ペインクリニック学会：痛みの治療における最新の技術とアプローチが共有され、多くの臨床医が参加しました。
- ◆ 2016年9月24日 第20回北海道緩和医療研究会：緩和医療の重要性と未来について深い洞察が交わされ、医療現場での実践が議論されました。
- ◆ 2018年1月27日 第33回体液・代謝管理研究会年次学術集会：体液・代謝管理の分野での新しい知見と技術が披露され、研究の進展が期待されました。
- ◆ 2019年8月3日 第5回急性輸液管理研究会：急性期の輸液管理に関する最先端の研究が紹介され、臨床への応用が討議されました。
- ◆ 2019年9月28日 第35回北海道ペインクリニック学会：痛みの治療における新たな展開が注目され、多くの医師が参加しました。
- ◆ 2020年9月5日 日麻北海道東北支部第10回学術集会：完全Web開催となりました。最新の研究成果と臨床経験を共有しました。
- ◆ 2020年9月20日-22日 第25回日本心臓血管麻酔学会学術大会：新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中で、完全Web開催という新たな試みを成功させました。心臓血管麻酔の最前線で活躍する医師たちがリモートで集い、革新的な技術と研究が発表されました。
- ◆ 2021年6月19日 第25回日本神経麻酔集中治療学会：完全Web開催で、神経麻酔と集中治療の分野における最新の知見が共有され、多くの専門家たちが遠隔で議論を交わしました。
- ◆ 2021年6月20日 第21回日本Awake Craniotomy学会：覚醒下開頭術の新たな技術とその臨床応用が、完全Web形式で議論され、今後の方向性が模索されました。
- ◆ 2021年11月4日-6日 日本臨床麻酔学会第41回学術大会：新型コロナウイルス感染症の影響下で、現地とWebのハイブリッド形式で開催されました。多くの参加者が現地に足を運ぶことが難しい中でも、最新の研究と技術が広く共有され、臨床麻酔の未来に向けた重要な議論が行われました。
- ◆ 2024年7月6日 気道管理学会第7回大会：気道管理の分野において、最新の研究成果と実践的技術が披露され、広く議論が行われました。
- ◆ 2026年5月21日-23日 日本麻酔科学会第73回学術集会：横浜で開催される日本麻酔科学会の年次学術集会は、麻酔科領域では最大規模の学会であり、国内外から多数の専門家が参加す

主な主催学会



【受賞歴】

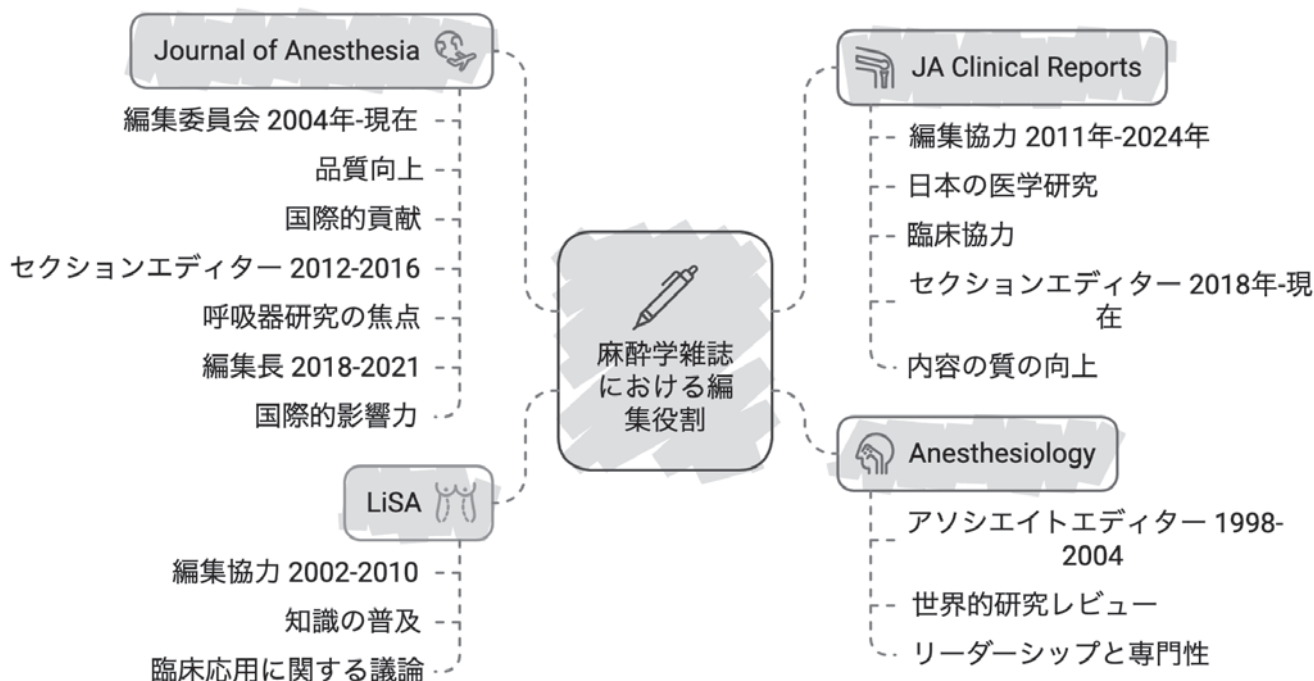
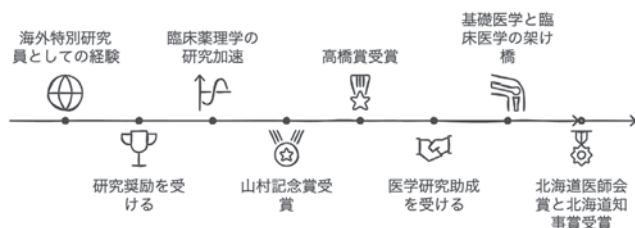
- ◆ 1994-1996年：日本学術振興会の海外特別研究員として、米国Johns Hopkins大学での研究に従事し、国際的な視野を広げる機会を得ました。この期間に培われた知見は、後の研究活動に大きな影響を与えました。
- ◆ 2000年：上原記念生命科学財団から研究奨励を受け、革新的な研究がさらに進展。これは、医療の未来を見据えたプロジェクトの基盤となりました。
- ◆ 2001年：臨床薬理研究財団から研究助成を受け、臨床薬理学の分野での研究を加速させ、患者ケアに直結する成果を挙げました。
- ◆ 2002年：日本麻酔科学会において、山村記念賞を受賞。麻酔科学の発展に大きく貢献したことが認められ、同学会での業績が高く評価されました。

- ◆ 2003年：北海道麻酔学会から高橋賞を受賞。地域医療に貢献し続ける姿勢が評価され、北海道医療界におけるリーダーシップが再確認されました。
- ◆ 2003年：日本医師会から医学研究助成を受け、医師としての研究活動がさらに充実。これは、医学の未来を切り開くための重要な支援となりました。
- ◆ 2008年：武田科学振興財団から医学系研究助成を受け、基礎医学と臨床医学の架け橋となる研究を推進。この助成により、新たな治療法の開発が進められました。
- ◆ 2013年：北海道医師会賞と北海道知事賞を受賞。地域医療と学術研究の両面での貢献が認められ、北海道における医療リーダーとしての地位が確立されました。

【編集委員歴】

- ◆ 1998-2004年：Anesthesiology誌のAssociate Editorとして、世界中の最新研究を精査し、麻酔科学の発展に寄与。高い専門性とリーダーシップが評価されました。
- ◆ 2002-2010年：LiSA誌の編集協力委員として、麻酔科学の知識を広め、臨床現場での応用に向けた議論をリードしました。
- ◆ 2004年-現在：Journal of AnesthesiaのEditorial Boardとして、20年間にわたり学術雑誌の品質向上に尽力。麻酔科学の国際的な発信に貢献し続けています。（現時点でのIF：2.8）
- ◆ 2011年-2024年：医学のあゆみの編集協力委員として、日本の医学研究の進展に寄与し、医療現場との連携を深めました。
- ◆ 2012-2016年：Journal of AnesthesiaのSection Editorとして、とくに呼吸器特定分野の研究に焦点を当て、重要な研究成果を広く紹介しました。
- ◆ 2017年：JA Clinical ReportsのEditor-in-Chiefに就任。学術誌の方向性を指揮し、臨床研究の普及に貢献しました。現在、IFも付与されています。2018年-現在：JA Clinical ReportsのSection Editorとして、学術誌の内容の質を高め、臨床現場での実践に寄与しています。（現時点でのIF：0.8）
- ◆ 2018年-2021年：Journal of AnesthesiaのEditor-in-Chiefを務め、学術誌の発展に大きく貢献。研究の国際的な影響力を高めました。日本麻酔科学会理事長就任に合わせ退任。

医学の未来を切り開く道のり



※毎年、教室員向けの業績集に掲載してきた巻頭言を紹介する。

2009

教室員の先生方へ「無題」

前略

日々の診療、研究、そして教育活動に忙しくされていると拝察します。

遅くなりましたが、2009年の業績集が出来上がりました。今年からは、論文業績と診療業績に加え、いろいろな教育活動等についてもご報告いただき、教育関連病院を広く、また正当に評価し合うことができる材料にしたいと考えています。今年の業績集を見ていただき、「そういう内容まで報告していいなら、私だってある」と思われる先生方も大勢いらっしゃると思います。是非、そういった活動を記録に残していただき、来年からは積極的に報告いただければと思います。また、各施設の紹介の欄も設けました。そのため、各施設の事情はこの欄に書いていただき、他の施設の教室員が評価・判断し、また若手の教室員が異動希望を考える際の参考にしてほしいと思っています。これに伴って、年に二回行われる教育関連病院のスタッフ会議では、従来のような施設の事情報告を簡潔に報告していただき、今後の教育関連病院のあり方や再編について、論議を交わしていきたいと思っています。

さて、昨年の業績を見ますと、当時の主任教授が長く不在であり、また大学のメンバーが激減した中、ある程度の業績を挙げられたことは、当講座の底力を感じるとともに、教室員の努力に敬服する次第です。一方、当講座の伝統と実力からすれば、自分自身も含め、不本意な業績に終わったことも否めません。そのため、留学や大学院生の募集を積極的に行い、大学の臨床・研究・教育体制を整えるとともに、教育関連病院の充実も図っていかねばなりません。今後の大学と教育関連病院とのさらなる強固な連携が鍵を握っていると思います。今後とも、よろしくお願いします。

業績集を作る目的をあらためて考え直してみました。教授の自己満足なのか？他科や他大学麻酔科へのアピールなのか？私はどちらでもないと考えています。今思うことは、1年に1度いいから教室員にゆつくりと業績集を見ていただき、お互いが同僚の活動を認識し、自分の立ち位置を確認し、そして今後の活動に生かしていただく材料と考えています。従って、今年から、毎年の業績集を他大学の麻酔科や麻酔科以外の診療科の先生方にお配りするのを止めようと考えています。

業績集もそうかもしれませんが、外に向かってアピールするものでないものに“自戒”というものがあります。自戒とは自分を戒めるための格言や概念を指し、決して他に対して説くものではありません。この使い方を誤った現首相は、施政方針演説でガンディーの「7つの社会的罪Seven Social Sins」を引用し、大顰蹙を買いました。実は、ここ5年、私は毎朝、机の引き出し内に貼ってあるガンディーの「7つの社会的罪」を読み上げて、手術室でのカンファレンスに向かうようにしています。あくまでも自分への戒めです。

理念なき政治	Politics without Principles
労働なき富貴	Wealth without Work
良心なき快楽	Pleasure without Conscience
人格なき学識	Knowledge without Character
道徳なき商売	Commerce without Morality
人性なき科学	Science without Humanity
献身なき宗教	Worship without Sacrifice

臨床医であるわれわれ麻酔科医はどんな自戒があるでしょうか？

- 1) 思いやりと科学に基づく臨床 (Clinical work with thoughtfulness and EBM)
- 2) 探求心のある研究 (Research with search mind)
- 3) 熱意のある教育 (Education with enthusiasm)

といったところでしょうか？これからの業績集がこのような理念を感じられるものに少しでも近づけるように、自らが先頭に立って努力すると決意する次第です。教室員の今後の活躍と健康を心からお祈りします。

2010

教室員の先生方へ「無題」

前略

日々の診療、研究、そして教育活動に忙しくされていると拝察します。

遅くなりましたが、2010年の業績集が出来上がりました。昨年からお願いしていますが、論文業績や診療業績に加え、今年は多くの教育・社会活動等に関して報告してもらいました。多くの先生方がそれぞれの地域や立場で種々の仕事をしていることが分かります。各

教育関連病院や18名の新入教室員の紹介も充実していて、単なる論文の列挙ではない読み応えのある業績集冊子に仕上がっていると思います。是非、よく読んでいただき、当講座ならびに教育関連病院の活動を確認してください。

さて、上記のように、われわれ麻酔科医の活動は、学術や診療のみならず、多くの教育・社会活動にも広がっています。そのため、そのような活動も記載してもらい教室員同士で情報を共有することによって、お互いに納得した人材配置の材料に生まれればと思っています。しかし、その一方で150名にも上る教室員を抱える当講座としては、バランスの取れた指導者を多数輩出する義務があります。そのためには、診療や教育活動の傍ら、質と量を兼ねた研究・学術活動を突き進めなければなりません。その視点から業績集を見ますと、留学した人や特定の人による数少ない英文論文と和文論文を見るのみであり、決してその分野の活動が盛んであるとは言いがたいのが現状です。大学を含め、教育関連病院で指導する立場にある先生方はこの点を十分にご理解いただき、若手には学会発表や臨床研究の場を提供し、中堅には英文論文を含め論文作成を指導し、そして臨床から出た疑問や興味を大学院で追求するチャンスを与えていただきますよう、くれぐれもお願いします。

私をはじめ大学のスタッフは、多くの人材を集める努力はもちろんですが、有限な人材をいかに育て、いかに活躍し、そして麻酔科医療をどのように提供し、麻酔科学の発展にどのように寄与するかを日々考えて指導しています。人事異動のたびに、教育関連病院には若手の教育をお願いしているところですが、彼らが医療人として立派な麻酔科医となるよう、ご指導をお願いします。

明るい話題もあります。平成23年度も何とか10名以上の新入教室員を迎えることができそうです。新入ではないですが教室員に加わる指導医・専門医の先生が現時点で少なくとも2名おり、また平成23年度には5名の大学院生が入学し、総勢10名の大学院生が研究生生活に入ります。さらに、4月から麻酔科医を目指して初期研修を数ヶ月以上大学で麻酔科を研修するものが7名います。日麻の学術集会やASAをはじめとする国際学会にも多くの演題が採用されているのも明るい材料です。マンパワーの充実を図りながらも、これら学術発表や研究内容も最近いくつか投稿されはじめています。

今回は、先代の名誉教授並木先生からいただいた言葉をあらためてここに銘記し、自ら先頭に立って精進するつもりです。教室員ならびにご家族のご健勝とさらなる活躍を心からお祈りします。

先代教授からいただいた言葉

仁道究明

人には思いやりをもって道と成し、学問には厳しい目をもって追求するべし

2011

「萌し」

前略

日々の診療、研究、教育活動、そして地域社会活動に忙しくされていると拝察します。

さて、遅くなりましたが2011年の当講座業績集が出来上がりました。私が教授に就任して以来、いわゆる論文業績だけではなく、診療活動や教育活動、さらには社会活動をすべて提出していただき、それを教室員が閲覧することでお互いの医療活動を評価しあえるような業績集にしたいと考え、作成してもらっています。是非、よく読んでいただき、当講座ならびに教育関連病院の活動を確認し、自分たちのあるいは教育関連病院の立ち位置を確認してくれればと思います。

2011年度は最終的に9名の新入教室員を迎えました。大学院には5名が入学し、以前のような活気ある研究活動を行うようになっていきます。その一方で、やむを得ない事情による離職者が数名おり、教育関連病院には迷惑をかけると同時に、最終的には毎年のように大学のマンパワーを削って麻酔科診療を支えているのが実情です。そのため、業績集を見ると分かるように当講座の規模と伝統からいって決して満足のいく活動とは言いがたいのも事実です。そんな中、明るい萌しも見られるようになりました。例えば、①科学研究費の取得が多くなった、②当科が編集執筆した著書を2冊発刊した、③英文論文が質量ともに増加した、④アメリカ麻酔学会への演題採用が増え、当講座始まって以来のoral presentationが採用された、⑤日麻や臨麻の学術集会で多くの演題が採用された上、講演やシンポジウムで講演するスタッフがいた、⑥各種学会等で優秀賞を多く取得した、などでしょうか。2012年度も明るい萌しは続く予感がします。4月には8名の新入教室員と1名の麻酔科指導医を迎えるとともに大学院生が3名入学する予定、大学附属病院が心臓麻酔認定施設（暫定）になり、5月にバイタルサインセミナーを主催、6月の日麻学術集会でも多くの教室員が発表予定、ESAには4題の演題が採用、9月には北海道緩和研究会と日本静脈麻酔学会を主催、2013年3月には大学院生が2名博士号を取得する予定です。また、いくつかの多施設共同研究が大学院生を中心に行われるのも特筆すべきことと思います。このような“萌し”が兆しだけで終わらず、当教室にふさわしい大輪を咲かすことができるように、教授はもちろんスタッフが先頭に立って働きますので、教室員の先生方は是非それを踏み台にして日本でそして世界で活躍できるよう、挑戦してみてください。

最後に、教育関連病院の再編について報告です。ご承知のように、毎年多くの教室員を迎える一方、道内の基幹となる教育関連病院では手術件数の増加のみならず、集中治療や救急医療に加え、ペインクリニックや緩和医療への関与など、業務が増加、多様化してきています。そんな中、講座の目的や目標を理解いただき、本当に頑張っていてくれると思います。一方で教室員は無尽蔵に増えるわけでもありません。従って、教育関連病院の集約と再編はこれからも続いていくと思います。講座にとって、教室員にとって、さらにその地域医療にとって、どのような人員の配置と再編が最適化を考えていきますので、ご理解とご協力をお願いします。

毎年この業績集がただの論文の羅列ではなく、教室員にとって少しでも温かみのあるものになるよう期待しています。今年は当講座開講55周年を迎えます。

2012

開講55周年に添えて

当講座は、高橋長雄名誉教授が1957年に教授に就任し、開講した。全国で4番目に開講した伝統ある講座である。30年という長期主宰の間、多くの教室員が当講座で学び、実に十数名の教授を輩出した。1987年、二代目教授となる並木昭義名誉教授がそれを引き継ぎ、22年間当教室を牽引した。22年間に及ぶこれも長期政権下にあつて、当講座は多くの教室員が集まり、教育関連病院の充実、学術活動の飛躍、そして多くの主催学会があつたことは私の医師人生と一致する。この間、旭川医科大学麻酔・蘇生学講座の岩崎寛教授、岡山大学医学部救急医学講座の氏家良人教授、金沢医科大学麻酔・蘇生学講座の土田英昭教授、そして信州大学医学部麻酔蘇生学講座の川真田樹人教授を輩出した。2009年9月、当講座三代目教授として小生山蔭道明が教授に就任し、昨年2012年6月で開講55周年を迎えた。確かに教授が替わるということは、会社でいうところの社長が替わることを意味し、つまりは当講座の方針や方向性も教授の考えで変わっていくものである。従つて、教授就任〇周年記念誌あるいは業績集なるものも、その会社の業績を振り返り、また方向性を再考する上で重要なものとなるのであろう。初代はもちろん、先代の並木名誉教授もタイミングよく、教室の歴史とご自分の教授歴が節目にあつたため、その都度講座とご自分の記念誌なるものを発刊、記録として残してきた。私は、定年時には確かに記録として残させていただくかもしれないが、それまでは自分の節目ではなく当講座の節目として記念誌（寄稿誌）・業績集を作成するつもりである。したがって、現在教授就任3年半という自分自身としては中途半端な時期ではあるが、ここに講座としての記録集を残すこととする。さて、この5年間を振り返ってみると、自分自身にもそして教室にとっても多くの出来事があつた時期である。2007年には並木名誉教授が日本麻酔科学会の理事長に就任し、川真田樹人講師が信州大学の教授として赴任した。2009年3月に並木名誉教授が定年され、教授選延長の末、同年9月に私が三代目教授に就任した。同年11月には筑波大学准教授であつた同門の宮部雅幸准教授が三重大学臨床麻酔学分野の教授に就任した。2011年には旭川医科大学准教授であつた同門の藤田智准教授が同大救急医学講座の講座に就任した。そして、昨年2012年には札幌医科大学准教授であつた教室員の成松英智准教授が同大救急医学講座の教授に就任した。同門・教室員の栄転や昇任はもちろん講座の名誉である一方、多くの優秀な人材が他講座へ流出するジレンマを負う。この5年間、若手医師を教育し、北海道の麻酔科医療を支え、そして研究基盤を整えるのに、まさに馬車馬のように働いた感がある。講座のスタッフをはじめ教室員がその状況を理解し、一所懸命働いてくれたことに深く感謝する。講座内では、7名（2008年）、7名（2009年）、18名（2010年）、9名（2011年）、9名（2012年）と、この5年間で計50名の新入教室員が仲間となり、寝食を忘れるがごとく臨床麻酔に従事してくれていることも、当講座の勢いを失速させずに社会貢献できていることは、大変喜ばしいことである。教授が交代を迎える時期はどうしても学術活動が停滞しがちとなる。2009年にはアメリカ麻酔学会の演題数が3題まで落ち込んだ。しかし、その後の教室員の頑張りにより、私が教授就任3年目の昨年2012年度は37題が採用された。現在は、忙しい臨床活動や教育活動の中、研究基盤が整いつつあり、優秀なスタッフや大学院生が伸びてきている時期と認識している。講座の業績を推し量るのに英文論文が最も分かりやすい指標であるが、私が教授になってからは、論文業績以外に教育や臨床、そして社会貢献も活動業績として大いに重要視している。その勢いをこの業績集から感じ取っていただければ幸いである。

さて、講座の舵取りとしての教授としては、今後の講座の方針というものを示す義務がある。健康等に問題がなく定年まで教授を全うしたとして、後16年間の舵取りをするわけであるが、当講座の方向性としては、古い伝統と抱えている教室員の数からいっても、北海道はもちろん日本そして世界の麻酔科学の一翼を担う気概が必要であり、私自身もそのつもりで先頭に立って努力を続ける次第である。そのためには、より多くの教室員が集まり、育て、そして彼らが成長し、かつ研鑽する場を提供することが重要である。そしてそれを実現するためには、教室員自身が共通の認識の下、臨床・教育・研究する気持ちを絶えず持ち続けることが大切であり、さらに教育関連病院や関係機関のさらなるご指導とご鞭撻が必須である。

平成25年度は、寄稿文を書いている現時点で11名の新入教室員が仲間となり、数名が産休や休職から復帰、そして6名の大学院生が入学する予定である。彼らが高い技術と患者を思いやる気持ちをもった麻酔科専門医になれるよう、熱く教育、指導をする一方、臨床に役立つ多くの臨床・基礎研究が盛んに行われ、質の高い論文という形で世界に発信できるのを切望している。進取の気概が大切である。

教室員が健康に恵まれ、幸せを感じながら麻酔科医として誇りをもって北海道医療に従事し、当講座の60周年、70周年と一緒に祝うことができることを願つてやまない。

2013

午のごとく飛翔の時！

私自身は今年で教授就任5周年を迎えます。教授就任以来、18名、9名、9名、11名、そして13名と、5年目を迎えた時点で計60名の新入教室員を迎え、産休や出産等の事情はあるにせよ、現時点でそのほとんどが北海道の地域医療に従事しつつ、自分自身の麻酔科専門医に向けての研鑽を日々積んでいることに大変頼もしく感じます。

当科もこの5年間に大きく変貌を遂げました。同門では、藤田 智先生が旭川医大救急医学講座の教授に、宮部雅幸先生が三重大学臨床麻酔科学講座の教授に、そして川股知之先生が和歌山県立医科大学麻酔科学講座の教授に就任しています。当講座からは、成松英智先生が当大学医学部救急医学講座の教授に、山内正憲先生が東北大学医学部麻酔科学講座の教授に、そして今泉 均先生が東京医科大学麻酔科学講座集中治療部門の教授に就任しています。多くの優秀な人材が当科から離れていくことは診療・教育・研究活動を行う上で大きな損失となることは確実ですが、このような形で教室員・同門会員が栄転異動することは、当科にとってもプラスに影響していると確信しています。2014年度の時点で全国で11名の同門教授が活躍していることになります。

さて、当講座のモットーは「安全で質の高い麻酔科医療の提供、世界に通用する麻酔科医師の育成」です。この理想をもとに、この5年間同僚とともに臨床・研究・教育をバランスよく進めてきたつもりです。その結果、私が教授を拝命してから初めての大学院生が3名、優秀な研究内容をもって無事修了することができました。現大学院生も各自自分の科学研究費を取得し、また研究内容が学術集でも賞といい形で評価され始めました。臨床力もバランスよく伸びてきていると思います。経食道エコーや神経ブロックなどトレンドも十分に取り入れながらも、患者の安全と診療の質向上のためには、常に新しい医療技術や診療行為を導入し、かつ検証、発表し続けています。そのような当科の活動が評価され、既にいくつかの学会や研究会を主催してきましたが、2014年には9月に日本麻酔科学会北海道・東北支部第4回学術集会を札幌で、2015年2月には2度目となる第15回麻酔科学ウィンターセミナーをニセコで、そして2015年5月には第26回日本臨床モニター学会を札幌で主催します。これらの学会活動を介して、当科教室員がさらに成長することを祈念しています。

教授に就任してあつという間の5年間でしたが、既に一つ目のターニングポイントに差し掛かっていることを認識する必要があります。上記のようにこのマンパワーと人材を活かし、当科の北海道における麻酔科診療活動に拍車をかける一方、さらに多くの人材を獲得するべく教育活動をいっそう充実させ、そして世界に通用する研究活動をさらに推し進める必要があります。教授はもちろんスタッフ・大学院生が先頭に立って働き、さらに当科の発展に努めることを期待します。

遅くなりましたが、ここに昨年の業績集ができましたので、一度目を通してみてください。十分な業績というには道半ばの感が否めませんが、それを反省する材料とするとともに、道内各地で活躍している教室員の活動を客観的に評価してみてください。次年度は、より充実した結果として報告できることを期待するとともに、自ら馬車馬のごとく牽引していく気持ちを強くする次第です。

2014

「基礎固め」

教室員の皆さん、忙しい中、日々の臨床、教育、そして研究業務に取り組まれていると思います。ご苦労様です。ここに、昨年の教室員の頑張りを集めた業績集をお届けします。いつも言うことですが、教室としての業績を他に知らしめるというよりも、お互いの業績を認め合うことによって、他施設を尊重し、そして自らの励みにしてほしい意味から毎年作成しています。

20年弱ある講座長として早5年が過ぎたことになり、中期計画とすると第1期が終了したことになります。これは5周年記念講演時でも述べたことですが、この間に60名の新入教室員を迎え、6名の同門・教室員が教授として教室から巣立ち、そしてアメリカ麻酔学会での多くの発表がなされるようになり、そして研究業績が認められ科学研究費が2,000万円/年を得るまでに成長しました。それらの努力の結果、この業績集にもあるように多くの研究や症例の内容が英文論文として掲載されるようになったことは、教授として大変誇りに思います。スタッフも成長してきており、私が教授になってからの大学院生も次々に博士号を取得し、その中にはスタッフに加わるものもあり非常に頼もしく感じています。つまり、教授になって5年が経過した今、時期的にも内容的にも建築用語で言うところの一つの“基礎固め”を終えたことになりました。次に、この基礎固めた土台にどのようなやぐらを建てていくかが問われています。方向を見誤ってはいけないと思っています。

一方、大学附属病院を含め、教育関連病院に勤務している教室員は感じていることと思いますが、一向に充足することのない麻酔科診療に関しても、新たなブレイクスルーをもたらす必要があります。それが、ひとと言で言うところの「集約化」であるかどうかは別として、少子高齢化、人口減少、そして膨れあがる医療費に対しても真摯に取り組む時代にやってきました。皆で考え、有限な人材の配置をさらに検討する必要があると思っています。当教室の使命はこの他にも、北海道のみならず日本の麻酔科医療の牽引や世界の研究分野での活躍もあります。小生は2015年度から、日本麻酔科学会の常任理事（学術委員会）、日本臨床麻酔学会、日本心臓血管麻酔学会、そして日本ペインクリニック学会の理事を兼ねます。教室員にもそれに付随した多くの実務をお願いすることになりますが、その過程から勉強し成長する要素は多く転がっています。時間を有効に使い、忙しさを理由にせずにさらに羽ばたいてほしいと考えています。

いつも考えていることですが、同じ志をもって北海道の麻酔科医療に貢献しようと当科の教室員になった先生方には、「流石に札幌医大麻酔科は違いますね」と言われるような専門医になるよう、今後も教育には全力をもって指導していくつもりです。また、教室員ならびにその家族が幸せを感じ、医療に取り組んでいることがとても大事です。教室員、ご家族、そして関係者のご健康を心よりお祈りして、2014年業績集の巻頭言といたします。

2015

「進展」

教室員の皆さん、忙しい中、日々の臨床、教育、そして研究業務に取り組まれていると思います。ここに、昨年の教室員の頑張りを集めた業績集をお届けします。お互いの業績を認め合うことによって、他施設を尊重し、そして自らの励みにしてほしいと考えています。さて、私も教授に就任し、早7年目を迎えることになります。昨年書かせていただいたように、第1期にあたる「基礎固め」の5年は過ぎ、第2期にあたる「継承」の時期に入っています。継承とは、基礎固めで築いたものをまさに引き継ぐことを意味しますが、当科にとってそれはふさわしくないと考えています。そのため、「進展」とさせていただきますが、当科としては最初の5年間で築いた礎をさらに発展させたいと思います。そのような観点から、昨年の業績を眺めてみると、残念なことにその中に「進展」を見いだすことは難しいのが現状です。科学研究費、新入教室員の人数、寄付金額、臨床治験、そして質の高い論文、それら全てが減少しています。もちろん、その全ては講座長である私に責任があることは重々承知しています。一方で、スタッフならびに大学院修了者のさらなる努力にも期待したいところです。昨年から、私自身、多くの学会の理事等を兼ねることにより、大学内の業務以外にも、私の講座外業務が格段に増えたことは事実です。ですが、それを踏み台にして、スタッフや教室員の学会における役割、発表、活躍のチャンスを増やしてきたことも事実です。彼らには、それを多忙の理由とせず、それを裏付ける臨床研究ならびに基礎研究を弛まずに継続・発展させてほしいと考えています。

さて、昨年あたりから、教育関連病院の科長が退任し、入れ替わり始めています。今後数年は大きな関連病院の科長も定年し、人材が大きく入れ替わることが予想されます。そのような中、大学でもようやく集中治療医学の教授選が始まろうとしています。小生が数年教授を兼任してきましたが、当大学の規模からいけば、集中治療医学は臨床はもちろん、独立拡充し、そして発展しなければならないと考えています。そのためにも、兼任教授ではなく、独立した診療科としての教授選は好ましいことです。その一方で、侵襲制御医学である麻酔科学は、集中治療医学と切っても切れない関係にあります。独立後も十分に連携して診療・教育・研究を発展させていくために、麻酔科学、もちろん当科出身の医師が教授になることが好ましいことは言うまでもありません。これは手術部にも関連しています。現在大学では、外科系教授が年功序列で2年2期の手術部長を兼任していますが、その時々で運営方針が変わるのは全くもって発展性がありません。30年前の手術室をどのように現代の急性期医療にあった形態に発展させていくのか、やはりここにも麻酔科出身で長期展望をもった先生が独立して手術室運営をして

いくことが理想と考えています。新病院が建築中で、数年後に手術室・集中治療部の改革が見込まれている今、その重要性も新体制の上層部に働きかけたいと思っています。

科長退任の話をしたましたが、大学でもスタッフの入れ替わりや昇任が数名あります。昇任だけが全てではありませんが、人事が滞ることなく、全てのスタッフにあらゆるチャンスを与えたいと考えています。基礎固めした土台にどのようなやぐらを立てていくかが問われています。教室員一人一人のさらなる活躍に期待しています。

先日、道内他大学の新任外科系教授と会食する機会がありました。彼が外勤先で手術をする際、「ずいぶんと今日は手術がし易いし、麻酔科の先生ともコミュニケーションがし易いな」と感じたとき、その全てが札幌医大麻酔科の教室員だった、というエピソードを聞かされました。多少お世辞だったとしても、とても嬉しく感じたとともに、それが当科の持ち味であり、伝統です。教室員の先生方にはその気持ちに誇りとプライドをもって、しかし奢ることなくさらに自己研鑽を積んでほしいと思います。

個人的なことですが、昨年末から今年にかけて、考えられる人間ドック全てを7年ぶりに受けました。教室員の先生方ならびにそのご家族も、健康があつての家庭ならびに仕事です。健康には十分留意され、業務に励んでいただくようお願いします。昨年も言いましたが、教室員ならびにその家族が幸せを感じ、医療に取り組んでいることがとても大事です。教室員、ご家族、そして関係者のご健康を心よりお祈りして、2015年業績集の巻頭言といたします。

2016

札幌医科大学医学部麻酔科学講座 開講60周年記念祝賀会 挨拶

三代目教授をさせていただいております麻酔科の山蔭道明と申します。本日は本当にお忙しい週末日曜日の中、このように多くの方々に来ていただきまして、本当に感謝しております。このように多くの方々にご出席いただいておりますと、非常に期待されているという想いもありますが、一方でもっと働けという激励もいただいていると責務を感じているところであります。

私が教授にさせていただいてから早8年になりますが、新山先生の講演にもありましたように、その間に100名近くの新たな教室員が集まり、臨床・教育・研究のバランスを取りながら道内の主要な関連病院に配置してきたつもりです。ですが、本日も森田先生にご出席いただいておりますが、森田先生のいつものお言葉で、「麻酔科は一度たりとも充足したことがない」というお言葉と同じように、ここにいらっしゃる先生方、関係者の方々はきっと、「麻酔科医が増えている」とか、あるいは“足りている”ということを北海道内で感じたことがないかもしれません。実は北海道は人口あたり、都道府県別では東京都に次いで麻酔科医の多い都道府県の1つです。ですがそれにも関わらず足りているという感じがしないのは、やはり麻酔科の業務が臨床麻酔のみならず、救急・ICUはもちろん、緩和医療やその他管理職にも広がってきているからではないかと考えます。そういった業務の拡大にも対応できるように、これから多くの人材を集め、道民のために提供していきたいと思っています。

また一方、当教室の責務として全国で活躍できるリーダーを育てるということもあります。私が教授となってから8年の間に、同門の先生を含め教室内外から7名の先生が全国の教授になっていきましたが、それはもちろん喜ばしいことである一方、優秀な人材からどんどん教室から離れていくという事実でもあります。当教室はそういった人材提供にも対応できるくらいの多くの人材の確保と育成を課されていると認識しております。

最後に、60周年というのは、実は甲乙丙丁の十干と子丑寅卯の十二支が一回転して、60年で回帰するという意味があるそうです。現在60周年にあたって高橋長雄先生からの業績をすべてまとめているところでありますが、それを振り返ることによってわれわれももう一度原点に立ち返り今後の60年を見据えた計画を立てていきたいと考えております。本日お集まりいただいた方々には、日頃のご指導に感謝するとともに、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。はなはだ簡単ではありますが、本日式典の主催者側の挨拶と代えさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

当講座60周年を迎えるにあたって一記念誌寄稿文

1) 沿革

当講座は1957年に高橋長雄先生が主任教授に就任し、全国の中でも早く麻酔学講座を開講した。初代教授が30年教授職を務める中、全国から多くの同志が集まり、1984年に日本麻酔学会学術集会を主催し、そして2代目教授の並木先生を含め16名が教授となった。1987年、並木先生が2代目教授に就任し、翌1988年に私山蔭が講座の門を叩いた。小生が麻酔科に興味をもったのは、故田宮恵子先生の「小児麻酔」の授業であったことは今でも覚えている。並木先生が教授を務める中、1998年に高橋名誉教授は勲三等旭日中綬章を受賞し、1999年に並木先生は日本麻酔学会学術集会を主催し、2007年には日本麻酔学会理事長となっている。並木先生が22年教授を務める中、私を含め9名が教授となった。2009年9月、私が教授になってから早8年が経過したが、その間に93名もの新入教室員を迎え、また同門も含め7名が教授となった。現時点で私は日本麻酔科学会の常務理事、Journal of Anesthesiaの編集長を務めている。

2) 教室の評価

上記のように多くの教授を輩出したことや、主要な学術集会を主催あるいは学会の要職に就くことは、その講座を評価するのに分かりやすい尺度であろう。それ以外に、学術活動としての英文論文発表や国際学会での発表に加え、優秀な論文や発表に与えられる賞、さらに科学研究費の取得額や取得数もその評価に加えられると思われる。そのため、科を問わずどの教授も上記のことに目標の重点に置き、毎年あるいは教室の節目に業績集なるものを作成しては、広く配布しているのであろう。もちろんそれらは教室の重要な活動の一つであり、「患者さんのためにより良いことができないだろうか？」という医学の原点ともいえる疑問や考え方から発生するものであり、それが優秀な論文という形になって、患者さんのQOLに繋がっている。決して誰彼に“評価されたい”という欲求から発生するものであってはならないと常に考えるべきである。当講座の業績に関しては、本記念誌と同時に作成した60周年業績集を閲覧いただきたい。

さて、教室の評価は、分かりやすいあるいは手っ取り早いこと、上記のような評価が用いられることが多いが、果たしてそれを支えるものは何であろうか？それは、臨床の現場で患者さんのために臨床麻酔をはじめとする急性期医療に従事している“教室員”に他ならない。彼らが

寝る時間も惜しんで臨床に従事しているからこそ、その活動が広く認められ、ひいては教室が臨床に加えて、教育や研究活動にも多くの時間を割くことができるものと考えられる。この場を借りて、同じ志をもって北海道の急性期医療に従事している教室員に最大の感謝の意を表したい。

都道府県別の人口あたりの麻酔科専門医数が発表されている。平均は6.0名（10万人あたり）であるが、北海道は8.2名で、東京の8.4名に次いで多い。これは当科のみならず、北海道内で急性期医療に従事している同士の功徳である。北海道内で医療に従事していると、全くもって麻酔科医が充足しているなどと感じることはないが、他都府県よりも北海道内に麻酔科医が多い事実については、かえって他大学から当大学に赴任されてきた外科系教授の、あるいは当大学外科系教授が学会などに行かれて他大学の外科事情を聞いた感想から、当科の特徴でもある“断らない麻酔”というのがいかに評価されているかを知ることになる。私自身、実はAnesthesiology誌に論文が1編掲載されるよりも、このような評価を受けている方が嬉しく思う。

3) 今後の方針

小生が当講座の主任教授をさせていただいてから丸8年が経過した。その間に100名弱の新入教室員を迎え、教育・研究・臨床のバランスを考えながら、北海道の急性期医療に応えようと努力してきたつもりである。しかし、当科のこの60年を振り返っても、一時でも麻酔科医が足りている、あるいは増えている、という印象はない。その原因の一つとして、手術件数の増加、集中治療や救急医療はもちろん緩和医療を含む周辺関連領域や管理職への従事があると考え、私の責務としては、今後もより多くの人材を集め、全道で活躍する麻酔科医を増やすことはもちろん、私の任期の後半は行政や地域医療を担う拠点病院と密に連携しながら、人口減少や超高齢化社会における急性期病院のあり方を共に考え、行動に移していきたい。

その一方で、当講座に与えられた使命として、日本中で活躍できる人材の育成、さらに世界に発信できる研究をさらに推し進めていくことが挙げられる。私のいままでの8年という在任期間中にも7名の教室員・同門会員が教授となった。大変喜ばしいことである一方、貴重な人材の流出でもある。それに耐えうるだけの人材確保も当科に課された使命である。“どんな症例も断らないで受けてくれる”，それに応えられるようなマンパワーと人材を今後も確保していきたい。

さて、60年というのは甲乙丙丁ではじまる十支と子丑寅卯ではじまる十二支のそれぞれの干支が回帰する重要な数字といわれている。人生回帰と重ねて人生の再出発（還暦）と考える意味もある。当講座の60年の業績を振り返り、ここで一度原点に戻ることによって今後我々がやるべき、進むべき道というのにもさらに見えてくるかと思う。当科に直接間接を問わず関わりのある方々には、この場を借りて日頃のご指導に感謝申し上げるとともに、今後も益々のご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、当講座3代目教授としての寄稿としたい。

2017

Around the Corner

当講座は、昨年の2017年に開講60周年を迎え、無事に式典も終了することができた。先日、教室員や同門会の先生をはじめ600名の関係者に、60年の業績・式典の模様・寄稿文集を送ったところである。それには2017年の業績が含まれていないため、ここにあらためて2017年業績集を送る次第である。いつも述べていることであるが、論文のみならず、それぞれの教室員の臨床・教育・研究活動を見ていただき、今後の活動の参考にしてほしいと思う。

さて、私は2009年9月に教授に就任したが、当科の特徴でもある臨床・教育・研究のバランスを考えながら、先代の教授達が築き上げた当科の伝統をさらに推し進めるべく、がむしゃらに突っ走ってきたと自負している。そのためには、当科内にとどまった臨床・教育・研究にばかり目を向けてはさらなる発展は望めず、大学内、北海道内、全国学会の庶務や役割はもちろん、世界での役割の一端を担うことによって、ひいては教室員の臨床・教育・研究活動の底上げになると信じている。

今回の業績集を編集していて嬉しかったことは、科研費の取得や海外学会での発表、あるいは賞という形で評価を受けた研究内容が、ここに来て多く英文論文として形になってきたことである。懸念材料は、逆にここ1~2年減少している科研費の取得件数やその額、さらにアメリカ麻酔学会への演題投稿数の減少が今後の研究業績に影響をきたさないか心配している。これは、主任教授としての私の責任であり、反省するとともに、臨床・教育活動を低下させずに、スタッフや大学院生にどれだけ多くの研究機会を与えることが出来るのか、さらに先頭に立って努力したいと考えている。

実は、ここ1~2年で私にとって教授人生の半分を終えることになる。いわゆるレースで言うところの折り返し地点（Around the Corner）である。同僚達が自分にちゃんとついてきてくれているのかを振り返りながらも、その速度は落とすことなく走っていくことに変わりはない。忙しいという人に限って時間の使い方が悪いと言われる。私も昨年からJournal of Anesthesiaの編集長を引き受け、また今年から学内で教務委員長（副医学部長）を務めることになった。課題も多く、解決しなければならないことは山ほどある。幸い2018~2019年度には主催すべき学会等がないためそれらの業務に多くの時間を割くことになるが、その後日本心臓血管麻酔学会など多くの学会主催を控えている。もちろん、教室員の協力がなければ成功するものではないが、教室員一人一人がそのような主催イベントにどのように関与していくべきかを常々考え、そしてそれを自分自身の飛躍のチャンスと捉えてほしい。

最後に、健康に自信のあった私だが、緊急手術を含め2月に二度も手術を受けることになった。健康の有り難み、家族の有り難み、そして仲間の有り難みを改めて知ることとなった。また、1週間横になっていただけで体重は減り、以前出来ていたことが出来るまでに数か月を要した。教室員の先生方には自分のためにももちろん、ご家族や患者さんのためにもくれぐれも自分の健康には留意してほしい。

また、来年、元気で働く教室員に立派な業績集を送ることが出来るよう、さらに努力を重ねていきたいと思う。

2018

「Decade（10年間）」

お待たせしました。昨年の教室員の業績集が出来たのでお届けします。以前からも伝えているように、当科業績集は他科や他大学麻酔科には一切送っておらず、教室員が1年間を振り返って反省したり、鼓舞したり、お互いの活動を知るために送っているものです。また、関連病院で勤務している場合、私の関与度によっては論文に小生の名前が載らず、自分では検索することが出来ません。そのためにも、1年に一度はこのような作業を行い、教室員の活動を把握することも編集の意味があります。論文や学会発表などの“学術活動”は、「新たな発見や興味深い症例を日本や世界に発信し、麻酔の質や安全性の向上に貢献する」という意味合いから最も重要視している活動の一つです。日常の忙しい臨床活動の中、このような活動を行い、論文という形で完結することは並大抵の努力では出来ません。しかし、教室員にはその意義を十分に認識して学術活動に励んで欲しいと思います。

一方、当科が開講当時から大事にしてきたものに、外科からそして病院から信頼される“臨床活動”があります。現在では、単に症例数や受診数、あるいは入院数などでその活動の重み付けをすることは難しくなってきました。その理由として、以前は臨床麻酔が主の業務でしたが、現在では病院の特長を活かした救急医療、緩和医療、ペインクリニック診療、さらに集中治療など多岐にわたる業務が増えてきたこと、さらに院長や副院長などの管理者になる教室員も多くなり、そのような業務も検討しながら人材を配置しなければなりません。そのような指標の一つになる材料としても、麻酔症例数のみならず多くの臨床業務内容を記載してもらっています。是非他の関連病院の内容も確認してみてください。

さて、上記の学術活動ならびに臨床活動を支える重要な活動に、“教育活動”があります。当科がしっかりと学術・臨床活動を行っていくことができた理由として、重要な活動といえます。教育力を支えるものとして技量が50%、そして熱意が50%とよく言われます。技量はセミナー・講義やテキストで得ることが出来ますが、熱意だけは個々人がもっている素質とも関係してきます。是非、教室員においては信頼関係をもってしっかりと教育体制を取ってもらいたいと思います。そのような活動はなかなか活字や数字にすることは難しいですが、業績集にもその活動が分かるようになるべく記載しています。是非、ご覧ください。私も教授となって今年で10年（Decade）となります。過去の業績集も見返して自分自身の反省の材料とし、そして今後の10年の活動に活かしたいと思います。超高齢化社会に突入した現在、自分の健康はもとより、ご家族、ご両親、ご親族の健康状態や経済状況によって、自分自身の生活環境を変えることが余儀なくされるかもしれません。そんな時、緩い関係ではあっても教室として何か出来ることがあるかと思います。私を含め、科長やスタッフには、教室員が相談しやすい環境を整えて欲しいと思います。

最後になりますが、教室員の先生方においては、心身ともに健康で仕事に生きがいを感じ、そして地域住民の健康と福祉に貢献することを祈念しています。

2019

「再出発：Make a fresh start !」

お待たせしました。昨年の教室員の業績集が出来たのでお届けします。

昨年末、私自身が作成した「教授就任10周年記念誌」とだいぶダブるところがありますが、より多くの教室員の活動が掲載されていますので、あらためて作成しました。また、関連病院の症例数や写真入りでの施設紹介は、お互いの関連病院の仕事ぶりを把握するのに重要な情報かと思います。毎年の業績集は、教室員が1年間を振り返って反省したり、鼓舞したり、またお互いの活動を知るために送っています。是非一読してください。

過去の業績集とも見比べると分かりますが、今年は国際的な活躍が目立ってきたと自負しています。スタッフは国際学会や会議での講演にも声をかけられるようになり、英語論文もいくつか形になり、そして多くの研究が受賞されてきています。スタッフをはじめ、大学院生、教室員の頑張りが国際的にも国内でも評価されてきたと大変嬉しく思います。一方、多くの研究成果が論文という形にならず、金銭的にも労力としても教室として大きな損失になっていることに気づくかと思います。今までは個々に指示してきましたが、教室としての財産を埋もれさせておくわけにはいきませんので、厳しいとは思いますが、論文にならないものは、期限を区切って、他の余力のあるスタッフや大学院生に執筆を任せることにしました。どれだけの労力で研究費を集め、どれだけの代償を払って研究日が与えられているかも知って欲しいと思います。個人的なことでもありますが、10年間の節目としての責任もあると思っています。確実に論文という成果に結びつくよう、今後も努力を続けて欲しいと思います。

さて、私も教授職の半分を経過したことになりますが、その間、多くの同僚が当大学あるいは他大学の教授として巣立っていきました。その全員が先代の教授の教育を多く受けた同僚となります。今後は、スタッフも数名入れ替わり、私が教授になってから教室員となった先生方も、博士号やサブスペシャリティを取得し、スタッフとして加わるようになりました。今後は、このリフレッシュしたスタッフや大学院生、さらに教室員達と「再出発」をすることになります。「折り返し」ではなく、港に立ち寄った船が新たな乗組員を加え、さらなる未開地へ向かうようなそんな気持ちで、残りの9年間を突っ走りたいと思います。

今年（2020年）は、
1）日本麻酔科学会北海道東北支部学術集会
2）日本神経麻酔集中治療学会 を、

来年（2021年）は、
3）日本神経麻酔集中治療学会
4）日本Awake surgery学会
5）日本臨床麻酔学会 を、

再来年（2022年）は、
6）当講座開講65周年記念講演会 を、
予定しています。

その後も多くの学術集会の開催を打診されていますが、これら行事が小生の名誉のために行うのではなく、教室員が輝いて活躍し、次へのステップへ踏み出せるような行事にしたいと思っています。教室員はそのことを肝に銘じて、これらの学術集会を活用してもらいたいです。

最後になりますが、教室員の先生方においては、心身ともに健康で仕事に生きがいを感じ、そして地域住民の健康と福祉に貢献することを祈念しています。

コロナ禍の1年

お待たせしました。昨年の教室員の業績集が出来たのでお届けします。今年は、業績係や秘書らの業務軽減のため、Excelによる業績提出をお願いし、教室員の先生方にはご負担をかけたと思いますが、ご理解いただきたいと思います。この業績集の中には、いわゆる論文業績や学会発表業績が含まれていますが、それ以外の多くの教室員の活動が掲載されています。また、関連病院の症例数や写真入りでの施設紹介は、お互いの関連病院の仕事ぶりを把握するのに重要な情報かと思えます。毎年の業績集は、教室員が1年間を振り返って反省したり、鼓舞したり、またお互いの活動を知るために送っています。是非一読してください。

一昨年は国際的な活躍が目立ってきており、スタッフは国際学会や会議での講演にも声をかけられるようになり、英語論文も形になり、そして多くの研究が受賞されてきていました。そのような教室員の活発な活動が、一つには新山先生の秋田大麻酔科教授就任（2月）という形となって現れたと感じています。そして雪まつりを終えた頃、北海道には新型コロナウイルス感染症の第一波がやってきました。オホーツク地域ではクラスターが発生し、北見赤十字病院に重症患者が運ばれました。前後して大学でもECMOを回した重症患者を救急部が管理し、軽症・中等症を呼吸器内科や循環器内科が中心となって管理し始めました。マスクやアルコール消毒の供給もままならない中、人の移動が制限されましたが、春の異動やGWの移動に伴って第二波がやってきました。大学では急遽、授業も実習もWebで行うなど、教員も学生も手探りの中、対応せざるを得ませんでした。新入教室員歓迎会、学会などはことごとく中止、延期、Web対応など、世の中は一変してしまいました。どこかで大地震や原発事故が起きた、などの規模ではありません。国境などない前代未聞の甚大な出来事となってしまいました。そして、季節は冬となり、やはり感染は世界的に爆発的に広がりました。大学では手術を必要とする目の前の患者の麻酔管理に集中せざるを得ず、一方で研究試薬や動物の供給が止まり、発表の場である学会も中止となるなど、スタッフ・大学院生は研究のモチベーションを維持するのも大変だったかと思えます。主催する予定であった日本麻酔科学会北海道・東北支部学術集会は中止となった一方で、完全Web開催となった日本心臓血管麻酔学会学術大会は、今までにない規模の参加者と聴講者であり、認定制度のある学術大会の場合、Webでの配信を含めた学術集会のあり方を考えさせられました。

そんな激動と自粛の中での臨床・教育・研究活動が、このような業績集となって発刊するに至ったことは、教室員の努力と工夫の賜物と大変感謝いたします。さて、私個人のことを言えば、教授となってから12年近くが経過し、残りちょうど8年となりました。箱根駅伝に例えると、コロナ禍中の激動の下りの6区を駆け終えたあたりでしょうか？私自身の折り返し時期にもいくつかのイベントがありました。日本麻酔学会の機関誌Journal of Anesthesia誌の編集長を4年以上経験し、Handlingした論文数は3,000編以上となります。その間、Impact factorは1.6以上となり2点台が見えてきました。それに合わせるように、学内では副医学部長（教務委員長）を3年務め、多くの教務に関する問題点に対処し、ここ1年はコロナ禍における学生や研修医の対応に翻弄された時期でもありました。原稿を書いている2月某日の現時点では、北海道の感染者数も700名となり減少傾向が続いています。また、ワクチンも何とか医療者は3月末までに接種が可能そうです。どうか予定されている主催学会がオリンピック・パラリンピック同様、無事に開催されることを祈っております。

当科関連学会等は以下になります。

- | | |
|-------|------------------------------|
| 2021年 | 1) 日本神経麻酔集中治療学会（6月） |
| | 2) 日本Awake surgery学会（6月） |
| | 3) 日本臨床麻酔学会大会（11月） |
| 2022年 | 4) 当講座開講65周年記念講演会・祝賀会（12月予定） |
| | 並木名誉教授 傘寿祝い |
| 2024年 | 5) 気道管理学会（6月予定） |
| | 6) 日本麻酔科学会北海道・東北支部学術集会（9月） |

さて、今年6月の社員総会で承認後、私は日本麻酔科学会 理事長に就任の予定です。少なくとも2年間、当学会が抱える諸問題について全力で対応しなければいけなくなりました。今までは「他山の石」としていたような他講座や麻酔科医の言動・問題に対して、今後は自分のことのように対処していく必要があります。そのために、新理事らを中心として思い切った布陣を組みました。また、エフォートとして大きな割合を示していたJA誌の編集長と本学医学部副医学部長を退任の予定です。札幌からだと、中央との交渉等を行うにも多くの時間を割かれることになるかと思えます。限られた時間を有効に活用し、教室員のために今後も臨床・教育・研究活動、そして人事に手を抜くことはありませんが、更なる教室員の理解と努力に期待します。

最後になりますが、教室員の先生方においては、心身ともに健康で仕事に生きがいを感じ、そして地域住民の健康と福祉に貢献することを祈念しています。

2021

「with CORONA」

お待たせしました。昨年の教室員の業績集が出来たのでお届けします。この業績集の中には、いわゆる論文業績や学会発表業績が含まれていますが、それ以外の多くの教室員の活動が掲載されています。また、関連病院の症例数や写真入りでの施設紹介は、お互いの関連病院の仕事ぶりを把握するのに重要な情報かと思えます。毎年の業績集は、教室員が1年間を振り返って反省したり、鼓舞したり、またお互いの活動を知るために送っています。是非一読ください。

新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延してから、早2年が過ぎました。当初はワクチンもなく、感染力は弱いものの重篤化するため、我々医療者も戦々恐々として陽性患者の治療に取り組んできました。本邦ではいわゆるロックダウンはないにしても、緊急事態宣言やまん延

防止等重点措置などの発令・解除が繰り返され、閉塞感のある2年間を過ごしてきました。学内では授業や実習がWebで行われたり、学会自体も中止やWeb開催が強いられるなど、教育・学術活動にも大きな影響がありました。そのため、ここ2年間は業績を多く輩出することは難しい時期と考えておりました。ですが、業績集を見ていただくと分かると思いますが、スタッフや大学院生を中心に英文論文をはじめ、多くの研究業績を形にすることが出来たことは、主任教授として誠に嬉しいことと思っています。教室員のそのような頑張りも、今年も平田先生の熊本大学麻酔科教授就任（4月）という形になって現れたと感じています。

本巻頭言を書いている6月下旬においても、多くのCOVID-19陽性者が発生している一方、ワクチンの複数接種率の増加、さらに重症者の激減によって、with CORONAにおける経済活動が順調に再開し始めている感があります。本邦はまた地震や津波などの災害が起きやすい地域です。3月の日本集中治療医学会学術大会（仙台）が前日の大地震で現地開催が突然中止に追いやられたことも記憶に新しいことと思います。そのため、学術集会は新型コロナウイルス感染症の状況にかかわらず、今後はHybrid開催が基本となるかもしれません。少なくとも日本麻酔科学会はそのような方向になっていくことが検討されています。昨年末に主催した日本臨床麻酔学会（札幌）では1,200名余りの麻酔科医が札幌で現地参加し、また700名余りがライブWebで参加しました。久しぶりの対面学会で多くの研究仲間とも交流を持つことができ、また関連企業の展示で産学にいい影響があったと感じています。今年6月の日本麻酔科学会学術集会も3年ぶりの対面学会で4,200名以上の麻酔科医が現地で学術交流を持つことができました。

さて、昨年の巻頭言でも述べましたが、私が日本麻酔科学会の理事長に就任し、丸1年が経過しました。ロケットスタートを切るべく、いくつかの綱領を掲げましたが、公益社団法人ゆえの動きづらさもある、なかなか成果を出せずにいます。現時点では、①集中治療科の診療科の承認、②シーリングの上限緩和、③学術集会のあり方検討（Hybrid開催）、④専門医試験の再考、⑤E-learningの充実と減額などに取り組んできました。会員やそれを代表とする代議員（＝社員）の意見を吸い上げようと、U40なる組織立ち上げに加え、非公式ながらWebでの「理事長を囲む会」を3度ほど行ってDiscussionを続けてきました。今年度も、国民の安全で質の高い周術期医療が提供できるような環境作りに尽力したいと思います。このような学会理事長業務に多くのエフォートを割くことができるのも、教室員が一所懸命業務に従事してくれているからこそ感謝します。

今後の当講座関連行事は以下のようになっています。

- | | |
|-------|---|
| 2022年 | 1) 日本ペインクリニック学会北海道支部学術集会（札幌）
会長：澤田敦史先生，2022年9月10日（土） |
| | 2) 当講座開講65周年記念講演会・祝賀会（12月予定） |
| 2023年 | 3) 当講座開講65周年記念誌 発刊予定 |
| | 4) 並木名誉教授 傘寿祝い（時期未定） |
| 2024年 | 5) 日本集中治療医学会学術集会（札幌）3月予定
会長：升田好樹先生 |
| | 6) 気道管理学会（札幌）
会長：山蔭道明，2024年7月6日（土） |
| | 7) 日本麻酔科学会北海道・東北支部学術集会（札幌）
会長：枝長充隆先生，2024年9月14日（土） |

これらの学会や行事を活用し、教室員が学術活動において活躍し、また親睦を深めていくチャンスにしてくれることを期待しています。最後になりますが、教室員の先生方においては、心身ともに健康で仕事に生きがいを感じ、そして地域住民の健康と福祉に貢献することを祈念しています。

2022年

「アフターバーナー」

大変お待たせしました。もうすぐ2024年になろうとするこの時期に、2022年の業績集を出すことになり、大変申し訳なく思います。開講65周年記念集の編纂もあり、発刊の時期がずれてしまいました。

いつも述べていますが、この業績集の中には、論文業績や学会発表業績以外に、多くの領域で活躍している教室員の活動が掲載されています。また、関連病院の症例数や写真入りでの施設紹介は、お互いの関連病院の仕事ぶりを把握するのに役立ちます。毎年の業績集は、教室員が1年間を振り返って反省したり、鼓舞したり、またお互いの活動を知るために送っています。是非一読ください。

新型コロナ感染症に振り回された2020~2022年の3年間は、それは大変な時期でした。陽性者の緊急帝王切開術や気管切開術に対しては、多くの感染症に対応してきた麻酔科医ですら、どのような防御を行いながら管理を行ったらいいのか、戦々恐々としていたかと思います。マスクがない、手洗いが大事、アクリル板は有効？など色々な情報に惑わされてきました。現在では、感染自体は完全に封じ込められてはいないものの、第5類に分類されたこともあり、空港などに立ち寄ると多くの旅行者が楽しそうにしており、日常が戻りつつあることを実感します。このような新興感染症に我々同僚の多くが第一線で対応してきたこともあり、とくに研究業績は立ち遅れた印象があります。その影響は今回の2022年の業績集にも影響を及ぼしています。私は立場上、2022年からは多くの学会や会議に対面で行くことができますが、教室員のとくに国際学会への発表参加が激減したことは残念に思います。先日アメリカ麻酔学会でも、国民性の違いはあれ、対面参加が12,000名を越え、オンデマンド参加が500名程度（執筆時点）と少ないことから、対面交流の重要性を感じざるをえません。今後、多くの教室員が再び国際学会で研究発表するよう、今一度指導に力を入れていきたいと思っています。

大学院生ですが、2024年度は数名、2025年度も数名が既に入学を希望しており、主任教授として嬉しい限りです。一方、私は定年まで教授職を全うしたとして、現時点で5年半を残す時期まで来ました。つまり、2026年以降は、学位研究が上手に進んで3年間での早期修了要件を満たさない限り、私が教授でいる間に大学院を修了させることが出来なくなります。従って、2026年度以降の3年間は、強い希望がない限り、大学院生を募集しないつもりでいます。私も14年以上教授職を続け、400mトラックでいうところの第4コーナーを回ったあたりかと思

います。ラストスパートという“ラスト（最後？）”という言葉が好きではないため、今回の業績集のタイトルとして「アフターバーナー」としてみました。聞き慣れないかもしれませんが、ジェットエンジンの排気に対して、もう一度燃料を吹きつけて燃焼させ、高推進力を得る装置をいいます。これを使うと、エンジン推進力は最低でも1.5倍に跳ね上がり、また高い速度になればなるほどさらに推力が増強されるという優れた特定をもっています。そのため、この方法は、ロケットが打ち上げられてさらに推力を必要としたり、あるいはジェット戦闘機が追撃したり危険を回避したりする際に使用します。この勢いのごとく、残りの5年間で完全燃焼する思いで駆け抜けたと思っています。

さて、以前の巻頭言でも述べましたが、私が日本麻酔科学会の理事長に就任し、2年半が経過しました。主に最近の活動として、①特定行為研修修了看護師の安全管理指針、②働き方改革とタスクシフトの要請、③産科麻酔の保険点数の要請、④専門医試験制度の改善、などでしょうか。

理事長として残された1年半、国民の安全で質の高い周術期医療が提供できるような環境作りに尽力したいと思います。このような学会理事長業務に多くのエフォートを割くことができるのも、教室員が一所懸命業務に従事してくれているからこそ感謝します。

2024年の当講座関連行事は以下のようになっています。

第51回日本集中治療医学会学術集会（札幌）

会長：升田好樹先生，2024年3月14日(木)~16日(土)

第7回気道管理学会（札幌）

会長：山蔭道明，2024年7月6日(土)

日本麻酔科学会北海道・東北支部第14回学術集会（札幌）

会長：枝長充隆先生，2024年9月14日(土)

山蔭道明 教授就任15周年記念講演会（札幌）

2024年12月14日(土)（講座忘年会時）

これらの学会や行事を活用し、教室員が学術活動において活躍し、また親睦を深めるチャンスにしてくれることを期待しています。最後になりますが、教室員の先生方においては、心身ともに健康で仕事に生きがいを感じ、そして地域住民の健康と福祉に貢献することを祈念しています。

2023年

変革の年に立ち向かう

2023年度の業績集の発刊に際し、巻頭言をお送りいたします。今年も教室員の皆さまには、日々の臨床、研究、教育活動に多大なご尽力をいただき、心より感謝申し上げます。皆さまの献身的な取り組みのおかげで、当教室はさらに発展し、医療の現場で大きな貢献を果たしてきました。日々の業務に加え、数多くの業績を挙げていただいていることに、心から敬意を表します。

2023年は、世界的にさまざまな出来事がありました。パンデミックの余波から立ち直りつつある社会が、新たな課題に直面する中、医療界も例外ではなく、多くの試練に立ち向かわなければなりません。COVID-19の影響が薄まり、日常を取り戻しつつあるものの、私たちはその間に学んだ教訓を生かし、新しい医療体制を築く必要がありました。これに伴い、麻酔科医療もより多様化し、広がりを見せています。集中治療やペインクリニック、緩和医療など、麻酔科医としての役割はますます重要になり、皆さんの献身的な働きが患者さんや地域医療に大きく貢献していることを、誇りに思います。

今年、世界情勢は依然として不安定な状況が続きましたが、こうした外的な要因にもかかわらず、当教室員の皆さまは揺るがず、粘り強く臨床や研究活動に励まれてきました。その成果は、今年度の業績集にも反映されており、ますますの発展を感じさせるものです。特に、英文論文の発表数や国際学会での発表が増加していることは、当教室の国際的な評価をさらに高めるものであり、皆さまの努力が確かな形で実を結んでいることを実感します。

2023年はまた、AIやデジタル技術の進展が目覚ましい年でもありました。医療分野でもこれらの技術が積極的に導入され、診療や教育、研究の効率が飛躍的に向上しています。これまでは考えられなかった新たな手法やアプローチが次々と登場し、私たちもその波に乗って、さらなる進化を遂げるべき時代に突入しています。特に、遠隔診療やAIによる診断支援システムなど、私たちの仕事の一部がこれらの技術によって支えられるようになりつつあります。教室員の皆さまも、新しい技術や知見を積極的に取り入れ、臨床や研究活動に活かしていく姿勢が、これからの時代においてますます重要になるでしょう。

教室の目標は、常に「患者に最善の医療を提供すること」と「次世代を担う医師を育成すること」です。この二つの使命は、変わらず私たちの根底にあり続けます。2023年も、その実現に向けて教室員の皆さまが全力で取り組んでくださったことに感謝の意を表します。特に教育において、熱心に指導にあたってくださいました皆さまのおかげで、若手の成長が目覚ましいものとなっています。今後も、臨床、教育、研究の三本柱をバランスよく発展させるため、皆さまと共に努力を続けていきたいと思っています。

最後になりますが、2024年以降も教室員一人ひとりの健康と充実した日々を心から願っています。皆さまの一層のご活躍を期待するとともに、当教室がさらに飛躍することを祈念して、2023年業績集の巻頭言といたします。

山蔭道明 教授就任15周年記念講演会（札幌）

2024年12月14日(土)（講座忘年会時）

日本麻酔科学会第73回学術集会（横浜）

2026年5月21日(木)~23日(土)

引き続き、ご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

<札幌医科大学学術振興会、他>

<国費等研究助成金>

1995-1995	日本学術振興会	海外特別研究員	10,170,000円
1998-1999	文科科学補助金	奨励研究	2,000,000円
2000-2002	文科科学補助金	基盤研究C	3,400,000円
2003-2005	文科科学補助金	基盤研究C	3,200,000円
2006-2008	文科科学補助金	基盤研究B	9,500,000円
2007	厚労科学補助金	特別研究指定（副）	2,400,000円
2009-2011	文科科学補助金	基盤研究C	3,300,000円
2012-2014	文科科学補助金	若手研究B（副）	3,200,000円
2012-2015	文科科学補助金	基盤研究B	13,600,000円
2013-2015	文科科学補助金	挑戦的萌芽	2,900,000円
2016-2018	文科科学補助金	基盤研究C	3,300,000円
2017-2018	厚労科学補助金	地域推進研究（副）	5,000,000円
2019-2021	文科科学補助金	基盤研究C	3,100,000円
2022-2023	厚労科学助成金（副）		2,000,000円
2023-2025	文科科学助成金	基盤研究C	3,600,000円
2024	厚労科学補助金	地域推進研究（副）	4,100,000円

<民間財団等研究助成金>

1998	秋山記念生命科学	奨励助成	500,000円
1999	ホクサイテック財団	若手補助金	350,000円
2000	伊藤医薬学術交流財団助成		200,000円
2000	上原記念生命科学財団	研究助成	2,000,000円
2001	臨床薬理研究振興財団	研究助成	1,000,000円
2002	日本麻酔科学会	山村記念賞助成金	1,000,000円
2003	北海道麻酔科学会	高橋賞助成金	100,000円
2003	日本医師会医学研究助成費		1,000,000円
2006	伊藤医薬学術交流財団助成		150,000円
2008	武田科学振興財団	医学奨励金	2,000,000円
2013	北海道医師会賞・北海道知事賞	副賞	200,000円

1998	札幌医科大学学術振興会	研究助成	420,000円
1998	札幌医科大学学術振興会	交流助成	320,000円
1998	札幌医科大学学術振興会	備品助成	490,000円
2000	札幌医科大学学術振興会	交流助成	220,000円
2001	札幌医科大学学術振興会	交流助成	360,000円
2002	札幌医科大学学術振興会	交流助成	340,000円
2003	北海道国際学術調査助成		250,000円
2003	札幌医科大学学術振興会	研究助成	500,000円
2004	札幌医科大学学術振興会	研究助成（副）	500,000円
2005	札幌医科大学学術振興会	交流助成	230,000円
2006	札幌医科大学学術振興会	研究助成（副）	500,000円
2009	札幌医科大学学術振興会	研究助成	200,000円
2009	札幌医科大学学術振興会	がん研究助成	1,000,000円
2009	札幌医科大学学術振興会	基礎研究助成	1,000,000円
2010	札幌医科大学学術振興会	研究助成（副）	330,000円
2017	札幌医科大学学術振興会	研究助成（副）	400,000円
2017	札幌医科大学学術振興会	学会助成	200,000円
2017	札幌医科大学医師会	学会助成	150,000円
2019	札幌医科大学学術振興会	研究助成	200,000円
2020	札幌医科大学振興会	特定医学研究	600,000円
2020	札幌医科大学振興会	学会助成	270,000円
2020	札幌医科大学医師会	学会助成	300,000円
2021	札幌医科大学振興会	学会助成	300,000円
2021	札幌医科大学医師会	学会助成	300,000円
2021	札幌医科大学振興会	特定医学研究	600,000円
2024	札幌医科大学振興会	学会助成	200,000円
2024	札幌医科大学医師会	学会助成	100,000円

※教授就任以降はある程度大型の研究費でないものや学術集会主催でないものは、スタッフや大学院生の研究費として振り分けている（記載なし）

この研究費のリストは、教授が国内外での研究活動においていかに幅広く支援を受けてきたかを物語っています。特に、文部科学省や厚生労働省の基盤研究や挑戦的萌芽研究などの国費助成をはじめ、武田科学振興財団や上原記念生命科学財団といった名高い民間財団からの助成も受け、総額で数千万円に上る研究資金を獲得されています。このような支援の下で、教授は麻酔科学分野における数々の革新的な研究を推進し、学術界への貢献を果たしてきました。

さらに、教授就任以降、大型研究費のみならず、スタッフや大学院生の研究を支援するための資金の適切な配分も行われており、若手研究者の育成と次世代の研究基盤の構築にも尽力されています。このように、研究者としての卓越した実績と、教育者としてのビジョンを両立している点が、教授の研究活動の特色であり、彼の研究室が持続的に高い成果を上げ続けている理由の一つといえるでしょう。

研究助成金の分配



教室員の科学研究費の推移（2011年以降）

採用件数（件）

このグラフは、当講座における文科省科学研究費の取得件数の年次推移を示しています。グラフからは、2011年から2024年にかけて、とくに、2013年以降に取得件数が着実に増加していることが読み取れます。

2019年から一気に件数が増加し、以降も安定的に高いレベルを維持しています。2019年以降、新規取得件数がとくに顕著であり、新しい研究プロジェクトが積極的に開始されていることが伺えます。また、2020年以降、継続的な研究プロジェクトも増加しており、講座内での長期的な研究活動が確立されていることを示しています。

2024年には、新規・継続を合わせた取得件数が20件を超えており、当講座が持続的に研究力を高め続けていることが示唆されています。このような研究費の安定的かつ増加傾向にある取得は、当講座が研究の質と量の両方において進化を遂げている証拠であり、講座全体の活発な研究活動を支える重要な要素となっています。

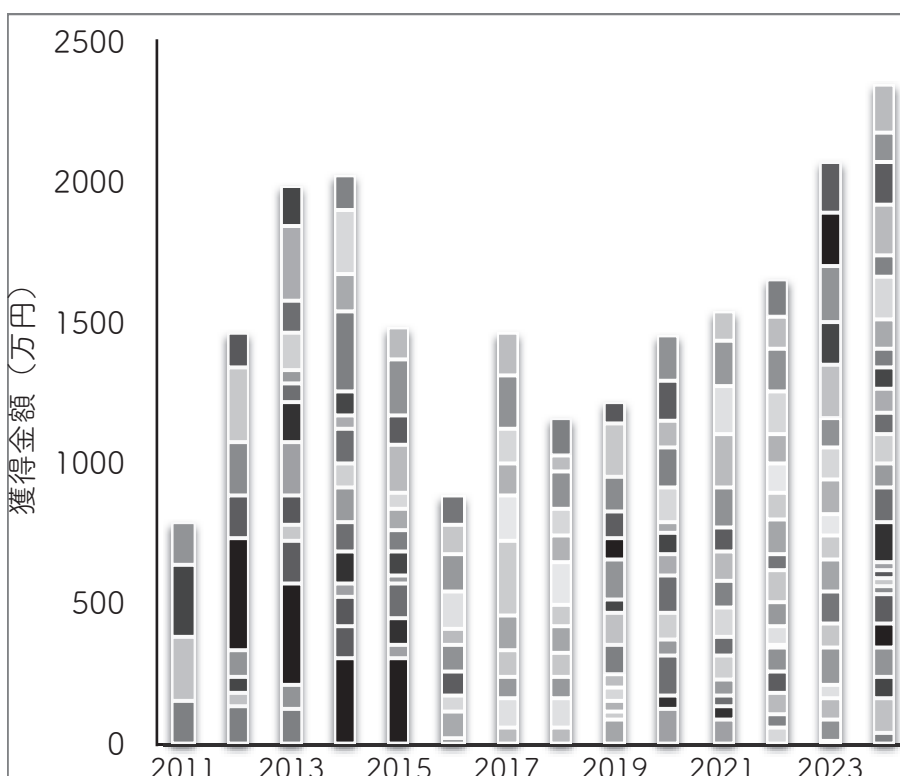
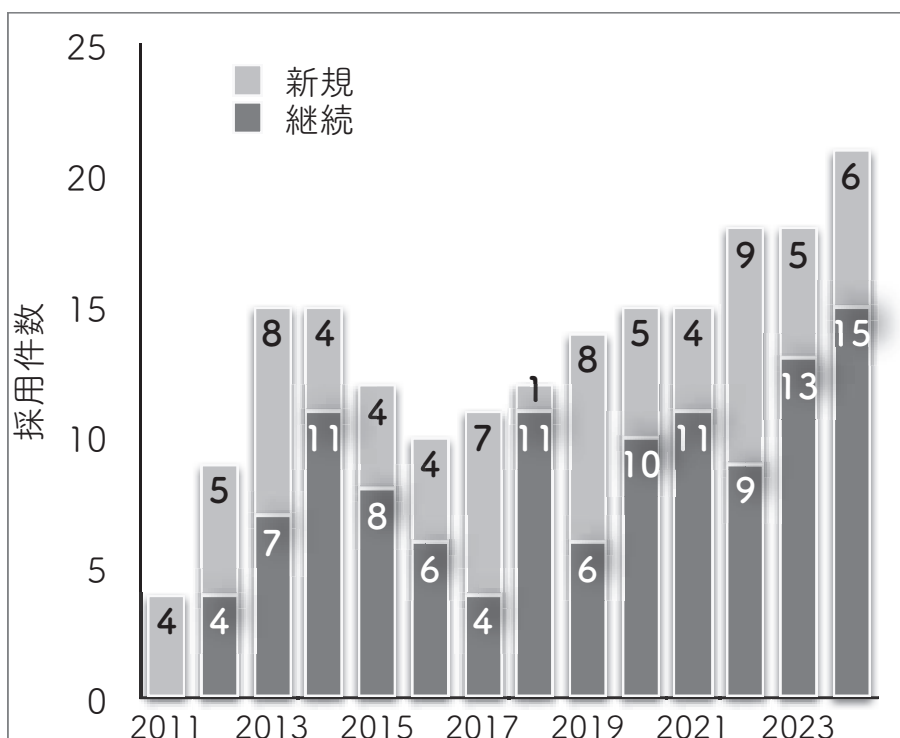
獲得金額（万円）

このグラフは、当講座における文科省科学研究費の年次別獲得金額を示しています。各年の獲得金額は、複数の研究費カテゴリーにわたって構成されていますが、グラフ全体からは、安定した研究費獲得が維持されていることが伺えます。

2012年から2013年にかけて獲得金額が顕著に増加していることが見て取れます。この時期には、とくに基盤研究Bや若手研究Bといった主要な研究助成金が大きく貢献しており、研究活動の幅が広がったことが窺えます。2016年以降は、若干の変動が見られるものの、基盤研究Cや若手研究Bなど、一定の研究費が継続的に獲得されています。

また、特筆すべきは、2020年以降の安定した高水準の研究費獲得です。これは、継続的な研究活動が評価され、着実に研究費が支給されていることを示しています。複数のプロジェクトが同時進行していることも反映されており、当講座の研究基盤が強固であることがわかります。

とくに、2023年には前年度に比べてさらに獲得金額が増加していることから、今後も研究活動がさらに発展することが期待されます。このような安定した資金基盤のもと、当講座は質の高い研究成果を生み出し続けていると言えるでしょう。



札幌医科大学大学院医学研究科博士課程（甲課程）

紅露 伸司 平成08年（1996年）03月31日 博士（医学） 甲第1600号

「ヒト血小板凝集に及ぼすハロセンの直接的抑制機序」

Kohro S, Yamakage M: Direct inhibitory mechanisms of halothane on human platelet aggregation. *Anesthesiology* 1996; 85(1): 96-106.

この研究では、麻酔薬ハロセンがヒト血小板の凝集を直接抑制するメカニズムを解明しました。麻酔中の出血リスクや止血管理におけるハロセンの安全性を評価する上で重要な知見を提供しています。

本間 康之 平成11年（1999年）03月31日 博士（医学） 甲第1852号

「神経因性疼痛モデルにおける後根神経節のカルシウム・カリウムチャネル活動に及ぼす交感神経刺激の影響」

Honma Y, Yamakage M, Ninomiya T: Effects of adrenergic stimulus on the activities of Ca^{2+} and K^{+} channels of dorsal root ganglion neurons in a neuropathic pain model. *Brain Res* 1999; 832: 195-206.

神経因性疼痛のメカニズムを深く探求し、交感神経が疼痛の制御に果たす役割を明らかにしました。この研究は、疼痛管理における新たな治療ターゲットの発見に寄与しています。

鎌田 康宏 平成15年（2003年）03月31日 博士（医学） 甲第2136号

「ラット心筋から得られた β_{2c} サブユニットで再構築したL型カルシウムチャネルのシングルチャネル活動」

Kamada Y, Yamada Y, Yamakage M, Nagashima M, Tsutsuura M, Kobayashi T, Seki S, Namiki A, Tohse N: Single-channel activity of L-type Ca^{2+} channel reconstituted with the β_{2c} subunit cloned from the rat heart. *Eur J Pharmacol* 2004; 487(1-3): 37-45.

心筋のL型カルシウムチャネルにおける β_{2c} サブユニットの役割を詳細に解析し、心臓病の病態生理学に新たな視点を提供しました。とくに、心筋の電氣的活動と心機能の関連性を理解する上で重要な研究です。

服部 淳一 平成16年（2004年）03月31日 博士（医学） 甲第2194号

「ラットのリンパ管活動抑制に関する麻酔薬プロポフォールとセボフルランの作用機序」

Hattori J-I, Yamakage M, Seki S, Okazaki K, Namiki A: The inhibitory effects of the anesthetics propofol and sevoflurane on lymphatic vessel activity in rats. *Anesthesiology* 2004; 101(3): 687-94.

麻酔薬がリンパ管の活動を抑制するメカニズムを明らかにし、術後のリンパ浮腫や炎症反応の管理に新たなインサイトを提供しました。リンパ系の機能が麻酔中にどのように変化するかを理解するための重要な基礎研究です。

卯月 みつる 平成17年（2005年）03月31日 博士（医学） 甲第2299号

「敗血症時の横隔膜の収縮性に対するドブタミン、テルブタリン、プロカテロールの効果（集成論文）」

Uzuki M, Yamakage M, Fujimura N, Namiki A: Preferable inotropic action of procaterol, a potent bronchodilator, on impaired diaphragmatic contractility in an intra-abdominal septic model. *J Anesth* 2006; 20(2): 145-8.

Uzuki M, Yamakage M, Fujimura N, Namiki A: Direct inotropic effect of the β_2 receptor agonist terbutaline on impaired diaphragmatic contractility in septic rats. *Heart Lung* 2007; 36(2): 140-7.

敗血症に伴う横隔膜機能障害に対する薬物療法の有効性を評価し、呼吸補助療法の選択肢を広げる成果を提供しました。とくに、 β_2 受容体作動薬の呼吸筋への影響を解明し、臨床に直結する知見をもたらしています。

岩崎 創史 平成18年（2006年）03月31日 博士（医学） 甲第2374号

「急性喘息ならびに慢性閉塞性肺疾患モデルにおける気道平滑筋収縮に対する吸入麻酔薬セボフルランの抑制作用の相違」

Iwasaki S, Yamakage M, Satoh J-I, Namiki A: Different inhibitory effects of the volatile anesthetic sevoflurane on airway smooth muscle contractility in acute asthmatic and chronic obstructive pulmonary disease models. *Anesthesiology* 2006; 105(4): 753-63.

急性喘息と慢性閉塞性肺疾患（COPD）のモデルで、セボフルランの異なる作用を比較し、呼吸管理における麻酔薬の選択に重要な影響を与える研究です。

杉野 繁一 平成20年（2008年）03月31日 博士（医学） 甲第2489号

「 μ オピオイド作動薬（DAMGO）投与に対するマウス延髄腹内側痛覚需要ニューロン反応の系統差」

Sugino S, Namiki A, Yamakage M: Strain differences in the response of rostral ventromedial medulla neurons to DAMGO in inbred mouse strains. *Neurosci Lett* 2012; 517: 107-12.

オピオイド受容体が痛覚神経に与える影響をマウスモデルで解析し、遺伝的背景が疼痛管理に及ぼす影響を評価した研究です。この成果は、個別化医療の観点から疼痛治療の最適化に寄与しています。

佐藤 順一 平成21年（2009年）03月31日 博士（医学） 甲第2547号

「セボフルランでは認められないデスフルランによる肺抵抗の上昇はタキキニン経路を介して起こる」

Satoh J-I, Yamakage M, Kobayashi T, Tohse N, Watanabe H, Namiki A : Desflurane but not sevoflurane can increase lung resistance via tachykinin pathways. Br J Anaesth 2009; 102(5) : 704-13.

デスフルランが肺抵抗を増加させるメカニズムを解明し、呼吸機能に対する麻酔薬の安全性に新たな視点を提供しました。臨床現場での麻酔薬選択の重要な指針となる研究です。

木谷 友洋 平成22年(2010年)03月31日 博士(医学) 甲第2606号

「バクリタキセル誘起末梢神経障害における後根神経節外套細胞由来L-セリンの役割」

Kiya T, Kawamata T, Namiki A, Yamakage M : Role of satellite cell-derived L-serine in the dorsal root ganglion in paclitaxel-induced painful peripheral neuropathy. Neurosci 2011; 174 : 190-9.

抗がん剤バクリタキセルによる神経障害のメカニズムを解明し、神経保護の可能性を探る新しい治療戦略を提案しています。神経障害性疼痛の予防や治療に向けた重要な基礎研究です。

周 静 平成25年(2013年)03月31日 博士(医学) 甲第2705号

「ホスホジエステラーゼ4阻害薬ロフルミラストは、感作気道におけるセボフルランの弛緩作用を増強する」

Zhou J, Iwasaki S, Yamakage M : Phosphodiesterase 4 inhibitor roflumilast improves the bronchodilative effect of sevoflurane in sensitized airway. Anesthesiology 2014; 120(5) : 1152-9.

呼吸器疾患の治療におけるホスホジエステラーゼ阻害薬の役割を解明し、セボフルランとの相乗効果を示すことで、新たな治療の可能性を示唆しています。

水上 奈穂美 平成25年(2013年)03月31日 博士(医学) 甲第2706号

「中高催吐性化学療法誘発性悪心嘔吐に対するオランザピンの制吐効果についてのランダム化二重盲検プラセボ対照試験」

Mizukami N, Yamauchi M, Koike K, Watanabe A, Hirayama Y, Mihara H, Terui T, Yamakage M : Olanzapine for the prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients receiving highly or moderately emetogenic chemotherapy : a randomized, double-blind, placebo-controlled study. J Pain Symptom Manag 2014; 47(3) : 542-50.

オランザピンが化学療法による悪心嘔吐を効果的に抑制することを示し、患者のQOL向上に寄与する可能性を提案。化学療法中の副作用管理に重要な知見を提供しています。

澤田 敦史 平成26年(2014年)03月31日 博士(医学) 甲第2774号

「骨髄ミクログリアの扁桃体への集積抑制は、坐骨神経部分結紮モデルマウスにおける神経障害性疼痛による不安行動を改善する」

Sawada A, Niiyama Y, Ataka K, Nagaishi K, Yamakage M, Fujimiya M : Suppression of bone marrow-derived microglia in the amygdala improves the anxiety-like behavior induced by chronic partial sciatic nerve ligation in mice. Pain 2014; 155(9) : 1762-72.

神経障害性疼痛が心理的影響を及ぼすメカニズムを探求し、疼痛管理とメンタルヘルスの相関性に新たな知見を提供。痛みの総合的な治療アプローチを提案しています。

橘 信子 平成26年(2014年)03月31日 博士(医学) 甲第2778号

「標的濃度自動調節持続静注法(target controlled infusion : TCI)によるプロポフォール投与を行う際、肥満が予測血中濃度と実測血中濃度の解離に与える影響」

Tachibana N, Niiyama Y, Yamakage M : Evaluation of bias for predicted and measured concentrations of propofol during target-controlled infusion in obese Japanese patients : open-label, non-comparative study. Eur J Anaesthesiol 2014; 31(12) : 701-7.

肥満患者におけるプロポフォールの投与効果を詳細に解析し、麻酔管理における個別化医療の重要性を強調した研究。安全な麻酔管理のためのガイドライン作成に寄与しています。

早瀬 知 平成26年(2014年)03月31日 博士(医学) 甲第2779号

「エストラジオールは嘔吐中枢におけるTACRI遺伝子の発現を増大させ、術後悪心嘔吐における精査に関与する(集成論文)」

Hayase T, Sugino S, Moriya H, Yamakage M : TACRI gene polymorphism is associated with gender differences in postoperative nausea and vomiting. Anaesthesia 2015; 70(10) : 1148-59.

Hayase T, Tachibana S, Yamakage M : Effect of sevoflurane anesthesia on the comprehensive mRNA expression profile of the mouse hippocampus. Med Gas Res 2016; 6(2) : 70-6.

性ホルモンが術後悪心嘔吐に与える影響を遺伝子レベルで解明し、術後ケアに新たな視点を提供した研究。ホルモンバランスと術後合併症の関連性に新しい理解をもたらしています。

丸山 大介 平成27年(2015年)03月31日 博士(医学) 甲第2819号

「亜硝酸塩はコネキシン43蛋白の脱リン酸化を防ぎ、ラット虚血誘発性不整脈を抑制する」

Maruyama D, Hirata N, Tokinaga Y, Kawaguchi R, Yamakage M : Nitrite attenuates ischemia-induced ventricular arrhythmias by protecting against connexin 43 dephosphorylation in rats. Anesth Analg 2016; 122(2) : 410-7.

亜硝酸塩の心筋保護効果を探求し、不整脈の予防に役立つ可能性を示しました。特に、コネキシン43蛋白の役割を明確にし、心臓病治療の新たなアプローチを提案しています。

高田 幸昌 平成27年(2015年)03月31日 博士(医学) 甲第2832号

「ラット海馬スライスにおけるパラオキソン誘発性てんかんの促進および抑制因子の検討」

Takada Y, Narimatsu E, Takahashi K, Niiya T, Yamakage M : Elevation and suppression of paraoxon-induced epileptic activity in the rat hippocampus. Sapporo Med J 2017; 85(Suppl.) : 121-32.

有機リン化合物による中毒が引き起こすてんかん発作のメカニズムを解明し、治療法の開発に向けた基礎データを提供しました。てんかん治療における新しいターゲットを提案しています。

高橋 和伸 平成27年（2015年）03月31日 博士（医学） 甲第2837号

「ラット横隔膜において、重症筋無力症の重症度は終板電位のrun-downの変化により、四連反応比と単収縮力の相関関係に影響する」

Takahashi K, Niiya T, Takada Y, Narimatsu E, Yamakage M : Severity of myasthenia gravis influences the relationship between TOF ratio and twitch tension, and run-down of rat endplate potentials. Anesthesiology 2016; 124(2) : 369-77.

重症筋無力症の病態解明に貢献し、筋力低下のメカニズムを理解するための重要な研究。特に、神経筋接合部の機能と筋力の関係性を示したことが臨床的に有用です。

宮下 龍 平成27年（2015年）03月31日 博士（医学） 甲第2838号

「ラット急性出血性ショックに対する蘇生補液が血行動態と末梢臓器機能に及ぼす影響：膠質液と晶質液による違い」

Miyashita R, Hirata N, Kawaguchi R, Yoshikawa Y, Yamakage M : Different effects of colloid and crystalloid solutions for fluid resuscitation on hemodynamics and peripheral organ functions in acute hemorrhagic shock rats. Sapporo Med J 2017; 85(Suppl.) : 133-45.

出血性ショックのモデルを用いて、補液療法の効果を比較し、臨床現場での適切な輸液選択に関する指針を提供しました。急性期医療における蘇生処置の改善に寄与しています。

佐々木英昭 平成27年（2015年）03月31日 博士（医学） 甲第2839号

「ソナゾイド®を用いた造影超音波検査によって、神経ブロック施行時の薬液拡散が正確に把握できる」

Sasaki H, Yamauchi M, Ninomiya T, Tatsumi H, Yamakage M : Possible utility of contrast-enhanced ultrasonography for detecting spread of local anesthetic in nerve block. J Anesth 2017; 31(3) : 365-73.

造影超音波を用いた神経ブロックの有効性を評価し、手技の安全性と精度向上に貢献した研究。神経ブロックの臨床的応用を進化させる重要な知見です。

川口 亮一 平成28年（2016年）03月31日 博士（医学） 甲第2892号

「敗血症ラットモデルにおけるNitriteの有用性の検討」

Kawaguchi R, Hirata N, Tokinaga Y, Hayashi S, Inoue S, Watanabe N, Yamakage M : Nitrite administration improves sepsis-induced myocardial and mitochondrial dysfunction by modulating stress signal responses. J Anesth 2017; 31(6) : 885-94.

敗血症に対するNitriteの効果を検証し、炎症反応の制御と臓器保護に新たな可能性を示唆しました。敗血症治療の新しいアプローチとして注目される研究です。

室内 健志 平成29年（2017年）03月31日 博士（医学） 甲第2918号

「各種腹部末梢神経ブロックにおける有用性と安全性の検討（集成論文）」

Murouchi T, Iwasaki S, Yamakage M : Chronological changes in ropivacaine and analgesic effects between transversus abdominis plane block and rectus sheath block. Reg Anesth Pain Med 2015; 40(5) : 568-71.

Murouchi T, Iwasaki S, Yamakage M : Quadratus lumborum block : analgesic effects and chronological ropivacaine concentrations after laparoscopic surgery. Reg Anesth Pain Med 2016; 41(2) : 146-50.

異なる神経ブロック手技の比較研究を行い、手術後の痛み管理における有効性と安全性を評価。麻酔管理の精度向上に貢献した重要な研究です。

吉川 裕介 平成29年（2017年）03月31日 博士（医学） 甲第2930号

「高血圧ラット心筋におけるデクスメドミジンの心保護作用の機序解明」

Yoshikawa Y, Hirata N, Kawaguchi R, Tokinaga Y, Yamakage M : Dexmedetomidine maintains its direct cardioprotective effect against ischemia/reperfusion injury in hypertensive hypertrophied myocardium. Anesth Analg 2018; 126(2) : 443-52.

デクスメドミジンの心保護作用を解析し、高血圧心筋における虚血再灌流障害に対する治療効果を示しました。心臓麻酔における新たな治療戦略を提案しています。

千原 伸也 平成29年（2017年）03月31日 博士（医学） 甲第2934号

「高血圧ラット心筋におけるデクスメドミジンの心保護作用の機序解明（集成論文）」

Chihara S, Masuda Y, Yamakage M : Experimental and clinical evaluation of pre-dilution and post-dilution continuous veno-venous hemofiltration on clearance characteristics. ASAIO J 2017; 63(2) : 229-34.

Chihara S, Masuda Y, Tatsumi H, Yamakage M : Evaluation of pre- and post-dilution continuous veno-venous hemofiltration on leukocyte and platelet function in patients with sepsis. Int J Artif Organs 2019; 42(1) : 9-16.

連続血液濾過（CVVH）法における前希釈および後希釈の効果を、クリアランス特性や敗血症患者の白血球および血小板機能に与える影響の観点から評価したものです。敗血症治療におけるCVVH法の臨床的応用に新たな知見を提供しています。

君島 知彦 平成29年（2017年）03月31日 博士（医学） 甲第2952号

「日本人に適した声門上器具の試作」

Kimijima T, Edanaga M, Yamakage M : Superior sealing effect of a three-dimensional printed modified supraglottic airway compared with the i-gel in a three-dimensional printed airway model. J Anesth 2018 32(5) : 655-62.

日本人に適合する声門上器具の開発を目指し、その効果と安全性を実証しました。気道管理の分野における新たな器具の設計と改良に貢献しています。

進藤ゆかり 平成30年(2018年)03月31日 博士(医学) 甲第2986号

「非がん慢性疼痛患者におけるオピオイドの使用状況とそれに対する患者受け入れの変容観察(集成論文)」

Shindo Y, Iwasaki S, Yamakage M : Efficacy and practicality of opioid therapy in Japanese chronic non-cancer pain patients. Pain Manag Nurs 2019; 20(3) : 222-31.

Shindo Y, Koyanagi M, Iwasaki S, Yamakage M : Patients with chronic non-cancer pain receiving opioid therapy. Sapporo Med J 2019; 88(1-6) : 53-64.

慢性疼痛患者におけるオピオイド使用の効果と課題を検討し、痛み管理に対する患者の意識変容を評価しました。痛み治療におけるオピオイドの位置づけを再評価する重要な研究です。

本間 広則 平成30年(2018年)03月31日 博士(医学) 甲第3016号

「根釧地区における急性冠症候群患者の搬送におけるヘリコプター移送の有用性の検討」

Honma H, Niiyama Y, Sonoda H, Himuro N, Yamakage M : The impact of air transport for acute coronary syndrome patients. Air Med J 2019; 38(2) : 73-7.

急性冠症候群患者の迅速な治療に向けたヘリコプター搬送の有効性を評価し、地域医療の緊急対応力を強化する指針を提供しました。

表 雅仁 平成30年(2018年)03月31日 博士(医学) 甲第3020号

「日本人により適切な標的濃度調節持続静注法の検討」

Omote M, Tachibana S, Tokinaga Y, Yamakage M : A new pharmacokinetic model of propofol for Japanese patients. Open J Anesthesiol 2019; 9 : 179-88.

日本人患者に特化した麻酔薬投与法を開発し、より安全で効果的な麻酔管理を目指した研究です。個別化医療の重要性を強調しています。

立花 俊祐 平成30年(2018年)03月31日 博士(医学) 甲第3015号

「老齢ラット手術モデルにおける術後認知機能に及ぼすデクスメトミジンの遺伝子解析を用いた作用機序の解明」

Tachibana S, Hayase T, Yamakage M : Dexmedetomidine attenuates surgery-induced cognitive deficit and hippocampal Mapt expression in aged mice. Sapporo Med J 2019; 88(1-6) : 65-76.

高齢患者における術後認知機能低下を防ぐための麻酔薬デクスメトミジンの効果を遺伝子レベルで解明しました。老年医学と麻酔科学の交差点にある重要な研究です。

数馬 聡 平成30年(2018年)03月31日 博士(医学) 甲第3028号

「吸入麻酔薬デスフルランはセボフルランと異なり血管内皮のNO産生を抑制することで内皮依存性の血管拡張を抑制する」

Kazuma S, Tokinaga Y, Takada Y, Azumaguchi R, Kimizuka M, Hayashi S, Yamakage M : Desflurane inhibits endothelium-dependent vasodilation more than sevoflurane with inhibition of endothelial nitric oxide by different mechanisms. Biochem Biophys Res Commun 2018; 495(1) : 217-22.

デスフルランとセボフルランの血管作用を比較し、異なる作用機序を明らかにしました。麻酔管理における薬剤選択の指針となる研究です。

茶木 友浩 令和01年(2019年)03月31日 博士(医学) 甲3074号

「プロポフォル溶媒である脂肪製剤は、骨格筋障害と脂質過酸化反応を誘導する」

Chaki T, Hirata N, Yoshikawa Y, Tachibana S, Tokunaga Y, Yamakage M : Lipid emulsion, but not propofol, induces skeletal muscle damage and lipid per oxidation. J Anesth 2019; 33(6) : 628-35.

プロポフォルの溶媒である脂肪乳剤が筋肉に与える有害作用を解明し、安全な麻酔薬使用のための知見を提供しました。

赤塚 正幸 令和2年(2020年)03月31日 博士(医学) 甲第3094号

「トロンボモジュリンは細胞外ヒストン放出を抑制することによって敗血症による腎障害を抑制する」

Akatsuka M, Masuda Y, Tatsumi H, Yamakage M : Recombinant human soluble thrombomodulin is associated with attenuation of sepsis-induced renal impairment by inhibition of extracellular histone release. Pros One 2020; 23(1) : e0228093.

トロンボモジュリンが敗血症による腎障害を抑制するメカニズムを明らかにし、腎保護作用を持つ新たな治療法の可能性を示しました。特に、ヒストン放出の抑制が重要な役割を果たすことを示唆しています。

大槻 郁人 令和2年(2020年)09月30日 博士(医学) 甲第3101号

「急性脳卒中後の個別栄養管理は発症後の機能を向上させる」

Otsuki I, Himuro N, Tatsumi H, Mori M, Niira Y, Kumeta Y, Yamakage M : Individualized nutritional treatment for acute stroke patients with malnutrition risk improves functional independence measurement : A randomized controlled trial. Geriatr Gerontol Int 2020; 20 : 176-82.

急性脳卒中患者における個別化された栄養管理が、機能回復に与える影響を検証し、リハビリテーションにおける栄養の重要性を強調した研究です。

澤下 泰明 令和3年(2021年)03月31日 博士(医学) 甲第3114号

「リモート虚血プレコンディショニングは非アシル化グレリンがJAK/STAT経路を活性化させることによって心筋の虚血再灌流障害を抑制する」

Sawashita Y, Hirata N, Yoshikawa Y, Terada H, Tokinaga Y, Yamakage M : Remote ischemic preconditioning reduces myocardial ischemia-reperfusion injury through unacylated ghrelin-induced activation of the JAK/STAT pathway. Basic Res Cardiol 2020 115(4) : 50. doi : 10.1007/s00395-020-0809-z.

リモート虚血プレコンディショニングが心筋保護に与える影響を解明し、グレリンとJAK/STAT経路の関与を示した研究。心血管系の保護戦略に新たな知見を提供しています。

君塚 基修 令和3年(2021年)03月31日 博士(医学) 甲第3118号

「In vitroならびにIn vivo解析による妊娠ラット子宮収縮に及ぼす各種麻酔薬の影響と機序」

Kimizuka M, Tokinaga Y, Azumaguchi R, Hamada K, Kazuma S, Yamakage M : Effects of anesthetic agents on contractions of the pregnant rat myometrium in vivo and in vitro. J Anesth 2021; 35(1) : 68-80.

妊娠中の麻酔管理において、子宮収縮に与える麻酔薬の影響を詳細に解析し、母体および胎児の安全を確保するための知見を提供しました。

東口 隆 令和3年(2021年)09月30日 博士(医学) 甲第3142号

「ラット血液希釈モデルにおけるヒドロキシエチルデンプン製剤の血液凝固と血管内皮細胞における局在との関係解析」

Azumaguchi R, Tokinaga Y, Kazuma S, Kimizuka M, Hamada K, Sato T, Yamakage M : Validation of the relationship between coagulopathy and localization of hydroxyethyl starch on the vascular endothelium in a rat hemodilution model. Sci Rep 2021; 11(1) : 10694. Doi : 10.1038/s41598-021-89889-8.

ヒドロキシエチルデンプン製剤が血液凝固と血管内皮細胞に与える影響を解明し、出血管理の改善に役立つ重要なデータを提供しました。

木井 菜摘 令和3年(2021年)09月30日 博士(医学) 甲第3145号

「デクスメトミジンは、既存の外傷性脳損傷を伴ったマウスモデルにおいて、単球由来マクロファージの活性を抑制することによって、術前から存在する認知機能障害を改善する」

Kii N, Sawada A, Yoshikawa Y, Tachibana S, Yamakage M : Dexmedetomidine ameliorates preoperative neurocognitive disorders by suppressing monocyte-derived macrophages in mice with preexisting traumatic brain injury. Anesth Analg 2022; 134(4) : 869-80.

デクスメトミジンが術前から存在する認知機能障害に与える影響を研究し、脳損傷後の認知機能改善に新たな可能性を示唆しました。

汲田 翔 令和5年(2023年)03月31日 博士(医学) 甲第3196号

「超音波ガイド下歯槽神経ブロックの色素拡散：キャグバー研究」

Kumita S, Sawada A, Tokura TA, Nishiyama K, Oiwa D, Hear H, Miyazaki A, Fujimiya M, Yamakage M : Injectate spread in ultrasound-guided inferior alveolar nerve block : a cadaveric study. J Anesth 2022; 36(1) : 46-51.

超音波ガイド下での神経ブロックにおける薬剤拡散をキャグバー(死体)モデルで検証し、臨床的応用に向けた貴重なデータを提供しました。

濱田 耕介 令和5年(2023年)03月31日 博士(医学) 甲第3211号

「漢方薬「五苓散」のラット外傷性脳浮腫に対する作用の評価と培養尾アストロサイトにおける有効成分の同定」

Hamada K, Tokinaga Y, Sato T, Horiguchi Y, Azumaguchi R, Kimizuka M, Kazuma S, Yamakage M : Evaluation of the effects of the Japanese herbal medicine “Goreisan” on traumatic cerebral edema in rats and identification of active ingredients in cultured astrocytes. Sapporo Med J 2023; 92(1-6) : 11-9.

漢方薬「五苓散」の脳浮腫に対する効果をラットモデルで検証し、神経保護作用を持つ有効成分を特定。東洋医学と西洋医学の橋渡しとなる重要な研究です。

佐藤 智恵 令和6年(2024年)09月30日 博士(医学) 甲第3262号

「六君子湯は心臓虚血再灌流傷害における炎症反応を部分的に抑制する」

Sato T, Sawashita Y, Yoshikawa Y, Yamakage M : Japanese traditional herbal medicine, Rikkunshito, partially suppresses inflammatory responses in myocardial ischemia/reperfusion injury. Cureus 2024; 16(2) : e54485.

漢方薬「六君子湯」が心臓虚血再灌流障害における炎症反応を抑制する効果を示し、心血管疾患の治療における漢方薬の可能性を提案した研究です。

研究歴博士課程(乙課程)

辻口 直紀 平成13年(2001年)11月14日 博士(医学) 乙第2023号(札幌医科大学)

「妊娠ラット子宮平滑筋収縮に対するプロポフォール直接抑制機序」

Tsujiguchi N, Yamakage M, Namiki A : Mechanisms of direct inhibitory action of propofol on uterine smooth muscle contraction in pregnant rat. Anesthesiology 2001; 95(5) : 1245-55.

プロポフォールが妊娠子宮に与える直接的な影響を解析し、麻酔管理における安全性を評価。妊娠中の麻酔リスクを最小限に抑えるための研究です。

陳 向東 平成14年（2002年）03月29日 博士（医学） 乙第2071号（札幌医科大学）

「ブタ気管・気管支平滑筋のカリウム・クロライド電流に及ぼす吸入麻酔薬の抑制作用」

Chen X, Yamakage M, Namiki A : Inhibitory effects of volatile anesthetics on K⁺ and Cl⁻ channel currents in porcine tracheal and bronchial smooth muscle. *Anesthesiology* 2002; 96(2) : 458-66.

吸入麻酔薬が呼吸気道平滑筋に与える影響を解析し、呼吸管理における麻酔薬の選択に役立つ知見を提供しました。

今井 祐介 平成22年（2010年）10月01日 博士（医学） （山梨大学医学部）

「等容量性血液希釈はウサギのシバリング閾値を低下させる」

Imai Y, Yamakage M, Sato H, Okuyama K, Ishiyama T, Matsukawa T : Isovolaemic haemodilution decreases the shivering threshold in rabbits. *Eur J Anaesthesiol* 2008; 25(6) : 450-3.

等容量性血液希釈が体温調節に与える影響を解析し、手術時の体温管理の重要性を強調した研究です。

※他大学の論博ですが、論文指導に加わりました。

樽見 葉子 平成25年（2013年）02月19日 博士（医学） 乙第2707号（札幌医科大学）

「急性期病院緩和医療にコンサルトされる患者の予後予測の評価へのバリアティブプログノスティックスコア（PaP）とルーチン臨床データの有用性の検討」

Tarumi Y, Watanabe SM, Lau F, Yang J, Quan H, Sawchuk L : Evaluation of the palliative prognostic score (PaP) and routinely collected clinical data in prognostication of survival for patients referred to a palliative care consultation service in an acute care hospital. *J Pain Symptom Manage* 2011; 42(3) : 419-31.

緩和ケアの患者予後予測におけるスコアリングシステムの有用性を検証し、患者ケアの質を向上させるためのデータを提供しました。

※共著者ではありませんが、当大学での学位審査受審の補佐をしました。

守屋 寛之 平成26年（2014年）03月14日 博士（薬学） （北海道薬科大学）

「薬剤師業務におけるゲノム情報に基づいた個別化医療の発展に関する研究（集成論文）」

Moriya H, Saito K, Helsby N, Sugino S, Yamakage M, Takasaki M, Kato H, Kurosawa N : The association between heterozygosity for UGT1A1*6, UGT1A1*28, and variation in the serum total-bilirubin level in healthy young Japanese adults. *Genet Test Mol Biomarkers* 2013; 17(6) : 464-9.

Moriya H, Saito K, Helsby N, Hayashi N, Sugino S, Yamakage M, Sawaguchi T, Takasaki M, Takahashi M, Kurosawa N : Single nucleotide polymorphisms and copy number variations at the FCGR2A and FCGR3A genes in healthy Japanese subjects. *Biomed Rep* 2014; 2(2) : 265-9.

Moriya H, Saito K, Helsby N, Sugino S, Yamakage M, Sawaguchi T, Takasaki M, Kato H, Kurosawa N : Association between the low-dose irinotecan regimen-induced occurrence of grade 4 neutropenia and genetic variants of UGT1A1 in patients with gynecologic cancers. *Oncol Lett* 2014; 7(6) : 2035-40.

ゲノム情報を用いた薬剤師業務の進化を探索し、個別化医療の実現に向けた重要な知見を提供しました。

※他大学の論博ですが、研究手法からはじめ、深く研究に関わりました。

西川 幸喜 平成29年（2017年）05月30日 博士（医学） 乙第2971号（札幌医科大学）

「電気痙攣療法における有用かつ効果的な麻酔法の検討（集成論文）」

Nishikawa K, Higuchi M, Kawagishi T, Shimodate Y, Yamakage M : Effect of divided supplementation of remifentanyl on seizure duration and hemodynamic responses during electroconvulsive therapy under propofol anesthesia. *J Anesth* 2011; 25(1) : 29-33.

Nishikawa K, Yamakage M : Effects of the concurrent use of a reduce dose of propofol with divided supplemental remifentanyl and moderate hyperventilation on duration and morphology of electroconvulsive therapy-induced electroencephalographic seizure activity : A randomized controlled trial. *J Clin Anesth* 2017; 37(2) : 63-6.

電気痙攣療法における麻酔管理の最適化を目指し、治療の有効性と安全性を高めるための研究をまとめました。

業 績 目 録
2009年教授に就任して以降のみを記載

【著 書】

<編集・監修>

1. PCA：患者自己調節鎮痛法. 山蔭道明監修, 山内正憲編集. 克誠堂, 東京, 2011.
患者自身が痛みをコントロールできるPCA（患者自己調節鎮痛法）の実践的ガイド。臨床現場での効果的な鎮痛管理を支援する一冊。
2. 周術期の体温管理：For Professional Anesthesiologists. 山蔭道明編. 克誠堂出版, 東京, 2011.
手術前後を含め体温管理に焦点を当て、麻酔科医に必要な最新の知見を提供する必携書。体温管理の重要性を再確認させる内容。
3. 必携：麻酔科初期研修マニュアル（改訂第3版）. 山蔭道明, 枝長充隆編. 真興交易(株)医書出版部, 東京, 2014.
麻酔科初期研修医向けに、基本から応用までを網羅した実践的マニュアル。若手医師の研修をサポートする頼れる一冊。
4. 吸入麻酔：Inhalation Anesthesia - For Professional Anesthesiologists. 山蔭道明, 平田直之編. 克誠堂出版, 東京, 2014.
吸入麻酔に特化し、最新のエビデンスと臨床知見をまとめた専門書。麻酔科医にとって欠かせない知識を提供。
5. PBLDに学ぶ麻酔科危機管理～麻酔科医がコマンダーとなって冷静に行動する～. 山蔭道明監修, 新山幸俊, 平田直之編. 克誠堂出版, 東京, 2015.
実際の臨床シナリオに基づき、麻酔科医が危機管理をどのように行うかを指南する一冊。危機的状況での冷静な判断力を養う。
6. 今さら聞けない麻酔科の疑問108－基本事項から専門医が知っておきたい知識・テクニックまで. 山蔭道明監修, 枝長充隆, 平田直之編. 文光堂, 東京, 2017.
麻酔科医が日常的に直面する疑問をQ&A形式で解説。基本から専門的なテクニックまで幅広くカバーする実践的ガイド。
7. すべての医療従事者が知りたい！医学系研究, 論文投稿上のQ&A. 浅井 隆, 廣田和美, 山蔭道明編. 日本医事新報社, 東京, 2017.
研究者にとって必要な論文執筆のノウハウをQ&A形式で解説。医学系研究者の悩みを解決する心強いガイド。
8. 日めくり麻酔科エビデンスアップデート～1日1つ, 3カ月で100の知見を得る～. 山蔭道明監修, 新山幸俊編. 克誠堂出版, 東京, 2017.
日々の臨床に役立つ麻酔科のエビデンスを紹介する実用書。短時間で最新の知見を習得できる工夫が凝らされている。
9. 最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科レビュー2018. 山蔭道明, 廣田和美監修. 総合医学社, 東京, 2018.
麻酔科分野の最新文献とガイドラインを総括し、臨床の現場で役立つ知識を提供するレビュー集。
10. ～エビデンスと麻酔科医の本音に基づいた～術式対応“わがまま”術後鎮痛マニュアル. 山蔭道明監修, 新山幸俊編集. 克誠堂出版, 東京, 2018.
術後の痛み管理に関する実践的なマニュアル。麻酔科医の経験に基づいた具体的なアドバイスが詰まっている。
11. 最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科レビュー2019. 山蔭道明, 廣田和美監修. 総合医学社, 東京, 2019.
2019年版の麻酔科に関連する最新文献とガイドラインを整理し、臨床に必要なエビデンスをわかりやすく解説。
12. 心臓血管麻酔Positive and Negativeリスト25. 山蔭道明監修, 平田直之, 吉川裕介編集. 中外医学社, 東京, 2020.
心臓血管麻酔の臨床での判断を支援するため、重要なポイントをポジティブ・ネガティブリスト形式で整理。
13. 最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科レビュー2020. 山蔭道明, 廣田和美監修. 総合医学社, 東京, 2020.
2020年版の麻酔科に関連する最新文献とガイドラインを網羅し、臨床現場での活用を支援するレビュー集。
14. 重症患者診療指針. 岡元和文総監修, 山蔭道明他編集. 総合医学社, 東京, 2020.
重症患者の診療に関する包括的なガイドライン。臨床での診療指針を提供し、複雑なケースにも対応可能な内容。
15. 最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科レビュー2021. 山蔭道明, 廣田和美監修. 総合医学社, 東京, 2021.
2021年版の麻酔科に関する最新のエビデンスをレビュー。臨床に直結する知識が整理されています。

16. 神経麻酔最前線—すべては患者の機能維持・向上のために、山蔭道明監修，澤田敦史，立花俊祐，茶木友浩編，中外医学社，東京，2021。
神経麻酔の最新知見を集約し，患者の機能維持と向上を目指した臨床ガイド。
17. 麻酔科専門医合格トレーニング，山蔭道明監修，枝長充隆編，中外医学社，東京，2021。
麻酔科専門医試験に向けたトレーニングガイド。
18. 明日からの臨床麻酔が広がる レミゾラムQ&A，稲上喜三，山蔭道明，中島芳樹編，克誠堂出版，東京，2022。
新たな麻酔薬レミゾラムの使用法をQ&A形式で解説。実際の臨床での応用が想定された実用的な一冊。
19. 最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科レビュー2022，山蔭道明，廣田和美監修，総合医学社，東京，2022。
2022年版の麻酔科関連文献をレビューし，臨床での活用を意識した内容を提供。
20. 最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科レビュー2023，山蔭道明，廣田和美監修，総合医学社，東京，2023。
2023年版の麻酔科における最新のガイドラインと文献レビューを通して，現場での実践に役立つ情報を集約。
21. こだわる神経ブロック「上肢」，山蔭道明監修，汲田 翔編，中外医学社，東京，2023。
上肢神経ブロックに特化し，臨床応用を深めるための詳細なガイド。手技のこだわりが詰まった一冊。
22. こだわる神経ブロック「下肢」，山蔭道明監修，汲田 翔・澤田敦史編，中外医学社，東京，2024。
下肢神経ブロックに特化し，臨床応用を深めるための詳細なガイド。手技のこだわりが詰まった一冊。

<分担執筆>

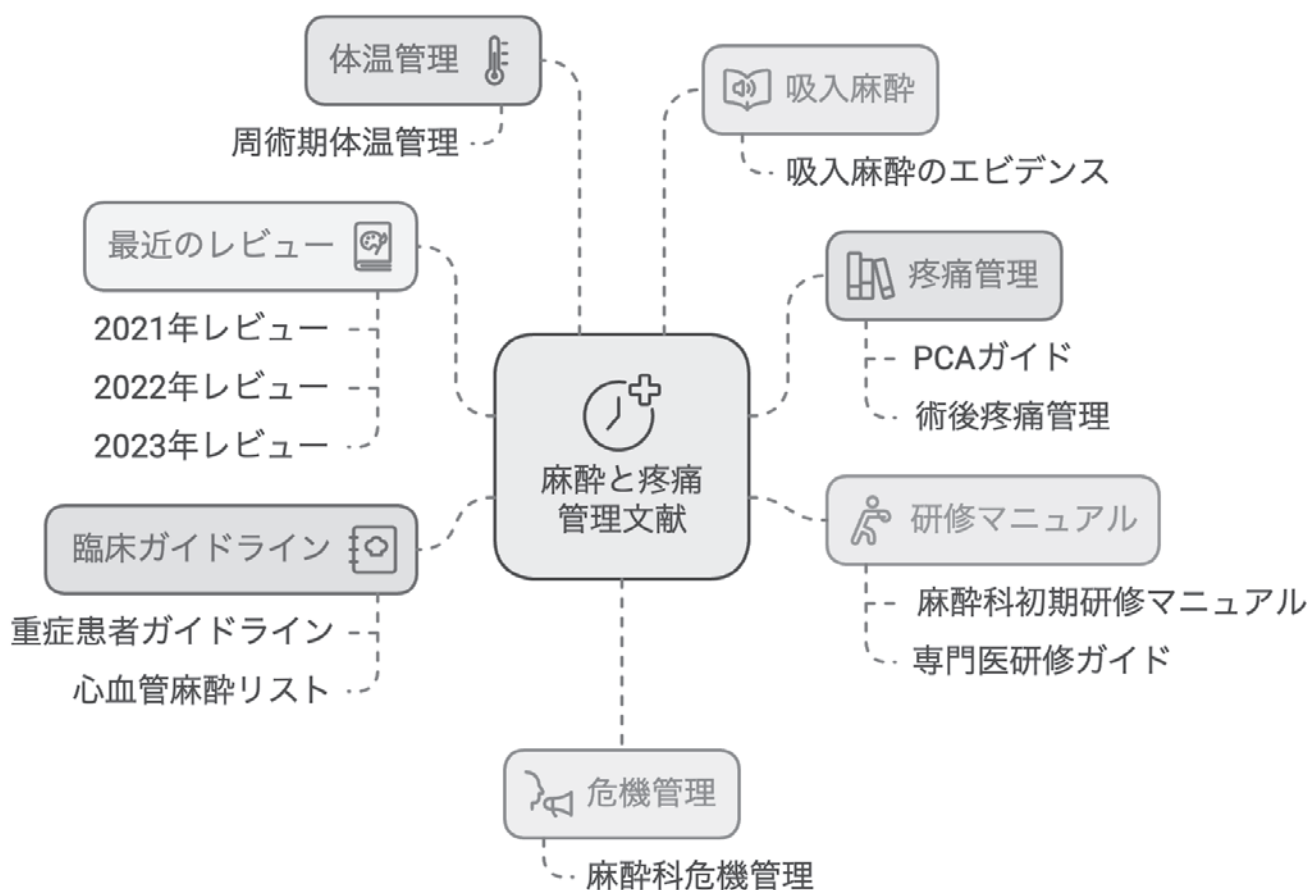
1. 山蔭道明：超短時間作用性麻薬性鎮痛薬：レミフェンタニル，土肥修司編，麻酔科学UPDATE—学術の進歩と臨床麻酔の安全性，医歯薬出版株式会社，東京，2009; p. 90-8.
2. 山蔭道明：15. 体温管理，Ⅱ. 麻酔の技術，創刊号「麻酔の現況と展望—研修医からの質問300—」，麻酔科学レクチャー，「麻酔科学レクチャー」編集委員会編，総合医学社，東京，2009, p. 102-10.
3. Namiki A, Yamakage M : Japan - Facilities and Equipment - The Modern Period : The Essentials of Modern Anesthesia Around the World. Chapter 3. The International Scope and Practice of Anesthesiology. Miller's Anesthesia (7th edition), Edited by Miller RD, Elsevier Inc., New York, 2009, p. 60-1.
4. 山蔭道明，澤田敦史：6. 整形外科背部（胸椎，腰椎）手術における麻酔管理，レミフェンタニル麻酔の実際～100マス（麻酔）チャート～，森田 潔編，克誠堂出版(株)，東京，2009, p. 65-75.
5. 山蔭道明：概説，Ⅰ. 催眠鎮静薬，社団法人日本麻酔科学会編，医薬品等適正使用推進施行事業—麻酔薬および麻酔関連薬使用ガイドライン—（改訂第3版），2009, p. 5.
山蔭道明：エプタゾシン臭化水素酸塩eptazocine hydrobromide，Ⅱ. 鎮痛薬・拮抗薬，社団法人日本麻酔科学会編，医薬品等適正使用推進施行事業—麻酔薬および麻酔関連薬使用ガイドライン—（改訂第3版），2009, p. 43-4.
6. 佐藤順一，山蔭道明：VI.記号，略語とその解説，よくわかる人工呼吸管理テキスト（改訂第5版）並木昭義，氏家良人，升田好樹編，南江堂，東京，2010, p. 269-80.
7. 澤田敦史，山蔭道明：37. 経管栄養，リトルICUブック（翻訳：The Little ICU Book），稲田英一監訳，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，2010, p. 469-79.
澤田敦史，山蔭道明：38. 静脈栄養，リトルICUブック（翻訳：The Little ICU Book），稲田英一監訳，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，2010, p. 481-9.
8. 山内正憲，山蔭道明：XII. 代謝の生理学，第10章：基礎的生理学とモニタリング，周術期管理チームテキスト，日本麻酔科学会編，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，2010, p. 279-81.
山内正憲，山蔭道明：XIII. 体温測定，第10章：基礎的生理学とモニタリング，周術期管理チームテキスト，日本麻酔科学会編，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，2010, p. 282-4.
9. 木谷友洋，山蔭道明：Q-87. シバリングの原因と対処方法，これだけは知っておきたい手術室ナースングQ & A（第2版），Vol. 33. 天羽敬祐，川村隆枝編，総合医学社，東京，2010, p. 190-1.
及川慶浩，山蔭道明：Q-93. 感染症患者の術後の手術室の清掃，これだけは知っておきたい手術室ナースングQ & A（第2版），Vol. 33. 天羽敬祐，川村隆枝編，総合医学社，東京，2010, p. 202-3.
及川慶浩，佐藤順一，山蔭道明：Q-94. 四肢手術時の患者の衣服，これだけは知っておきたい手術室ナースングQ & A（第2版），Vol. 33. 天羽敬祐，川村隆枝編，総合医学社，東京，2010, p. 206-7.

10. 平田直之, 山蔭道明: Q-96. 並列麻酔の危険性. これだけは知っておきたい手術室ナースングQ & A (第2版). Vol. 33. 天羽敬祐, 川村隆枝編. 総合医学社, 東京. 2010, p. 210-1.
11. 早瀬 知, 山蔭道明: 3. 体温. 第6章: モニタリング. 麻酔科研修ノート. 診断と治療社, 東京. 2010, p. 168-70.
早瀬 知, 山蔭道明: 5. 輸液・輸血の加温法. 第7章: 静脈路. 麻酔科研修ノート. 診断と治療社, 東京. 2010, p. 206-7.
12. 山蔭道明: 第39章. ガス交換の生理学的基本原理. 肺胞膜を介した酸素と二酸化炭素の拡散. ガイトン生理学 (第11版翻訳). 「Textbook of Medical Physiology. 11th edition. ed. by Guyton AC, and Hall JE, WB Saunders, 2005」. エルゼビア・ジャパン, 東京, 2010, p. 515-25.
13. 山内正憲, 山蔭道明: 17. Ca^{2+} チャネルブロッカー. 1章: 有望な鎮痛カスケードの開発動向. 4部: 治療・臨床を意識したこれからの疼痛治療開発動向. 慢性疼痛における薬剤選定と治療薬開発. (株)技術情報協会編, 東京. p. 394-9, 2010.
14. 澤田敦史, 山蔭道明: 3. セボフルランの特性と麻酔の導入, 覚醒. セボフルランー基礎を知れば臨床がわかる. 稲田英一編. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京. 2010, p. 23-40.
山蔭道明: 8. セボフルランの呼吸器系に及ぼす影響. セボフルランー基礎を知れば臨床がわかる. 稲田英一編. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京. 2010, p. 107-23.
15. 宮下 龍, 山蔭道明: 3-2. 高圧空気と合成空気. 第3章: 医療ガスと関連機器. 医療ガスー知識と管理, 教育・実践のガイドライン. 医療ガス学会教育委員会編. 真興交易(株)医書出版部, 東京. 2011, p. 71-5.
16. 宮下 龍, 山蔭道明: 245. シバリングがある. 第2部: 術中・術後. X: 中枢・末梢神経系. 麻酔科トラブルシューティングAtoZ. 高崎真弓他編. 文光堂, 東京. 2011, p. 562-3.
宮下 龍, 山蔭道明: 259. 体温が上昇してきた. 第2部: 術中・術後. XIII: 医療機器・安全管理. 麻酔科トラブルシューティングAtoZ. 高崎真弓他編. 文光堂, 東京. 2011, p. 609-11.
宮下 龍, 山蔭道明: 260. 長時間麻酔で術中低体温になった. 第2部: 術中・術後. XIII: 医療機器・安全管理. 麻酔科トラブルシューティングAtoZ. 高崎真弓他編. 文光堂, 東京. 2011, p. 612-3.
17. 山蔭道明: 第19章. 術後管理, 術後鎮痛. 第Ⅲ編. 麻酔管理. 標準麻酔科学 (第6版). 弓削孟文監修, 古家 仁, 稲田英一, 後藤隆久編. 医学書院, 東京, 2011, p. 194-205. (執筆協力: 新山幸俊)
18. 岩崎創史, 山蔭道明: 8. 麻酔の深度と麻酔からの覚醒. 第1章. 麻酔管理の必須テクニック. イラストでわかる麻酔科必須テクニック (改訂版). 土肥修司編. 羊土社, 東京. 2011, p. 30-1.
19. 澤田敦史, 山蔭道明: 基礎. 8. 気化器の原理と種類. デスフルランの使い方. 武田純三編. 真興交易 (株) 医書出版部, 東京. 2011, p. 78-90.
20. 及川慶浩, 山蔭道明. Ⅱ. 周術期の体温管理: 2. 体温測定法ーその利点とピットフォールー. 周術期の体温管理: For Professional Anesthesiologists. 山蔭道明編. 克誠堂出版, 東京. 2011, p. 26-43.
山蔭道明. Ⅱ. 周術期の体温管理: 5. 手術中の体温変化. B. 高齢者の体温調節とその管理. 周術期の体温管理: For Professional Anesthesiologists. 山蔭道明編. 克誠堂出版, 東京. 2011, p. 89-104.
21. 川岸俊也, 山蔭道明: 7. 術前と術中の輸液管理. A. ベイシック編. 「わかりやすい輸液管理Q & Aー研修医からの質問398ー (第2版)」岡元和文編. 総合医学社, 東京. 2012, p. 39-45.
22. 吉田真一郎, 山蔭道明: 4-5) 輸血製剤の使用法. 4章: 術中輸液・輸血の考え方. 《新戦略に基づく周術期管理》「麻酔科医のための循環管理の実際」. 横山正尚編. 中山書店, 東京. 2013, p. 107-15.
岩崎創史, 山蔭道明: 5. 各種病態での周術期呼吸管理の新戦略. シリーズ《新戦略に基づく周術期管理》「周術期循環管理の実際と新たな提言」. 廣田和美編. 中山書店, 東京. 2013, p. 209-34.
23. 時永泰行, 山蔭道明: 第七章. 人工呼吸器管理で使用される記号, 略語とその解説. よくわかる人工呼吸管理テキスト (改訂第6版) 並木昭義, 氏家良人, 升田好樹編. 南江堂, 東京, 2014, p. 313-24.
24. 佐々木英昭, 山蔭道明: 5. 手術室外での麻酔と鎮静. Ⅷ. 特殊な病態や状態下での麻酔・鎮静. For Professional Anesthesiologists. 静脈麻酔. 稲垣喜三編. 克誠堂出版, 東京. 2014, p. 314-24.
佐々木英昭, 山蔭道明: 6. 集中治療部での鎮静. Ⅷ. 特殊な病態や状態下での麻酔・鎮静. For Professional Anesthesiologists. 静脈麻酔. 稲垣喜三編. 克誠堂出版, 東京. 2014, p. 325-34.
25. 早瀬 知, 山蔭道明: 3. 体温. 第6章: モニタリング. 麻酔科研修ノート (改訂第2版). 診断と治療社, 東京. 2014, p. 190-2.
早瀬 知, 山蔭道明: 5. 輸液・輸血の加温法. 第7章: 静脈路. 麻酔科研修ノート (改訂第2版). 診断と治療社, 東京. 2014, p. 230-1.

26. 平田直之, 山蔭道明: 3. 輸液剤の選択. I. 総論. 症例で学ぶ新しい周術期の輸液管理. 松永 明編. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 2014, p. 20-8.
27. Yamakage M, Hirata N: Chapter 2: International Scope, Practice, and Legal Aspects of Anesthesia. Miller's Anesthesia (8th edition), Edited by Miller RD, Elsevier Inc., New York, 2014, p. 10-47.
28. 岩崎創史, 山蔭道明: 5. 気道管理・呼吸器系. 麻酔科学文献レビュー2015-2016. 学研メディカル秀潤社, 東京, 2015, p. 75-85.
29. 山蔭道明: 低体温. 南山堂大辞典 (第20版). 南山堂, 東京, 2015, p. 1675.
30. 岩崎創史, 杉目史行, 山蔭道明: 第3章「幻肢痛のメカニズムから探る薬物治療と治療薬開発の展望」. 第12節「神経障害性疼痛 (末梢神経障害/神経痛) 【最新の治療から導き出す】痛みのメカニズムと疼痛治療薬開発. (株)技術情報協会, 東京, 2015, p. 197-202.
31. 数馬 聡, 山蔭道明: 48. 経管栄養. XIV: 栄養と代謝. ICUブック (第4版翻訳). 稲田英一監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 2015, p. 701-12.
数馬 聡, 山蔭道明: 49. 静脈栄養. XIV: 栄養と代謝. ICUブック (第4版翻訳). 稲田英一監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 2015, p. 713-22.
32. 新山幸俊, 山蔭道明: A. アップグレードのための準備. IV. マルチモーダル鎮痛を心がけていますか? ポケット版術後痛サービス (POPS) マニュアル. POPS研究会編, 大阪, 2015, p. 18-21.
新山幸俊, 山蔭道明: B. アップグレードの実践: 手術室. II. PONVにハイリスク患者でiv-PCAを成功させるには? ポケット版術後痛サービス (POPS) マニュアル. POPS研究会編, 大阪, 2015, p. 64-7.
33. 室内健志, 山蔭道明: 6-3. 最近の話題. 6. 硬膜外ブロックUp-to-Date. 《新戦略に基づく麻酔・周術期医学》麻酔科医のための区域麻酔スタンダード. 中山書店, 東京, 2015, p. 221-8.
34. 吉川裕介, 山蔭道明: 3. ミダゾラム/他のベンゾジアゼピン. II. 麻酔薬, 麻酔関連薬. B 静脈麻酔薬. 麻酔科医のための周術期の薬物使用法. シリーズ《新戦略に基づく麻酔・周術期医学》. 森田 潔監修, 川真田樹人編, 中山書店, 東京, 2015, p. 521-3.
35. 山蔭道明: 8. 麻酔前投薬と術前評価. 麻酔科学レビュー2016-最新主要文献集-. 澄川耕二, 岩崎 ？編. 総合医学社, 東京, 2016, p. 48-54.
36. 立花俊祐, 山蔭道明: (1)深部体温計. VI. 体温. 麻酔科医のための周術期のモニタリング《新戦略に基づく麻酔・周術期管理》. 廣田和美編. 中山書店, 東京, 2016, p. 216-26.
立花俊祐, 山蔭道明: (2)末梢温測定. VI. 体温. 麻酔科医のための周術期のモニタリング《新戦略に基づく麻酔・周術期管理》. 廣田和美編. 中山書店, 東京, 2016, p. 227-9.
37. 早瀬 知, 山蔭道明: A. テント上腫瘍. 2. 脳・脊髄腫瘍の麻酔管理. XII. 各論・麻酔管理. 神経麻酔. 内野博之, 川口昌彦編. 克誠堂出版(株), 東京, 2016, p. 197-202.
枝長充隆, 山蔭道明: B. テント下腫瘍 (小脳橋角部腫瘍も含む). 2. 脳・脊髄腫瘍の麻酔管理. XII. 各論・麻酔管理. 神経麻酔. 内野博之, 川口昌彦編. 克誠堂出版(株), 東京, 2016, p. 203-7.
- 38.
39. 室内健志, 山蔭道明: 65. 低体温の有害作用にはどのようなものがあるか. 11章: 体温管理. 麻酔科クリニカルクエスト101. 稲田英一編. (株)診断と治療社, 東京, 2016, p. 148-9.
40. 山蔭道明: V 「呼吸管理の生理学」, VI 「パルスオキシメトリ」, VII 「カプノメトリ」. 12章『基礎的生理学とモニタリング』周術期管理チームテキスト第3版. 日本麻酔科学会編, 日本麻酔科学会, 神戸, 2016, p. 292-306.
山蔭道明: II 「呼吸管理」. 20章『麻酔の維持』周術期管理チームテキスト第3版. 日本麻酔科学会編, 日本麻酔科学会, 神戸, 2016, p. 529-41.
41. 立花俊祐, 山蔭道明: 94. 新鮮ガス流量を変化させるとどのようなことが起こるか. 新 麻酔科研修の素朴な疑問に答えます. 稲田英一編. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 2016, 299-303.
42. 山蔭道明: 特集にあたって. 特集「体温管理: どうして必要? どうすればいい? にお答えします」. 「オペナース誌」手術ナーシング (3巻2号). 山蔭道明監. (株)医学出版, 東京, 2016, p. 6.
及川慶浩, 山蔭道明: 2. 目的にかなった手術中の体温測定部位はどこか? 特集「体温管理: どうして必要? どうすればいい? にお答えします」. 「オペナース誌」手術ナーシング (3巻2号). (株)医学出版, 東京, 2016, p. 11-21.
43. 高橋和伸, 山蔭道明: (1) 始業点検の要点. (2) 麻酔器具の維持管理. 6. 機器管理のポイント. I. 周術期の安全対策・危機管理の基本. シリーズ《新戦略に基づく麻酔・周術期医学》「麻酔科医のための周術期危機管理と合併症への対応」. 森田 潔監修, 横山正尚編. 中山書店, 東京, 2016, p. 269-80.

44. 山蔭道明：8. 麻酔前投薬と術前評価，麻酔科学レビュー2017ー最新主要文献集ー，澄川耕二，岩崎 ？編，総合医学社，東京，2017, p. 47-50.
45. 山蔭道明：序，今さら聞けない麻酔科の疑問108ー基本事項から専門医が知っておきたい知識・テクニックまで，山蔭道明監修，枝長充隆，平田直之編，文光堂，東京，2017. iii-iv.
山蔭道明：Q1. 麻酔科ってどんな学問ですか？今さら聞けない麻酔科の疑問108ー基本事項から専門医が知っておきたい知識・テクニックまで，山蔭道明監修，枝長充隆，平田直之編，文光堂，東京，2017. P. 2-3.
山蔭道明：Q2. 麻酔薬ってどう聞くのですか？今さら聞けない麻酔科の疑問108ー基本事項から専門医が知っておきたい知識・テクニックまで，山蔭道明監修，枝長充隆，平田直之編，文光堂，東京，2017. P. 4-5.
46. 山蔭道明，新山幸俊：序文，日めくり麻酔科エビデンスアップデート～1日1つ，3カ月で100の知見を得る～，山蔭道明監修，新山幸俊編，克誠堂出版，東京，2017. v.
47. 時永泰行，山蔭道明：7. 術前と術中の輸液管理，A. ベイシック編，救急・集中治療のための輸液管理Q & A（第3版）ー研修医からの質問365ー，岡元和文編，総合医学社，東京，2017, p. 39-45.
48. 山蔭道明，澤田敦史：Q2. なぜ論文を各必要があるのですか？：基礎研究者の場合，第1部「医学系論文の意義を知ろう！」，すべての医療従事者が知りたい！医学系研究，論文投稿上のQ&A，浅井 隆，廣田和美，山蔭道明，日本医学新報社，東京，2017, p. 3-4.
山蔭道明，澤田敦史：Q19. 研究費用の獲得先にはどのような種類がありますか？第2部「研究を計画するまでにすべきことを知ろう！」，すべての医療従事者が知りたい！医学系研究，論文投稿上のQ&A，浅井 隆，廣田和美，山蔭道明，日本医学新報社，東京，2017, p. 52-4.
山蔭道明，澤田敦史：Q20. 科学研究費などを獲得する秘訣は何ですか？第2部「研究を計画するまでにすべきことを知ろう！」，すべての医療従事者が知りたい！医学系研究，論文投稿上のQ&A，浅井 隆，廣田和美，山蔭道明，日本医学新報社，東京，2017, p. 55-7.
山蔭道明，澤田敦史：Q21. 研究をする資格は何かありますか？第2部「研究を計画するまでにすべきことを知ろう！」，すべての医療従事者が知りたい！医学系研究，論文投稿上のQ&A，浅井 隆，廣田和美，山蔭道明，日本医学新報社，東京，2017, p. 58-9.
49. 山蔭道明：第17章，術後鎮痛，第Ⅲ編，麻酔管理総論，標準麻酔科学（第7版），古家 仁監修，稲田英一，森崎 浩，西脇公俊編，医学書院，東京，2018, p. 201-212.（執筆協力：新山幸俊）
50. 赤塚正幸，山蔭道明：I. 集中治療のモニタリング，Ⅱ. 集中治療における検査・技術，集中治療医学レビュー：最新主要文献と解説（2018-19），総合医学社，東京，岡元和文監修，大塚将秀，佐藤直樹，松田直之編集，2018, p. 98-102.
51. 山蔭道明：序文，最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科レビュー2018，山蔭道明，廣田和美監修，総合医学社，東京，2018, p. I.
52. 山蔭道明，新山幸俊：緒言，～エビデンスと麻酔科医の本音に基づいた～術式対応“わがまま”術後鎮痛マニュアル，山蔭道明監修，新山幸俊編集，克誠堂出版，東京，2018, p. I.
53. 立花俊祐，山蔭道明：3. 体温，第6章 モニタリング，麻酔科研修ノート（改訂第3版），稲田英一編，診断と治療社，東京，2018, p. 188-90.
立花俊祐，山蔭道明：5. 輸液・輸血の加温法，第7章 静脈路，麻酔科研修ノート（改訂第3版），稲田英一編，診断と治療社，東京，2018, p. 239-40.
54. 数馬 聡，山蔭道明：I. 集中治療のモニタリング，Ⅱ. 集中治療における検査・技術，集中治療医学レビュー：最新主要文献と解説2020-21，岡元和文監，大塚将秀，佐藤直樹，松田直之編，総合医学社，東京，2020, p. 100-6.
数馬 聡，山蔭道明：周術期管理の潮流，Ⅲ. 手術・麻酔と周術期管理（山蔭道明；章監修），ICU治療指針Ⅲ，岡元和文総監修，総合医学社，東京，2020, p. 1496-8.
数馬 聡，山蔭道明：輸血後移植片対宿主病，Ⅲ. 手術・麻酔と周術期管理（山蔭道明；章監修），ICU治療指針Ⅲ，岡元和文総監修，総合医学社，東京，2020, p. 1533-5.
数馬 聡，山蔭道明：術中アナフィラキシー（ラテックスアレルギーを含む），Ⅲ. 手術・麻酔と周術期管理（山蔭道明；章監修），ICU治療指針Ⅲ，岡元和文総監修，総合医学社，東京，2020, p. 1536-8.
菊池謙一郎，山蔭道明：周術期副腎不全対策（ステロイドカバー），Ⅲ. 手術・麻酔と周術期管理（山蔭道明；章監修），ICU治療指針Ⅲ，岡元和文総監修，総合医学社，東京，2020, p. 1568-70.
菊池謙一郎，山蔭道明：Low cardiac output syndromeの周術期管理，Ⅲ. 手術・麻酔と周術期管理（山蔭道明；章監修），ICU治療指針Ⅲ，岡元和文総監修，総合医学社，東京，2020, p. 1593-5.
55. Sawada A, Yamakage M : Neuropathic Pain Syndrome : Diabetic and other neuropathies. Part II. Pain Management Techniques. Chronic Pain Management in General and Hospital Practice. Edited by Shimoji K., Nader A., and Hamano E. Springer, Singapore, 2020. P249-60.
Iwasaki S, Yamakage M : Neuropathic Pain Syndrome : Other neurological conditions. Part II. Pain Management Techniques. Chronic Pain Management in General and Hospital Practice. Edited by Shimoji K., Nader A., and Hamano E. Springer, Singapore, 2020. P279-90.

56. 茶木友浩, 山蔭道明 : 229. 脳外科術中に高血糖が持続する. 第2部 : 術中・術後. VI : 内分泌機能. 麻酔科トラブルシューティング AtoZ (第2版). 高崎真弓他編. 文光堂, 東京. 2021, p. 222-3.
57. 数馬 聡, 山蔭道明 : I. 集中治療のモニタリング. II. 集中治療 検査・技術. 集中治療医学レビュー2022. 総合医学社, 東京. 2022, p. 116-22.
58. 立花俊祐, 山蔭道明 : 5. テント上脳腫瘍手術. 第7章 脳神経麻酔での主な疾患と管理法. 神経麻酔と神経集中治療の基礎と実践. 飯田宏樹監修, 川口昌彦監. 日本医事新報社, 東京. 2022, p. 220-3.
茶木友浩, 山蔭道明 : 6. テント下脳腫瘍手術. 第7章 脳神経麻酔での主な疾患と管理法. 神経麻酔と神経集中治療の基礎と実践. 飯田宏樹監修, 川口昌彦監. 日本医事新報社, 東京. 2022, p. 224-7.
59. 茶木友浩, 山蔭道明 : 26章. 脳血管疾患. 周術期内科管理のディシジョンメイキング. Cohn SL編, 江木盛時監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京. 2023 : p. 207-13.

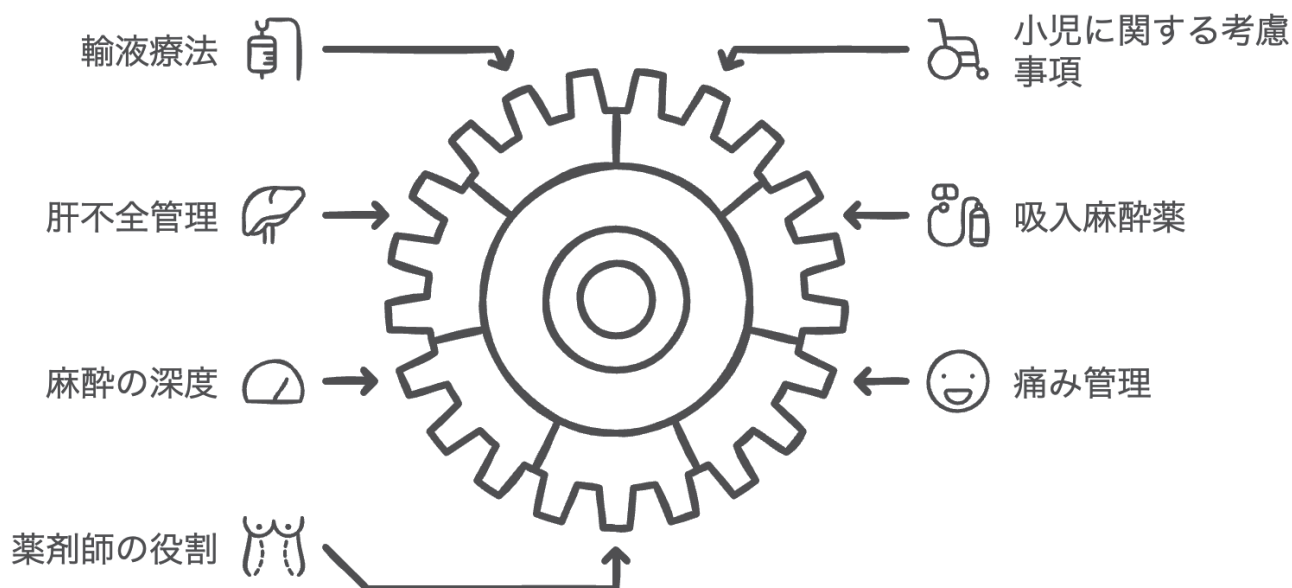


1. 山蔭道明, 田村岳士: Restricted fluid therapy: 麻酔中の輸液管理. 徹底分析「周術期の輸液管理」. LiSA 2009; 16(1): 20-3.
2. 山下 淳, 山蔭道明: 小児周術期輸液の考え方の変遷. 徹底分析「輸液管理: 病態と輸液剤の選択」. LiSA 2009; 16(2): 112-3.
澤田 敦, 山蔭道明: 肝不全患者の輸液管理. 徹底分析「輸液管理: 病態と輸液剤の選択」. LiSA 2009; 16(2): 142-5.
高橋和伸, 山蔭道明: 消化管大手術の輸液管理. 徹底分析「輸液管理: 病態と輸液剤の選択」. LiSA 2009; 16(2): 146-9.
3. 山蔭道明: 気道-喫煙の基礎医学. 治療学 2009; 43(2): 157-62.
4. 山蔭道明: Hydroxyethyl starch製剤の現状と今後の展望. Anesthesia 21 Century 2009; 11: 38-52.
5. 及川慶浩, 山蔭道明: 9. 目的にかなった手術中の体温測定部位はどこか? 「臨床麻酔誌上セミナー'09」. 臨床麻酔 (臨時増刊号) 2009; 33(3): 399-411.
6. 山蔭道明: 新しい局所麻酔薬レボブピバカイン概要. 日本臨床麻酔学会誌 2009; 29(3): 275-89.
7. 山蔭道明: 2. いまなぜ手術室に薬剤師が必要なのか? 2) 麻酔科医の立場から. 特集「周術期患者の薬学管理-はじめの一步」. 薬局 2010; 61(4): 20-6.
8. 山蔭道明, 中間広則, 並木昭義: 4. 手術による生体侵襲. 特集「急性生体侵襲と主要臓器管理Q&A」. 松田直之編. 救急・集中治療 2008; 20(9?10): 1129-34.
9. 山蔭道明, 澤田敦史: 吸入麻酔薬の最近の知見. 日本臨床麻酔学会誌 2010; 30(3): 342-55.
10. 山蔭道明, 岩崎創史: 麻酔の深度と手術患者の覚醒. 特集「麻酔の質と手術患者の覚醒」. 医学のあゆみ 2010; 234(2): 131-5.
11. 山内正憲, 山蔭道明: 整形外科疾患に対するペインクリニック. 誌上シンポジウム「整形外科領域における痛み」. 北海道整形災害外科学会雑誌 2010; 52(1): 20-4.
12. 宮下 龍, 山蔭道明: 術後に高熱を出した患者. 症例検討「麻酔歴に問題がある患者のインフォームド・コンセントと麻酔3」. LiSA 2010; 17(10): 992-6.
13. Niemi TT, Miyashita R, Yamakage M: Colloid solutions: a clinical update. J Anesth 2010; 24(6): 913-25.
14. 山内正憲, 山蔭道明: II. 各施設の慢性疼痛に対するオピオイド使用戦略: 札幌医科大学附属病院-当科における経緯と展望. 特集「慢性疼痛に対するオピオイドの使用戦略」. ペインクリニック 2011; 32(3): 336-44.
15. 早瀬 知, 山蔭道明: 周術期輸液と予後. 特集「周術期輸液・輸血管理のup-to-date」. ICUとCCU 2011; 35(4): 307-12.
16. 宮下 龍, 山蔭道明: I. 周術期輸液管理の新戦略. 特集「周術期の体液代謝管理」. 臨床麻酔 2011; 35(6): 916-27.
17. 平田直之, 山蔭道明: 講座「デスフルラン-臨床使用におけるコツとポイント」. 臨床麻酔2011; 35(12): 1817-23.
18. 山内正憲, 山蔭道明: 講座「痛みの評価」. ペインクリニック2012; 33(2): 271-9.
19. 枝長充隆, 山蔭道明: 特集2「周術期における麻酔管理の極意-呼吸抑制・循環抑制・体温管理」. 実践安全手術看護2012; 5(6): 26-8.
20. 枝長充隆, 山蔭道明: 「これだけは知っておきたい麻酔の知識」全身麻酔薬の種類と留意事項. JOHNS 2012; 28(11): 1728-30.
21. 山内正憲, 山蔭道明: 学生・初期臨床研修医が理解と興味を持つペインクリニック教育-札幌医科大学医学部-「特集: ペインクリニック教育の課題と展望」. ペインクリニック2012; 33(3): 335-42.
22. 橘 信子, 杉野繁一, 周 静, 澤田敦史, 早瀬 知, 高橋和伸, 高田幸昌, 丸山大介, 岩崎創史, 佐々木英昭, 平川由佳, 立花俊祐, 大須田倫子, 玉城啓史, 新山幸俊, 渡邊昭彦, 山内正憲, 山蔭道明: 誌上抄読会「デスフルラン」. 臨床麻酔2012; 36(4): 637-43.
23. 枝長充隆, 山蔭道明: 薬剤が引き起こす急変と投与時の観察ポイント. 急変キャッチ達人ナース 2011; 33(1): 16-23.

24. 新山幸俊, 山蔭道明: 小児にデスフルランを積極的に使用すべきか? 気管挿管下に十分な麻酔深度を保ちつつ, オピオイドの併用が必要. 徹底分析シリーズ「デスフルランI」. LiSA 2013; 20(1): 42-6.
25. 枝長充隆, 高田幸昌, 畠山陽介, 山蔭道明: カプノグラムに代わる新しい呼吸数モニタリングとしてのRRa® (Acoustic Respiration Rate). 臨床麻酔 2013; 37(1): 41-8.
26. 杉野繁一, 早瀬 知, 山蔭道明: 麻酔科学へのオミクス研究の導入と臨床麻酔での可能性. 特集「麻酔学領域の基礎研究の臨床応用」. 麻酔2013; 62(3): 296-303.
27. 橘 信子, 新山幸俊, 山蔭道明: TCI (Target-Controlled Infusion) のUp to Date. 臨床麻酔 2013; 37(4): 661-6.
28. 岩崎創史, 山蔭道明: 体温調節のメカニズム. I. 体温総論. 特集「体温: 測定から管理まで」. 救急医学 2013; 37: 991-5.
29. 巽 博臣, 升田好樹, 今泉 均, 千原伸也, 澤田理加, 中野皓太, 山本恭輔, 菅原康介, 吉田真一郎, 後藤京子, 高橋科那子, 山蔭道明: 電解質異常を伴う急性期重症患者に対応するCHDFの置換液の調整. 日急性血浄化会誌 2013; 4(1): 17-22.
30. 山蔭道明: 講座「デスフルラン: やはり覚醒の質は高かった」. 日臨麻会誌 2013; 33(7): 939-46.
31. 巽 博臣, 今泉 均, 升田好樹, 吉田真一郎, 坂脇英志, 後藤京子, 高橋科那子, 山蔭道明, 大川牧生, 国元文生. 「今知りたい! 集中治療の最新論点-Pro & Conディベート-」 栄養: 栄養管理に中心静脈栄養法は不要である? 救急・集中治療 2013; 25(9-10): 1194-200.
32. 巽 博臣, 後藤京子, 今泉 均, 升田好樹, 吉田真一郎, 坂脇英志, 高橋科那子, 山蔭道明, 貝沼閑志. 「今知りたい! 集中治療の最新論点-Pro & Conディベート-」 院内システム/教育: ICUは初期研修医が主義を行う格好の場である? 救急・集中治療 2013; 25(9-10): 1211-21.
33. 新山幸俊, 山蔭道明: 脊椎外科手術後鎮痛—麻酔科からの視点. 特集「術後疼痛管理の最前線」. 整形・災害外科 2013; 56(13): 1571-5.
34. 岩崎創史, 山蔭道明: 平熱, 発熱, 高体温, 低体温. 特集「体温の異常—診かた・考えかた」. 小児内科 2014; 46(3): 301-4.
35. 新山幸俊, 山蔭道明: 周術期管理. 特集「高齢者に対する癌治療ベストプラクティス」. 消化器外科 2014; 37(9): 1371-81.
36. 新谷知久, 山蔭道明: 最近のペインクリニック. 特集「最新の腰痛・膝関節痛の診療」. 月刊「臨牀と研究」. 2014; 91(11): 1465-8.
37. 平田直之, 山蔭道明: 自発呼吸と人工呼吸の循環生理学的な違い: 血圧, 心拍出量の変化. 徹底分析シリーズ「研修医の素朴な疑問に答えます: 周術期管理」. LiSA 2014; 21(11): 1042-3.
38. 渡邊昭彦, 山蔭道明: 緩和医療「緩和医療に使用する薬剤」. 北海道外科雑誌 2014; 58(2): 127-32.
39. 枝長充隆, 高田幸昌, 山蔭道明: 新たな呼吸数モニタリングの可能性. 日臨麻会誌 2015; 35(2): 250-6.
40. 新山幸俊, 山蔭道明: 麻酔科領域での使用法: 術後痛管理というメイクアップにおけるファンデーション. 特集「アセトアミノフェン」. LiSA 2015; 22(9): 884-8.
41. 新山幸俊, 山蔭道明: 術後マルチモーダル鎮痛におけるアセトアミノフェンの立ち位置. 臨床麻酔 (臨時増刊号) 2016; 40(3): 373-81.
42. 平田直之, 茶木友浩, 山蔭道明: Oxygen Reverse Index: 新しい酸素化モニターの可能性. 臨床麻酔 2016; 40(10): 1391-7.
43. 時永泰行, 数馬 聡, 山蔭道明: 4. 内皮グリコカリックス障害が発生する?—今後の輸液戦略のキーワード—. II. 微小循環障害からみたショックの病態. 特集「ショック管理—ショックと臓器障害関連のメカニズム—」 救急・集中治療 2017; 29(5-6): 327-32.
44. 岩崎創史, 高橋和伸, 山蔭道明: 【痛み関連の医療連携】がん性疼痛のチーム医療: アミノ基-炭素鎖-芳香環の構造式からみる札幌医科大学附属病院の痛み診療. ペインクリニック 2017; 38(8): 1039-46.
45. Hirota K, Yamakage M, Hashimoto S, Asai T, Isono S: Perioperative respiratory complications: current evidence and strategy discussed in 2017 JA symposium. J Anesth 2018; 32(1): 132-6.
46. 時永泰行, 数馬 聡, 山蔭道明: 3. 血管透過性と内皮グリコカリックス. I. 知っておきたいショックの病態生理と臓器障害. 特集「エキスパートに学ぶショック管理のすべて」 救急・集中治療 2018; 30(3): 343-8.

47. 山蔭道明：未来に求められる麻酔薬—近未来の全身麻酔方法—。麻酔 2019; 68(8)：852-60.
48. 平田直之，澤田敦史，早水憲吾，汲田 翔，大野 翔，立花俊祐，菊池謙一郎，佐藤智恵，佐藤 慧，西原教晃，茶木友浩，澤下泰明，数馬 聡，高橋和伸，佐藤順一，君塚基修，時永泰行，中山禎人，枝長充隆，山蔭道明：新しい静脈麻酔薬レミマゾラム。臨床麻酔 2020; 44(8)：1083-95.
49. 大須田倫子，枝長充隆，山蔭道明：動脈圧カテーテル留置術を安全・確実に成功させるために。臨床麻酔 2020; 44(9)：1219-25.
50. 西原教晃，山蔭道明：鎮静・呼吸モニタリング 局所麻酔下での鎮静を目的とした麻酔薬。手術看護エキスパート 2020; 14(4)：72-6.
51. Hirata N, Yamakage M：Cardiovascular considerations for anesthesiologists during the COVID-19 pandemic - Anesthesia in the time of COVID-19 -. J Anesth 2021; 35(2)：361-5.
52. 平田直之，柴田賢吾，大中崇行，立花俊祐，澤田敦史，山蔭道明：レミマゾラム：薬理学的特徴と臨床での使用法。臨床麻酔 2021; 45(1)：9-15.
53. 立花俊祐，山蔭道明：体温管理の基本 術中体温維持とアウトカムへの影響「術中の全身管理を任された！麻酔導入後から抜管まで，患者のわずかな変化も見逃さない モニタリングのポイントとトラブル対応」。レジデントノート 2021; 23(10)：1571-6.
54. 佐藤 慧，枝長充隆，茶木友浩，山蔭道明：講座「吸入麻酔薬が脳循環生理に与える影響」。臨床麻酔 2022; 46(6)：815-21.
55. 前田真岐志，平田直之，茶木友浩，山蔭道明：周術期心停止。麻酔 2023; 72(4)：330-6.
56. 茶木友浩，山蔭道明：これまでの気道管理の常識が変わる。医学のあゆみ 2023; 285(12)：1095-7.
57. 茶木友浩，山蔭道明：覚醒下手術の麻酔管理「覚醒下手術の最前線—臨床的意義と神経科学」。医学のあゆみ 2023; 286(9)：718-22.
58. Takahashi K, Yoshikawa Y, Kanda M, Hirata N, Yamakage M：Dexmedetomidine as a cardioprotective drug：a narrative review. J Anesth 2023; 37(6)：961-70.

総説論文のポイント



2009

1. Yamakage M, Iwasaki S, Jeong S-W, Satoh J-I, Namiki A : Beta-1 selective adrenergic antagonist landiolol and esmolol can be safely used in patients with airway hyperreactivity. *Heart Lung* 2009; 38(1) : 48-55.
2. Yamashita J, Yamakage M, Kawana S, Namiki A : Two cases of Menkes disease : airway management and dental fragility. *Anaesth Intensive Care* 2009; 37(2) : 332-3.
3. Yamakage M, Takahashi K, Takahashi M, Satoh J-I, Namiki A : Performance of four carbon dioxide absorbents in experimental and clinical settings. *Anaesthesia* 2009; 64(3) : 287-92.
4. Sato H, Yamakage M, Okuyama K, Imai Y, Iwashita H, Masamune T, Ishiyama T, Matsukawa T : Intravenous famotidine does not always change the core and peripheral temperatures during general anesthesia. *J Anesth* 2009; 23(1) : 151-3.
5. Satoh J-I, Yamakage M, Kobayashi T, Tohse N, Watanabe H, Namiki A : Desflurane but not sevoflurane can increase lung resistance via tachykinin pathways. *Br J Anaesth* 2009; 102(5) : 704-13.
6. 加藤佐智, 山蔭道明, 新山幸俊, 高橋和伸, 並木昭義 : 覚醒遅延をきたした慢性腎不全, 心不全患者の1症例. *臨床麻酔* 2009; 33(5) : 888-90.
7. Sato H, Yamakage M, Okuyama K, Imai Y, Iwashita H, Ishiyama T, Matsukawa T : Forced-air warming effectively recovers midazolam-induced core hypothermia in volunteers. *Eur J Anaesthesiol* 2009 : 26(7) : 566-71.
8. Yamakage M, Takahashi M, Tsukigase N, Takahashi K, Namiki A. Usefulness of Endoflex? endotracheal tube for oral and nasal tracheal intubation. *Eur J Anaesthesiol* 2009; 26(8) : 661-5.
9. 望月宏樹, 山蔭道明, 吉田真一郎, 古瀬晋吾, 山内正憲, 並木昭義 : ロクロニウムにアナフィラキシー反応を示した心臓外科手術の1症例. *臨床麻酔* 2009; 33(6) : 1051-3.
10. 福岡英子, 山内正憲, 水上奈穂美, 山蔭道明, 渡辺廣昭, 並木昭義 : バルーン式ディスポーザブル持続注入器の投与速度に及ぼす温度と抵抗圧の影響. *臨床体温* 2009; 27(1) : 50-3.
11. 山蔭道明, 山本みえ子 : 体温マッサージ療法が老化性色素斑 (しみ) に与える影響. *臨床体温* 2009; 27(1) : 55-9.
12. Yamauchi M, Kawaguchi R, Sugino S, Yamakage M, Honma E, Namiki A : Ultrasound-aided unilateral epidural block for single lower-extremity pain. *J Anesth* 2009; 23(4) : 605-8.
13. Satoh J-I, Yamakage M. Desflurane induces airway contraction mainly by activating transient receptor potential A1 of sensory C-fibers. *J Anesth* 2009; 23(4) : 620-3.

2010

1. 川端一裕, 千田典史, 山内正憲, 山蔭道明 : エアウェイスコープ?とカフインフレーション法で経鼻挿管に成功した開口障害の1例. *日本歯科麻酔学会誌* 2010; 38(3) : 311-2.
2. 東口 隆, 山下 淳, 宮下 龍, 渡辺昭彦, 山蔭道明 : 巨大卵巣腫瘍切除術の麻酔経験. *臨床麻酔* 2010; 34(4) : 739-41.
3. Hirata N, Miyashita R, Watanabe A, Yamakage M. Low-dose continuous infusion of landiolol can reduce adrenergic response during tracheal intubation in elderly patients with cardiovascular disease. *J Anesth* 2010; 24(5) : 786-8.
4. 新谷知久, 山内正憲, 水上奈穂美, 新山幸俊, 大曾根順平, 本間広則, 川股知之, 山蔭道明, 廣瀬總明. 肩関節術後痛に対する鎖骨上アプローチでの持続腕神経叢ブロックの効果. *麻酔* 2010; 59(11) : 1385-90.
5. Narimatsu E, Niiya T, Kawamata T, Kawamata M, Yamakage M : Effects of atropine and pralidoxime on neuronal actions of paraoxon in rat hippocampal slices. *Neurosci Res* 2010; 68 : 276-84.

6. 高橋三佳, 山内正憲, 渡辺昭彦, 高橋和伸, 水上奈穂美, 新谷知久, 山蔭道明: 癌患者および慢性疼痛患者の下肢冷感に対する漢方薬の有用性. 臨床体温 2010; 28(1): 22-6.

2011

1. Kawaguchi R-I, Yamauchi M, Sugino S, Yamakage M: Ultrasound-aided ipsilateral-dominant epidural block for total hip arthroplasty: a randomised controlled single-blinded study. Eur J Anaesthesiol 2011; 28(2): 137-40.
2. Kiya T, Kawamata T, Namiki A, Yamakage M: Role of satellite cell-derived L-serine in the dorsal root ganglion in paclitaxel-induced painful peripheral neuropathy. Neurosci 2011; 174: 190-9.
3. Nishikawa K, Higuchi M, Kawagishi T, Shimodate Y, Yamakage M: Effect of divided supplementation of remifentanyl on seizure duration and hemodynamic responses during electroconvulsive therapy under propofol anesthesia. J Anesth 2011; 25(1): 29-33.
4. Nishikawa K, Fukuoka E, Kawagishi T, Shimodate Y, Yamakage M. Efficacy of the Airtraq? laryngoscope with a fiberoptic bronchoscope compared with that of Airtraq? alone for tracheal intubation: a manikin study. J Anesth 2011; 25(1): 93-7.
5. Zhou J, Iwasaki S, Watanabe A, Yamakage M: Synergic bronchodilator effects of a phosphodiesterase 3 inhibitor with a volatile anaesthetic sevoflurane in ovalbumin-sensitized guinea pigs. Eur J Anaesthesiol 2011; 28(7): 519-24.
6. 松岡伸悦, 新山幸俊, 浦濱 聡, 山蔭道明: 脊髄くも膜下麻酔施行後に異常疼痛を呈した後天性無痛症の麻酔経験. 臨床麻酔 2011; 35(6): 1020-2.
7. 山下 淳, 山内正憲, 山蔭道明: 帝王切開術後の硬膜外自家血注入における超音波画像の有用性. 麻酔 2011; 60(7): 870-2.
8. Masamune T, Yamauchi M, Wada K, Iwashita H, Okuyama K, Ino H, Yamakage M, Ishiyama T, Matsukawa T: The usefulness of an earphone-type infrared tympanic thermometer during cardiac surgery with cardiopulmonary bypass: clinical report. J Anesth 2011; 25(4): 576-9.
9. Watanabe A, Yamakage M: Intrathecal neurolytic block in a patient with refractory cancer pain. J Anesth 2011; 25(4): 603-5.
10. Yamauchi M, Suzuki D, Niiya T, Honma H, Tachibana N, Watanabe A, Fujimiya M, Yamakage M: Ultrasound-guided cervical nerve root block: spread of solution and clinical effect. Pain Med 2011; 12(8): 1190-5.
11. 吉田 司, 新谷知久, 山内正憲, 成松英智, 山蔭道明: 外傷性多発骨折に対する緊急手術の麻酔終了直後に発症した脂肪塞栓症候群の1例. 臨床麻酔 2011; 35(8): 1294-6.
12. 松岡伸悦, 小林 巖, 南波 仁, 四十物摩呼, 住田臣造, 山蔭道明: 腹部大動脈瘤破裂術後にEarly Goal-Directed Therapy (EGDT) を指標とした循環管理により救命し得た1症例. 臨床麻酔 2011; 35(9): 1430-2.
13. 澤田敦史, 宮下 龍, 枝長充隆, 山蔭道明: 総腸骨動脈バルーン遮断を用いた前置癒着胎盤合併帝王切開術の麻酔経験. 麻酔2011; 60(12):1401-4.
14. Iwasaki S, Zhou J, Ichinose H, Yamamoto S, Nakabayashi K, Yamakage M: A case of respiratory arrest and laryngeal edema resulting from glycyrrhizin-induced severe hypokalemic myopathy. Anesth Resus 2011; 47(3): 65-8.
15. Edanaga M, Azumaguchi R, Ohsuda M, Yamakage M: A suspected case of amniotic fluid embolism rescued by ABO-incompatible blood transfusion and operation for a massive obstetric hemorrhage. Anesth Resus 2011; 47(3): 73-5.
16. 岩本喜久子, 工藤悦子, 福田三奈子, 山蔭道明: 若年成人女性のノーマルグリーフから回復過程を振り返る: 本人主体の遺族支援. 緩和ケア2011; 21(5): 549-53.
17. 高崎真弓, 山本 健, 齊藤洋司, 山蔭道明, 栗原将人, 佐伯 茂, 河西 稔, 天野 勝, 水谷 光: 長時間作用性局所麻酔薬レボブピバカイン塩酸塩 (MR8A2) の伝達麻酔 (腕神経叢ブロック) における推奨用量の検討ー第Ⅱ相臨床試験ー. 麻酔と蘇生2011; 47(増刊号): 77-91.
18. 高崎真弓, 山本 健, 齊藤洋司, 山蔭道明, 河西 稔, 河井秀夫, 本多信雅: 長時間作用性局所麻酔薬レボブピバカイン塩酸塩 (MR8A2) 5.0 mg/mLの伝達麻酔 (腕神経叢ブロック) における臨床評価ー第Ⅲ相臨床試験ー. 麻酔と蘇生2011; 47(増刊号): 109-18.

1. 松岡伸悦, 井上 光, 岡崎加代子, 澤下泰明, 山蔭道明: スガマデクスによるアナフィラキシーショックが疑われた1症例. 臨床麻酔2012; 36(1): 95-6.
2. 大須田倫子, 枝長充隆, 御村光子, 中山禎人, 桐田亜紀則, 紅露伸司, 山谷和雄, 栗原将人, 山蔭道明: 術中頻脈性不整脈に対するランジオロール使用の現状—多施設アンケート調査—. 麻酔2012; 61(2): 159-63.
3. 枝長充隆, 御村光子, 東口 隆, 木村倫子, 山蔭道明: 超音波ガイド下橈骨動脈穿刺の有用性—脈拍触知法との比較検討—. 麻酔2012; 61(2): 221-4.
4. Tachibana N, Yamauchi M, Sugino S, Watanabe A, Yamakage M: Utility of longitudinal paramedian view of ultrasound imaging for middle thoracic epidural anesthesia in children. J Anesth 2012; 26(2): 242-5.
5. Sawada A, Kii N, Yoshikawa Y, Yamakage M: Epidrum?: a new device to identify the epidural space with an epidural Tuohy needle. J Anesth 2012; 26(2): 292-5.
6. 澤田敦史, 吉川裕介, 山内正憲, 渡邊昭彦, 山蔭道明: 1%ブドウ糖加酢酸リンゲル液は手術中の脂肪・タンパク異化を抑制する. 麻酔2012; 61(4): 358-63.
7. Sugino S, Ishioka Y, Tachibana S-S, Hayase T, Yamakage M: Clinical performance of a novel portable epocTM analyzer for arterial blood gas and electrolyte testing in operating rooms. Med Equipments Insights 2012; 4: 1-4.
8. 河村真衣子, 黒田浩光, 洪川圭介, 鎌田康宏, 山内正憲, 山蔭道明: 呼吸不全と敗血症ショックを呈した患者の体外膜型人工肺補助下での縦隔洗浄ドレナージの麻酔経験. 臨床麻酔2012; 36(4): 607-10.
9. Sugino S, Namiki A, Yamakage M: Genetic differences in response properties of rostral ventromedial medulla neurons to intracerebroventricular injection of a μ -opioid receptor agonist DAMGO in mouse inbred strains. Neurosci Letter 2012; 517: 107-12.
10. 澤下泰明, 井上 光, 岡崎加代子, 松岡伸悦, 山蔭道明: 特発性脊髄硬膜外血腫の1例. 臨床麻酔2012; 36(5): 739-42.
11. 茶木友浩, 時永泰行, 丸山大介, 高橋和伸, 山蔭道明: 観血的動脈圧ライン留置が困難であったsegmental arterial mediolysis患者の麻酔管理. 臨床麻酔2012; 36(5): 787-8.
12. 山内正憲, 新谷知久, 大沼 淳, 水口亜紀, 渡邊昭彦, 山蔭道明: 腰部硬膜外穿刺における各種画像検査による距離の予測. 日本ペインクリニック学会誌 2012; 19(2): 81-5.
13. 水上奈穂美, 新谷知久, 山内正憲, 橘 信子, 高橋三佳, 山蔭道明: 肩甲帯離断術後の幻肢痛・幻肢感覚に対してガバペンチンが奏功した3症例. 日本ペインクリニック学会誌2012; 19(2): 111-4.
14. 茶木友浩, 枝長充隆, 田辺美幸, 山蔭道明: 手術終了後に急性心筋梗塞を疑うも, 左脚ブロックと確定診断された1症例. 麻酔と蘇生2012; 48(2): 37-9.
15. 高橋科那子, 升田好樹, 今泉 均, 巽 博臣, 後藤京子, 君島知彦, 吉田真一郎, 喜屋武玲子, 安井 寛, 池田 博, 林 敏昭, 石田禎夫, 山蔭道明: 迅速かつ早期の治療開始により救命された悪性リンパ腫に対する化学療法後の重症敗血症の1例. 麻酔と蘇生2012; 48(2): 33-6.
16. 枝長充隆, 東口 隆, 大須田倫子, 御村光子, 山蔭道明: てんかん発作の既往をもつ若年患者に対する体外衝撃波結石破碎術の麻酔経験. 麻酔2012; 61(6): 617-20.
17. 川口亮一, 住田臣造, 小林 巖, 難波 仁, 四十物摩呼, 大塚尚実, 木村慶信, 山蔭道明: 経過中にST上昇を認めた毒性性ショック症候群の1症例. 日集中医誌2012; 19: 384-8.
18. 松岡伸悦, 井上 光, 岡崎加代子, 澤下泰明, 山蔭道明: 低用量(500mg/日)のメトホルミン内服により急性腎不全, 急産アシドーシスを発症し, 心停止に至った1症例. ICUとCCU 2012; 36(7): 527-31.
19. Kimura Y, Yamauchi M, Inoue H, Kimura S, Yamakage M, Aimoto M, Sumita S: Risk factors for gastric distension in patients with acute appendicitis: a retrospective cohort study. J Anesth 2012; 26(4): 574-8.
20. Edanaga M, Azumaguchi R, Yamakage M: Ultrasound-guided and radiographic monitoring-assisted peripheral inserted central venous catheterization. J Anesth 2012; 26(4): 623-4.

21. Narimatsu E, Niiya T, Takahashi K, Yamauchi M, Yamakage M : Pralidoxime time-dependency inhibits paraoxon-induced depression of neuromuscular blocking actions of rocuronium. *Am J Emerg Med* 2012; 30(6) : 901-7.
22. 宇野あゆみ, 新山幸俊, 橘 信子, 山内正憲, 渡辺昭彦, 山蔭道明 : 重度の拘束性呼吸障害を合併した脊髄性進行性筋萎縮症患者の麻酔経験. *麻酔*2012; 61(8) : 830-3.
23. Yamauchi M, Sasaki H, Yoshida T, Niiya T, Mizuno E, Narimatsu E, Yamakage M : Ultrasound-guided supraclavicular central venous catheterization in patients with malignant hematologic diseases. *J Anesth* 2012; 26(5) : 775-8.
24. 水上奈穂美, 山内正憲, 渡辺昭彦, 園塚恵子, 佐藤明美, 大森克哉, 中田英雄, 小池和彦, 山蔭道明 : 頭頸部がん治療に伴う重症粘膜炎の痛み治療の質についての検討. *Palliative Care Res* 2012; 7(2) : 408-14
25. Yamakage M, Bepperling F, Wargenau M, Miyao H : Pharmacokinetics and safety of 6 % hydroxyethyl starch 130/0.4 in healthy male volunteers of Japanese ethnicity after single infusion of 500 ml solution. *J Anesth* 2012; 26(6) : 851-7.
26. Hirata N, Miyashita R, Maruyama D, Kawaguchi R, Shimizu H, Yamakage M : Heart rate variability during abdominal surgical manipulation under general anesthesia. *J Anesth* 2012; 26(6) : 900-4.
27. 並木正伸, 山内正憲, 山蔭道明 : プレガバリン内服治療中のふらつきから小脳腫瘍が発見された1症例. *ペインクリニック* 2012; 19(4) : 88-9.
28. 澤田敦史, 枝長充隆, 宮下 龍, 山蔭道明 : 成人心臓外科手術におけるModified Ultrafiltrationの有用性. *循環制御* 2012; 33(3) : 199-203.

2013

1. 佐々木英昭, 山内正憲, 山蔭道明, 山本みえ子 : デコルテマッサージがアトピー・アレルギー性皮膚炎に与える影響. *臨床体温* 2013; 30(1) : 3-7.
2. 室内健志, 山内正憲, 魏 慧玲, 高田幸昌, 水口亜紀, 山蔭道明, 藤宮峯子 : 超音波ガイド下中腋窩線および肋骨弓下腹横筋膜面ブロック : Thiel遺体を用いた薬液の広がり. *麻酔* 2013; 62(1) : 60-3.
3. 長谷川宙希, 山岸昭夫, 遠山裕樹, 飛世史則, 一宮尚裕, 山蔭道明 : 人工心臓を使用した心臓手術における入室時AT-III測定の試み. *臨床麻酔* 2013; 37(1) : 33-5.
4. 鈴木麻里絵, 新山幸俊, 名和由布子, 山蔭道明 : Metatropic dysplasia患児の麻酔経験. *麻酔* 2013; 62(2) : 220-2.
5. 枝長充隆, 山内正憲, 山蔭道明 : 手術麻酔におけるX線透視下硬膜外カテーテル留置術. *麻酔* 2013; 62(4) : 488-94.
6. Takeda J, Namiki A, Ozaki M, Fukuda K, Morita K, Kanmura Y, Yamakage M, Komatsu T, Inada E, Kawate R, Kanazawa M, Sakamoto A, Uezono S, Sato S, Nishiwaki K, Miyamoto Y, Nakatsuka H, Yasuda N, Baxter BLM-240 Study Team : A prospective randomized multicenter comparative study of BLM-240 (desflurane) versus sevoflurane in Japanese patients. *J Anesth* 2013; 27(3) : 468-71.
7. 高田幸昌, 川岸俊也, 木井菜摘, 樋口美沙子, 山内正憲, 山蔭道明 : 胸部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術中にアデノシン三リン酸 (ATP) 誘発性気管支痙攣を生じた3症例. *麻酔* 2013; 62(4) : 402-5.
8. 澤下泰明, 時永泰行, 山蔭道明 : 薬剤性横紋筋融解症を合併した統合失調症患者に対しクロニウムトスガマデクスを用いて修正型電気痙攣療法を行った1症例. *臨床麻酔* 2013; 37(6) : 957-8.
9. Maruyama D, Hirata N, Miyashita R, Kawaguchi R, Yamakage M : Substrate-dependent modulation of oxidative phosphorylation in isolated mitochondria following in vitro hypoxia and reoxygenation injury. *Exp Clin Cardiol* 2013; 18(2) : 158-60.
10. 東口 隆, 枝長充隆, 御村光子, 山蔭道明 : 経胸壁・経食道心エコー所見が手術術式に有用であった冠動脈瘻の1症例. *麻酔* 2013; 62(3) : 318-21.
11. Yoshida S-I, Masuda Y, Imaizumi H, Kimijima T, Goto K, Kyan R, Tatsumi H, Yamakage M : Effects of storage temperature of the blood on erythrocyte metabolism and platelet function. *Anesth Resus* 2013; 49(2) : 53-5.

12. Moriya H, Saito K, Helsby N, Sugino S, Yamakage M, Takasaki M, Kato H, Kurosawa N : The association between heterozygosity for UGT1A1*6, UGT1A1*28, and variation in the serum total-bilirubin level in healthy young Japanese adults. *Genet Test Mol Biomarkers* 2013; 17(6) : 464-9.
13. 佐々木英昭, 久米田幸弘, 宇野あゆみ, 中林賢一, 山蔭道明 : 顎関節脱臼抑制に頸椎用牽引具を用いた1例. *ICUとCCU* 2013; 37(6) : 481-3.
14. 大須田倫子, 枝長充隆, 高田幸昌, 丸山大介, 御村光子, 山蔭道明 : Hetzer法による三尖弁形成術を施行した成人期エプスタイン奇形の麻酔経験. *麻酔* 2013; 62(5) : 600-3.
15. Masuda Y, Yoshida S-I, Imaizumi H, Yamakage M : Regional anesthesia for a pregnant patient with symptomatic hypothyroidism. *Anesth Resus* 2013; 49(3) : 81-3.
16. Morioka N, Ozaki M, Yamakage M, Morimatsu H, Suzuki Y, Bepperling F, Miyao H, Namiki A, Morita K : The volume effect and safety of 6% hydroxyethyl starch 130/0.4 in patients undergoing major elective surgery : an uncontrolled, open-labeled, multi-center study. *Open J Anesthesiol* 2013; 3 : 326-37.
17. 田辺美幸, 杉野繁一, 宮下 龍, 君島知彦, 成松英智, 山蔭道明 : 非侵襲的全ヘモグロビン濃度測定が有効であった脳死下臓器提供の1症例. *麻酔* 2013; 62(6) : 699-701.
- 18.
19. Narimatsu E, Niiya T, Takada Y, Takahashi K, Yamauchi M, Yamakage M : Blockers of adenosine A1, but not muscarinic acetylcholine, receptors improve excessive extracellular glutamate-induced synaptic depression. *Neurosci Res* 2013; 75(2) : 103-11.
20. Edanaga M, Hayashi H, Yamakage M : Usefulness of Flotrac/VigileoTM combined with transesophageal echocardiography under abdominal hysterectomy for a patient complicated with moyamoya disease and hypertrophic cardiomyopathy. *Anesth Resus* 2013; 49(4) : 101-3.
21. Nishikawa K, Ito T, Tsuchiya S, Shimodate Y, Yamakage M : Acute liver injury developed during the clinical course of non-exertional heart stroke following a hot spring bath. *J Jpn Soc Intensive Care Med* 2013; 20(3) : 415-6.
22. 救仁郷達也, 西川幸喜, 戸ノ崎拓哉, 土屋滋雄, 下館勇樹, 山蔭道明 : エアトラック単独およびエアトラックと気管支ファイバーの併用による気管挿管の比較—挿管人形および臨床使用における検討. *市立室蘭総合病院医誌* 2013; 38(1) : 30-2.
23. 鈴木那央, 新山幸俊, 時永泰行, 山蔭道明 : 頭頸部アスファルト熱傷患者の麻酔経験. *麻酔* 2013; 62(10) : 1250-2.

2014

1. 小泉智弥, 平田直之, 丸山大介, 山蔭道明 : 炭酸水素ナトリウム腹腔内洗浄中に重篤な代謝性アルカローシスを呈した腹膜偽粘液腫の1症例. *臨床麻酔* 2014; 38(1) : 31-4.
2. Wada T, Yamauchi M, Oki G, Sonoda T, Yamakage M, Yamashita T : Efficacy of brachial plexus nerve block in elbow arthroscopic surgery : a randomized trial. *J Shoulder Elbow Surg* 2014; 23(3) : 291-6.
3. 杉目史行, 山内正憲, 新谷知久, 岩崎創史, 山蔭道明 : MMPIが介入方針の補助となった対照的な慢性痛の2症例. *日本ペインクリニック学会誌* 2014; 21(1) : 40-4.
4. 澤下泰明, 時永泰行, 山蔭道明 : スガマデクスの残存が疑われた慢性腎不全症例. *臨床麻酔* 2014; 38(1) : 83-4.
5. Moriya H, Saito K, Helsby N, Hayashi N, Sugino S, Yamakage M, Sawaguchi T, Takasaki M, Takahashi M, Kurosawa N : Single nucleotide polymorphisms and copy number variations at the FCGR2A and FCGR3A genes in healthy Japanese subjects. *Biomed Rep* 2014; 2(2) : 265-9.
6. Masuda Y, Tatsumi H, Imaizumi H, Gotoh K, Yoshida S-I, Chihara S, Takahashi K, Yamakage M : Effect of prone positioning on cannula function and impaired oxygenation during extracorporeal circulation. *J Artif Organs* 2014; 17(1) : 106-9.
7. Moriya H, Saito K, Helsby N, Sugino S, Yamakage M, Sawaguchi T, Takasaki M, Kato H, Kurosawa N : Association between the low-dose irinotecan regimen-induced occurrence of grade 4 neutropenia and genetic variants of UGT1A1 in patients with gynecologic cancers. *Oncol Lett* 2014; 7(6) : 2035-40.

8. 室内健志, 田中清高, 菊池智春, 佐藤 紀, 岩崎創史, 山蔭道明: 術中のフェンタニル使用は術後の初回食事摂取量を減少させる. 臨床麻酔 2014; 38(4): 605-8.
9. Miyashita R, Hirata N, Sugino S, Mimura M, Yamakage M: Improved noninvasive total hemoglobin measurements after in vivo adjustment program. Anaesthesia 2014; 69(7): 752-6. (第26回日本臨床モニター学会総会秋記念賞受賞)
10. Kii N, Yamauchi M, Takahashi K, Yamakage M, Wada T: Differential axillary nerve block for hand or forearm soft-tissue surgery. J Anesth 2014; 28(4): 549-53.
11. Masuda Y, Tatsumi H, Goto K, Imaizumi H, Yoshida S-I, Kimijima T, Yamakage M: Treatment of life-threatening hypercapnea with inhalation anesthetics in an infant with status asthmatics. J Anesth 2014; 28(4): 610-2.
12. Mizukami N, Yamauchi M, Koike K, Watanabe A, Ichihara K, Masumori N, Yamakage M: Olanzapine for the prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients receiving highly or moderately emetogenic chemotherapy: a randomized, double-blinded, placebo-controlled study. J Pain Symptom Manag 2014; 47(3): 542-50.
13. Yoshikawa Y, Kamikubo Y, Sonoda H, Yamakage M: Unexpectedly resolved multiple mobile thrombi in a normal thoracic aorta associated with colorectal cancer and protein C deficiency. J Cardiothorac Vasc Anesth 2014; 28(3): 714-7.
14. 高橋科那子, 升田好樹, 巽 博臣, 後藤京子, 今泉 均, 山蔭道明: 長期間の気管挿管後に生じた気道狭窄の小児例. 臨床麻酔 2014; 38(7): 1-77-8.
15. Zhou J, Iwasaki S, Yamakage M: Phosphodiesterase 4 inhibitor roflumilast improves the bronchodilative effect of sevoflurane in sensitized airways. Anesthesiology 2014; 120(5): 1152-9.
16. Sawada A, Niiyama Y, Ataka K, Nagaishi K, Yamakage M, Fujimiya M: Suppression of bone marrow-derived microglia in the amygdala improves the anxiety-like behavior induced by chronic partial sciatic nerve ligation in mice. Pain 2014; 155(9): 1762-72.
17. Tachibana N, Niiyama Y, Yamakage M: Evaluation of bias for predicted and measured concentrations of propofol during target-controlled infusion in obese Japanese patients: open-label, non-comparative study. Eur J Anaesthesiol 2014; 31(12): 701-7.
18. Gi E, Yamauchi M, Yamakage M, Kikuchi C, Shimizu H, Okada Y, Kawamura S, Suzuki T: Effects of local infiltration analgesia for posterior knee pain after total knee arthroplasty: comparison with sciatic nerve block. J Anesth 2014; 28(5): 696-701.
19. 武田純三, 岩崎 寛, 山蔭道明, 尾崎 眞, 川真田美和子, 畑埜義雄, 萬屋敏博, 宮川博司, 上村裕一: スガマデクスナトリウム (MK-8616, Org 25969) の筋弛緩拮抗作用-浅い筋弛緩状態からの回復-. 麻酔 2014; 63(10): 1075-82.
20. 救仁郷達也, 時永泰行, 山蔭道明: イヌサフラン誤食によるコルヒチン中毒患者の麻酔管理. 臨床麻酔 2014; 38(10): 1413-6.
21. 高橋科那子, 升田好樹, 巽 博臣, 数馬 聡, 後藤京子, 山田奨人, 島田朋和, 中野皓太, 千原伸也, 今泉 均, 山蔭道明: カテコラミン不応性の敗血症性ショックに対してPMX-DHPが著効したミクリッツ病の1例. エンドトキシ血症救命治療研究会誌 2014; 18(1): 191-6.
22. 戸ノ崎拓哉, 西川幸喜, 土屋滋雄, 下館勇樹, 山蔭道明: 小児鼻腔異物に対する麻酔導入法の検討. 麻酔 2014; 63(11): 1254-6.
23. 赤塚正幸, 新山幸俊, 早瀬 知, 山蔭道明: 輸血拒否患者の再開心術に対する麻酔経験. 臨床麻酔 2014; 38(12): 1741-3.
24. 千原伸也, 今泉 均, 升田好樹, 山田奨人, 中野皓太, 橋本修一, 橋本佳苗, 室橋高男, 後藤京子, 巽 博臣, 山蔭道明: 敗血症性ショックに対する大量置換CHDFの新しい離脱方法の検討. 日本急性血液浄化学会雑誌 2014; 5(2): 127-32.
25. Samala KB, Uchiyama Y, Tokinaga Y, Niiyama Y, Iwasaki S, Yamakage M: Endotracheal intubation through 1 gel? for emergency Cesarean section with multidrug hypersensitivity. a new technique. Case Rep Anesthesiol 2014; 2014:245752. doi: 10.1155/2014/245752.

2015

1. 本間舞子, 岩崎創史, 杉野繁一, 室内健志, 山蔭道明: レミフェンタニルと糖添加輸液により管理したコントロール不良糖尿病合併小児開頭術の1症例. 麻酔 2015; 64(1): 87-91.

2. 数馬 聡, 升田好樹, 今泉 均, 巽 博臣, 後藤京子, 高橋科那子, 今井富裕, 山蔭道明: 神経伝達検査により診断した術後横隔神経麻痺の2症例. 日集中医誌 2015; 22(1): 49-50.
3. 巽 博臣, 升田好樹, 今泉 均, 後藤京子, 高橋科那子, 数馬 聡, 山蔭道明: 経管投与可能な粘度調整流動食アキュアVF-EのICUにおける使用経験. 日集中医誌 2015; 22(1): 59-60.
4. Kimura Y, Kimura S, Sumita S, Yamakage M: Predictors of hypofibrinogenemia in blunt trauma patients on admission. J Anesth 2015; 29(2): 242-8.
5. 宇野あゆみ, 田中 悟, 菅野麻琴, 石岡慶己, 渡辺政徳, 山蔭道明: 超音波診断装置による内頸静脈と椎骨動脈の解剖学的位置関係の検討. 麻酔 2015; 64(4): 383-7.
6. 菅野麻琴, 枝長充隆, 水上奈穂美, 時永泰行, 新山幸俊, 山蔭道明: ヘパリン起因性血小板減少症患者に対し, ヘパリン使用で安全に管理できた開心術の1症例. 麻酔 2015; 64(4): 449-52.
7. 立花俊祐, 平田直之, 酒井 渉, 山蔭道明: 機器製品紹介「深部温測定装置SpotOnTM (スポットオン) の有用性」. 臨床麻酔 2015; 39(6): 917-20.
8. Tachibana N, Niiyama Y, Yamakage M: Incidence of cannot intubate-cannot ventilate (CICV): results of a 3-year retrospective multicenter clinical study in a network of university hospitals. J Anesth 2015; 29(3): 326-30. (This paper was picked up by the Editorials; Liu EH & Asai T: Cannot intubate cannot ventilate? focus on the 'ventilate'. J Anesth 2015; 29(3): 323-5.)
9. Takahashi S, Ichihara K, Hashimoto K, Hiyama Y, Muranaka T, Hashimoto J, Fukuta F, Kobayashi K, Niiyama Y, Yamakage M, Masumori N: Serum antimicrobial concentrations for surgical antimicrobial prophylaxis in radical nephrectomy and radical prostatectomy. J Infec Chemother 2015; 21(6): 464-7.
10. 池島まりこ, 枝長充隆, 室内健志, 山蔭道明: ロ唇裂手術後にデクスメドミジンで鎮静したピエール・ロバン症候群の1症例. 臨床麻酔 2015; 39(4): 645-6.
11. 高橋科那子, 升田好樹, 巽 博臣, 数馬 聡, 後藤京子, 山田奨人, 島田朋和, 中野皓太, 千原伸也, 今泉 均, 山蔭道明: カテコラミン不応性の敗血症性ショックに対してPMX-DHPが著効したミクリッツ病の1例. エンドトキシ血症救命治療研究会誌 2015; 18(1): 191-6.
12. 茶木友浩, 枝長充隆, 川口亮一, 山蔭道明: 経食道心エコーにより同定し得た巨大冠動脈瘤を伴う先天性冠動脈右室瘻閉鎖術の麻酔経験. 臨床麻酔 2015; 39(4): 609-12.
13. Maruyama D, Chaki T, Omote M, Hirata N, Yamauchi M, Yamakage M: Movements of the double-lumen endotracheal tube due to lateral position with head rotation and tube fixation: a Thiel-embalmed cadaver study. Surg Radiol Anat 2015; 37(7): 841-4.
14. Murouchi T, Iwasaki S, Yamakage M: Chronological changes in ropivacaine and analgesic effects between transversus abdominis plane block and rectus sheath block. Reg Anesth Pain Med 2015; 40(5): 568-71.
15. Tachibana S, Hayase T, Osuda M, Kazuma S, Yamakage M: Recovery of postoperative cognitive function in elderly patients after a long duration of desflurane anesthesia: a pilot study. J Anesth 2015; 29(4): 627-30.
16. Hayase T, Sugino S, Moriya H, Yamakage M: TACRI gene polymorphism is associated with gender differences in postoperative nausea and vomiting. Anaesthesia 2015; 70(10): 1148-59.
17. 児玉 萌, 高田幸昌, 時永泰行, 新谷知久, 山蔭道明: 多発性血管腫により緊急外科的気道確保を要した1症例. 臨床麻酔 2015; 39(10): 1399-1401.
18. 君島知彦, 升田好樹, 今泉 均, 巽 博臣, 後藤京子, 喜屋武玲子, 山蔭道明: 妊娠経過中に発症した劇症1型糖尿病の1例. 日集中医誌 2015; 22(4): 273-4.
19. 玉城敬史, 枝長充隆, 佐藤通子, 岸 真衣, 名和由布子, 山蔭道明: 出生直後より呼吸困難をきたした新生児の舌根部・喉頭蓋嚢胞に対する麻酔経験. 日本小児麻酔学会誌 2015; 21(1): 217-9.
20. 数馬 聡, 升田好樹, 小林 巖, 望月宏樹, 木村慶信, 今泉 均, 住田臣造, 山蔭道明: プロカルシトニン異常高値を示した劇症型レジオネラ肺炎の一救命例. 日集中医誌 2015; 22(6): 549-50. (Editorialで引用)
21. 若杉佳子, 新山幸俊, 北 飛鳥, 其田 一, 山蔭道明: McGRATH™はマッキントッシュ型喉頭鏡を用いた気管挿管手技の習得に有用である. 麻酔 2015; 64(10): 1091-6.

1. Chaki T, Sugino S, Janicki PK, Ishioka Y, Hatakeyama Y, Hayase T, Kaneuchi-Yamashita M, Kohri N, Yamakage M : Efficacy and safety of a lidocaine and ropivacaine mixture for scalp nerve block in patients undergoing awake craniotomy. *J Neurosurg Anesthesiol* 2016; 28(1) : 1-5.
2. Koike K, Terui T, Nagasako T, Horiuchi I, Machino T, Kusakabe T, Hirayama Y, Mihara H, Yamakage M, Kato J, Nishisato T, Ishitani K : A new once-a-day fentanyl citrate patch (Fentos? Tape) could be a new treatment option in patients with end-of-dose failure using a 72-h transdermal fentanyl matrix patch. *Support Care Cancer* 2016; 24(3) : 1053-9.
3. Maruyama D, Hirata N, Tokinaga Y, Kawaguchi R, Yamakage M : Nitrite attenuates ischemia-induced ventricular arrhythmias by protecting against connexin 43 dephosphorylation in rats. *Anesth Analg* 2016; 122(2) : 410-7.
4. Takahashi K, Niiya T, Takada Y, Narimatsu E, Yamakage M : Severity of myasthenia gravis influences the relationship between TOF ratio and twitch tension, and run-down of rat endplate potentials. *Anesthesiology* 2016; 124(2) : 369-77.
5. Namba Y, Yamakage M, Tanaka Y : Satisfactory spinal anesthesia with a total of 1.5 mg of bupivacaine for transurethral resection of bladder tumor in an elderly patient. *JA Clin Rep* 2016; 2 : 4.
6. 君島知彦, 升田好樹, 今泉 均, 巽 博臣, 後藤京子, 喜屋武玲子, 吉田真一郎, 名和由布子, 山 直也, 山蔭道明 : 経皮的気管切開術施行時の腕頭動脈異常走行例の経験. *日集中医誌* 2016; 23(2) : 179-80.
7. 橋詰勇祐, 立花俊祐, 高田幸昌, 枝長充隆, 山蔭道明 : 気管チューブ挿入に難渋したクリップル・フェール症候群の1症例. *麻酔* 2016; 65(4) : 373-6.
8. 君塚基修, 時永泰行, 数馬 聡, 早瀬 知, 水口亜紀, 山蔭道明 : 気道確保にMcGRATH-MAC?が有用であったBlue rubber bleb nevus syndromeの1症例. *臨床麻酔* 2016; 40(1) : 41-3.
9. Murouchi T, Iwasaki S, Yamakage M : Quadratus lumborum block : analgesic effects and chronological ropivacaine concentrations after laparoscopic surgery. *Reg Anesth Pain Med* 2016; 41(2) : 146-50.
10. Koike K, Terui T, Takahashi Y, Hirayama Y, Mizukami N, Yamakage M, Kato J, Ishitani K : Effectiveness of multidisciplinary team conference on decision-making surrounding the application of continuous deep sedation for terminally ill cancer patients. *Palliat Support Care* 2015; 13(2) : 157-64.
11. 大野 翔, 新山幸俊, 室内健志, 山蔭道明 : 重症肺高血圧症を合併した非心臓手術麻酔管理の経験. *麻酔* 2016; 65(5) : 526-9.
12. Kimijima T, Edanaga M, Yamakage M : Comparison of fluid leakage across endotracheal tube cuffs using a three-dimensional printed model of the human trachea. *J Anesth* 2016; 30(3) : 510-3.
13. Hayase T, Tachibana S, Yamakage M : Effect of sevoflurane anesthesia on the comprehensive mRNA expression profile of the mice. *Med Gas Res* 2016; 6(2) : 70-6.
14. 澤田敦史, 新山幸俊, 山蔭道明 : 経直腸的前立腺生検における超音波ガイド下仙骨硬膜外麻酔の有用性—脊髄くも膜下麻酔との比較—. *麻酔* 2016; 65(5) : 511-5.
15. 名和由布子, 升田好樹, 巽 博臣, 杉山由紀, 後藤京子, 要藤裕孝, 今泉 均, 山蔭道明 : 急激に発症した代謝性アシドーシスに対し持続血液浄化療法施行直後から改善がみられた1小児例. *日集中医誌* 2016; 23(3) : 345-6.
16. 汲田 翔, 立花俊祐, 早瀬 知, 新谷知久, 山蔭道明 : シバリングを契機に発症したと考えられる術後悪性高熱症の1例. *臨床麻酔* 2016; 40(4) : 583-6.
17. 高橋科那子, 升田好樹, 巽 博臣, 吉田真一郎, 数馬 聡, 後藤京子, 今泉 均, 山蔭道明 : ICUにおける治療抵抗性体液過剰症例に対するトルパプタンの有効性に関する検討. *ICUとCCU* 2016; 40(3) : 231-6.
18. 太刀川公人, 桧山佳樹, 市原浩司, 高橋 聡, 関根利佳, 山蔭道明, 舛森直哉 : 間質性膀胱炎に対する両側仙骨神経根ブロックが著効した1例. *泌尿器外科* 2016; 29(2) : 173-6.
19. Kozuka Y, Kawamata M, Furue H, Ishida T, Tanaka S, Namiki A, Yamakage M : Changes in synaptic transmission of substantia gelatinosa neurons after spinal cord hemisection revealed by analysis using in vivo patch-clamp recording. *Mel Pain* 2016; 12(8) : 1-14.

20. Kazuma S, Masuda Y, Tatsumi H, Takahashi K, Yoshida S, Honma M, Imaizumi H, Yamakage M : Almost total airway obstruction due to unidentified massive hemoptosis under extracorporeal membrane oxygenation. *Int J Crit Care Emerg Med* 2016; 2(1) : 021(1-3).
21. Ohtaki S, Akiyama Y, Kannno A, Noshiro S, Hayase T, Yamakage M, Mikuni N : The influence of anesthetic depth on motor evoked potential response during awake craniotomy. *J Neurosurg* 2016; 4(3) : 1-6.
22. Sawada A, Kamada Y, Hayashi H, Ichinose H, Sumita S, Yamakage M : Effect of intraoperative glucose infusion during remifentanyl anesthesia on catabolism of adipose tissue and muscle protein in patients undergoing major surgery : a randomized controlled multicenter trial. *Anesth Analg* 2016; 123(4) : 869-76.
23. Namba Y, Yamakage M : Duodenal ulcer accompanied by intractable right chest pain (T6/T7 dermatomal segments). *JA Clin Rep* 2016; 2 : 12.
24. Edanaga M, Hoshi T, Azumaguchi R, Yamakage M : A case of hemothorax due to traumatic bleeding managed effectively by Sonoclot?-guided blood transfusion. *JA Clin Rep* 2016; 2 : 16.
25. Niiyama Y, Yotsuyanagi T, Yamakage M : Continuous wound infiltration with 0.2% ropivacaine versus a single intercostal nerve block with 0.75% ropivacaine for postoperative pain management after reconstructive surgery for microtia. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 2016; 69(10) : 1445-9.
26. Hayase T, Tachibana S, Yamakage M : Effect of sevoflurane anesthesia on the comprehensive mRNA expression profile of the mouse hippocampus. *Med Gas Res* 2016; 6(2) : 70-6.
27. 君塚基修, 時永泰行, 浦濱 聡, 橘 信子, 宮本奈穂子, 山澤 弦, 山蔭道明 : Kniest dysplasiaを合併した帝王切開術の1症例. 分娩と麻酔 2016; 98(11) : 157-9.
28. Murouchi T, Yamakage M : Retrolaminar block : analgesic efficacy and safety evaluation. *J Anesth* 2016; 30(6) : 1003-7.
29. Watanabe A, Edanaga M, Ichinose H, Yamakage M : Comparison of the clinical performance of Air-Q? and i-gel? for airway management under general anesthesia with muscle relaxant. *J Clin Anesth* 2016; 34(11) : 223-6.
30. 千原伸也, 升田好樹, 巽 博臣, 小川輝之, 島田朋和, 山口真依, 中村勇輝, 室橋高男, 山蔭道明 : 急性血液浄化療法における血液浄化量の意義—高浄化量CHF/CHDFの可能性. 日本血液浄化技術学会会誌 2016; 24(2) : 278-81.

2017

1. Chaki T, Nawa Y, Tmashiro K, Mizuno E, Hirata N, Yamakage M : Remifentanyl prevents increases of blood glucose and lactate levels during cardiopulmonary bypass in pediatric surgery. *Ann Cardiac Anaesth* 2017; 20(1) : 33-7.
2. Nishikawa K, Yamakage M : Effects of the concurrent use of a reduced dose of Propofol with divided supplemental remifentanyl and moderate hyperventilation on duration and morphology of electroconvulsive therapy-induced electroencephalographic seizure activity : A randomized controlled trial. *J Clin Anesth* 2017; 37(2) : 63-6.
3. Zhou J, Iwasaki S, Yamakage M : Time- and dose-dependent effects of desflurane in sensitized airways. *Anesth Analg* 2017; 124(2) : 465-71.
4. Chihara S, Masuda Y, Yamakage M : Experimental and clinical evaluation of pre-dilution and post-dilution continuous veno-venous hemofiltration on clearance characteristics. *ASAIO J* 2017; 63(2) : 229-34.
5. 松岡伸悦, 古瀬晋吾, 大森 恵, 林 里沙, 山蔭道明 : 微小血管減圧術におけるABRモニタリング中の警告音の検討. 臨床麻酔 2017; 41(2) : 161-3.
6. Chihara S, Masuda Y, Tatsumi H, Nakano K, Shimada T, Murohashi T, Yamakage M : Early induction of direct hemoperfusion with a polymyxin-B immobilized column is associated with amelioration of hemodynamic derangement and mortality in patients with septic shock. *J Artif Organs* 2017; 20(1) : 71-5.
7. Sasaki H, Yamauchi M, Ninomiya T, Tatsumi H, Yamakage M : Possible utility of contrast-enhanced ultrasonography for detecting spread of local anesthetic in nerve block. *J Anesth* 2017 31(3) : 365-73.

8. Tachibana N, Niiyama Y, Yamakage M : Less postoperative sore throat after nasotracheal intubation using a fiberoptic bronchoscope than using a Macintosh laryngoscope : A double-blind, randomized, controlled study. *J Clin Anesth* 2017; 39(6) : 113-7.
9. 菊池謙一郎, 数馬 聡, 時永泰行, 室内健志, 山蔭道明 : ECMOによる呼吸補助とLiDCO rapid?モニタリング下で行った肺胞蛋白症に対する肺洗浄の麻酔経験. *臨床麻酔* 2017; 41(5) : 772-3.
10. Kunigo T, Murouchi T, Yamamoto S, Yamakage M : Injection volume and anesthetic effect in serratus plane block. *Reg Anesth Acute Pain* 2017; 42(6) : 737-40.
11. 石岡慶己, 関根利佳, 高田幸昌, 山蔭道明 : 複発性帯状疱疹に対して発症早期からの神経ブロックが著効した1症例. *日本ペインクリニック学会誌* 2017; 24(2) : 130-3.
12. 児玉 萌, 本間舞子, 渋川圭介, 鎌田康宏, 柳谷晶仁, 山蔭道明 : 右房内に進展した静脈内平滑筋腫症患者の麻酔経験. *麻酔* 2017; 66(5) : 542-5.
13. Akatsuka M, Murouchi T, Arakawa J, Yamakage M : Ultrasound-guided para-umbilical block : a pediatric case. *JA Clin Rep* 2017; 3(1) : 33.
14. Yoshioka K, Omori K, Iwasaki S, Takahashi K, Sato A, Nakata H, Miyamoto A, Yamakage M : A case of warfarinized renal cancer patient whose prothrombin time-international normalized ratio was measured during methadone introduction. *JA Clin Rep* 2017; 3 : 35.
15. Takada Y, Narimatsu E, Takahashi K, Niiya T, Yamakage M : Elevation and suppression of paraoxon-induced epileptic activity in the rat hippocampus. *Sapporo Med J* 2017; 85(Suppl.) : 121-32.
16. Miyashita R, Hirata N, Kawaguchi R, Yoshikawa Y, Yamakage M : Different effects of colloid and crystalloid solutions for fluid resuscitation on hemodynamics and peripheral organ functions in acute hemorrhagic shock rats. *Sapporo Med J* 2017; 85(Suppl.) : 133-45.
17. Kawaguchi R, Hirata N, Tokinaga Y, Hayashi S, Inoue S, Watanabe N, Yamakage M : Nitrite administration improves sepsis-induced myocardial and mitochondrial dysfunction by modulating stress signal responses. *J Anesth* 2017; 31(6) : 885-94.
18. Sakai W, Yoshikawa Y, Hirata N, Yamakage M : Effect of remifentanyl during cardiopulmonary bypass on incidence of acute kidney injury after cardiac surgery. *J Anesth* 2017; 31(6) : 895-902.
19. Takahashi K, Sawada A, Iwasaki S, Yama N, Takashima H, Onodera M, Hatakenaka M, Yamakage M : Three cases implantation of a SureScan? system and MRI for investigating causes of pain. *J Anesth* 2017; 31(6) : 915-7.
20. 巽 博臣, 升田好樹, 高橋科那子, 本間舞子, 数馬 聡, 片山洋一, 吉田真一郎, 山蔭道明 : 肺胞出血による呼吸不全, 急性腎障害を合併した重症型顕微鏡的多発血管炎 (MPA) の1救命例. *人工呼吸* 2017; 34(2) : 191-7.
21. Hayase T, Tachibana S, Yamakage M : Determination of the effects of sevoflurane anesthesia in different maturing stages of the mouse hippocampus by transcriptome analysis. *J Anesth Clin Res* 2017; 8 : 5.
22. Tachibana S, Igarashi Y, Yamakage M : Usefulness of an infrared earphone-type thermometer for pediatric patients during general anesthesia : a pilot study. *J Anesth Surg* 2017; 4(2) : 150-3.

2018

1. Kazuma S, Tokinaga Y, Takada Y, Azumaguchi R, Kimizuka M, Hayashi S, Yamakage M : Desflurane inhibits endothelium-dependent vasodilation more than sevoflurane with inhibition of endothelial nitric oxide synthase by different mechanisms. *Biochem Biophys Res Commun* 2018; 495(1) : 217-22.
2. Yoshitani K, Masui K, Kawaguchi M, Kawamata M, Makinohana M, Kato S, Hasuwa K, Yamakage M, Yoshikawa Y, Nishikawa K, Aoyama T, Inagaki Y, Yamasaki K, Matsumoto M, Ishida K, Yamashita A, Seo K, Kakumoto M, Hayashi H, Tanaka Y, Tanaka S, Ishida T, Uchino H, Kakinuma T, Yamada Y, Mori Y, Izumi S, Nishimura K, Nakai M, Ohnishi Y : Clinical utility of intraoperative motor-evoked potential monitoring to prevent postoperative spinal cord injury in thoracic and thoracoabdominal aneurysm repair : protection in aortic surgery database. *Anesth Analg* 2018; 126(3) : 763-8. (This manuscript was picked up by the editorial; Chung J, Ouzounia M, Lindsay T : Motor evoked potential monitoring during thoracoabdominal aortic surgery : useful or not? *Anesth Analg* 2018; 126(3) : 741-2.)

3. Yoshikawa Y, Hirata N, Kawaguchi R, Tokinaga Y, Yamakage M : Dexmedetomidine maintains its direct cardioprotective effect against ischemia/reperfusion injury in hypertensive hypertrophied myocardium. *Anesth Analg* 2018; 126(2) : 443-52.
4. Kunigo T, Murouchi T, Yamamoto S, Yamakage M : Spread of injectate in ultrasound-guided serratus plane block : a cadaveric study. *J Anesth Clin Rep* 2018; 4(1) : 10. doi : 10.1007/s00540-018-2487-7.
5. 佐藤智恵, 数馬 聡, 田中俊光, 辻口直紀, 土屋滋雄, 山蔭道明 : SvO₂の異常高値によって肺動脈カテーテルの過挿入が判明した緊急冠動脈バイパス手術の1症例. *臨床麻酔* 2018; 42(5) : 758-60.
6. Sakai W, Hirata N, Yamakage M : Angiotensin II receptor blocker versus angiotensin-converting enzyme inhibitor for postoperative acute kidney injury after cardiac surgery. *J Anesth Clin Res* 2018; 9 : 5. doi : 10.4172/2155-6148.1000820
7. Kimijima T, Edanaga M, Yamakage M : Superior sealing effect of a three-dimensional printed modified supraglottic airway compared with the i-gel in a three-dimensional printed airway model. *J Anesth* 2018; 32(5) : 655-62.
8. 大槻郁人, 久米田幸弘, 山蔭道明 : 喫煙が周術期に与える影響の認知度調査. *日臨麻会誌* 2018; 38(5) : 611-4.
9. 大槻郁人, 升田好樹, 赤塚正幸, 深田稷治, 中林賢一, 久米田幸弘, 山蔭道明 : 早期の縦隔血腫除去により解除できたBentall術後縦隔血腫による気道狭窄の一例. *日集中医誌* 2018; 25(5) : 393-4.
10. 新田麻子, 荒川稷二, 山蔭道明, 清水恵子 : 縦隔気腫および急性食道粘膜病変を呈した急性カフェイン中毒の1例. *日本救急医学会雑誌* 2018; 29(7) : 196-201.
11. 戸ノ崎志乃, 卯月みつる, 河内正治, 山蔭道明 : 全身麻酔を必要とした気道義歯異物摘出術の麻酔経験. *麻酔* 2018; 67(8) : 825-8.
12. Matsumoto T, Chaki T, Hirata N, Yamakage M : The eutectic mixture local anesthetics (EMLA) cream is more effective on venipuncture pain compared with lidocaine tape in the same patients. *J Anesth Clin Rep* 2018; 4 : 73.
13. 松岡伸悦, 高桑一登, 河村真衣子, 野呂秀策, 古瀬晋吾, 山蔭道明 : 微小血管減圧術におけるPONVと当院における対策. *臨床麻酔* 2018; 42(8) : 1111-5.
14. Yoshitani K, Masui K, Kawaguchi M, Kawamata M, Kakinohana M, Kato S, Hasuwa K, Yamakage M, Yoshikawa Y, Nishiwaki S, Aoyama T, Inagaki Y, Yamazaki K, Matsumoto M, Ishida K, Yamashita A, Seo K, Kakumoto S, Hayashi H, Tanaka Y, Tanaka S, Ishida T, Uchino H, Kakinuma T, Yamada Y, Mori Y, Izumi S, Nishimura K, Nakai M, Ohnishi Y : Clinical utility of intraoperative motor-evoked potential monitoring to prevent postoperative spinal cord injury in thoracic aneurysm repair : An audit of the Japanese association of spinal cord protection in aortic surgery database. *Anesth Analg* 2018; 126 : 763-8.
15. 松本友美, 橋本優希, 戸ノ崎志乃, 卯月みつる, 河内正治, 山蔭道明 : 新しい消毒薬（オラネキシジングルコン酸塩）は手術部位感染の発生を減少させるか. *麻酔* 2018; 67(10) : 1093-6.
16. 横山竜也, 新山幸俊, 吉川裕介, 高田幸昌, 山蔭道明 : 経皮的心肺補助下に緊急気管切開術を施行した甲状腺腫瘍の1症例. *麻酔* 2018; 67(11) : 1213-5.
17. 数馬 聡, 時永泰行, 君塚基修, 東口 隆, 濱田耕介, 山蔭道明 : セボフルランは酸化ストレスによる血管内皮依存性弛緩反応およびグリコカリックスの障害を回復させる. *体液・代謝管理* 2018; 34(1) : 11-7.
18. 東口 隆, 時永泰行, 君塚基修, 数馬 聡, 濱田耕介, 山蔭道明 : Hydroxyethyl starch製剤による血液凝固障害のin vivoの検討. *体液・代謝管理* 2018; 34(1) : 18-22.
19. Yoshikawa Y, Takahashi K, Edanaga M, Hirata N, Yamakage M : Dexmedetomidine does not affect platelet function measured with TEG 6S and platelet mapping assay in whole blood. *J Cardiothorac Vasc Anesth* 2018; 32(6) : e9-e11.
20. Kosakai M, Sawada A, Kii N, Tokinaga Y, Hirata N, Yamakage M : Epidural anesthesia combined with sedation with dexmedetomidine for appendectomy in a patient with amyotrophic lateral sclerosis : a case report. *JA Clin Rep* 2018; 4 : 82.

2019

1. Chihara S, Masuda Y, Tatsumi H, Yamakage M : Evaluation of pre- and post-dilution continuous veno-venous hemofiltration on leukocyte and platelet function in patients with sepsis. *Int J Artif Organs* 2019; 42(1) : 9-16.

2. Yoshikawa Y, Hirata N, Nawa Y, Yamakage M : Chronological change in oropharyngeal leak pressure of pediatric i-gel™. *Paediatr Anaesth* 2019; 29(1) : 107-8.
3. Suzuki Y, Enatsu R, Kanno A, Yokoyama R, Suzuki H, Tachibana S, Akiyama Y, Mikami T, Ochi S, Yamakage M, Mikuni N : The influence of anesthesia on cortico-cortical evoked potential monitoring network between frontal and temporo-parietal cortices. *World Neurosurg* 2019; 123(3) : e685-92.
4. Honma H, Niiyama Y, Sonoda H, Himuro N, Yamakage M : The impact of air transport for acute coronary syndrome patients. *Air Med J* 2019; 38(2) : 73-7.
5. Hattori K, Yoshitani K, Kato S, Kawaguchi M, Kawamata M, Kakinohana M, Yamada Y, Yamakage M, Nishiwaki K, Izumi S, Yoshikawa Y, Mori Y, Hasegawa K, Onishi Y : Association between motor-evoked potentials and spinal cord damage diagnosed with magnetic resonance imaging after thoracoabdominal and descending aortic aneurysm repair. *J Cardiothorac Vasc Anesth* 2019; 33(7) : 1835-42.
6. Kazuma S, Wakasugi K, Hagiwara H, Yamakage M : Comparative study of TOF-Cuff, a new neuromuscular blockade monitor, and TOF-Watch, an acceleromyography. *Anesth Analg* 2019; e-pub
7. Yoshikawa Y, Hirata N, Terada H, Sawashita Y, Yamakage M : Identification of candidate genes and pathways in dexmedetomidine-induced cardioprotection in the rat heart by bioinformatics analysis. *Int J Nul Sci* 2019; 20(7) : 1614. <https://doi.org/10.3390/ijms20071614>
8. Kazuma S, Tokinaga Y, Kimizuka M, Azumaguchi R, Hamada K, Yamakage M : Sevoflurane promotes regeneration of the endothelial glycocalyx by upregulating sialyltransferase. *J Surg Res* 2019; 17(4) : 40-7.
9. 小梁川愛美, 卯月みつる, 河内正治, 山蔭道明 : ヒドロキシエチルデンプン130000投与は脊髄くも膜下麻酔の血圧低下からの回復に有用か. *麻酔* 2019; 68(2) : 161-5.
10. Kumita S, Tachibana S, Ichimiya T, Yamakage M : Continuous rectus sheath block in a patient with a postoperative rectus sheath hematoma : a case report. *JA Clin Rep* 2019; 5 : 16.
11. Tachibana S, Chida Y, Yamakage M : Using the Bair Hugger™ temperature monitoring system in neck and chest regions : a pilot study. *JA Clin Rep* 2019; 5 : 32.
12. Tachibana S, Omote M, Yamakage M : Successful awake craniotomy in an aged patient with severe hearing impairment using a bone conduction voice amplifier - a case report. *JA Clin Rep* 2019; 5 : 37.
13. 澤田敦史, 本間広則, 高橋和伸, 久保みのり, 山蔭道明 : 超音波ガイド下前頭神経ブロックが前頭洞炎との鑑別に有効であった三叉神経第一枝帯状疱疹の1症例. *日本ペインクリニック学会誌* 2019; 26(2) : 124-5.
14. Shindo Y, Iwasaki S, Yamakage M : Efficacy and practicality of opioid therapy in Japanese chronic noncancer pain patients. *Pan Mang Nurs* 2019; 20(3) : 222-31.
15. Kondo M, Yoshikawa Y, Terada H, Yamakage M : Anesthetic management of total aortic arch replacement in a myasthenia gravis patient under deep hypothermic circulatory arrest. *Case Rep Anesthesiol* 2019; <https://doi.org/10.1155/2019/3278147>.
16. 佐藤 慧, 枝長充隆, 山蔭道明 : 胸腔鏡下肺切除術中の大量出血時に対して, O3?センサによる酸素飽和度の経時的変化が有効であった1症例. *臨床麻酔* 2019; 43(7) : 997-9.
17. 松岡伸悦, 川岸俊也, 大森 恵, 河村真衣子, 野呂秀策, 山蔭道明 : 微小血管減圧術後の悪心嘔吐に対するデキサメサゾン予防投与の検証. *臨床麻酔* 2019; 43(8) : 1073-6.
18. Omote M, Tachibana S, Tokinaga Y, Yamakage M : A new pharmacokinetic model of propofol for Japanese patients. *Open J Anesthesiol* 2019; 9 : 179-88.
19. Ueshima H, Sawada A, Yamakage M, Fujimiya M : Blocking of the saphenous and obturator nerves using a pectineus muscle plane block. *J Clin Anesth* 2019; 12(1) : 2-3.
20. Tachibana S, Chida Y, Yamakage M : Using the Bair Hugger™ temperature monitoring system in neck and chest regions : a pilot study. *JA Clin Rep* 2019; 5 : 32.
21. Chaki T, Hirata N, Yoshikawa Y, Tachibana S, Tokinaga Y, Yamakage M : Lipid emulsion, but not propofol, induces skeletal muscle damage and lipid peroxidation. *J Anesth* 2019; 33(6) : 628-35.

22. Sakai W, Okazaki K, Arakawa J, Fujita S, Yamakage M : Absence of adverse neurological outcomes in a non-neurologically injured polytrauma patient despite extreme and prolonged treatment-resistant hypotension : a case report. *A A Pract* 2019; 13(9) : 358-61.
23. Tachibana S, Omote M, Yamakage M : Successful awake craniotomy in an aged patient with a severe hearing impairment using a bone conduction voice amplifier : a case report. *JA Clin Rep* 2019; 5 : 37.
24. Iwasaki S, Hamada K, Takahashi K, Takahashi M, Mizuno E, Mizukami N, Yamakage M : Epidural analgesic for the treatment of colic attack with retrocaval ureter in late pregnancy complicated with marginal placenta previa : a case report. *JA Clin Rep* 2019; 5 : 52.
25. Takahashi K, Tanaka S, Watanabe M, Yamakage M : Rocuronium-induced anaphylaxis : a case report. *JA Clin Rep* 2019; 5 : 81.
26. Shindo Y, Koyanagi M, Iwasaki S, Yamakage M : Patients living with chronic non-cancer pain receiving opioid therapy in Japan : a grounded theory study. *Sapporo Med J* 2019; 88(1-6) : 53-64.
27. Tachibana S, Hayase T, Yamakage M : Dexmedetomidine attenuates surgery-induced cognitive deficit and hippocampal Mapt expression in aged mice. *Sapporo Med J* 2019; 88(1-6) : 65-76.

2020

1. Grøeben H, Walz MK, Nottebaum BJ, Alesina PF, Greenwald A, Schumann R, Hollmann MW, Schwarte L, Behrends M, Rössel R, Grøeben C, Schäfer M, Lowery A, Hirata N, Yamakage M, Miller JA, Cherry TJ, Nelson A, Solorzano CC, Gigliotti B, Wang TS, Wietasch JKG, Friederich P, Sheppard B, Graham PH, Weingarten TN, Sprung J : International multicentre review of perioperative management and outcome for catecholamine-producing tumors. *Br J Surg* 2020; 107 : e170-8. (IF : 5.572)
2. 吉仲阿佐美, 横山竜也, 枝長充隆, 山蔭道明 : 重症大動脈弁狭窄症合併患者の腹臥位手術に対して, FloTrac/VigileoTMを用いて安全な麻酔管理が可能となった1症例. *臨床麻酔* 2020; 44(2) : 197-9.
3. Otsuki I, Himuro N, Tatsumi H, Mori M, Niira Y, Kumeta Y, Yamakage M : Individualized nutritional treatment for acute stroke patients with malnutrition risk improves functional independence measurement : A randomized controlled trial. *Geriatr Gerontol Int* 2020; 20 : 176-82.
4. Osuda M, Edanaga M, Matsumoto T, Yamamoto A, Ihara S, Tanaka S, Yamakage M : Comparison of Mill SusTM-guided radial artery catheterization with the long-axis in-plane ultrasound-guided method under general anesthesia : a randomized controlled trial. *J Anesth* 2020; 34(3) : 464-7.
5. Akatsuka M, Masuda Y, Tatsumi H, Yamakage M : Recombinant human soluble thrombomodulin is associated with attenuation of sepsis-induced renal impairment by inhibition of extracellular histone release. *Pros One* 2020; 23(1):e0228093.
6. Hashimoto Y, Chaki T, Hirata N, Tokinaga Y, Yoshikawa Y, Yamakage M : Video glasses reduce preoperative anxiety compared with portable multimedia player in children : a randomized controlled trial. *J Perianesth Nurs* 2020; 35(3) : 321-325.
7. Tachibana S, Tanaka S, Yamakage M : Successful anesthetic management using dexmedetomidine sequentially with propofol in the asleep-awake-asleep technique for elderly patients undergoing awake craniotomy. *Case Rep Anesthesiol* 2020; doi:10.1155/2020/6795363.
8. 田中信彦, 山蔭道明, 具志堅 隆, 關山裕詩, 中塚秀樹, 益田律子, 山浦 健 (二本ペインクリニック学海安全委員会) : 痛み診療の現場における2015年および2016年の有害事象について 日本ペインクリニック学会安全委員会・有害事象調査報告と課題. *日本ペインクリニック学会誌* 2020; 27(2) : 133-42.
9. Doi M, Morita K, Takeda J, Sakamoto A, Yamakage M, Suzuki T : Efficacy and safety of remimazolam versus propofol for general anesthesia : a multicenter, single-blind, randomized, parallel-group, phase IIb/III trial. *J Anesth* 2020; 34(4) : 543-553.
10. Maeda M, Chaki T, Kawaguchi R, Kimijima T, Yamakage M : Difficult airway management of a patient with limited range of motion in the temporomandibular joint and cervical extension caused by psoriatic arthritis : a case report. *JA Clin Rep* 2020; 6 : 44
11. 前田愛子, 山田信一, 田中信彦, 益田律子, 關山裕詩, 津田勝哉, 中塚秀輝, 山蔭道明 : 痛み診療の現場における2018年1年間の有害事象についてー日本ペインクリニック学会安全委員会調査報告ー. *日本ペインクリニック学会誌* 2020; 27(4) : 271-9.
12. 五月女風香, 茶木友浩, 平田直之, 山蔭道明 : 気管挿管後に遅発性気管支閉塞を生じた上行弓部大動脈瘤症例の麻酔経験. *麻酔* 2020; 69(10) : 1060-3.

13. 大須田倫子, 枝長充隆, 山蔭道明: 血液凝固・血小板機能装置Sonoclotの結果から硬膜外カテーテル挿入を施行した一症例. 日本小児麻酔学会誌 2020; 26(1): 19-23.
14. Kunigo T, Nawa Y, Yoshikawa Y, Yamakage M: Tracheal extubation of anesthetized pediatric patients with heart disease decreases the incidence of emergence agitation: A retrospective study. *Ann Card Anaesth* 2020; 23(4): 433-8.
15. Nishihara N, Tachibana S, Sonoda H, Yamakage M: A patient with myotonic dystrophy diagnosed after experiencing sudden respiratory failure: a case report. *JA Clin Rep* 2020; 6(1): 80.
16. Akatsuka M, Shimodate Y, Inaba W, Yamakage M: What should we do for the safe transportation of COVID-19 patients? *J Infect Dev Ctries* 2020 14(11): 1246-7.
17. Sawashita Y, Hirata N, Yoshikawa Y, Terada H, Tokinaga Y, Yamakage M: Remote ischemic preconditioning reduces myocardial ischemia-reperfusion injury through unacylated ghrelin-induced activation of the JAK/STAT pathway. *Basic Res Cardiol* 2020 30(4): 50. doi: 10.1007/s00395-020-0809-z.
18. Sakai W, Tachibana S, Yamakage M: Cross-holes on a plastic bag can prevent droplet spread during extubation. *Anesth Analg* 2020; 131(4): e189-91.

2021

1. Sotome S, Sawada A, Wada A, Shima H, Kutomi G, Yamakage M: Erector spinae plane block versus retrolaminar block for postoperative analgesia after breast surgery: a randomized controlled trial. *J Anesth* 2021; 35(1): 27-34.
2. Yoshitani K, Kawaguchi M, Kawamata M, Kakinohana M, Kato S, Hasuda K, Yamakage M, Yoshikawa Y, Nishiwaki K, Hasegawa K, Inagaki Y, Funaki K, Matsumoto M, Ishida K, Yamashita A, Seo K, Kakumoto S, Tsubaki K, Tanaka S, Ishida T, Uchino H, Kakinuma T, Yamada Y, Mori Y, Izumi S, Shimizu J, Furuichi Y, Kin N, Uezono S, Kida K, Nishimura K, Nakai M, Ohnishi Y: Cerebrospinal fluid drainage to prevent spinal cord injury in thoracic aortic repair. *J Anesth* 2021; 35(1): 43-50.
3. Kimizuka M, Tokinaga Y, Azumaguchi R, Hamada K, Kazuma S, Yamakage M: Effects of anesthetic agents on contractions of the pregnant rat myometrium in vivo and in vitro. *J Anesth* 2021; 35(1): 68-80.
4. Takahashi Y, Tokinaga Y, Edanaga M, Kikuchi K, Tada M, Maki R, Yamakage M, Watanabe A: Efficacy of automatic retention pressure of a double-lumen tube cuff: an artificial intubation model. *J Surg Res* 2021; 257: 344-8.
5. Kunigo T, Yoshikawa Y, Yamamoto S, Yamakage M: Preoperative right ventricular dysfunction requires high vasoactive and inotropic support during off-pump coronary artery bypass. *Gen Thorax Cardiovasc Surg* 2021; 69(6): 934-42.
6. Sato S, Tachibana S, Okazaki K, Namba H, Ichimiya T, Yamakage M: Careful medical interview and ultrasonography enabled detection of acute kidney injury and hematoma after lumbar trigger point injection - a case report. *JA Clin Rep* 2021; 7(1): 12.
7. Hirata N, Nishimura M, Chaki T, Yoshikawa Y, Yamakage M: Comparison between oxygen reserve index and end-tidal oxygen concentration for estimation of oxygenation during pre-oxygenation during pre-oxygenation via a tight-fitted face mask: A prospective observational study. *Eur J Anaesthesiol* 2021; 38(3): 313-5.
8. Fukuda M, Tachibana S, Nishihara N, Yamakage M: Remimazolam for a patient with myotonic dystrophy type I who underwent endoscopic retrograde cholangiopancreatography under general anesthesia: a case report. *JA Clin Rep* 2021; 7(1): 17.
9. Saito K, Ohno S, Maeda M, Hirata N, Yamakage M: Remimazolam anesthesia for cardiac surgery with cardiopulmonary bypass: a case report. *JA Clin Rep* 2021; 7(1): 21.
10. Hamada K, Takahashi K, Tokinaga Y, Iwasaki S, Yamakage M: Generic rocuronium reduces withdrawal movements compared to original rocuronium under target-controlled infusion induction with propofol. *J Anesth* 2021; 35(2): 184-8.
11. 松岡伸悦, 川岸俊也, 大森 恵, 河村真衣子, 山蔭道明: 食道アカラシア合併患者で麻酔導入時に食道内貯留物を認めた1症例. 臨床麻酔 2021; 45(3): 501-3.
12. Chaki T, Tachibana S, Kumita S, Sato H, Hamada K, Tokinaga Y, Yamakage M: Head rotation reduces oropharyngeal leak pressure of the i-gel and LMA® Supreme™ in paralyzed, anesthetized patients: a randomized trial. *Anesth Analg* 2021; 132(3): 818-26. (2021年度日本麻酔科学会若手奨励賞受賞)

13. Tachibana S, Hayamizu K, Yamakage M : Remimazolam use for awake craniotomy. JA Clin Rep 2021; 7(1) : 25.
14. Sakai W, Tachibana S, Chaki T, Nakazato N, Horiguchi Y, Nawa Y, Yamakage M : Safety of an improved pediatric epidural tunneling technique for catheter shear. Paediatr Anaesth 2021; 31(7) : 770-7.
15. Hayamizu K, Chaki T, Tachibana S, Hirata N, Yamakage M : Effect of remimazolam on intraoperative neuromonitoring during thyroid surgery : a case series. J Anesth 2021; 35(4) : 581-5.
16. Sato T, Ohno S, Maeda M, Sawashita Y, Hirata N, Yamakage M : Unexpected tachycardia and hypertension during anesthetic induction with remimazolam in cardiac surgery : a case report. JA Clin Rep 2021; 7(1) : 58.
17. 矢多将大, 山中美帆, 川口亮一, 田中 悟, 山蔭道明 : 遺伝性血管性浮腫を合併した小児患者の周術期管理経験. 王子総合病院医学雑誌 2021; 11 : 23-5.
18. 佐藤優真, 新山幸俊, 本間舞子, 山蔭道明 : 気管腕頭動脈瘻を塞栓したコイルが気管内に迷入し, その摘出に難渋した1症例. 麻酔 2021; 70(8) : 836-9.
19. 佐藤 慧, 丹保亜希仁, 奥田勝博, 清水恵子, 南波 仁, 一宮尚裕, 山蔭道明 : 腸管再吸収により血中濃度が再上昇したカフェイン中毒症例. 日集中医誌 2021; 28 : 454-7.
20. Azumaguchi R, Tokinaga Y, Kazuma S, Kimizuka M, Hamada K, Sato T, Yamakage M : Validation of the relationship between coagulopathy and localization of hydroxyethyl starch on the vascular endothelium in a rat hemodilution model. Sci Rep 2021; 11(1) : 10694.
21. Terada H, Hirata N, Sawashita Y, Ohno S, Yoshikawa Y, Yamakage M : Acute hypobaric and hypoxic preconditioning reduces myocardial ischemia-reperfusion injury in rats. Cardiol Res Pract 2021; 2021 : 6617374.
22. Satoh T, Nishihara N, Sawashita Y, Ono S, Hirata N, Yamakage M : Remimazolam anesthesia for MitralClip implantation in a patient with advanced heart failure. Case Rep Anesthesiol 2021; 2021 : 5536442.
23. Yoshinaka A, Akatsuka M, Yamamoto S, Yamakage M : Sudden cardiac arrest associated with myxedema coma due to undiagnosed hypothyroidism : a case report. BMC Endocr Disord 2021; 21(1) : 229.
24. Sato Y, Edanaga M, Hirata N, Yamakage M : Near-infrared spectroscopy monitoring during one-lung ventilation in idiopathic pulmonary fibrosis. Anaesth Intensive Care 2021; 2021; 49(5) : 412-3.
25. Sawada A, Ochiai G, Yamakage M : A two-handed airway maneuver of mandibular advancement and mouth opening in the neutral neck position for immobilization of the cervical spine. J Anesth 2021; 35(6) : 811-7.
26. 土谷 妙, 鎌田康宏, 桶谷章夫, 佐藤通子, 山蔭道明 : ロ峡部の狭小化を伴い経口挿管が不可能なビエールロバン症候群の麻酔経験. 麻酔 2021; 70(12) : 1353-6.
27. 茶木友浩, 立花俊祐, 汲田 翔, 佐藤帆奈美, 濱田耕介, 山蔭道明 : 筋弛緩使用全身麻酔下患者において, i-gelおよびLMA-Supreme使用時の頭部回旋位は, 口咽頭リーク圧を低下させる. 麻酔 2021; 70 (増刊), S218-24. (日本麻酔科学会若手奨励賞受賞寄稿文)
28. Kikuchi K, Hirata N, Yoshikawa Y, Yamakage M : Assessing the validity of a linear inflation method in noninvasive blood pressure monitoring during the induction period of general anaesthesia. J Perioper Tract 2021; 31(12) : 442-5.

2022

1. Kumita S, Sawada A, Tokura TA, Nishiyama K, Oiwa D, Hear H, Miyazaki A, Fujimiya M, Yamakage M : Injectate spread in ultrasound-guided inferior alveolar nerve block : a cadaveric study. J Anesth 2022; 36(1) : 46-51.
2. Hasegawa G, Sakai W, Chaki T, Tachibana S, Kokita A, Kato T, Nishimura H, Yamakage M : Investigations into the efficacy of a novel extubation-aerosol shield : a cough model study. Infect Prev Tract 2022; 4(1) : 100193.
3. Sato S, Chaki T, Onaka T, Yamakage M : Anesthetic management of tracheal stent extubation using a double gum elastic bougie technique. JA Clin Rep 2022; 8(1) : 9.

4. Inagaki Y, Yamakage M, Sakamoto A, Okayama A, Oya N, Hiraoka T, Morita K : The efficacy and safety of dexmedetomidine for sedation during surgery under epidural or spinal anesthesia : a randomized, double-blind, placebo-controlled study. *Yonago Acts Med* 2022; 65(1) : 14-25.
5. Kii N, Sawada A, Yoshikawa Y, Tachibana S, Yamakage M : Dexmedetomidine ameliorates preoperative neurocognitive disorders by suppressing monocyte-derived macrophages in mice with preexisting traumatic brain injury. *Anesth Analg* 2022; 134(4) : 869-80.
6. Sato S, Edanaga M, Kondo M, Yamakage M : Effect of desflurane on changes in regional cerebral oxygenation in patients undergoing one-lung ventilation in equivalent to the effect of propofol. *Respir Physiol Neurobiol* 2022; 296 : 103798.
7. Maeda M, Hirata N, Chaki T, Yamakage M : Risk factors of cardiac arrest and failure to achieve return of spontaneous circulation during anesthesia : a 20-year retrospective observational study from a tertiary care university hospital. *J Anesth* 2022; 36(2) : 221-9.
8. Hasegawa G, Hirata N, Yoshikawa Y, Yamakage M : Differential effects of remimazolam and propofol on heart rate variability during anesthesia induction. *J Anesth* 2022; 36(2) : 239-45.
9. Saito Y, Chaki T, Nishihara N, Yamakage M : A case of monosomy 21 presented with difficult tracheal intubation. *JA Clin Rep* 2022; 8(1) : 24
10. Nishihara N, Tachibana S, Ikeshima M, Ino A, Yamakage M : Remimazolam enabled safe anesthetic management during tracheostomy in a patient with amyotrophic lateral sclerosis : a case report. *JA Clin Rep* 2022; 8(1) : 25.
11. Kumita S, Tachibana S, Sugai H, Yamakage M : Abnormal artery development on PECS II pathway : MRI and sonographic evaluation. *J Clin Anesth* 2022; 78 : 110524.
12. 松岡伸悦, 杉目史行, 大森 恵, 野呂秀策, 山蔭道明 : 微小血管減圧術後の悪心嘔吐に対するグラニセロン予防投与の検証. *臨床麻酔* 2022; 46(7) : 907-11.
13. 伊原彩季, 卯月みつる, 木谷友洋, , 山蔭道明 : 抜管の呼吸不全を契機に発見された小脳出血後の喉頭ミオクロームスの1症例. *麻酔* 2022; 71(8) : 849-51.
14. 中郷あゆみ, 澤田敦史, 名和由布子, 杉目史行, 長井 洋, 山蔭道明, 中郷賢二郎 : 帝王切開術の子宮縫合方法の違いが母体の悪心・嘔吐に及ぼす影響. *麻酔* 2022; 71(11) : 1186-90.
15. 小北篤史, 立花俊祐, 茶木友浩, 枝長充隆, 山蔭道明 : 術前診察では予期できなかった気道確保困難に対してMcGRATH MAC併用気管支ファイバースコープガイド下挿管が有用であった1症例. *麻酔* 2022; 71(11) : 1196-2000.
16. Sakai W, Hasegawa G, Chaki T, Tachibana S, Yamakage M : Aerosol boxes decrease aerosol exposure only in depressurized rooms during aerosol-generating procedures in a simulation study. *J Anesth* 2022; 36(5) : 623-32.
17. Kimizuka M, Tokinaga Y, Taguchi M, Takahashi K, Yamakage M : Usefulness and accuracy of a handheld ultrasound device for epidural landmark and depth assessment by anesthesiology residents. *J Anesth* 2022; 36(12) : 693-7.
18. 村木真美, 岡田麻里絵, 辻 成人, 重元 守, 西村実夫, 郭 光徳, 本間舞子, 杉本美幸, 山本修司, 山蔭道明 : 巨大喉頭蓋嚢胞に対し薄型イントロックスのエアウェイスコープが有用であった1症例. *麻酔* 2022; 71(12) : 1326-9.

2023

1. Yamada S, Akiyama Y, Tachibana S, Hayamizu K, Kimura Y, Hashimoto S, Yamakage M, Mikuni N : The intraoperative motor-evoked potential when propofol was changed to remimazolam during general anesthesia : a case series. *J Anesth* 2023; 37(1) : 154-9.
2. Kokita A, Chaki T, Yamakage M : A case of safe airway management by fiber-optic nasotracheal intubation in general anesthesia in a pediatric patient with Hajdu-Cheney syndrome : a case report. *JA Clin Rep* 2023; 9(1) : 33.
3. Yamada S, Hayamizu K, Akiyama Y, Kimura Y, Hashimoto S, Mikuni N, Yamakage M : Effect of remimazolam on intraoperative neurophysiology monitoring of visual-evoked potential : a case series. *J Anesth* 2023; 37(2) : 311-4.

4. 濱田耕介, 時永泰行, 澤田敦史, 山蔭道明: 重症糖尿病患者に術前から持続末梢神経ブロックを行い, 良好な血糖管理を行えた上腕骨折近位端骨折手術患者の1症例. 臨床麻酔 2023; 47(4): 625-7.
5. Tanaka S, Tachibana S, Kusakai K, Wakasugi K, Sonoda H, Yamakage M: Cricothyrotomy for an unexpected cannot intubate, cannot ventilate situation for a patient with chronic graft-versus-host disease after induction of general anesthesia: a case report. Am J Case Rep 2023; 24: e938992.
6. 新田麻子, 立花俊祐, 茶木友浩, 山蔭道明: 持続硬膜外鎮痛が困難な開胸胸壁再建手術に対し, モルヒネ硬膜外単回投与を含む他覚的鎮痛で術後痛を管理した2症例. 日臨麻会誌 2023; 43(1): 25-30.
7. 小笠原裕樹, 酒井 渉, 茶木友浩, 萬徳 円, 赤井寿徳, 名和智裕, 市坂有基, 浅井英嗣, 夷岡徳彦, 大場淳一, 山蔭道明: 小児ECMO中のヘパリンコントロールに対してTEG® 6sが有用であった1症例. 日本小児循環器学会雑誌 2023; 39(1): 39-45.
8. Yoshitani K, Ogata S, Kato S, Tsukinaga A, Takatani T, Kin N, Ezaka M, Shimizu J, Furuichi Y, Uezono S, Kida K, Seo K, Kakumoto S, Miyawaki H, Kawamata M, Tanaka S, Kakinohana M, Izumi S, Uchino H, Kakinuma T, Nishiwaki K, Hasegawa K, Matsumoto M, Ishida K, Yamashita A, Yamakage M, Yoshikawa Y, Morimoto Y, Saito H, Goto T, Masubuchi T, Kawaguchi M, Tsubaki K, Mizobuchi S, Obata N, Inagaki Y, Funaki K, Ishiguro Y, Sanui M, Taniguchi K, Nishimura K, Ohnishi Y. Effect of cerebrospinal fluid drainage pressure in descending and thoracoabdominal aortic repair: a prospective multicenter observational study. J Anesth 2023; 37(3): 408-15.
9. Yoshikawa Y, Maeda M, Ohno S, Takahashi K, Sawashita Y, Hirahata T, Iba Y, Kawaharada N, Edanaga M, Yamakage M: Validity and utility of early parameters in TEG6s platelet mapping to assess the coagulation status during cardiovascular surgery with cardiopulmonary bypass. Cureus 2023; 15(4): e38044.
10. Sakai W, Chaki T, Nawa Y, Oyasu T, Ichisaka Y, Nawa T, Asai H, Ebuoka N, Oba J, Yamakage M: Head cooling wrap could suppress the elevation of core temperature after cardiac surgery during forced-air warming in a pediatric intensive care unit: a randomized clinical trial. J Anesth 2023; 37(4): 596-603.
11. Sawashita Y, Kazuma S, Tokinaga Y, Kikuchi K, Hirata N, Masuda Y, Yamakage M: Albumin protects the ultrastructure of the endothelial glycocalyx of coronary arteries in myocardial ischemia-reperfusion injury in vivo. Biochem Biophys Res Commun 2023; 23(666): 29-35.
12. 松岡伸悦, 杉目史行, 大森 恵, 河村真衣子, 石田裕樹, 山蔭道明: 開頭手術後の治療に難渋する頭痛に対し, スマトリプタンが奏功した1症例. 臨床麻酔 2023; 47(7): 889-91.
13. Edanaga M, Sato H, Ochiai G, Yamakage M: The tip position of peripherally inserted central catheters by the Sherlock 3CG system was almost deeper than zone B: A case series. Cureus 2023; 15(6): e40711.
14. Yamada S, Chaki T, Kimura Y, Mikuni N, Yamakage M: Effect of a low concentration of sevoflurane combined with propofol on transcranial electrical stimulation motor evoked potential: a case series. Cureus 2023; 15(7): e41562.
15. Sato Y, Yanagi A, Kakumoto S, Miyawaki H: Successful management of right ventricular failure after emergent trans catheter mitral valve edge-to-edge repair with inhaled nitric oxide: a case report. Cureus 2023; 15(9): e45469.
16. Hamada K, Tokinaga Y, Sato T, Horiguchi Y, Azumaguchi R, Kimizuka M, Kazuma S, Yamakage M: Evaluation of the effects of the Japanese herbal medicine "Goreisan" on traumatic cerebral edema in rats and identification of active ingredients in cultured astrocytes. Sapporo Med J 2023; 92(1-6): 11-9.
17. Sawada A, Kumita S, Nitta A, Ohsaki Y, Yamakage M: Modified thoracoabdominal nerve block through perichondrial approach (M-TAPA): an anatomical study to evaluate the spread of dye after a simulated injection in soft embalmed Thiel cadavers. Reg Anesth Pain Med 2023; 48(8): 403-7.
18. Maeda M, Yoshikawa Y, Oura S, Takahashi K, Ohno S, Hirata N, Yamakage M: Apnea management during WATCHMAN device deployment with apneic oxygenation. Ann Card Anaesth 2023; 26(4): 458-60.
19. Chaki T, Tachibana S, Kumita S, Sato S, Hirahata T, Ikeshima Y, Ohsaki Y, Yamakage M: I-gel Plus acts as a superior conduit for fiberoptic intubation than standard i-gel. Sci Rep 2023; 13(1): 18381.
20. Muraki M, Edanaga M, Mizuguchi H, Sugimoto M, Yamamoto S, Yamakage M: A prospective randomized controlled trial of the effect of maintenance of continuous cuff pressures (20 cmH2O vs 30 cmH2O) on postoperative airway symptoms in laparoscopic surgeries. Cureus 2023; 15(10): e47816.

21. Sato T, Edanaga M, Yamakage M, Harada R, Kawaharada N : Platelet function testing using Sonoclot and TEG6s as a platelet transfusion prediction tool in open heart surgery. *Cureus* 2023; 15(11) : e49131. doi : 10.7759/cureus.49131.

2024

1. Chaki T, Koizumi M, Tachibana S, Matsumoto T, Kumagai T, Hashimoto Y, Yamakage M : Comparing leak pressure of LMA® ProSealTM versus i-gel at head rotation : a randomized controlled trial. *Can J Anesth* 2024; 71(1) : 66-76.
2. Yoshikawa Y, Maeda M, Kunigo T, Sato T, Takahashi K, Ohno S, Hirahata T, Yamakage M : Effect of using hypotension prediction index versus conventional goal-directed haemodynamic management to reduce intraoperative hypotension in non-cardiac surgery. *J Clin Anesth* 2024; 93:111348. doi : 10.1016/j.jclinane.2023.111348.
3. Yoshikawa Y, Oura S, Kanda M, Chaki T, Hirata N, Edanaga M, Yamakage M : Comparison of the negative effect of remimazolam and propofol on cardiac contractility : analysis of a randomised parallel-group trial and a preclinical ex vivo study. *Clin Exp Pharmacol Physiol* 2024; 51 : e13840. doi : 10.1111/1440-1681.13840.
4. Tanaka S, Tachibana S, Toyohara T, Sonoda H, Yamakage M : Venoarterial extracorporeal membrane oxygenation for cardiopulmonary resuscitation : A retrospective study comparing the outcomes of fluoroscopy. *Heliyon* 2024; 10 : e24565. doi : 10.1016/j.heliyon.2024.e24565.
5. Sawada A, Yamakage M : Analgesic effect of neuromodulation using the AT-04 portable magnetic field-generating device in a patient with neuropathic pain : a case report. *JA Clin Rep* 2024; 10(1) : 10.
6. Sato T, Sawashita Y, Yoshikawa Y, Yamakage M : Japanese traditional herbal medicine, Rikkunshito, partially suppresses inflammatory responses in myocardial ischemia/reperfusion injury. *Cureus* 2024; 16(2) : e54485. doi : 10.7759/cureus.54485.
7. Hirahata T, Hashimoto S, Watanabe H, Yagi SI, Edanaga M, Yamakage M : The 10 Hz dynamic response of a fluid-filled pressure monitoring system is a novel alternative to the fast flush test and indicative of unacceptable systolic pressure overshoot. *J Clin Monit Comput* 2024 38(3) : 715-9.
8. Maeda M, Yoshikawa Y, Ohno S, Chaki T, Yamakage M : Differences in circulating blood volume changes during emergence from general anesthesia in transcatheter aortic valve implantation and MitraClip implantation. *J Anesth* 2024; 38(4) : 489-95.
9. 村木真美, 御村光子, 萩原綾希子, 合田由紀子, 高田幸昌, 山蔭道明 : パルス高周波法を併用した神経根ブロックが奏功した回腸ストマ辺縁のびらんによる難治性通の1症例. *日本ペインクリニック学会誌* 2024; 31(4) : 69-72.
10. Sakai W, Chaki T, Tachibana S, Ichisaka Y, Nawa Y, Nawa T, Yamakage M : INJEX50 could improve the success rate of local anesthesia for arterial cannulation in the pediatric intensive care unit : A randomized, double-blind, single-center study. *Paediatr Anaesth* 2024, in press
11. Edanaga M, Chaki T, Osuda M, Yamakage M : Radial artery catheterization using a novel T-type ultrasound probe : a single center randomized study. *J Anesth* 2024, in press
12. Kikuchi K, Kazuma S, Yamakage M : Recombinant thrombomodulin and recombinant antithrombin attenuate pulmonary endothelial glycocalyx degradation and neutrophil extracellular trap formation in ventilator-induced lung injury in the context of endotoxemia. *Respir Res* 2024; in press
13. Sawada A, Yamakage M : Pregnancy ameliorates pain through suppression of microglia and upregulation of the δ -opioid receptor in the anterior cingulate cortex in late-pregnant mice. *J Anesth* 2024; in press

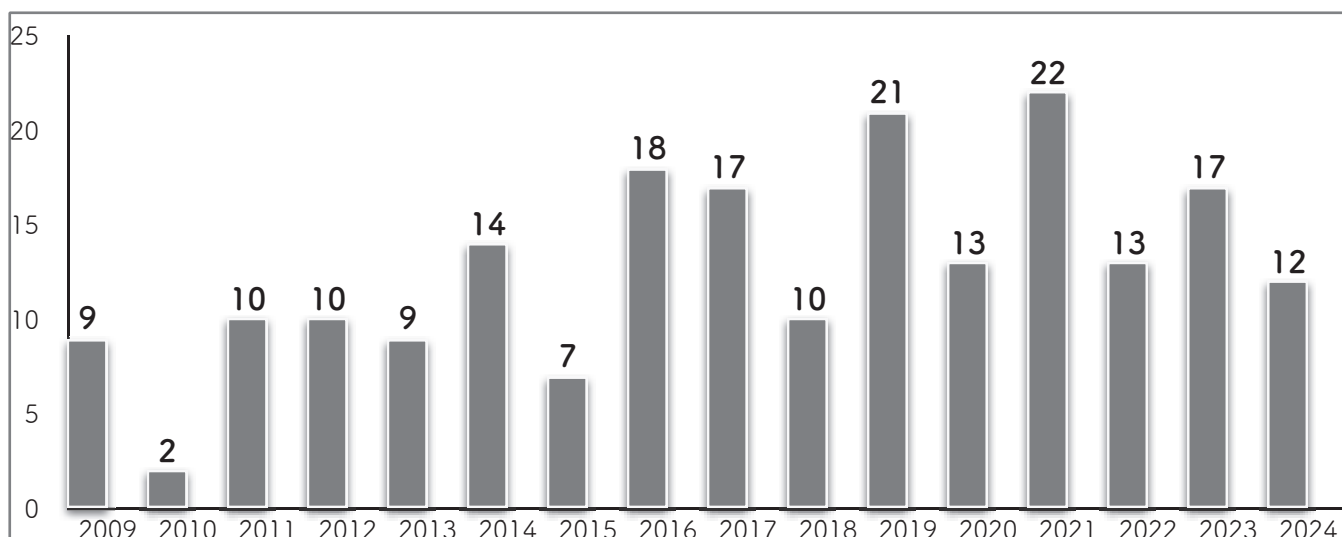
1. 山蔭道明, 石山由紀恵: 「第8回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2008 in金沢」に参加して, 札幌医誌 2009; 77(1-6): 35-9.
2. 本間広則, 山蔭道明, 君塚基修, 山内正憲, 並木昭義: 機器製品紹介「神経ブロックに特化した携帯型超音波診断装置S-Nerve™」, 臨床麻酔 2009; 33(2): 253-7.
3. 山蔭道明: 質疑応答「レミフェンタニルの血液成分による代謝」, 臨床麻酔 2009; 33(2): 249-50.
4. 木谷友洋, 山蔭道明, 浦濱 聡, 並木昭義: 機器紹介「イヤホン型赤外線式持続鼓膜温測定装置MIMI Chan™」, 臨床麻酔 2009; 33(3): 587-90.
5. 山蔭道明: 新しい局所麻酔薬レボブピバカイン概要, 局所麻酔薬と術後疼痛管理, 尾崎 真編, ソフトナイン, 大阪, p.2-5, 2009.
6. 宮下 龍, 山蔭道明: 質疑応答「ロクロニウムの血管痛」, 臨床麻酔 2009; 33(8): 1338-9.
7. 山蔭道明: 講演全文抄録集「バイタルサインからわかること」, 北海道病院薬剤師会誌 2009; 77: 78-84.
- 8.
9. 山蔭道明: 総論: 痛みのメカニズムを探る, 特集I: 最もポピュラーな症状「痛み」の徹底解剖, 医療と介護ナビ2010, 冬・春(1~6月)号, P.7-8.
10. 山蔭道明, 飯野靖彦: 第10回「オピオイドでの麻酔管理の重要性と管理」, シリーズ「輸液〜この病態に出会ったら?」, レジデントノート 2010; 11(11): 1662-5.
11. 山蔭道明: 巻頭言「拝啓 厚生労働大臣 さま」, 臨床麻酔 2010; 34(1): 7.
12. 山蔭道明: Seminar Report「エスラックス?(ロクロニウム)使用における私のコツ」, 日本麻酔科学会第56会学集会セミナーレポート, 大阪, 福田商店, 2010, p.1-6.
13. 山蔭道明: 巻頭言「ペインクリニック科?」, ペインクリニック 2010; 31(2): 131-2.
14. 山蔭道明, 及川慶浩: 講演記録集「看護視点で考える手術中の体温管理ー適切な体温管理, 適切な測定部位ー」, 月刊ナーシング 2010; 30(3): 93-6.
15. 山蔭道明: 医局制度と北海道麻酔科ネットワーク「麻酔科医 東から西から」, Anesthesia 21 Century 2010; 12(2): 66-7.
16. 山蔭道明: 新任教授インタビュー「山蔭道明: 麻酔科学講座(35期)」, AMICUS 2009: 40: 3-7.
17. Isono S, Yamakage M: Young anesthesiologists, be a frontline respiratory researcher - Opening remarks of JA Symposium 2010. J Anesth 2011; 25(1): 144.
18. Yamakage M: Cigarette smoking-induced airway hyperreactivity: JA Symposium 2010. J Anesth 2011; 25(1): 145-6.
19. 山蔭道明: アポロ: 麻酔科医のワークフローを改善する, 特集「バトルオンセミナー: 麻酔器」, LiSA 2011; 18(5): 498-500.
20. 山蔭道明: 書評「麻酔科医・集中治療医に必要な血液凝固, 抗凝固, 線溶系が分かる本」, 臨床麻酔 2011; 35(8): 1303.
21. 山蔭道明: 監修者序文, PCA: 患者自己調節鎮痛法, 山蔭道明監修, 山内正憲編, 克誠堂, 東京, 2011, p. v.
22. 山蔭道明: A net Mail: 麻酔科学の魅力と教育, A net 2011; 15(3): 1.
23. 山蔭道明: 巻頭序文「麻酔科医からみた術後早期回復プロトコル」, 医学のあゆみ2012 240(10): 817-9.
24. 山蔭道明: 講演記録集「デスフルランの市販後臨床使用の経験から」, 2012, p.1-5.
25. 山蔭道明, 大内貴志: 講演記録集「もう“1度”体温管理, 患者さんによりよい術後を」, 2012; 1(2): p.1-6.
26. 山蔭道明: Recommended article「イソフルラン, セボフルラン, デスフルラン麻酔時の呼吸抵抗: 無作為化臨床研究」, A net 2012; 16(2): 47-54.
27. 山蔭道明: 印象記「第23回日本臨床モニター学会総会・学術集会」, 臨床麻酔2012; 36(6): 969-70.

28. 平田直之, 山蔭道明: 特集=手術とその周辺の話題「全身麻酔の進歩」. Medicament News 2012; 2092 : 6-7.
29. 山蔭道明, 武富紹信: 消化器外科手術におけるVTE予防の現状と課題. Medicament News 2012; 2095 : 14-5.
30. 山蔭道明: 巻頭序文: はじめに「サーカディアン・リズム-体温と睡眠」. 医学のあゆみ2012 242(11) : 843-4.
31. 岩崎創史, 山蔭道明: コメント「急性頸椎・頸椎損傷」. 特集: 緊急手術の適応基準のup to date. 麻酔 2012; 61(9) : 960-1.
32. 山蔭道明: FORUM: チューインガムで術後回復が促進-ERASにおける位置づけ. 医学の歩み 2012; 243(3) : 266-8.
33. 宮下 龍, 平田直之, 茶木友浩, 林 俊輔, 山蔭道明: 印象記 ASA 2012. 臨床麻酔 2012; 36(12) : 1802-6.
34. 山蔭道明: 講演記録集「周術期輸液の新戦略」. Live on Nutrition Seminar 2012. (株)大塚製薬工場, 鳴門市. 2012, p.1-4.
35. 山蔭道明: 講演記録集「周術期輸液管理における代用血漿剤の位置づけ」. 日本臨床麻酔学会第32回大会(郡山)講演記録集, フレゼニウス・カービ, 東京. 2013, p.1-4.
36. 山蔭道明: 祝! McGRATH MAC薬事承認取得. 第9回麻酔科学バトルオンセミナー(後編). LiSA 2013; 20(2) : 146-8.
37. 山蔭道明: 経口補水療法の知識①周術期編. ベストナース 2013; 24(6) : 60-1.
38. 山蔭道明: 巻頭言「周術期の体温管理」. 臨床体温 2012; 30(1) : 1.
39. 澤田敦史, 山蔭道明: 質疑応答「レミフェンタニル使用時のシバリング対策について」. 臨床麻酔 2013; 37(6) : 949-50.
40. 尾崎 真, 廣瀬宗孝, 濱口眞輔, 山蔭道明: 座談会「日本麻酔科学会第60回学術集会を語る」. 臨床麻酔 2013; 37(7) : 1069-85.
41. 山蔭道明, 後藤隆久: 巻頭言: 日本臨床麻酔学会第32回大会シンポジウム「吸入麻酔薬」によせて. 日臨麻会誌 2013; 33(5) : 728-9.
42. 早瀬 知, 山蔭道明: トピックス「全身麻酔と術後せん妄」. 医学のあゆみ 2013; 247(4) : 359-60.
43. 佐々木英昭, 久米田幸弘, 宇野あゆみ, 中林賢一, 山蔭道明: 私のアイディア「顎関節脱臼抑制に頸椎用牽引具を用いた1例」. ICUとCCU 2013; 37(6) : 481-3.
44. 高田幸昌, 枝長充隆, 山蔭道明: 機器製品紹介「頭部後屈制限時におけるビデオ喉頭鏡McGrath MAC?の有用性: マネキンを用いた検討」. 臨床麻酔 2013; 37(12) : 1799-801.
45. 山蔭道明: 印象記「第20回日本静脈麻酔学会」. 臨床麻酔 2013; 37(12) : 1817.
46. 山蔭道明: 巻頭言「天文学の勧め」. 麻酔 2014; 63(4) : 373.
47. Maruyama D, Edanaga M, Yamakage M : The bronchoscopy model LM-092 has educational benefits. J Anesth 2014; 28 : 314.
48. Maruyama D, Hirata N, Yamakage M : Dealing with a broken bottle of desflurane. J Anesth 2014; 28 : 322.
49. 山蔭道明: はじめに. 必携: 麻酔科初期研修マニュアル(改訂第3版). 山蔭道明, 枝長充隆編. 真興交易(株)医書出版部, 東京. 2014. p. 3-4.
50. 平田直之, 山蔭道明: はじめに. 吸入麻酔Inhalation anesthesia? For Professional Anesthesiologists. 山蔭道明, 平田直之編. 克誠堂出版, 東京. 2014, p. v.
51. 澤田敦史, 山蔭道明: 質疑応答「レミフェンタニルは腸間膜牽引症候群(mesenteric traction syndrome)を引き起こしやすいか?」. 臨床麻酔 2014; 38(5) : 790-1.
52. 山蔭道明: 共催セミナーサマリー「術中輸液の最適化—目指していたものはこれだ!」. Edwards, Tokyo, 2014, p.1-2.
53. 山蔭道明, 平田直之: Case Report「麻酔科医が目指すべき輸液管理の方向性」. Edwards, Tokyo, 2014, p.1-7.
54. 山蔭道明: 書評「痛みのかんがえかた(丸山一男著, 南江堂, 東京)」. LiSA 2014; 21(10) : 1022.
55. 吉川裕介, 山蔭道明: 質疑応答「血管誤穿刺の対処」. 臨床麻酔 2014; 38(11) : 1584-5.

56. Yamakage M : Editorial - Can age-related mitochondrial dysfunction affect volatile anesthetic potency? J Anesth 2014; 28(6) : 805-6.
57. 山蔭道明：書評「麻酔科医のための体液・代謝・体温管理—新戦略に基づく麻酔・周術期医学（廣田和美編，中山書店，東京 2014）」，麻酔 2015; 64(3) : 339.
58. Yamakage M : Announcement “Our new journal : JA Clinical Reports” J Anesth 2015; 29(2) : 164.
59. 数馬 聡，山蔭道明：質疑応答「ICUの鎮静のスタンダードを教えてください」，臨床麻酔 2015; 39(5) : 769-70.
60. Yamakage M : Editorial - Celebrating our inaugural edition! JA Clin Rep 2015; 1 : 8 (doi:10.1186/s40981-015-0010-9)
61. 山蔭道明：麻酔科医に勧めたい本「敗北を抱きしめて（ジョン・ダワー著）」，A net 2015; 19(3) : 28.
62. 時永泰行，山蔭道明：解説「内皮グリコカリックス」，医学のあゆみ 2015; 255(4) : 299-300.
63. 山蔭道明：JA Clinical Reports. 日本麻酔科学会News Letter 2015; 23(4) : p. 7.
64. Tachibana N, Niiyama Y, Yamakage M : Reply to : performance of the elevated pharmacokinetic model to titrate propofol in an obese Japanese patient population. Eur J Anaesthesiol 2016; 33(1) : 59.
65. 山蔭道明：今日もほろ酔い「ワイン通」，A net 2016; 20(1) : 14.
66. 新山幸俊，山蔭道明：質疑応答「術前検査の項目について」，臨床麻酔 2016; 40(3) : 522-3.
67. 長田 理，山蔭道明，木山秀哉，中山英人：麻酔科医としてのキャリアを考える，LiSA 2016; 23(4) : 350-4.
68. 山蔭道明：印象記「第27回日本臨床モニター学会総会に参加して」，臨床麻酔 2016; 40(6) : 925-6.
69. Yamakage M : Editorial - Regional block : who first thought of such an approach? J Anesth 2016; 30(4) : 551-2.
70. 茶木友浩，山蔭道明：質疑応答「開放隅角緑内障の麻酔管理の注意点を教えてください」，臨床麻酔 2016; 40(8) : 1180-2.
71. 山蔭道明：リレー随想・趣味・余暇・仲間「ワークアウトとしてのランニング」，臨床麻酔 2016; 40(11) : 1547.
72. 山蔭道明：講演抄録集「デスフルラン：今までとこれから」，日本麻酔科学会第63回学術集会共催セミナー，バクスター株式会社，東京，2016, p.1-6.
73. 山蔭道明：1. 英語も日本語もない，連載「英語のCase reportの書き方」，A net 2016; 20(2) : 23.
山蔭道明：2. どんな構成が適切か，連載「英語のCase reportの書き方」，A net 2017; 21(1) : 11.
山蔭道明：3. ぐだぐだ書かない，いい表現はいい意味で盗む，連載「英語のCase reportの書き方」，A net 2017; 21(2) : 13.
74. Yamakage M : Editorial - Several new Japanese guidelines issued. J Anesth 2017; 31(2) : 161-2.
75. 山蔭道明：「米国麻酔学会」：特集，はじめての国際学会＜前編＞どこにエントリーするか，LiSA 2017; 24(6) : 578-80.
76. Tachibana S, Hayase T, Yamakage M : In reply : Desflurane anesthesia and cognitive function. J Anesth 2017; 31(4) : 627.
77. 山蔭道明：監修「Fluid Therapy：術中糖質投与の意義」，(株)大塚製薬工場，東京，2017, p.1-4.
- 78.
79. Sakai W, Yoshikawa Y, Yamakage M : In reply : Why remifentanyl? J Anesth 2018; 32(3) : 459.
80. 立花俊祐，田中聡一，田口まゆ，熱田真穂，萩原裕也，佐藤 慧，茶木友浩，東口 ？，君塚基修，時永泰行，新山幸俊，枝長充隆，山蔭道明：誌上抄読会「麻酔科医として術後の認知機能障害を俯瞰する」，臨床麻酔 2018; 42(7) : 1003-9.
81. 山蔭道明：「日本から発信しよう，麻酔科学！」，インターネット講演会冊子，MSD株式会社，東京，2018; p. 1-4.
82. 山蔭道明：巻頭言「はじめての臨床研究：立案～データを読み解くまで」によせて，日臨麻会誌 2019; 39(1) : 86.
83. 枝長充隆，山蔭道明：術後に酸素投与をすべきか否か？「質疑応答」，臨床麻酔 2019; 43(4) : 605-7.
84. 佐藤優真，汲田 翔，君塚基修，山中美帆，山蔭道明：印象記「後期研修医の初ASA体験記」，臨床麻酔 2019; 43(12) : 1663-6.

85. 平田直之, 山蔭道明: 質疑応答「内視鏡室での鎮静について」. 臨床麻酔 2019; 43(12): 1642-3.
86. 枝長充隆, 山蔭道明: Getinge ProAQT®ユーザーレポート-Structural Heart DiseaseにおけるProAQTの可能性-. ゲティンググループ・ジャパン(株), 東京. 2020, p.1-6.
87. 立花俊祐, 山蔭道明: 解説「たかが体温計, されど体温計 進化する手術中の体温モニタリング」. 医学のあゆみ 272(6): 561-2.
88. 阿部恒平, 山蔭道明: 講演記録集「心臓血管外科手術のさらなる発展のために～麻酔科医と外科医が共に目指すもの～」. Perioperative Care Voice 2020; 11: p.1-4.
89. 山蔭道明: 私の臨床教育法「何事にもフィードバックは重要」. Anet 2020; 24(3): 27-30.
90. Sakai W, Tachibana S, Yamakage M: Letter - Cross-holes on a plastic bag can prevent droplet spread during extubation. Anesth Analg 2020; 131(3): e189-91.
91. 茶木友浩, 山蔭道明: 先天性心疾患手術の既往を有する患者の麻酔管理について. 臨床麻酔 2020; 44(10): 1359-64.
92. Hirata N, Hayamizu K, Yamakage M: How to administer remimazolam for anesthesia induction. J Anesth 2020; 34(6): 962.
93. Akatsuka M, Shimodate Y, Inaba W, Yamakage M: What should we do for safe transportation of COVID-19 patients? J Infect Dev Tries 2020; 14(11): 1246-7.
94. Yamakage M: Editorial - Update to the handling of "Preprints" by the Journal of Anesthesia. J Anesth 2021; 35(1): 1-2.
95. Hirata N, Yamakage M: Reply to the letter. J Anesth 2021; 35(1): 162.
96. Sakai W, Chaki T, Tachibana S, Nawa Y, Yamakage M: Subcutaneous tunneling pediatric peripheral nerve block catheters: a novel technique to minimize catheter damage. Can J Anesth 2021; 68: 159-60.
97. Tachibana S, Hayamiyu K, Yamakage M: Remimazolam use for awake craniotomy. JA Clin Rep 2021; 7(1): 25.
98. Yamakage M: Anesthesia in the times of COVID-19. J Anesth 2021; 35(3): 325-7.
99. Kimizuka M, Yamakage M: Reply to the letter. J Anesth 2021; 35(3): 465.
100. 山蔭道明, 立花俊祐: 体温の測定と管理. 少年写真新聞: 小学保健ニュース. 2021年4月8日号 (第1259号付録) p1.
101. 立花俊祐, 山蔭道明: 麻酔科学. 麻酔科医としてCOVID-19患者の飛沫・エアロゾルと闘う. 医学のあゆみ 2021; 278(7-8): 715-6.
102. 山蔭道明: ◇巻頭言 第25回学術大会◇心臓血管外科と学会主催に關しての雑感. 日本心臓血管麻酔学会誌 2021; 25(1): 1.
103. 立花俊祐, 山蔭道明: 質疑応答「フルマゼニル投与後の覚醒時興奮について」. 臨床麻酔 2021; 45(8): 1093-4.
104. 山蔭道明: 紹介. 日本臨床麻酔学会第41回大会 Hybrid開催決定! . 臨床麻酔 2021; 45(10): 1359.
105. Yamakage M: Editorial - Pulse oximetry: the outstanding achievements of Dr. Takuo Aoyagi. J Anesth 2021; 35(5): 605.
106. Yamada S, Akiyama Y, Tachibana S, Hayamizu K, Kimura Y, Hashimoto S, Yamakage M, Mikuni N: Correction to: The intraoperative motor-evoked potential when propofol was changed to remimazolam during general anesthesia: a case series. J Anesth 2023; 37(2): 160.
107. 山蔭道明: エッセイ「I♡(ラブ) OPE NURSE ～忘れられない手術室看護師～」. オペナッシング 2023; 38(5): 1.
108. 山蔭道明: 巻頭言「本邦の麻酔科の進むべき方向性」. 麻酔 2023; 72(7): 611.
1. 山蔭道明: 寄稿文「開院70周年おめでとうございます」. 社会医療法人元生会森山病院開院70周年記念誌 2024; p.19.

英文論文数の推移（編）



当講座における毎年の英文論文発表数は、研究活動の成果を示す重要な指標です。このグラフを見ると、当講座の英文論文発表数が年々増加傾向にあることが明らかです。

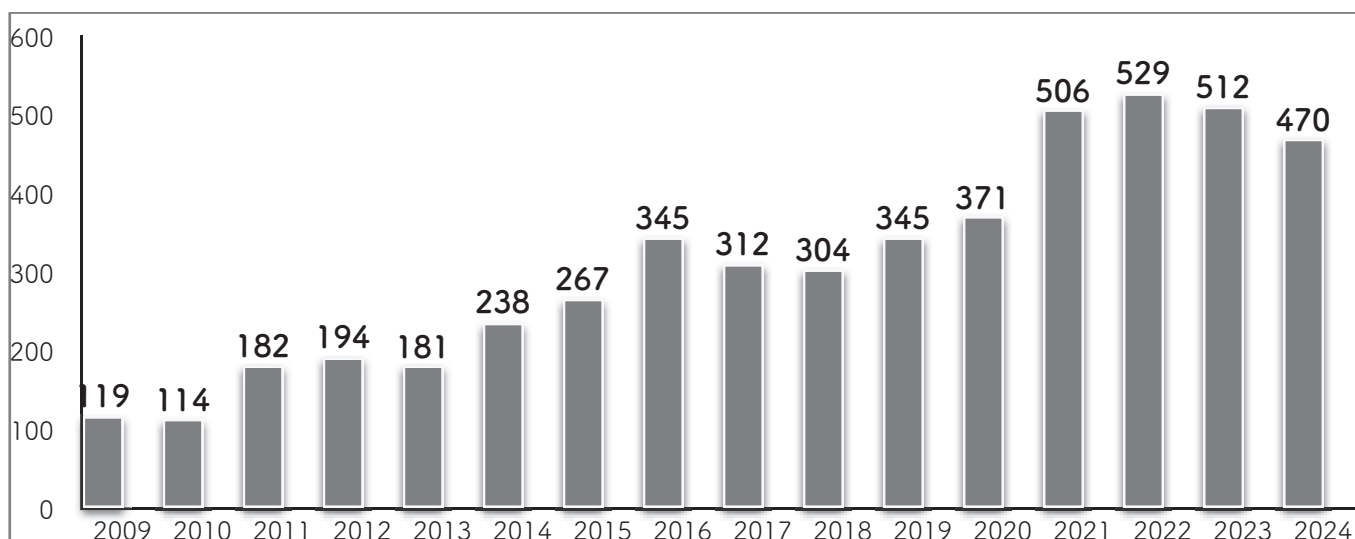
とくに、初期の段階では発表数が比較的少なかったものの、年を追うごとに着実に増加していることが読み取れます。これは、当講座の研究者たちが継続的に高水準の研究を行い、それを国際的に発表する機会を増やしている証拠と言えるでしょう。

2010年代半ば以降、発表数が急激に増加している点も注目に値します。この増加は、当講座の研究活動がますます活発になり、質の高い研究成果を国際的な場で発表する体制が整ってきたことを示しています。

さらに、2020年代に入ってから発表数は特に顕著で、研究の多様性や国際的な影響力が一層強化されていることがわかります。このような論文発表の増加は、当講座が国際的な麻酔科学の分野でリーダーシップを発揮していることを裏付けるものです。

総じて、このグラフは当講座が高い研究成果を持続的に生み出し、その成果を英文論文として発表し続けていることを示しており、国際的な麻酔科学の進展に大きく寄与していると言えるでしょう。

論文引用数の推移（編）



このグラフは、2009年から2024年にかけて、私が教授に就任してから執筆あるいは指導した論文の引用数の年次推移を示しています。とくに2015年以降、引用数が急増しており、研究成果が着実に評価され、学術的な影響力が急速に高まっていることが伺えます。2016年から2020年にかけて、引用数は毎年安定した成長を見せ、2021年と2022年にはとくに顕著なピークを迎えています。これは、私が指導した研究が国内外で多くの研究者に引用され、分野の発展に大きく寄与していることを示しています。

このような学術的実績が高く評価され、全国規模の学会を数多く主催する機会を得るに至りました。とくに、研究の質の高さや指導力が認められた結果として、重要な学会の開催を通じて国内の医学・科学の発展に貢献する役割を果たすことができています。こうした学会の主催は、研究のみならず、学術界におけるリーダーシップとコミュニティ形成にも重要な役割を果たしていると感じています。

この実績は、これまでの努力と継続的な研究活動の成果であり、今後も引き続き、新たな研究分野を切り開き、より多くの学術的貢献ができるよう努めてまいります。

2009

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologists. New Orleans, USA. Oct. 17-21, 2009.

- ◆ Yamakage M, Satoh J-I, Kobayashi T, Watanabe H : Desflurane but not sevoflurane can increase lung resistance via tachykinin pathways.
- ◆ Yamakage M, Satoh J-I : Desflurane induces airway contraction by activating transient receptor potential A1 of sensory C-fibers.
- ◆ Yamakage M, Takahashi M, Tachibana N, Takahashi K : Usefulness of Endoflex® endotracheal tube for oral and nasal tracheal intubation.

2010

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologists. San Diego, USA. Oct. 16-20, 2010.

- ◆ Sugimoto R, Nakayama Y, Nawa Y, Orimo K, Yamakage M : Administration of landiolol decreases the incidence of atrial fibrillation after lung lobectomy.
- ◆ Kii N, Yamauchi M, Yamakage M : Minimum ropivacaine concentration for axillary block with preservation of motor function.
- ◆ Hayase T, Sugino S, Higuchi M, Kumeta Y, Yamakage M : Haplotypes in human mu-opioid gene associated with postoperative nausea and vomiting.
- ◆ Hayase T, Sawada A, Watanabe A, Yamakage M : Differences in related substances of original and generic sevoflurane products in clinical practice.
- ◆ Yoshikawa Y, Sawada A, Yamakage M : Efficacy of glucose infusion for muscle protein and fat tissue breakdown during abdominal surgery.
- ◆ Sawada A, Kii N, Yoshikawa Y, Yamakage M : Epidrum® : a new device to identify the epidural space while performing epidural anesthesia.
- ◆ Zhou J, Iwasaki S, Yamakage M : Synergic bronchodilator effects of PDE3 inhibitors with sevoflurane in asthmatic guinea pigs.
- ◆ Yamauchi M, Niiya T, Urahama S, Yamakage M : Effects of automated intermittent bolus administration for supraclavicular brachial plexus block.
- ◆ Urahama S, Yamauchi M, Niiya T, Yamakage M : Effects of ropivacaine concentration and dose on continuous supraclavicular brachial plexus block.
- ◆ Kiya T, Kawamata T, Yamakage M : Role of L-serine in the dorsal root ganglion in chemotherapy-induced peripheral neuropathy.
- ◆ Narimatsu E, Niiya T, Kawamata T, Kawamata M, Yamakage M : Effects of atropine and pralidoxime on neuronal actions of paraoxon in rat hippocampal slices.

2011

3rd World Congress of Total Intravenous Anaesthesia & Target Controlled Infusion. Singapore. Mar. 31-Apr. 2, 2011

- ◆ Nakayama Y, Yamakage M : Comparative study of hemodynamic changes during double lumen tube intubation between fentanyl/propofol/rocuronium and remifentanyl/propofol/rocuronium anesthesia

14th Eurosiva annual scientific meeting. Amsterdam, the Netherlands. Jun. 10, 2011

- ◆ Sugino S, Hayase T, Kimijima T, Higuchi M, Tachibana S, Nakayama Y, Yamauchi M, Kumeta Y, Yamakage M : Involvement of intravenous fentanyl concentration in the incidence of nausea and vomiting in patients that received epidural fentanyl : LC-MS/MS analysis

Euroanaesthesia 2011 Congress. Amsterdam, the Netherlands. Jun. 11-14, 2011

- ◆ Kimijima T, Sugino S, Miyashita R, Masuda Y, Imaizumi Y, Yamakage M : Changes in motor-evoked potentials do not reflect spinal cord ischemia in thoracoabdominal aortic aneurysm surgery with deep hypothermic circulatory arrest

30th Annual ESRA Congress 2011. Dresden, Germany. Sep. 7-10, 2011

- ◆ Gi E-W, Kikuchi C, Shimizu H, Suzuki T, Yamauchi M, Yamakage M : Combination of femoral nerve block and periarticular infiltration analgesia for post-TKA pain : an alternative method to sciatic nerve block?

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologists. Chicago, USA. Oct. 15-19, 2011

- ◆ Miyashita R, Sugino S, Niiyama Y, Mimura M, Yamakage M : Improved noninvasive total hemoglobin measurements after in vivo adjustment (Oral presentation)
- ◆ Miyashita R, Sugino S, Tanabe M, Mimura M, Yamakage M : Accuracy of noninvasive total hemoglobin measurement after acute normovolemic hemodilution in urological surgical patient
- ◆ Ishioka Y, Hayase T, Sugino S, Takahashi K, Yamakage M : Accuracy of recording auditory evoked potentials from the nose and mandible to monitor awareness
- ◆ Hayase T, Sugino S, Tachibana S, Satoh M, Yamakage M : Genetic variation in human TACRI gene is associated with postoperative nausea and vomiting
- ◆ Tachibana S, Sugino S, Ishioka Y, Hayase T, Yamakage M : Performance of a novel portable epoc™ analyzer for arterial blood gas testing
- ◆ Tachibana S, Hayase T, Sugino S, Kumeta Y, Yamakage M : Incidence of emesis after epidural infusion of fentanyl/ropivacaine did not depend on the blood concentration measured by using LC-MS/MS analysis
- ◆ Takahashi K, Yamauchi M, Kii N, Niiya T, Yamakage M : Minimum lidocaine concentration for axillary nerve block with preservation of motor function
- ◆ Kimura Y, Sumita S, Namba H, Yamakage M : The risk factor of pneumonia in patients underwent therapeutic hypothermia after out-of-hospital cardiac arrest
- ◆ Zhou J, Iwasaki S, Yamauchi M, Yamakage M : Synergic bronchodilator effects of the PDE4 inhibitor rolipram with the volatile anesthetic sevoflurane in guinea pigs
- ◆ Zhou J, Iwasaki S, Yamauchi M, Yamakage M : Different volatile anesthetics have different bronchodilator effects in ovalbumin-sensitized guinea pigs
- ◆ Takada Y, Yamauchi M, Yamakage M : Effects of patient-controlled regional analgesia of supraclavicular BPB for shoulder surgery
- ◆ Narimatsu E, Takahashi K, Takada Y, Niiya T, Yamauchi M, Yamakage M : Influence of cholinesterase inhibition on glutamate-induced neuronal damage in rat hippocampal slices
- ◆ Yoshida S, Tatsumi H, Masuda Y, Imaizumi H, Nawa Y, Goto K, Warabi R, Asai Y, Yamakage M : Elevated serum D-lactate is associated with intestinal ischemia in rats
- ◆ Sawada A, Miyashita M, Yamauchi M, Yamakage M : Effects of modified ultrafiltration on hemodynamic function and transfusion requirements after cardiopulmonary bypass in adults
- ◆ Mizukami N, Yamauchi M, Takahashi M, Watanabe A, Yamakage M : Clinical study on the efficacy of olanzapine for prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting (CINV)
- ◆ Takahashi K, Niiya T, Narimatsu E, Yamakage M : Interaction between sugammadex and rocuronium in the septic rat diaphragm

2012

Euroanaesthesia 2012 Congress. Paris, France. Jun. 09-12, 2012

- ◆ Mizukami N, Watanabe A, Yamauchi M, Koike N, Yamakage M : Relationships between the incidence of delirium and the initiating factor of palliative medicines in cancer patients
- ◆ Yoshida S-I, Imaizumi H, Masuda Y, Kimijima T, Yamakage M : A comparison of the differences in management of massive haemorrhage in cardiovascular and non-cardiovascular surgery - a retrospective study
- ◆ Maruyama D, Yamauchi M, Omote Y, Hirata N, Yamakage M : Movement of tracheal tube as a result of head rotation and tube tip fixation : a Thiel-embalmed cadaver study
- ◆ Mizuguchi A, Sumikawa H, Abe N, Suzuki Y, Yamauchi M, Yamakage M : Perifix® ONE catheter decreased the ratio of intravenous migration during epidural catheterization in labor analgesia

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologists. Washington, D.C., USA. Oct. 13-17, 2012

- ◆ Sawada A, Niiyama Y, Yamakage M : The migration of bone marrow-derived microglia into the central nucleus of amygdala of neuropathic pain model following peripheral nerve injury (Oral presentation)
- ◆ Gi E, Yamauchi M, Kikuchi C, Shimizu H, Suzuki T, Yamakage M : What is the ideal location of the femoral catheter? - Radiographic and clinical analysis of femoral nerve block for lower leg surgery (Oral presentation)
- ◆ Takada M, Edanaga M, Yamakage M : Comparison of the usefulness of Airway Scope®, GlideScope® with conventional Macintosh laryngoscope in lateral positions : a mannequin study
- ◆ Akatsuka M, Tokinaga Y, Yamakage M : The effect of desflurane on angiotensin II-induced vasoconstriction
- ◆ Tokinaga Y, Akatsuka M, Takada Y, Yamakage M : Polysialic acid is involved in the endothelial dependent vasodilation
- ◆ Murouchi T, Yamauchi M, Gi E, Takada Y, Fujimiya M, Yamakage M : Ultrasound-guided subcostal midaxillary transverses abdominis plane block : Thiel human cadaver study for the adequate volume of injectate
- ◆ Iwasaki S, Chaki T, Zhou J, Yamauchi M, Yamakage M : Preoperative oral rehydration therapy in gynecological procedure has the effects of metabolic and hemodynamic stability
- ◆ Uchiyama Y, Takada Y, Edanaga M, Yamakage M : Comparison between two spiral-wound tracheal tubes in Airway Scope? assisted tracheal intubation
- ◆ Kimijima T, Masuda Y, Imaizumi H, Tatsumi H, Kyan R, Goto K, Yamakage M : Hypogammaglobulinemia is associated with mortality in patients with severe sepsis and septic shock

- ◆ Mizukami N, Watanabe A, Yamauchi M, Koike N, Yamakage M : Relationships between the incidence of delirium and the initiating factor of palliative medicines in cancer patients
- ◆ Mizukami N, Watanabe A, Yamauchi M, Koike N, Yamakage M : Multivariate analysis of correlations between incidence of delirium and delirium-initiating factors in advanced cancer patients in a palliative care unit
- ◆ Mizukami N, Watanabe A, Yamauchi M, Koike N, Yamakage M : Evaluations of mucositis pain and opioid consumption in head and neck cancer patients receiving chemoradiation therapy
- ◆ Miyashita R, Hirata N, Maruyama D, Kawaguchi R, Niiya T, Yamakage M : Lipid emulsion can preserve cardiac function of intact and ischemia-reperfused isolated rat hearts via mitochondrial activation
- ◆ Kawashima N, Iwasaki S, Yamauchi M, Yamakage M : Changes in cause of cardiac arrest in operating rooms at university teaching hospital : three decades survey of 124,165 patients
- ◆ Hayase T, Sugino S, Tachibana S, Kumeta Y, Yamakage M : Haptotypes in human TACRI gene are associated with postoperative nausea and vomiting
- ◆ Kimura Y, Sumita S, Kimura S, Yamauchi M, Yamakage M : Hypokalemia in patients with aneurysmal subarachnoid hemorrhage in accompanied by elevated serum sodium level
- ◆ Ohtsuki I, Sato J-I, Arakawa J, Yamauchi M, Yamakage M : The risk factor for postoperative brain stroke; brain CT imaging study
- ◆ Koizumi T, Higuchi M, Kawagishi T, Kimizuka M, Hirata N, Yamakage M : Airway scope™ assists insertion of nasogastric tube in anesthetized and intubated patients : a prospective randomized clinical study
- ◆ Hirata N, Maruyama D, Miyashita R, Kawaguchi R, Shimizu H, Yamakage M : Heart rate variability during abdominal surgical manipulation under general anesthesia
- ◆ Yoshida S-I, Masuda Y, Imaizumi H, Takahashi K, Kimijima T, Tatsumi H, Goto K, Kyan R, Yasui H, Yamakage M : Relationship between outcome and organ failure in patients with a hematological malignancy needing intensive care
- ◆ Tachibana N, Niiyama Y, Yamakage M : A fiberoptic laryngoscope reduces postoperative sore throat : In a double-blinded, randomized, controlled study
- ◆ Takahashi K, Yamauchi M, Wada T, Sekine R, Yamakage M : Comparison between brachial plexus block and local infiltration analgesia for postoperative status in elbow arthroscopy
- ◆ Takahashi K, Niiya T, Yamauchi M, Narimatsu E, Yamakage M : Comparison of local anesthetic agents for phrenic nerve paralysis : A study in rat phrenic nerve-diaphragm preparation
- ◆ Sawada A, Niiyama Y, Omote M, Yamakage M : The efficacy of ultrasound-guided caudal epidural block compared with spinal block for transrectal prostate needle biopsy
- ◆ Narimatsu E, Takada Y, Takahashi K, Niiya T, Yamauchi M, Yamakage M : Influence of adenosine on glutamate-induced neuronal damage in rat hippocampal slices
- ◆ Iwasaki S, Zhou J, Yamauchi M, Yamakage M : Different effects of desflurane and sevoflurane on airway smooth muscle tension of ovalbumin-sensitized guinea pigs
- ◆ Kawaguchi R, Sugino S, Hirata N, Suzuki N, Yamakage M : Predictors of occurrence of postoperative vomiting in children with microtia
- ◆ Sasaki H, Yamauchi M, Yamakage M : Comparison of penetration force of various types of needles for central venous catheterization
- ◆ Tanabe M, Edanaga M, Miyashita R, Yamakage M : Brachial plexus block under radiographic monitoring speeds execution as compared with ultrasound-guided supraclavicular block
- ◆ Chaki T, Edanaga M, Ohsuda M, Tanabe M, Yamakage M : The effect of continuous patient-controlled epidural analgesia by radiographic monitoring on postoperative urinary retention
- ◆ Chaki T, Sugino S, Ishioka Y, Yamashita-Kaneuchi M, Yamakage M : Efficacy and safety of mixture of lidocaine and ropivacaine for scalp block in patients undergoing awake surgery
- ◆ Maruyama D, Hirata N, Miyashita R, Kawaguchi R, Yamakage M : In vitro ischemia and reperfusion injury can modulate isolated-mitochondrial oxidative phosphorylation substrates-dependency
- ◆ Tachibana N, Niiyama Y, Yamakage M : Incidence of cannot intubate-cannot ventilate (CICV) : results of a 2-year retrospective multicenter clinical survey in Japan
- ◆ Tachibana S, Hayase T, Sugino S, Sonoda H, Yamakage M : Quality improvement in generic sevoflurane product using gas chromatography
- ◆ Hayashi H, Sugino S, Hayase T, Nawa Y, Yamakage M : Involvement of HTR3C gene polymorphism in postoperative pain in lower abdominal surgery
- ◆ Hayashi H, Sugino S, Hayase T, Nawa Y, Yamakage M : CHRM3 gene polymorphism is associated with postoperative nausea and vomiting in Japanese population
- ◆ Kimizuka M, Koizumi T, Sugimoto R, Kii N, Kawaguchi T, Tsujiguchi N, Yamauchi M, Yamakage M : Minimum ropivacaine concentration for transversus abdominis plane block to treat postoperative pain after inguinal hernia surgery
- ◆ Akatsuka M, Yoshida S-I, Imaizumi H, Masuda Y, Yamakage M : Incidence and characteristics of unanticipated admission to intensive care unit from general wards after surgery

2013

The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFOOS). Bangkok, Thailand. Feb. 21-22, 2013

- ◆ Shindo Y, Yamauchi M, Yamakage M : Living with post herpetic neuralgia : Experience of elderly Japanese

Euroanaesthesia 2013 Congress. Barcelona, Spain. Jun. 01-04, 2013

- ◆ Takahashi K, Tokinaga Y, Niiya T, Takahashi M, Kanno M, Yamakage M : Anew method to reduce gas leak during mask ventilation in patients with a gastric tube
- ◆ Mizuguchi A, Yamauchi M, Edanaga M, Yamakage M : Ultrasound-guided obturator nerve block : effects and spread of distal interfascial injection

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologists. San Francisco, USA. Oct. 12-16, 2013

- ◆ Sawada A, Niiyama Y, Yamakage M : Bone marrow-derived microglia that express IL-1beta might cause negative emotions induced by neuropathic pain (Poster discussion)
- ◆ Kazuma S, Hayase T, Osuda M, Sugino S, Yamakage M : Recovery of postoperative cognitive function in elderly patients after a long duration of desflurane anesthesia (Poster discussion)
- ◆ Yoshikawa Y, Nawa Y, Hirata N, Yamakage M : Impact of anesthetic dosage on the duration of postoperative mechanical ventilation after pediatric congenital heart disease surgery (Poster discussion)
- ◆ Iwasaki S, Sugime F, Yamakage M : Not only intraperitoneal, but also oral administration of L-serine improved paclitaxel-induced mechanical allodynia/hyperalgesia in a preclinical rat model
- ◆ Maruyama D, Chaki T, Omote M, Hirata N, Yamauchi M, Yamakage M : Movements of double-lumen endotracheal tube as results of head rotation, tube fixation and lateral position : A Thiel-embalmed cadaver study.
- ◆ Zhou J, Iwasaki S, Yamakage M : Phosphodiesterase 4 inhibitor roflumilast improves the bronchodilative effect of sevoflurane in sensitized airway
- ◆ Hirata N, Maruyama D, Chaki T, Yamakage M : What is the appropriate concentration of desflurane for prevention of awareness during anesthesia and reliable recovery from anesthesia in clinical practice?
- ◆ Iwasaki S, Chaki T, Sugime F, Jing Z, Yamakage M : End-tidal control anesthesia-adopted minimum fresh gas flow is superior to manual control, 2 liter, low-flow both sevoflurane and desflurane anesthesia in clinical practice
- ◆ Chaki T, Hirata N, Maruyama D, Yamakage M : Analysis of hemodynamic changes using LiDCORapidTM in patients undergoing giant ovarian tumor resection
- ◆ Sugino S, Hayase T, Higuchi M, Nawa Y, Kumeta Y, Yamakage M : Oprm1 gene polymorphism reduces DNA methylation at the upstream CpG island in male patients
- ◆ Takahashi K, Yamauchi M, Niiya T, Yamakage M : Minimum levobupivacaine required to block axillary nerves while preserving motor function
- ◆ Tachibana N, Niiyama Y, Yamakage M : Evaluation of bias for blood concentrations of propofol during TCI in Japanese obese patients
- ◆ Maruyama D, Hirata N, Miyashita R, Kawaguchi R, Yamakage M : Nitrite attenuates ischemia-induced ventricular arrhythmias by reduction to nitric oxide in rats
- ◆ Namba Y, Yamakage M : Spinal anesthesia for lower extremity surgery in geriatric patients : minimum dose requirement of 0.2% hypobaric or hyperbaric bupivacaine
- ◆ Koizumi T, Hirata N, Maruyama D, Yamakage M : Sugammadex has changed use of rocuronium and criteria in administration of antagonists of neuromuscular blocking agents
- ◆ Kawaguchi R, Hirata N, Miyashita R, Maruyama D, Yamakage M : Nitrite attenuates sepsis-induced cardiac dysfunction in acute severe septic rats
- ◆ Tachibana N, Yamauchi M, Yamakage M : Relationship between serum carbamazepine concentration and degree of satisfaction in patients with neuropathic pain
- ◆ Kunigoh T, Nishikawa K, Tonosaki T, Tsuchiya S, Shimodate Y, Yamakage M : A comparison of the Airtraq? alone for tracheal intubation in surgical patients
- ◆ Gi E, Sasaki H, Yamauchi M, Yamakage M : Contrast-enhanced ultrasound with perflubutane microbubble for femoral nerve block ? human cadaver study-
- ◆ Takahashi K, Niiya T, Takada Y, Narimatsu E, Yamakage M : Prospective analysis sugammadex in 9 patients with myasthenia gravis
- ◆ Niiyama Y, Yamakage M : The efficacy of new disposable IV-PCA pump with fentanyl for the management after laparoscopic colectomy
- ◆ Sasaki H, Yamauchi M, Sugime F, Iwasaki S, Yamakage M : A central venous catheterization needle with lower penetration force facilitates prevention of posterior venous wall puncture
- ◆ Tokinaga Y, Takada Y, Hayashi S, Akatsuka M, Yamakage M : Mechanism of the inhibitory effect of desflurane on angiotensin II-induced vasoconstriction

2014

16th Eurosiva annual scientific meeting. Stockholm, Sweden. May 30, 2014

- ◆ Tachibana N, Niiyama Y, Mimura M, Yamasawa Y, Yamakage M : Evaluation of bias for predicted and measured concentrations of propofol during target-controlled infusion in Japanese obese patients

Euroanaesthesia 2014 Congress. Stockholm, Sweden. May 31-Jun. 03, 2014

- ◆ Sasaki H, Yamauchi M, Gi E, Niiya T, Yamakage M : Usefulness of contrast-enhanced ultrasonography for peripheral nerve block

33rd Annual ESRA Congress 2014. Seville, Spain. Sep. 3-6, 2014

- ◆ Murouchi T, Iwasaki S, Fujimiya M, Yamakage M : Compound imaging technology and echogenic needles : A comparison study in pork phantom and Thiel-embalmed cadavers
- ◆ Mimura M, Goda Y, Miyamoto N, Asano S, Tachibana N, Yamasawa Y, Hazama K, Oda H, Yamakage M : Inferior mesenteric plexus block for low back pain in patients with retroperitoneal fibrosis : a report of two cases

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologists. New Orleans, USA. Oct. 11-15, 2014

- ◆ Sawada A, Niiyama Y, Yamakage M : A CCR2 antagonist suppresses the infiltration of bone marrow-derived microglia into the central nervous system and reverses anxiety-like behavior as well as hypersensitivity induced by chronic neuropathic pain (Special Meetings and Events; Best Abstracts - Basic Science)
- ◆ Kawaguchi R, Hirata N, Miyashita R, Maruyama D, Yoshikawa Y, Yamakage M : Nitrite protects cardiac mitochondrial function without detrimental effect in septic rats (Oral presentation)
- ◆ Sawada A, Niiyama Y, Yamakage M : An IL-1 receptor antagonist improves the anxiety-like behavior induced by neuropathic pain via the blockade of phosphorylation of NMDA receptors on neurons in the amygdala (Poster discussion)
- ◆ Akatsuka M, Yamamoto S, Ichinose H, Yamakage M : Investigation of clinical variables in unexpected readmission to the intensive care unit (Poster discussion)
- ◆ Yoshikawa Y, Hirata N, Kawaguchi R, Miyashita R, Maruyama D, Yamakage M : Direct cardioprotective effect of dexmedetomidine against global ischemia/reperfusion injury in rat heart (Poster discussion)
- ◆ Murouchi T, Iwasaki S, Yamakage M : Ultrasound-guided rectus sheath block : Thiel-embalmed human cadaveric study for spread of injectate (Poster discussion)
- ◆ Namba Y, Yamakage M : Dilution and incremental administration of hypobaric local anesthetic solution reduces the severity of side effects : Spinal anesthesia for lower extremity surgery in geriatric patients
- ◆ Sawada A, Kamada Y, Hayashi H, Ichinose H, Sumita S, Yamakage M : The effect of intraoperative glucose infusion on the catabolism of fat tissue and muscle protein during remifentanyl anesthesia : a randomized controlled multicenter trial
- ◆ Kazuma S, Tokinaga Y, Takada Y, Hayashi S, Yamakage M : Desflurane as well as sevoflurane inhibits endothelium-dependent vasodilation by different mechanism
- ◆ Tachibana S, Maruyama D, Hirata N, Yamakage M : Desflurane preserves blood pressure during anesthetic induction compared to sevoflurane due to differential effects on autonomic nervous system evaluated by heart rate variability
- ◆ Sugime F, Iwasaki S, Tachibana N, Hayashi S, Watanabe A, Yamakage M : Metabolic and hemodynamic stability during awake craniotomy without opioids : retrospective study in a single center
- ◆ Sasaki H, Niiya T, Yamakage M : Comparison of two intraosseous access devices : Successful rate and explanation for failures by novice users
- ◆ Kazuma S, Masuda Y, Tatsumi H, Goto K, Takahashi K, Imaizumi H, Yamakage M : Is TRALI not a severe form of acute lung injury? Evaluation of the clinical features of transfusion-related acute lung injury (TRALI) in an intensive care unit
- ◆ Kimura Y, Sumita S, Yamakage M : Investigation of the organ types under the two chest compression points in cadaver patients
- ◆ Takahashi K, Niiya T, Narimatsu E, Yamakage M : Train of four ratios can not reflect strength in severe myasthenia gravis : An in vitro study in the rat model of experimental autoimmune myasthenia gravis
- ◆ Hayase T, Sugino S, Tachibana S-S, Yamakage M : TACRI gene polymorphism is associated with gender difference in postoperative nausea and vomiting
- ◆ Niiya T, Takahashi K, Takada Y, Narimatsu E, Yamakage M : Severity of myasthenia gravis influences the reversal effect of neostigmine on rocuronium-induced muscle relaxation in vitro
- ◆ Omote M, Sasaki H, Niiya T, Yamakage M : Simulation study for accidental withdrawal of adult and child central venous catheters
- ◆ Watanabe A, Edanaga M, Ichinose H, Yamakage M : Comparison of the usefulness of Air-Q? and the i-gel? for airway management under general anesthesia
- ◆ Hirata N, Miyashita R, Maruyama D, Kawaguchi R, Yoshikawa Y, Yamakage M : Lipid emulsion modulates mitochondrial oxidative phosphorylation and reactive oxygen species substrate-dependently : Implications for cardioprotective effect of lipid emulsion
- ◆ Maruyama D, Hirata N, Miyashita R, Kawaguchi R, Yoshikawa Y, Yamakage M : Nitrite reduces ischemia-induced ventricular arrhythmias via preservation of connexin 43 protein in rats
- ◆ Tokinaga Y, Takada Y, Hayashi S, Kazuma S, Yamakage M : Effect of propofol on vessel tone after cooling and rewarming and its mechanism
- ◆ Hayase T, Sugino S, Tachibana S-S, Yamakage M : Estradiol enhances female pica behavior through TACRI expression in the caudate putamen
- ◆ Niiyama Y, Yamakage M : The efficacy of continuous wound infiltration with 0.2% ropivacaine for postoperative pain management after microtia reconstructive surgery compared with the single intercostal nerve block with 0.75% ropivacaine : a randomized, controlled study
- ◆ Sasaki H, Yamauchi M, Ninomiya T, Niiya T, Yamakage M : Usefulness and safety of contrast-enhanced ultrasonography with Sonazoid? for peripheral nerve block
- ◆ Zhou J, Iwasaki S, Zhao P, Yamakage M : Effects of desflurane on the cAMP concentration in sensitized airway smooth muscle

44th Critical Care Congress. Phoenix, USA. Jan. 17-21, 2015

- ◆ Akatsuka M, Yamamoto S, Ichinose H, Yamakage M : Evaluation of severity by five scoring systems in critically ill patients

IARS 2015 Annual Meeting and International Science Symposium. Honolulu, Hawaii, USA. March 21-24, 2015

- ◆ Tachibana S, Hirata N, Yamakage M : Evaluation of a newly developed monitor of deep body temperature

Euroanaesthesia 2015 Congress. Berlin, Germany. May 30-Jun. 02, 2015

- ◆ Takahashi S, Miyamoto N, Nakayama Y, Mimura M, Mizuguchi A, Yamakage M : Our experience with temporal measurement of changes in cardiac output using a non-invasive cardiac output measurement device during epidural analgesia during labor in a pregnant woman with congenital heart disease : a case report
- ◆ Takahashi S, Nakayama Y, Yamasawa Y, Yamakage M : Usefulness of the new model Airway Scope in simulated difficult airway scenarios ? Comparison with Airtraq and Macintosh laryngoscope ?
- ◆ Takahashi S, Miyamoto N, Nakayama Y, Mimura M, Mizuguchi A, Yamakage M : Our experience with temporal measurement of changes in cardiac output using a non-invasive cardiac output measurement device during epidural analgesia during labor in a pregnant woman with congenital heart disease : a case report

The 2nd Conference of Asia-Pacific Chapter of Extracorporeal Life Support Organization (APELSO2015). Kyoto, Japan. Jul. 17-19, 2015

- ◆ Kazuma S, Imaizumi H, Masuda Y, Tatsumi H, Takahashi K, Goto K, Murouchi T, Yoshida S, Katayama Y, Yamakage M : A successful case of using extracorporeal membrane oxygenation following percutaneous cardiopulmonary support against cardiopulmonary arrest due to extreme airway obstruction by massive hemoptosis

34th Annual ESRA Congress 2015. Ljubljana, Slovenia. Sep. 02-05, 2015

- ◆ Murouchi T, Tanaka T, Igarashi Y, Hirata N, Iwasaki S, Yamakage M : Case report : safe and satisfactory perioperative management of wide resection of proximal humeral tumor with dual continuous peripheral nerve blockades using levobupivacaine

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologists. San Diego, USA. Oct. 24-28, 2015

- ◆ Sawada A, Yamakage M : Infiltration of bone marrow-derived microglia into the spinal cord in neuropathic pain model mice following bone marrow transplantations using busulfan treatments (Oral presentation)
- ◆ Nawa Y, Chaki T, Tamashiro K, Yamakage M : Accuracy of portable capnometer in children (Poster discussion)
- ◆ Yoshikawa Y, Hirata N, Kawaguchi R, Miyashita R, Maruyama D, Yamakage M : Cardioprotective effect of dexmedetomidine against ischemia/reperfusion injury in hypertensive hypertrophied myocardium (Poster discussion)
- ◆ Satoh S, Doi M, Morita K, Takeda J, Sakamoto A, Yamakage M, Suzuki T : Remimazolam a new ultra-short acting anesthetic shows similar efficacy and superior hemodynamic stability vs. propofol in general surgery patients with TIVA : Results of a randomised, non-inferiority, Phase IIb/III trial (Poster Discussion)
- ◆ Iwasaki S, Takahashi K, Niiya T, Sugime F, Yamakage M : Five cases of metal-induced artifacts on MRI imaging after switching to the MRI-compatible Medtronic Sure Scan? System and perioperative techniques
- ◆ Iwasaki S, Hayashi S, Yamakage M : Do molecularly-targeted agents change practice in palliative care? A 10-year, observational, single-center study
- ◆ Chaki T, Hirata N, Nawa Y, Mizuno E, Tamashiro K, Yamakage M : Remifentanyl prevents hyperglycemia and hyperlactatemia during cardiopulmonary bypass in children
- ◆ Kawamukai Y, Kawaguchi R, Hirata N, Yamakage M : Effects of sugammadex on postoperative bleeding in cardiac surgery with cardiopulmonary bypass
- ◆ Sakai W, Yoshikawa Y, Hirata N, Yamakage M : Effect of remifentanyl during cardiopulmonary bypass on hemodynamics and postoperative renal function
- ◆ Kimijima T, Edanaga M, Yamakage M : Comparison of fluid sealing efficacy of endotracheal tube cuff using three-dimensional printed model of the human trachea
- ◆ Igarashi Y, Tachibana S, Yamakage M : Usefulness of the infrared earphone-type thermometer in continuous temperature monitoring for pediatrics during general anesthesia
- ◆ Hayashi H, Koizumi T, Sumita S, Yamakage M : Relative clinical heat transfer effectiveness : forced-air warming vs. conductive fabric electric warming
- ◆ Takahashi K, Niiya T, Narimatsu E, Yamakage M : Severity of myasthenia gravis influences the relationship between TOF ratio and twitch tension, and run-down of rat endplate potentials
- ◆ Kumita S, Tachibana S, Hayase T, Yamakage M : Usefulness of self-genetic testing in malignant hyperthermia patients
- ◆ Kazuma S, Tokinaga Y, Takada Y, Hayashi S, Azumaguchi R, Kimidsuka M, Yamakage M : Both desflurane and sevoflurane inhibit endothelium-dependent vasodilation by different mechanisms
- ◆ Miyashita R, Hirata N, Kawaguchi R, Yoshikawa Y, Yamakage M : Different effects of colloid and crystalloid solutions for fluid resuscitation on hemodynamics and renal function in acute hemorrhagic shock rats
- ◆ Kimizuka M, Takada Y, Tokinaga Y, Hayashi S, Kazuma S, Azumaguchi R, Yamakage M : Effects of propofol and sevoflurane on heating-induced generation of vascular smooth muscle in rats
- ◆ Kazuma S, Tokinaga Y, Takada Y, Hayashi S, Azumaguchi R, Kimidsuka M, Yamakage M : Effect of albumin on the attenuation of endothelium-dependent vasodilation of rat aorta treated by sialidase

- ◆ Murouchi T, Iwasaki S, Yamakage M : Analgesic effects and safety of abdominal compartment block : comparison of quadratus lumborum block, transverse plane block, and rectus sheath block after laparoscopic surgery
- ◆ Akatsuka M, Yamamoto S, Ichinose H, Yamakage M : Comparison of scoring systems for predicting mortality in emergency room patients with pulmonary disease
- ◆ Azumaguchi R, Satoh S, Saitoh N, Tatsumi H, Masuda Y, Yamakage M : Validation of the new biomarker presepsin for diagnosis of sepsis
- ◆ Kumita S, Hirata N, Yamakage M : Pre-anesthetic stroke volume variation correlates to blood pressure variation during anesthetic induction : The efficacy of a non-invasive cardiac output monitor AESCULON mini?
- ◆ Hirata N, Kawamukai Y, Uno A, Yamakage M : Effects of sugammadex on anesthetic management in emergent caesarean section under general anesthesia
- ◆ Takada Y, Narimatsu E, Takahashi K, Niiya T, Yamakage M : Elevation and suppression of paraoxon-induced epileptic activity in rat hippocampus
- ◆ Tanahashi S, Yamamoto A, Edanaga M, Yamakage M : The optimal dose of intravenous dexmedetomidine evaluated by hemodynamics, respiratory rate and sedation degree for sedation under spinal anesthesia
- ◆ Niiyama Y, Yamakage M : Efficacy of the programmed intermittent bolus compared with continuous infusion in combination with patient-controlled epidural analgesia for postoperative pain management after pylorus-preserving pancreaticoduodenectomy
- ◆ Kunigoh T, Murouchi T, Niiya T, Ichinose H, Yamamoto S, Yamakage M : Spread of injectate in serratus plane block : a cadaver study
- ◆ Murouchi T, Iwasaki S, Yamakage M : Comparison of spread of injectate after ultrasound-guided abdominal compartment blockades : Thiel-embalmed human cadaveric study
- ◆ Takada Y, Tokinaga Y, Hayashi S, Kazuma S, Kimizuka M, Azumaguchi R, Yamakage M : Effect of propofol on change of vascular tone during cooling and rewarming and its mechanism in rat
- ◆ Namba Y, Yamakage M : Both dose and concentration affect the intrathecal spread of local anesthetics in geriatric patients
- ◆ Tachibana S, Hayase T, Yamakage M : Possible mechanism of neuroinflammation in the mouse hippocampus using transcriptome analysis
- ◆ Hayase T, Tachibana S, Yamakage M : Prediction of the molecular mechanism of postoperative nausea and vomiting using transcriptome analysis
- ◆ Kikuchi K-I, Hirata N, Yamakage M : Assessing the efficacy of inflationary non-invasive blood pressure monitoring during the induction period of general anesthesia
- ◆
- ◆ American Heart Association Scientific Sessions 2015. Orlando, FL, USA. Nov. 07-11, 2015
- ◆ Kawaguchi R, Hirata N, Yoshikawa Y, Chaki T, Yamakage M : Nitrite ameliorates sepsis-induced myocardial dysfunction via mitochondrial protection

2016

45th Critical Care Congress 2016. Orlando, Florida, USA. Feb. 20-24, 2016

- ◆ Akatsuka M, Yamamoto S, Ichinose H, Yamakage M : Clinical outcomes of extracorporeal membrane oxygenation in patients with severe refractory respiratory failure

IARS 2016 Annual Meeting and International Science Symposium. San Francisco, USA. May 21-24, 2016

- ◆ Akatsuka M, Yamamoto S, Yamakage M : Management of unexpected cardiopulmonary bypass during video-assisted thoracic surgery due to massive hemorrhage

Euroanaesthesia 2016 Congress. London, United Kingdom. May 28-30, 2016

- ◆ Ohno S, Yoshikawa Y, Hirata N, Yamakage M : Comparison of cardiac output measurement using LIDCOrapid™ and pulmonary artery catheters in an Asian population

The 16th World Congress of Anaesthesiologists (WCA 2016). Hong Kong, China. Aug. 28-Sep. 2, 2016

- ◆ Kazuma S, Tokinaga Y, Takada Y, Hayashi S, Yamakage M : Both desflurane and sevoflurane inhibit endothelium-dependent vasoconstriction by different mechanisms
- ◆ Kimizuka M, Tokinaga Y, Yamakage M : Effect of sevoflurane and desflurane on ropivacaine-induced contraction of rat aortic smooth muscle

16th World Congress on Pain (IAPS 2016). Yokohama, Japan. Sep. 26-30, 2016

- ◆ Masuda R, Yamakage M, Tanaka N, Sekiyama H, Gushiken T, Yamaura K, Nakatsuka H : Reporting of adverse events related to pain management : a 3-year survey of the Japan Society of Pain Clinicians Board Certified Training Facilities
- ◆ Shindo Y, Iwasaki S, Mimura M, Niiyama Y, Yamakage M : Opioid therapy in Japanese patients with chronic non-cancer pain and its everyday impact

44th SNACC annual meeting. Chicago, USA. Oct. 20-21, 2016

- ◆ Sawada A, Illum BE, Jian M, Wackerbarth J, Egawa J, Schilling JM, Marsala M, Patel PM, Head BP, Yamakage M : Neuron-targeted caveolin-I delays onset and extends survival in the hSOD1G93A mouse model of amyotrophic lateral sclerosis (Resident Research Travel Award)

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologists. Chicago, USA. Oct. 22-26, 2016

- ◆ Omote M, Tachibana S, Yamakage M : Blood concentrations of propofol predicted by current major pharmacokinetic models are higher in Japanese patients on constant rate infusions (Oral presentation)
- ◆ Kikuchi K-I, Hirata N, Koyanagawa M, Uzduki M, Kawachi S, Yamakage M : Assessing the efficacy of inflationary noninvasive blood pressure technology during the induction period of general anesthesia for patients with arteriosclerosis
- ◆ Namba Y, Yamakage M : Intrathecal spread of local anesthetics is higher in the hypobaric local anesthetic group than in the hyperbaric local anesthetic group under lateral position : Spinal anesthesia for lower extremity surgery in geriatric patients
- ◆ Chida Y, Tachibana S, Wakasugi K, Yamakage M : Usefulness of a non-invasive core temperature monitoring system Temple Touch Pro™ during general anesthesia
- ◆ Tanaka T, Hayase T, Chaki T, Tachibana S, Omote M, Yamakage M : Analysis of cause of failure regarding 103 cases of awake craniotomy
- ◆ Hashimoto Y, Chaki T, Yoshikawa Y, Tokinaga Y, Hirata N, Yamakage M : Video glass reduces preoperative anxiety compared with DVD player in pediatric anesthesia
- ◆ Sawada A, Illum BE, Jian M, Wackerbarth J, Egawa J, Schilling JM, Marsala M, Patel PM, Head BP, Yamakage M : Neuron-targeted caveolin-I delays onset and extends survival in the hSOD1G93A mouse model of amyotrophic lateral sclerosis
- ◆ Hirata N, Chaki T, Yamakage M : Oxygen reserve index provides a safer airway management during awake fiberoptic intubation and rapid sequence intubation : Case Series
- ◆ Yoshikawa Y, Hirata N, Nawa Y, Sugai H, Yamakage M : Oropharyngeal leak pressure of i-gel™ improves after insertion in pediatric patients
- ◆ Nishihara N, Kawaguchi R, Kumita S, Edanaga M, Yamakage M : Point-of-care monitoring Sonoclot? reduced the amount of intraoperative fresh frozen plasma administration in cardiac surgery under cardiopulmonary bypass
- ◆ Hoshi T, Edanaga M, Kawaguchi R, Yamakage M : Blood clotting function and platelet function monitoring by Sonoclot® at the operation day after discontinuation of antiplatelet and anticoagulant
- ◆ Akatsuka M, Yamamoto S, Yamakage M : Clinical characteristics and outcomes of the patients aged 90 years and over with surgery
- ◆ Kimijima T, Edanaga M, Yamakage M : Laryngeal mucosal pressure exerted by i-gel™ : an experimental study in Japanese human cadavers
- ◆ Kimijima T, Edanaga M, Hayashi S, Yamakage M : Relationship between intracuff pressure of the endotracheal tube and exerted pressure on the inner tracheal wall
- ◆ Hirata N, Chaki T, Yamakage M : Pre- and intra-operative adrenergic blockades have less effects on adrenergic responses during surgical manipulation of pheochromocytoma
- ◆ Niiyama Y, Yamakage M : Efficacy of continuous paravertebral block with the lamina technique for postoperative pain management after microtia reconstructive surgery with surgery compared with single intercostal nerve block with 0.75% ropivacaine (retraction)
- ◆ Iwasaki S, Yamakage M : Comparison of blind intubation through i-gel™ and through air-QTM with different types of tracheal tube (Parker Flex-Tip™ tracheal tube and standard tube) : a manikin study

2017

37th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine. Brussels, Belgium. Mar. 21-24, 2017

- ◆ Akatsuka M, Arakawa J, Yamakage M : Clinical manifestations and diagnosis of the patients with cerebral venous thrombosis : retrospective study and literature review

Euroanaesthesia 2017 Congress. Geneva, Switzerland. June 03-05, 2017

- ◆ Kimizuka M, Tokinaga Y, Hayashi S, Azumaguchi R, Yamakage M : Influence of Propofol and dexmedetomidine on oxytocin-induced contractions of isolated pregnant rat myometrium
- ◆ Omote M, Tachibana S, Hayase T, Yamakage M : Establishment of protocol for measurement of serum concentration of local anesthetic levobupivacaine in patients undergoing awake craniotomy

The International Society on Thrombosis and Haemostasis (ISTH™) 2017 Congress. Berlin, Germany. July 08-13, 2017

- ◆ Azumaguchi T, Tokinaga Y, Kimizuka M, Kazuma S, Hayashi S, Yamakage M : Validation of hemostatic impairment induced by hydroxyethyl starch in vivo

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologists. Boston, USA. Oct. 21-25, 2017

- ◆ Sawada A, Kumeta Y, Tanaka S, Uzaki M, Yamasawa Y, Kamada Y, Tsujiguchi N, Sumita S, Yamakage M : Association of 6% hydroxyethyl starch 130/0.4 with acute kidney injury in surgical patients in the postoperative period : a multicenter retrospective study (Oral presentation)
- ◆ Yoshikawa Y, Hirata N, Kawaguchi R, Tokinaga Y, Chaki T, Yamakage M : Dexmedetomidine maintains its direct cardioprotective effect against ischemia/reperfusion injury in hypertensive hypertrophied myocardium

- ◆ Hirata N, Chaki T, Yamakage M : Oxygen reserve index correlates to end-tidal oxygen concentration during oxygenation via a tight-fitted face mask
- ◆ Kawaguchi R, Hirata N, Yamakage M : Nitrite ameliorates septic myocardial dysfunction via mitochondrial protection
- ◆ Tachibana S, Omote M, Yamakage M (CTS group in Japan) : The equivalent performance between CE-Thermo? and CoreTemp? during general anesthesia ? multicenter observational study in Japan
- ◆ Matsumoto T, Osuda M, Edanaga M, Yamamoto A, Ihara S, Tanaka S, Yamakage M : Comparison of Mill SusTM-guided radial artery catheterization with the long-axis ultrasound-guided method
- ◆ Kumita S, Murouchi T, Arakawa J, Yamakage M : Ultrasound-guided maxillary and mandibular nerve blocks for analgesia in gnathoplasty : a case control study
- ◆ Tachibana S, Hayase T, Yamakage M : Effect of surgical insult under sevoflurane exposure on the comprehensive mRNA expression profile of the elderly mouse hippocampus
- ◆ Sakai W, Hirata N, Yamakage M : Angiotensin II receptor blocker reduces the incidence of acute kidney injury after cardiac surgery
- ◆ Hasegawa G, Kawaguchi R, Hirata N, Yamakage M : Differential effects of desflurane and sevoflurane on the amount of fentanyl used during cardiac surgery with cardiopulmonary bypass
- ◆ Omote M, Tachibana S, Yamakage M : A new pharmacokinetic model of propofol in Japanese patients on constant rate infusion
- ◆ Chaki T, Nawa Y, Tamashiro K, Yamakage M : Pain management after atrial septal defect closure with lateral thoracic approach using continuous retrolaminar block
- ◆ Niiyama Y, Yamakage M : Efficacy of continuous paravertebral block with the lamina technique for postoperative pain management after microtia reconstructive surgery with surgery compared with single intercostal nerve block with 0.75% ropivacaine
- ◆ Namba Y, Yamakage M, Yama N : CT (computed tomography) myelogram study of the conus medullaris position : comparison with a cadaver study
- ◆ Hagiwara H, Kazuma S, Wakasugi K, Kubo M, Yamakage M : Comparison of the TOF-Cuff? neuromuscular transmission monitor and TOF-Watch SXTM
- ◆ Takahashi K, Hirata N, Yamakage M : Unexpected acute myocardial infarction just after pancreaticoduodenectomy in a patient without preoperative cardiac risk
- ◆ Igarashi Y, Kumeta Y, Otsuki I, Kiya T, Nakabayashi K, Yamakage M : Acute progressive and miserable infection of Clostridium perfringens : a case report

2018

Euroanaesthesia 2018 Congress. Copenhagen, Denmark. June 02-04, 2018

- ◆ Takahashi K, Yoshikawa Y, Edanaga M, Yamakage M : Analysis of the effect of dexmedetomidine on platelet function with TEG6s? Platelet Mapping? assay in whole blood
- ◆ Tanaka S, Tachibana S, Omote M, Chaki T, Tokinaga Y, Yamakage M : Investigation of awake craniotomy cases for elderly patients using dexmedetomidine : Case series
- ◆ Kimizuka M, Tokinaga Y, Kazuma S, Azumaguchi R, Hamada K, Yamakage M : Influence of anesthetic agents on contractions of pregnant rat myometrium in vivo
- ◆ Tachibana S, Yamakage M : Dexmedetomidine attenuates up-regulation of the Rtn4rl2 gene and restores down-regulation of the Syt I gene induced by sevoflurane/surgery stress in the hippocampus of elderly mice
- ◆ Azumaguchi T, Tokinaga Y, Kimizuka M, Kazuma S, Hamada K, Yamakage M : Usefulness of SonoclotTM for detection of residual effects of antiplatelet agents : a pilot study

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologists. San Francisco, USA. Oct. 13-17, 2018

- ◆ Chaki T, Hirata N, Tokinaga Y, Yoshikawa Y, Kawaguchi R, Yamakage M : Lipid, a solvent of propofol, induces muscle wasting via oxidative stress
- ◆ Nakayama Y, Inagaki Y, Nagato M, Yamasawa Y, Yamakage M : Can a novel double-lumen tube with a movable bronchial cuff reduce the incidence of malposition of the bronchial cuff? ? evaluation of the clinical usefulness
- ◆ Nagato M, Nakayama Y, Yamasawa Y, Yamakage M : Usefulness of a new model Airway Scope for anesthesiologists in simulated difficult airway scenarios ? Comparison with Airtraq and Macintosh laryngoscope ?
- ◆ Saito K, Yoshikawa Y, Edanaga M, Sawashita Y, Yamakage M : Effect of preoperative aortic regurgitation and residual aortic regurgitation after transcatheter aortic valve replacement on left ventricular reverse remodeling
- ◆ Azumaguchi R, Tokinaga Y, Kimizuka M, Kazuma S, Hamada K, Yamakage M : Validation of hemostatic impairment induced by hydroxyethyl starch in vivo
- ◆ Kii N, Hirahata T, Edanaga M, Yamakage M : A randomized trial comparing the incidences of sore throat caused by the LMA ProtectorTM and LMA SupremeTM
- ◆ Kii N, Sawada A, Yamakage M : Dexmedetomidine attenuates isoflurane-induced cognitive dysfunction in mice subjected traumatic brain injury
- ◆ Kimizuka M, Tokinaga Y, Taguchi M, Takahashi K, Yamakage M : The effectiveness of ACCURO (a handheld ultrasound device for epidural anesthesia)
- ◆ Kazuma S, Tokinaga Y, Kimizuka M, Azumaguchi R, Hamada K, Yamakage M : Sevoflurane promotes regeneration of endothelial glycocalyx damaged by oxidative stress by restoring the sialyltransferase, ST6Gal-I

- ◆ Omote M, Tachibana S, Chaki T, Honma H, Yamakage M : Anesthetic challenges for deep brain stimulation having low back pain patient using combination of epidural anesthesia, dexmedetomidine sedation and scalp block
- ◆ Hirata N, Soutome S, Honma H, Yamakage M : Repeated failed extubation after laparoscopic colectomy in the steep Trendelenburg position
- ◆ Sawada A, Kusakai M, Kii N, Tokinaga Y, Hirata N, Yamakage M : Epidural anesthesia combined with sedation by dexmedetomidine for appendectomy in a patient with amyotrophic lateral sclerosis
- ◆ Kumita S, Tachibana S, Ichimiya T, Yamakage M : Continuous rectus sheath block in a patient with postoperative rectus sheath hematoma : a case report

2019

Euroanaesthesia 2019 Congress. Vienna, Austria. June 01-03, 2019

- ◆ Terada H, Hiirata N, Sawashita Y, Yoshikawa Y, Yamakage M : Acute hypobaric hypoxia attenuates myocardial ischemia reperfusion injury in rats
- ◆ Kii N, Sawada A, Yoshikawa Y, Yamakage M : Dexmedetomidine ameliorates isoflurane-induced cognitive dysfunction in mice subjected to chronic brain trauma by attenuating microglial activation
- ◆ Kimizuka M, Tokinaga Y, Kazuma S, Azumaguchi R, Hamada K, Yamakage M : Mechanisms and influence of anaesthetic agents on contractions of the pregnant rat myometrium in vivo
- ◆ Sato S, Kondo M, Edanaga M, Yamakage M : Comparison of the changes in cerebral oxygenation during one-lung ventilation when using propofol with desflurane
- ◆ Sawashita Y, Hirata N, Yoshikawa Y, Terada H, Yamakage M : Limb remote ischemic preconditioning protects against cardiac ischemia and reperfusion injury via modulation of the secretion of desacyl ghrelin in rats
- ◆ Azumaguchi T, Tokinaga Y, Kimizuka M, Kazuma S, Hamada K, Yamakage M : Validation of hemostatic impairment induced by hydroxyethyl starch (HES) in vivo
- ◆ Nakayama Y, Tomoyoshi M, Ino A, Yamakage M : An evaluation of double lumen tube using a rigid video laryngoscope (Airway Scope) in simulated difficult airway scenarios : comparison with Airtraq and Macintosh laryngoscope

The 17th International Congress of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia. Seoul, Korea. June 06-08, 2019

- ◆ Sawashita Y, Hirata N, Yoshikawa Y, Terada H, Yamakage M : Sevoflurane releases deacyl ghrelin for the cardioprotection from ischemia and reperfusion injury

The XXVII Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (ISTH). Melbourne, Australia. July 06-10

- ◆ Azumaguchi R, Tokinaga Y, Kimizuka M, Kazuma S, Hamada K, Yamakage M : Validation of hemostatic impairment induced by hydroxyethyl starch (HES) due to influence on vascular endothelium

Annual ESRA Congress 2019. Bilval, Spain. Sep. 11-14, 2019

- ◆ Sawada A, Sotome S, Kusakai M, Yamakage M : Successful anesthetic management for total mastectomy in a pregnant woman using general anesthesia combined with continuous erector spinae plane block : a case report
- ◆ Kumita S, Ueshima H, Otake H, Yamakage M : A cadaveric study of ultrasound-guided inferior alveolar nerve block

ESICM 32nd Annual Congress. Berlin, Germany. Sep. 28-Oct.02, 2019

- ◆ Akatsuka M, Masuda Y, Tatsumi H, Yamakage M : Intravenous immunoglobulin therapy is associated with favorable outcome in patients with severe infection having a low level of immunoglobulin G

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologists. Orlando, USA. Oct. 19-23, 2019

- ◆ Sawada A, Kii N, Yamakage M : Pregnancy improves neuropathic pain in mice through suppression of microglia in the anterior cingulate cortex (Poster Discussion, Featured abstracts II)
- ◆ Hamada K, Tokinaga Y, Sato T, Azumaguchi R, Kimizuka M, Kazuma S, Yamakage M : Goreisan, a herbal medicine, prevents water movement by inhibiting aquaporin 4 of astrocyte
- ◆ Hirata N, Ngo D-T, Phan P-H, Aina A, Phung TTB, Tuan T-A, Dien T-M, Kawachi S, Nakajima N, Hai L-T, Yamakage M : Preliminary study on recombinant human thrombomodulin for severe pneumonia-induced ARDS complicated with DIC in pediatric patients
- ◆ Sotome S, Sawada A, Yamakage M : Erector spinae plane block versus retrolaminar block for postoperative analgesia after breast cancer surgery
- ◆ Samala KB, Iwasaki S, Takahashi K, Mizukami N, Yamakage M : Emergency Cesarean section in a patient with multidrug hypersensitivity
- ◆ Sato Y, Edanaga M, Yamakage M : Cerebral oxygenation-guided intervention of FIO2 for a patient with interstitial pneumonia during one-lung ventilation
- ◆ Hasegawa G, Yoshikawa Y, Hirata N, Yamakage M : Impaired platelet aggregation in response to ADP in a patient with chronic ITP evaluated by PlateletMapping ADP assay
- ◆ Nishihara N, Tachibana S, Sonoda H, Yamakage M : A patient with myotonic dystrophy diagnosed by sudden respiratory failure ? a case report

- ◆ Yamanaka M, Otsuki I, Edanaga M, Yamakage M : A case of the posterior longitudinal ligament ossification diagnosed after general anesthesia
- ◆ Kii N, Kimizuka M, Yamakage M : Perioperative management of peripartum cardiomyopathy
- ◆ Kumita S, Ueshima H, Otake H, Yamakage M : One case of unexpected mandibular nerve block after ultrasound-guided maxillary nerve block
- ◆ Kimizuka M Kii N, Yamakage M : Spinal anesthesia for multiple sclerosis
- ◆ Iwasaki S, Hamada K, Takahashi K, Takahashi M, Mizukami N, Mizuno E, Yamakage M : Epidural analgesia for the treatment of colic attack with retrocaval ureter in late pregnancy complicated with marginal placenta previa

2020

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologists. Virtual, USA. Oct. 19-23, 2020

- ◆ Ochiai G, Sawada A, Yamakage M : Cervical spine movement in mask ventilation with a new two-handed technique of mandible advancement-mouth opening
- ◆ Kumita S, Sawada A, Yamakage M : Analgesic effect of ultrasound-guided nerve block for endoscopic sinus surgery : a case series.
- ◆ Sato Y, Niiyama Y, Ochiai G, Yamakage M : Continuous epidural infusion of morphine without local anesthetics reduces postoperative pain and improves the quality of recovery compared with morphine IV-PCA for robot-assisted rectal resection.

2021

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologists. Virtual, USA. Oct. 19-23, 2021

- ◆ Sawada A, Yamakage M : Pregnancy improves neuropathic pain in mice via upregulation of delta opioid receptor in anterior cingulate cortex (Best abstract)
- ◆ Yoshinaka A, Tachibana S, Nakajima H, Edanaga M, Yamakage M : Temperature agreement during anesthesia between neck with zero-heat-flux thermometry and esophageal temperature
- ◆ Kikuchi K-I, Kazuma S, Yamakage M : Effects of epidural analgesia and fentanyl-based intravenous analgesia on postoperative inflammation in patients undergoing laparoscopic resection and sigmoidectomy : a retrospective study
- ◆ Sato T, Tokinaga Y, Hamada K, Yamakage M : Effect of remimazolam on angiotensin II-induced vasoconstriction
- ◆ Iwasaki S, Takahashi K, Yamakage M : The preservation of anesthesia records and utilization of big data using blockchain link

2022

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologist. New Orleans, USA. Oct. 22-25, 2022

- ◆ Hasegawa G, Hirata N, Yoshikawa Y, Hamada K, Tanaka S, Kakita A, Yamakage M : Hyperlactatemia is an indicator of acute kidney injury in adult cardiac surgery with cardiopulmonary bypass

2023

Euroanaesthesia 2023 Congress. Glasgow, the United Kingdom. June 03-05, 2023

- ◆ Satoh S, Chaki T, Hirahata T, Aoyama T, Toda T, Yamakage M : Production of in vitro human blood-placental barrier model and verification of remimazolam permeability
- ◆ Hamada K, Tokinaga Y, Sato T, Horiguchi Y, Kimizuka M, Yamakage M : Remimazolam, a benzodiazepine intravenous anesthetic, promotes water transfer in astrocytes

6th World Congress on Regional Anesthesia & Pain Medicine (The 40th ESRA Annual Congress). Paris, France. Sep. 06-09, 2023

- ◆ Kumita S, Chaki T, Sawada A, Yamakage M : Effect of ultrasound-guided maxillary and inferior alveolar nerve block in two-jaw plastic surgery : a single-blinded randomized controlled trial in two centers
- ◆ Muraki M, Kumita S, Yamakage M : Changes in electrical impedance values of the nerve block needle tip during popliteal sciatic nerve : a report of three cases
- ◆ Kii N, Kimizuka M, Someya M, Yamakage M : Successful management of labor epidural analgesia for a nulliparous woman with prior spinal surgery of congenital scoliosis and tibial deficiency

The annual meeting of the American Society of Anesthesiologist. San Francisco, USA. Oct. 13-17, 2023

- ◆ Iwasaki S, Ohmori K, Mizukami N, Morohara S, Yamakage M : Effective and safe switch from oral NSAIDs to a novel diclofenac tape (ZICTHORU®) in a patient with cabozantinib-induced liver injury : consideration of the first pass effect.

- ◆ Nishihara N, Tachibana S, Yamakage M : A novel wireless temperature monitoring device Monipatch can measure the core temperature accuracy

The 67th annual meeting in Taiwan Society of Anesthesiologists. Taichung, Taiwan. Nov. 11.04-05, 2023

- ◆ Yamakage M : Invited lecture 「Optimization of Intraoperative Fluid therapy」

2024

International Conference on Anesthesia Patient Safety (ICAPS) 2024. Tokyo, Japan. Feb. 09-11, 2024

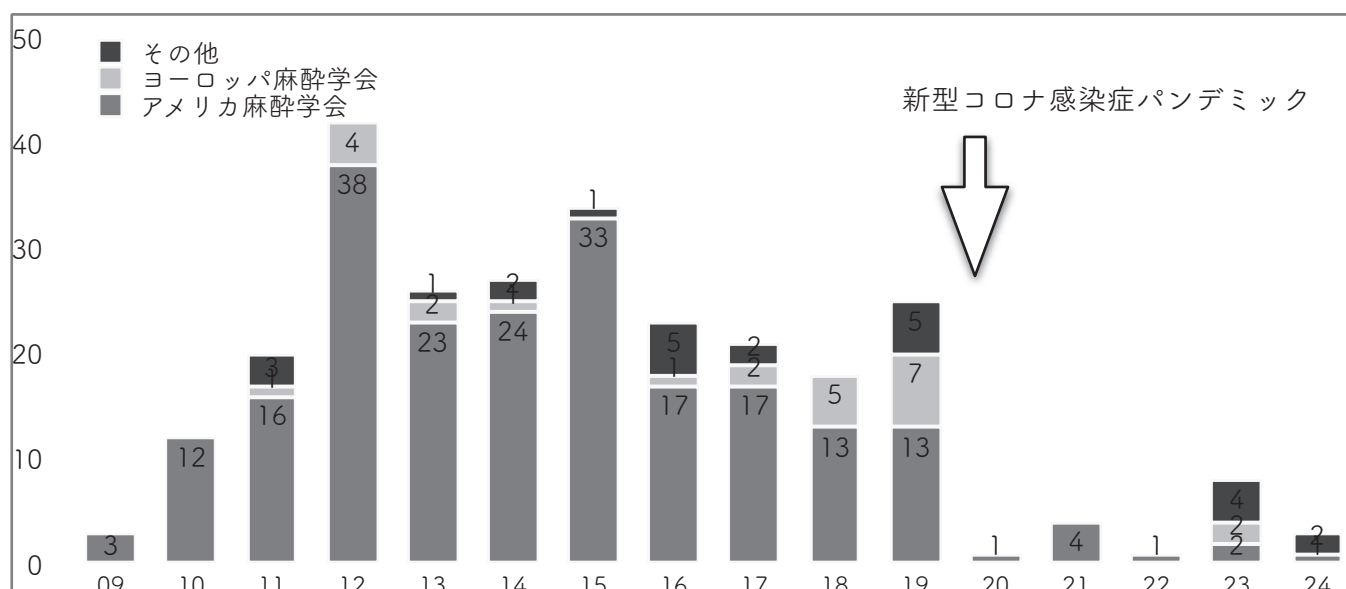
- ◆ Yamakage M : Session 2A. Expectations for anesthesia professionals focusing on patient safety. Directions and strategies to improve patient safety in Japan : The Japanese Society of Anesthesiology (JSA) perspective

The annual meeting of the European Society of Regional Anesthesia 2024. Prague, Czech Republic. Sep. 04-07, 2024

- ◆ Muraki M, Chaki T, Kumita S, Sawada A, Yamakage M : Effect of ultrasound-guided maxillary nerve block in tonsillectomy : a double-blind, placebo-controlled, randomised controlled trial

ASA 岩崎先生の発表を加える

当講座からの海外発表数の推移



こちらのグラフは、過去15年間にわたる当講座の海外発表数の推移を示したものです。グラフを見ると、山蔭が教授に就任して以降、当講座は海外で非常に多くの演題を発表し、その活動がピークに達していたことがわかります。2012年には42件もの発表があり、世界的な麻酔科学の研究において大きな貢献を果たしていたことが示されています。

しかし、2020年に新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生し、世界的に海外渡航が制限されたことにより、海外での発表活動が急激に減少しました。2020年には渡航が不可能となったため発表数がわずか1件に留まり、2021年もわずか4件と低迷しています。

2023年にはパンデミックの影響がまだ残りつつも、発表数は8件に回復の兆しを見せましたが、渡航制限が解除されて以降も、発表数は以前の水準には達していません。この傾向は、ポストコロナ禍においてもなお、多くの課題が残されていることを示唆しています。

とくに、オンライン開催やハイブリッド形式の学会が増加したことで、実際の渡航を伴わない発表機会が拡大した一方で、国際学会での直接的な交流が依然として十分に再開されていない現状があります。当講座においても、今後はこれまでの積極的な国際活動を取り戻し、演題数をさらに増加させる努力が求められるでしょう。

このグラフからは、ポストコロナの時代に向けた新たな戦略を模索し、国際的な研究活動を再び活発化させる必要性が浮き彫りにされています。

1. 山蔭道明：招待講演「全身麻酔におけるレミフェンタニルの役割」，鹿児島麻酔セミナー（鹿児島） 2009.01.31（案内プログラムのみ）
2. 山蔭道明：講演「臨床研究の進め方」，広島麻酔・集中治療フォーラム（広島） 2009.05.09（案内プログラムのみ）
3. 山蔭道明：教育講演「バイタルサインからわかること」，第56回北海道薬学会（札幌） 2009.05.31（案内プログラムのみ）
4. 山蔭道明：共催セミナー講演（3）「エスラックス®（ロクロニウム）使用における私のコツ」，日本麻酔科学会第56回学術大会（神戸） 2009.08.16-18（案内プログラムのみ）
5. 山蔭道明：シンポジウム（19）「周術期管理チームに関するアンケートー手術室運営の今後の方向性」，日本麻酔科学会第56回学術大会（神戸） 2009.08.16-18（案内プログラムのみ）
6. 山蔭道明：ランチョン講演（Ⅱ）「周術期体温管理における新しいデバイスー連続測定型耳式体温計CEサーモ」，第37回日本歯科麻酔学会（名古屋） 2009.10.08-09 ランチョンセミナーⅡ「周術期体温管理における新しいデバイスー連続測定型耳式体温計CEサーモ」日本歯科麻酔学会誌第37回日本歯科麻酔学会総会・学術集会プログラム・抄録 2009, 37(4), 377.
7. 山蔭道明：麻酔科の最近のトピックス，道南麻酔科医会講演会（函館） 2009.10.23（案内プログラムのみ）
8. 山蔭道明：教育講演（Ⅰ）「吸入麻酔薬の最近の知見」日本臨床麻酔学会第29回大会（浜松） 2009.10.29-31
9. 山蔭道明：ランチョン講演（Ⅰ）「看護視点で考える手術中の体温管理」，第23回日本手術看護学会年次大会（幕張） 2009.11.13
10. 山蔭道明：特別講演「結構いいぞ！βブロッカー」，第23回旭川全身管理研究会（旭川） 2009.12.19（案内プログラムのみ）
11. 山蔭道明：特別講演Ⅱ「麻酔科学領域のトピックス」，第20回秋田疼痛研究会（秋田） 2010.01.28（案内プログラムのみ）
12. 山蔭道明：特別講演「レミフェンタニル：その特徴と使い方」，第14回宮城県静脈麻酔・局所麻酔研究会（仙台） 2010.03.13 第14回宮城県静脈麻酔・局所麻酔研究会プログラム・抄録集 2010; p.13.
13. 山蔭道明：講演「HES and Coagulation」，FRACTA Japan 2010（東京） 2010.03.28（案内プログラムのみ）
14. 山蔭道明：特別講演「周術期とβブロッカーーエビデンスと使用のコツ」，釧路周術期管理セミナー（釧路） 2010.04.15（案内プログラムのみ）
15. 山蔭道明：モーニングセミナー講演「体温管理とそのモニター」，第21回日本臨床モニター学会総会（札幌） 2010.04.24 臨床モニター 2010; 21 (Supl.) : S40.
16. 山蔭道明：特別講演「麻酔科学の最近のトピックス」，平成22年度札幌医科大学外科学第一講座同門会総会（札幌） 2010.05.08（案内プログラムのみ）
17. 山蔭道明：講演「麻酔科学の最近のトピックス」，中村記念病院講演会（札幌） 2010.05.17（案内プログラムのみ）
18. 山蔭道明，周 静：喫煙・麻酔薬の気管支平滑筋に及ぼす影響，学会企画3学術委員会企画：JAシンポジウム「呼吸治療研究の最前線：麻酔科医の役割」，日本麻酔科学会第57回学術大会（福岡） 2010.06.03-05（案内プログラムのみ）
19. 新谷知久，山蔭道明：麻酔と血液凝固線溶系，シンポジウム14「血液凝固・炎症反応の関連と臓器障害」，日本麻酔科学会第57回学術大会（福岡） 2010.06.03-05（案内プログラムのみ）
20. 山蔭道明：講演「ここがすごいぞ！麻酔科学」，平成22年度SSH科学講演会（鹿嶋市：清真学園高等学校） 2010.06.19（案内プログラムのみ）
21. 山蔭道明：講演「Apollo：Dräger Medical Japan」，バトルオンセミナー「麻酔器」，第7回麻酔科学サマーセミナー（宮古市） 2010.06.25-27 第7回麻酔科学サマーセミナープログラム，バトルオンセミナー「麻酔器」，p. 15, 2010.
22. 山蔭道明：特別講演「周術期における体温モニター」，福岡周術期モニタリングセミナー（福岡） 2010.07.10（案内プログラムのみ）
23. 山蔭道明：教育講演3「手術室におけるリスクマネジメント」，日本病院脳神経外科学会（釧路） 2010.07.17-18 第13回日本病院脳神経外科学会プログラム・抄録集 2010, p. 103.
24. 山蔭道明：講演「看護研究に必要なやさしい統計学」，あけぼの地区学術講演会（旭川） 2010.07.29 看護研究に必要なやさしい統計学テキスト 2010, 1-36.
25. 山蔭道明：講演：「3. 手術室で使用するモニター」，第1回ナースのための周術期管理セミナー（札幌） 2010.07.31 第1回ナースのための周術期管理セミナーテキスト 2010, p. 37-46.
26. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液管理の新戦略ーEnhanced Recovery Fluid Management」，第8回周術期体液・代謝・侵襲研究会（東京） 2010.08.07 第8回周術期体液・代謝・侵襲研究会プログラム／抄録集 特別講演「周術期輸液管理の新戦略ーEnhanced Recovery Fluid Management」，p. 29, 2010.
27. 山蔭道明：講演「医療人に求められること」・「外科学の夜明け・麻酔が外科にもたらしたもの」，地域医療を支える人づくりプロジェクト事業に係る「高校生メディカル講義」（帯広柏陽高校，帯広） 2010.08.29（案内プログラムのみ）
28. 山蔭道明：特別講演「臨床研究の勧め」，第20回北海道麻酔薬理談話会（札幌） 2010.09.04（案内プログラムのみ）
29. 山蔭道明：講演「周術期とβブロッカーーエビデンスと使用のコツ」，岩見沢市立病院院内研修会（岩見沢） 2010.09.06（案内プログラムのみ）
30. 山蔭道明：講演「歯科医師のための救急蘇生法」，札幌歯科医師会救急医療講演会（札幌） 2010.09.15（案内プログラムのみ）
31. 山蔭道明：ランチョン講演（7）「Healthcarisitとしての体温管理ー看護視点にかなった体温測定部位とは？ー」，第24回日本手術看護学会（京都） 2010.09.17-18（案内プログラムのみ）
32. 山蔭道明：講演（Ⅰ）「体温高めが身体にいい」，第10回抗加齢医学の実際2010（東京） 2010.09.19-20，第10回抗加齢医学の実際2010プログラム，p. 149-56, 2010
33. 山蔭道明：講演「周術期の体温管理」，群馬バイタルサインセミナー（郡山） 2010.09.25（案内プログラムのみ）
34. 山蔭道明：ランチョン講演「体温管理とそのモニター」，日本臨床麻酔学会（徳島） 2010.11.04-06，日本臨床麻酔学会誌 2010; 30(6) : S219

35. 山蔭道明：講演「Experience on Clinical Trial in Japan」，2010 Japan Anesthesia Summit（鳴門） 2010.11.06-07（案内プログラムのみ）
36. 山蔭道明：講演「麻酔科学の最近のトピックス」，帯広地区札幌医大同門講演会（帯広） 2010.11.26（案内プログラムのみ）
37. 山蔭道明：講演「最近の輸液療法の考え方」，第7回麻酔・集中治療セミナー（高知） 2011.01.15（案内プログラムのみ）
38. 山蔭道明：イブニング講演「高齢者における β ブロッカーの有用性」，第23回日本老年麻酔学会（大分） 2011.02.05-06，第23回日本老年麻酔学会プログラム・抄録集，p. 12, 2011
39. 山蔭道明：シンポジウム「喫煙・禁煙が周術期呼吸器合併症に与える影響」シンポジウム（14）「喫煙の麻酔への影響と禁煙の意義」，日本麻酔科学会第58回大会（神戸） 2011.06.03-05，日本麻酔科学会第58回学術集会プログラム 2011; 60: S139
40. 山蔭道明：シンポジウム「術中覚醒記憶の原因」シンポジウム（7）「麻酔深度と術中覚醒」，日本麻酔科学会第58回大会（神戸） 2011.06.03-05，日本麻酔科学会第58回学術集会プログラム 2011; 60: S64
41. 山蔭道明：ランチョン講演（4）吸入麻酔薬の新たな潮流「Predictable recovery：覚醒の早さと質」，日本麻酔科学会第58回大会（神戸） 2011.06.03-05，日本麻酔科学会第58回学術集会プログラム 2011; 60: S164
42. 山蔭道明：講演「低体温を予防し，体温のリズムを取り戻すことで，健康な生活を送ろう」，北海道温電法研究会 2011年第1回研修会（札幌） 2011.06.04（案内プログラムのみ）
43. 山蔭道明：特別講演I「麻酔科学領域の最近のトピックス」，第36回心樹内科研修会（札幌） 2011.06.25（案内プログラムのみ）
44. 山蔭道明：特別講演「ロクロニウムとスガマデクス：最高の相棒！」，第2回神奈川ブリディオン研究会（横浜） 2011.06.29（案内プログラムのみ）
45. 山蔭道明：特別講演「周術期と β ブロッカー—エビデンスと使用のコツ—」，宮崎周術期管理セミナー2011（宮崎） 2011.07.16（案内プログラムのみ）
46. 山蔭道明：講演：「3. 手術室で使用するモニター」，第2回ナースのための周術期管理セミナー（札幌） 2011.07.31 第2回ナースのための周術期管理セミナーテキスト 2011, p. 24-36.
47. 渡邊昭彦，山蔭道明：ワークショップ，症状マネジメント「症状マネジメントup to date」，第16回日本緩和医療学会学術大会（札幌） 2011.07.29-30，第16回日本緩和医療学会学術大会プログラム・抄録集 2011; S195
48. 山蔭道明：講演「看護研究に必要なやさしい統計学」，あけぼの地区学術講演会（旭川） 2011.09.05（案内プログラムのみ）
49. 山蔭道明：シンポジウム「4. 麻酔環境の進歩—少しの工夫と管理で患者のoutcomeに貢献する」シンポジウム（1）「手術・麻酔手法の未来像」，第33回日本手術医学会総会（鹿児島） 2011.10.07，日本手術医学会誌2011; 32（Suppl.第33回総会プログラム・抄録集）：S43.
50. Yamakage M：Lecture - Future aspects for respiratory monitor. COVIDIEN Japan Advisory Meeting in ASA. Chicago, IL, USA. 2011.10.14（案内プログラムのみ）
51. Yamakage M：Advisor - Smiths Asia Pacific Advisory Board Meeting. Chicago, IL, USA. 2011.10.16（案内プログラムのみ）
52. 山蔭道明：特別講演I，周術期と β ブロッカー—エビデンスと使用のコツ—，CAN（Chiba Anesthesiologists Network）周術期管理セミナー（千葉） 2011.10.29（案内プログラムのみ）
53. 山蔭道明：共催セミナー（2）「デスフルランの市販後臨床使用の経験から」，日本臨床麻酔学会第31回大会（沖縄） 2011.11.03-05，日本臨床麻酔学会誌 2011; 31(6)（Suppl.第31回大会抄録号）：S241
54. 山蔭道明：共催セミナー「低体温はこんなにも悪い—私たちにできる周術期体温管理—」「体温管理の重要性」（兼司会），第25回日本手術看護学会年次大会（名古屋） 2011.11.04-05，第25回日本手術看護学会年次大会プログラム集 2011,
55. 山蔭道明：特別講演「吸入麻酔薬：あなたはセボ派？デス派？」，テルモ学術講演会—中心静脈カテーテルCVレガフォースEX発売記念講演会—（名古屋） 2012.03.09（案内プログラムのみ）
56. 山蔭道明：特別講演「HES：Overview」，第17回京滋麻酔科医会学術講演会（京都） 2012.03.17（案内プログラムのみ）
57. 山蔭道明：ランチョン講演6「周術期の体温管理—そのビットフォールトと機器の進化—」，日本医工学治療学会第28回学術大会（札幌） 2012.03.24-25，日本医工学治療学会第28回学術大会抄録集2012; 24, p. 30.
58. 山蔭道明：Web講演「デスフルラン：市販後使用の経験から」，スープレニューブセミナー（札幌） 2012.03.29
59. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略」，周術期輸液・栄養セミナーin長崎（長崎） 2012.04.20（案内プログラムのみ）
60. 山蔭道明：Web講演「周術期輸液の新戦略」，Otsuka Live on Nutrition Seminar 2012（札幌） 2012.05.30（案内プログラムのみ）
61. 山蔭道明：ランチョン講演（10）「周術期と β ブロッカー：エビデンスと使用のコツ」，日本麻酔科学会第59回大会（神戸） 2012.06.07-09，日本麻酔科学会第59回学術集会プログラム 2012; 61: S189.
62. 山蔭道明：リフレッシャーコースレクチャー（19）「アドバンスト：論文の書き方・指導の仕方」，日本麻酔科学会第59回大会（神戸） 2012.06.07-09，日本麻酔科学会第59回学術集会プログラム 2012; 61: S38.
63. 山蔭道明：講演：バトルオンセミナー「McGRATH® MAC，実力はいかに!？」，第9回麻酔科学サマーセミナー（沖縄） 2012.06.29-07.01，第9回麻酔科学サマーセミナープログラム集2012; S21.
64. 山蔭道明：招待講演「吸入麻酔薬デスフルランの臨床使用のコツ」，仙台周術期セミナー（仙台） 2012.07.02
65. 山蔭道明：特別講演「あなたはセボ派？デス派？」，杉木麻酔・集中治療セミナー（宇都宮） 2012.07.20
66. 山蔭道明：講演：「3. 知って得する気道管理」，第3回ナースのための周術期管理セミナー（札幌） 2012.07.28 第3回ナースのための周術期管理セミナーテキスト 2012, p. 33-49.
67. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略」，周術期輸液・栄養セミナーin静岡（静岡） 2012.08.25（案内プログラムのみ）
68. 山蔭道明：講演「がんの緩和医療—治療最前線—」，2012年度第2回市民公開講座（札幌） 2012.08.30（案内プログラムのみ）
69. 山蔭道明：講演「術後の静脈血栓塞栓症予防における麻酔管理」，札幌静脈血栓塞栓症フォーラム（札幌） 2012.08.31（案内プログラムのみ）
70. 山蔭道明：講演「最近の輸液療法の戦略」，群馬周術期研究会（前橋） 2012.10.03（案内プログラムのみ）
71. Yamakage M：Advisor - Smiths Medical Advisory Board Meeting. Washington DC, USA. 2012.10.14（案内プログラムのみ）
72. Yamakage M：Lecture - McGRATH/Airway：Requests for Respiratory and Monitoring Solutions. COVIDIEN Japan Advisory Meeting in ASA. Washington DC, USA. 2012.10.14（案内プログラムのみ）

73. 山蔭道明：ランチョン講演（6）「適正な周術期体温管理：その理由と方法」，第34回日本手術医学会総会（東京）2012.10.19-20（案内プログラムのみ）
74. 山蔭道明：特別講演「レミフェンタニルによる鎮痛を重視した麻酔管理」，川崎北部麻酔科セミナー（川崎）2012.10.26（案内プログラムのみ）
75. 山蔭道明：特別講演Ⅱ「 β ブロッカーの使い方—エビデンスとコツ—」，第3回沖縄周術期管理研究会（沖縄）2012.11.09（案内プログラムのみ）
76. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略」，第1回静岡県中部周術期輸液管理講演会（静岡市）2012.11.10（案内プログラムのみ）
77. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略」，第2回石川麻酔科フォーラム（金沢市）2012.11.30（案内プログラムのみ）
78. 山蔭道明：特別講演「周術期と β ブロッカー—エビデンスと使用のコツ—」，城西周術期管理フォーラム（東京）2013.01.25（案内プログラムのみ）
79. 山蔭道明：特別講演「デスフルラン：やはり覚醒の質は高かった！」，東海医学会講演会（伊勢原市），2013.02.01（案内プログラムのみ）
80. 山蔭道明：ランチョン講演「鎮痛を重視した麻酔管理：高齢者でのポイント」，第25回日本老年麻酔学会（函館）2013.02.09-10
81. 山蔭道明：特別講演「周術期と β ブロッカー—エビデンスと使用のコツ—」，川崎周術期管理セミナー2013（川崎）2013.02.13（案内プログラムのみ）
82. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略」，秋田周術期管理講演会（秋田）2013.03.08（案内プログラムのみ）
83. 山蔭道明：教育セミナーⅠ「周術期輸液管理における人工膠質液の位置づけ」，第24回日本臨床モニター学会（奈良）2013.04.19-20，臨床モニター2013; 24(Suppl.): S44.
84. 山蔭道明：特別講演「デスフルラン麻酔のすすめ：やはり覚醒の質は高かった」，函館スープレッセンセミナー（函館）2013.06.08（案内プログラムのみ）
85. 山蔭道明：特別講演「デスフルラン麻酔のすすめ：やはり覚醒の質は高かった」，倉敷DesCafe（倉敷）2013.06.15（案内プログラムのみ）
86. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略」，第2回福井県周術期体液管理研究会（福井）2013.07.06（案内プログラムのみ）
87. 山蔭道明：講演：「3. 看護師が知って得する気道管理」，第4回ナースのための周術期管理セミナー（札幌）2013.07.27 第4回ナースのための周術期管理セミナーテキスト2013, p. 45-61.
88. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略」，周術期輸液管理学術講演会（宇都宮）2013.09.09（プログラムのみ）
89. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略」，北海道・東北周術期管理講演会（仙台）2013.09.13（プログラムのみ）
90. Yamakage M: Lecture – Usefulness of McGrath MAC videolaryngoscope in cervical immobilization: a mannequin study: Requests for Respiratory and Monitoring Solutions. COVIDIEN Japan Advisory Meeting in ASA, San Francisco, USA. 2013.10.13（案内プログラムのみ）
91. 山蔭道明：特別講演「麻酔科学の最近のトピック—スー麻酔はここまで進化した」，市立室蘭総合病院講演会（室蘭）2013.11.07（案内プログラムのみ）
92. 山蔭道明：ランチョンセミナーⅠ「体温管理とそのモニター」，日本蘇生学会第32回大会（東京）2013.11.08 プログラム・抄録2013; 32(3): p.168.
93. 山蔭道明：特別講演「そのがんの痛み，我慢しないで」，日鋼記念病院緩和病棟開院記念講演会（室蘭）2013.11.22（案内プログラムのみ）
94. 山蔭道明：講演「体温管理の勧め」，第2回弘前秋季教育セミナー（弘前）2013.11.23（案内プログラムのみ）
95. 山蔭道明：特別講演「最近の輸液戦略」，第2回富山輸液管理セミナー（富山）2013.11.29（案内プログラムのみ）
96. 山蔭道明：特別講演「最近の輸液戦略」，第2回福岡輸液管理セミナー（福岡）2013.11.30（案内プログラムのみ）
97. 山蔭道明：特別講演「デスフルラン—やはり覚醒の質は高かった」，広島吸入麻酔薬セミナー（広島）2013.12.06（案内プログラムのみ）
98. 山蔭道明：特別講演「体温管理してますか？」，札幌清田病院新病院落成記念講演会（札幌）2014.01.29（案内プログラムのみ）
99. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略」，第2回和歌山周術期管理セミナー（和歌山）2014.02.07（案内プログラムのみ）
100. 山蔭道明：特別講演「手術中の体温管理の重要性と体温モニターの開発」，室蘭工業大学第11回蘭岳セミナー（室蘭）2014.02.17（案内プログラムのみ）
101. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略」，2014年和青森県周術期管理セミナー（弘前）2014.03.08（案内プログラムのみ）
102. 山蔭道明：ランチョン講演「術中輸液の最適化—目指していたものはこれだ！」，日本麻酔科学会第61回大会（横浜）2014.05.15-17（案内プログラムのみ）
103. 山蔭道明：講演「マジ覚醒早いぜ！デスフルラン」，吸入麻酔薬スープレッセン講演会（札幌）2014.05.28（案内プログラムのみ）
104. 山蔭道明：特別講演Ⅰ「治験結果から見たボルベンの有用性」，これからの周術期輸液療法—HES最前線—in Tokyo（東京）2014.06.07（案内プログラムのみ）
105. 新山幸俊，山蔭道明：モーニングセミナー「術後痛管理におけるmultimodal analgesiaの新たな翼—アセトアミノフェン静注薬 アセリオ®の可能性—」，第11回麻酔科学サマーセミナー（沖縄）2014.06.27-29（案内プログラムのみ）
106. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略—その中でVoluvenはこう使うべき！」，これからの周術期輸液療法—HES最前線—in Okinawa（沖縄）（案内プログラムのみ）2014.07.05
107. 山蔭道明：特別講演Ⅰ「術中体温管理で変わるアウトカム」，第4回奈良麻酔科シンポジウム（大阪）2014.07.18（案内プログラムのみ）
108. 山蔭道明：講演：「3. ナースが知って得する体温管理」，第5回ナースのための周術期管理セミナー（札幌）2014.08.02 第5回ナースのための周術期管理セミナーテキスト2014, p. 41-61.
109. 山蔭道明：特別講演Ⅰ「まじめにやろう体温管理」，麻酔・集中治療セミナーin直島2014（岡山）2014.08.23-24 麻酔・集中治療セミナーin直島2014テキスト2014, p. 1-9.

110. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略—その中でVOLUVENはこう使うべき—」，道南麻酔科懇話会（函館） 2014.08.30（案内プログラムのみ）
111. 山蔭道明：共催セミナーⅠ講演「デスフルラン：やはり覚醒の質は高かった！」，日本麻酔科学会第60回関西支部学術集会（大阪） 2014.09.06
112. 山蔭道明：ランチョンセミナー8講演「周術期と β ブロッカー—エビデンスと使用のコツ—」，日本心臓血管麻酔学会第19回学術集会（大阪） 2014.09.20-22
113. 山蔭道明：共催セミナー7講演「知って得する周術期体温管理の方法」，第36回日本手術医学会総会（札幌） 2014.09.26-27（案内プログラムのみ）
114. Yamakage M：Short lecture - McGrath/Airway：Requests for Respiratory and Monitoring Solutions. COVIDIEN Japan Advisory Meeting in ASA. Washington DC, USA. 2012.10.14（案内プログラムのみ）
115. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略：輸液管理-困ってませんか？」，第6回新都心麻酔科懇話会総会（東京） 2014.10.18（案内プログラムのみ）
116. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略—その中でVOLUVENはこう使うべき！—」，十勝麻酔科談話会（帯広） 2014.10.22（案内プログラムのみ）
117. 山蔭道明：ランチョンセミナー(9)講演「体温管理—エビデンスと実践—」，日本臨床麻酔学会第34回大会（東京） 2014.11.01-03 日本臨床麻酔学会第34回大会抄録号 2014; 34(6)：S229.
118. 山蔭道明：講演Ⅳ「麻酔科医といっしょにやろう体温管理—こどもとの違いを含めて—」，バイタルサインセミナーinさんいん（米子） 2014.11.08 さんいんバイタルサインセミナー受講者資料 2014, p. 71-91.
119. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略—その中でVOLUVENはこう使うべき！—」，道東周術期輸液管理講演会（釧路） 2014.11.12（案内プログラムのみ）
120. 山蔭道明：講演「体温管理—そのエビデンスと実践—」，あけぼの地区学術講演会（旭川） 2014.11.16（案内プログラムのみ）
121. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略—その中でVoluvenはこう使うべき！—」，第4回山形県周術期体液管理講演会（山形） 2014.11.21（案内プログラムのみ）
122. 山蔭道明：講演2「周術期と β ブロッカー：エビデンスと使用のコツ」，第21回三重麻酔懇話会（津） 2014.12.06（案内プログラムのみ）
123. 山蔭道明：特別講演「周術期におけるレートコンとローの意義と実践」，第18回岐阜周術期管理研究会（岐阜） 2015.01.24（案内プログラムのみ）
124. 山蔭道明：講演「HES」，冬期弘前麻酔セミナー（弘前），2015.02.21
125. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液戦略の新展開」，ケーブルレス超音波セミナーin新潟（新潟） 2015.02.28
126. 山蔭道明：特別講演「痛みに対する最新の診断と薬物治療のコツ」，第450回苫小牧市医師会学術講演会（苫小牧） 2015.03.27
127. 山蔭道明：共催セミナー講演（8）「体温管理—そのエビデンスと実践—」，日本麻酔科学会第62回学術集会（神戸） 2015.05.28-30
128. 山蔭道明：共催セミナー講演（20）「レミフェンタニル麻酔の基本を学ぶ」，日本麻酔科学会第62回学術集会（神戸） 2015.05.28-30
129. 山蔭道明：招聘講演「最新麻酔情報」，千葉スープレックスセミナー（市川） 2015.06.06
130. 山蔭道明：講演（10）「輸液管理」，第4回弘前麻酔セミナー（弘前） 2015.07.11
131. 山蔭道明：ランチョン講演（9）「慢性痛における経皮吸収オピオイド製剤のコツとポイント」，日本ペインクリニック学会第49回大会（大阪） 2015.07.23-25
132. 山蔭道明：講演：「4. 体温管理：ワンランク上の体温管理」，第6回ナースのための周術期管理セミナー（札幌） 2015.08.01 第6回ナースのための周術期管理セミナーテキスト 2015, p. 59-79.
133. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略—その中でVOLUVENはこう使うべき！—」，周術期管理セミナーin岡山（岡山） 2015.09.04
134. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略—その中でVOLUVENはこう使うべき！—」，室蘭エリア麻酔科懇話会（室蘭） 2015.09.25
135. 山蔭道明：ランチョン講演（16）「慢性疼痛領域にオピオイド剤使用の可能性」，第69回国立病院総合医学会（札幌） 2015.10.03
136. 山蔭道明：ランチョン講演（10）「心臓外科手術におけるロクロニウムとスガマデクス使用のコツ」，日本心臓血管麻酔学会第20回学術大会（福岡） 2015.10.11
137. 山蔭道明：講演「イチから学べるわかりやすい麻酔看護の知識（基礎編）—押さえておきたい5つのポイント—」，第1回札幌手術室看護セミナー（札幌） 2015.10.17
138. 新山幸俊，山蔭道明：ランチョン講演（3）「PCEAのバックグラウンド投与を再考する～間欠PCA投与（Programmed Intermittent Bolus：PIB）モードの可能性～」，日本臨床麻酔学会第35回大会（横浜） 2015.10.21
139. 山蔭道明：講演「痛みに対する最新の診断と薬物治療のコツ」，神経障害性疼痛セミナー（函館） 2015.11.04
140. 山蔭道明：特別講演「術後疼痛管理におけるアセトアミノフェンの位置づけ」，第17回侵襲制御医学セミナー～術後鎮痛を考える～（名古屋） 2015.11.20
141. 山蔭道明：特別講演「痛みに対する最新の診断と薬物治療のコツ」，北海道労災保険指定病院協会滝川支部講演会（滝川） 2016.02.17
142. 山蔭道明：特別講演（1）「 β ブロッカー：周術期使用のコツとポイント」，周術期学術講演会2016（名古屋） 2016.02.20
143. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略」，越谷周術期輸液管理セミナー（越谷） 2016.03.18
144. 山蔭道明：講演（2）「知って得する体温管理」，順天堂周術期セミナー（東京） 2016.05.14
145. 山蔭道明：特別講演「自分の基礎研究の紹介と臨床研究の勧め」，北里麻酔セミナー（相模） 2016.05.16
146. 山蔭道明：共催セミナー講演（3）「デスフルラン 今までとこれから」，日本麻酔科学会第63回学術集会（福岡） 2016.05.26-28

147. 山蔭道明：共催セミナー講演（20）「周術期体温管理の進歩—体温モニタリングの新たな風」，日本麻酔科学会第63回学術集会（福岡） 2016.05.26-28
148. 平田直之，茶木友浩，山蔭道明：共催セミナー講演（2-2）「Oxygen Reverse Index：新たな酸素化モニタリングとしての可能性」，日本麻酔科学会第63回学術集会（福岡） 2016.05.26-28
149. 立花俊祐，早瀬 知，山蔭道明：シンポジスト「Neuroscience up to date：postoperative cognitive dysfunction」トランスクリプトーム解析を用いた術後認知機能障害の機序解明，日本麻酔科学会第63回学術集会（福岡） 2016.05.26-28
150. 山蔭道明：講演「世界一聞きたい体温管理」，第7回ナースのための周術期管理セミナー（札幌） 2016.08.27
151. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略」，小樽後志周術期懇話会（小樽） 2016.08.26
152. 山蔭道明：講演「イチから学べるわかりやすい麻酔看護の知識（基礎編）—押さえておきたい5つのポイント—」，第2回札幌手術室看護セミナー（札幌） 2016.10.01
153. 山蔭道明：特別講演「最新麻酔情報」，旗の台麻酔セミナー（東京） 2016.10.15
154. 山蔭道明：講演Ⅳ「チームでケアする体温管理」，さいたまバイタルサインセミナー（埼玉） 2017.02.11
155. 山蔭道明：教育講演Ⅰ「周術期と β ブロッカー：エビデンスと使用のコツ」，第1回日本集中医学会九州支部学術集会（長崎） 2017.05.13
156. 山蔭道明：招請講演C07「日本麻酔科学会 学術の進むべき道」，日本麻酔科学会第64回学術集会（福岡） 2017.06.08-10
157. 山蔭道明：シンポジスト「タバコと周術期呼吸器合併症」，JAシンポジウム「周術期呼吸管理における合併症」，日本麻酔科学会第64回学術集会（福岡） 2017.06.08-10
158. 山蔭道明：シンポジスト「どうしてまだ吸ってるの？どうして吸わせたまま手術に臨もうとするの？」，ミニシンポジウムⅠ「禁煙できなかった，延期？：心臓手術」，日本麻酔科学会第64回学術集会（福岡） 2017.06.08-10
159. 山蔭道明：講演「イチから学べるわかりやすい麻酔看護の知識（基礎編）—押さえておきたい5つのポイント—」，手術室看護セミナー（東京） 2017.07.23
160. 山蔭道明：共催セミナー6「漢方医学の修得の難しさ，そして教育の難しさ」，第49回日本医学教育学会大会（札幌） 2017.08.18-19
161. 山蔭道明：講演「世界一聞きたい体温管理」，第8回ナースのための周術期管理セミナー（札幌） 2017.08.19
162. 山蔭道明：共催セミナー（Ⅰ）「デスフルラン：一度は経験してから評価してみよう」，日本麻酔科学会北海道・東北支部第7回学術集会（秋田） 2017.09.01
163. 山蔭道明：講演「ベストティーチャー賞受賞者による「選ばれる講義」の作り方講座」，札幌医科大学FDワークショップ（札幌） 2017.09.12
164. 山蔭道明：講習会講演「Awake craniotomyの麻酔管理」，施設認定講習会，第15回日本Awake craniotomy学会（東京） 2017.09.30
165. 山蔭道明：ランチョンセミナー（Ⅰ）「デスフルラン：使いこなそう！」，日本臨床麻酔学会第37回大会（東京） 2017.11-03-05
166. 山蔭道明：講演2「日本から発信しよう，麻酔科学！」，麻酔科インターネット講演会（札幌） 2018.02.19
167. 山蔭道明：教育講演（3）「体温モニター：その方法とピットフォール」第29回日本臨床モニター学会総会（横浜） 2018.04.20-21
168. 山蔭道明：ランチョン講演「緩和医療に漢方の力を！」，第23回日本緩和医療学会学術大会（神戸） 2018.06.15-17
169. 山蔭道明：講演Ⅰ「初めての救急車体験・北海道の災害医療」，旭川赤十字病院救命救急センター設立40周年記念講演会（旭川） 2018.07.14
170. 山蔭道明：講演「1か月に2度も手術？ 体験から語る麻酔管理のあり方」，第9回ナースのための周術期管理セミナー（札幌） 2018.08.11
171. 山蔭道明：特別講演「慢性痛における経皮吸収オピオイド製剤の応用」，第213回素交会講演会（札幌） 2018.08.31
172. 山蔭道明：共催セミナー（Ⅰ）「デスフルラン：食わず嫌いをやめてみよう」，日本麻酔科学会九州麻酔科学会第56回大会（沖縄） 2018.09.08
173. 山蔭道明：ランチョン講演（Ⅱ）「非侵襲的体温モニター：ここまで進化した！」，日本臨床麻酔学会第38回大会（小倉） 2018.11.01-03
174. 山蔭道明：講演3「自分の手術体験からみた麻酔薬の進化」，里塚地区医療連携の会（札幌） 2018.11.08
175. 山蔭道明：イブニングセミナー講演「未来に求められる麻酔薬：未来に求められる麻酔薬と鎮静薬」，第25回日本静脈麻酔学会（足利） 2018.12.07-18
176. 山蔭道明：特別講演「緩和医療に漢方の力を！」，第34回宮城県緩和ケア勉強会（仙台） 2019.01.18
177. 山蔭道明：講演「気管挿管の介助「看護師向けセミナー」」，第2回気道管理学会（東京） 2019.01.19
178. 山蔭道明：講演Ⅰ「体温管理～重要だと思っけど～」，第34回体液・代謝管理研究会（大阪） 2019.02.23
179. 山蔭道明：講演（製品発表会Ⅰ）「体温モニターの管理」，第30回日本臨床モニター学会総会（千葉） 2019.04.12-13
180. 山蔭道明：特別講演「ロクロニウムとスガマデクスのすべて」，Neuromuscular Seminar in Yamaguchi（宇部） 2019.06.28
181. 山蔭道明：講演Ⅱ「慢性疼痛に役立つ漢方薬の使い方」，第28回北海道老年病漢方研究会 学術講演会（札幌） 2019.07.06
182. 山蔭道明：講演「しっかりやろう体温管理」，周術期体温管理セミナーin福岡（福岡） 2019.07.26
183. 山蔭道明：とてもよく分かる体温管理，第10回ナースのための周術期管理セミナー（札幌） 2019.07.27
184. 岩崎創史，山蔭道明：講演「痛みの最新知見」，第4回日本がんサポートケア学会学術集会（青森） 2019.09.06-07
185. 山蔭道明：講演Ⅳ「2度の手術体験から考える麻酔薬」，宮城バイタルサインセミナー（仙台） 2019.10.26
186. 山蔭道明：特別講演2「神経障害性疼痛に対する治療戦略」，苫小牧市医師会学術講演会～痛みと骨粗鬆症 Up to Date～（苫小牧） 2020.01.30
187. 山蔭道明：講演「神経障害性疼痛の治療戦略」，Pain Live Symposium（札幌） 2020.02.04
188. 山蔭道明：講演「レミマゾラム：国内後期第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験結果の紹介」アネレム®Expert Meeting（Advisory board）（Web） 2020.07.04
189. 山蔭道明：スポンサードセミナー2「超高齢化・超少子化の日本，麻酔科医としてどのように立ち向かうのか？」，第33回日本老年麻酔学会（福岡） 2021.02.19

190. 山蔭道明：講演「Desflurane－基礎のキソ」，デスフルランWebセミナー（札幌） 2021.04.15
191. 山蔭道明：教育講演2「体温管理－そのエビデンスと実践－」，第32回日本臨床モニター学会総会（佐賀） 2021.04.23-24
192. 山蔭道明：講演「Elderly x Desflurane」，グラウンドラウンドin東京（東京） 2021.06.17
193. 山蔭道明：講演「二度の麻酔経験－経験したことで人に優しくなれる」，札幌医科大学歯科口腔外科同門会講演会（札幌） 2021.07.03
194. 山蔭道明：特別講演2「自らの麻酔経験：それも二度も！」，第28回山形麻酔懇話会（天童市） 2021.07.17
195. 山蔭道明：講演「全身麻酔とは」，テルモ札幌支店勉強会（札幌） 2021.09.06
196. 山蔭道明：スポンサード講演1，高齢化・少子化の日本，麻酔科医としてどのように立ち向かうか 続編，第34回日本老年麻酔学会（和歌山） 2022.02.11-12
197. 山蔭道明：演者，理事長談話会，第49回日本集中治療医学会学術集会（仙台） 2022.03.18-20
198. 山蔭道明：講演，「しっかり取り組もう体温管理」，周術期管理セミナーin広島（広島） 2022.05.19
199. 山蔭道明：講演，「しっかり取り組もう体温管理」，周術期管理セミナーin岡山（岡山） 2022.05.21
200. 山蔭道明：ランチョンセミナー6「在宅医療における外用剤の使い方とそのポイント」，第4回日本在宅医療連合学会大会（神戸） 2022.07.23
201. 山蔭道明：講演「神経障害性疼痛に対する治療戦略」，北部檜山医師会学術講演会（札幌，Web配信） 2022.08.01
202. 山蔭道明：講演「しっかり取り組もう体温管理」，川崎北部麻酔集中治療セミナー，（川崎） 2022.09.26
203. 山蔭道明：ランチョンセミナー6「小児こそしっかりやろう体温管理」，日本小児麻酔学会第27回大会（岡山） 2022.10.08-09
204. 山蔭道明：講演2「慢性疼痛と不眠：その治療戦略」，かかりつけ医のための医療連携セミナー（札幌） 2022.11.28
205. 山蔭道明：講演「エビデンス・ベイスド・マイクロポンプ」，新医療技術政策勉強会～マイクロポンプが世界の医療を変える～（東京） 2022.12.06
206. 山蔭道明：講演「神経障害性疼痛に対する治療戦略」，第235回函館動脈硬化懇談会（函館） 2022.12.12
207. 山蔭道明：講演「しっかり取り組もう体温管理」，熊本周術期セミナー（熊本） 2022.12.16
208. 山蔭道明：講演「しっかり取り組もう体温管理」，岡山周術期セミナー（岡山） 2023.01.23
209. 山蔭道明：講演「術中体温管理の重要性とこれからのトレンド」，村田製作所社内勉強会（横浜） 2023.02.02
210. 山蔭道明：スポンサード講演2「高齢者におけるレミマゾラムの使用法は？」，第35回日本老年麻酔学会（東京） 2023.03.04
211. 山蔭道明：講演「輸液管理：基本のキ」，製鉄記念室蘭病院2023年度研修医講演（室蘭） 2023.05.19
212. 山蔭道明：シンポジスト，麻酔科から見た集中治療，シンポジウム「麻酔科における集中治療の今後を考える」，日本麻酔科学会第70回学術集会（神戸） 2023.06.01-03
213. 山蔭道明：講演「体温管理：基本のキ」【体温管理ナースフォーラム（東京）】 2023.06.24
214. 山蔭道明：ランチョン講演1「オピオイド鎮痛薬の適正使用～治療戦略のコツと副作用管理～」，日本ペインクリニック学会第57回学術集会（佐賀） 2023.07.13-15
215. 山蔭道明：講演2「慢性疼痛と不眠～その治療戦略～」，茨城県不眠症フォーラム（札幌） 2023.07.18
216. 山蔭道明：講演「しっかり取り組もう体温管理」，東京女子医大麻酔科グラウンドラウンド（東京） 2023.08.21
217. 山蔭道明：特別講演「周術期輸液の新戦略」，第10回京都周術期代謝管理セミナー（京都） 2023.10.28
218. Yamakage M：Invited lecture「Optimization of Intraoperative Fluid therapy」，The 67th annual meeting in Taiwan Society of Anesthesiologists（Taichung, Taiwan） 2023.11.04-05
219. Yamakage M：Session 2A. Expectations for anesthesia professionals focusing on patient safety「Directions and strategies to improve patient safety in Japan：The Japanese Society of Anesthesiology（JSA）perspective」International Conference on Anesthesia Patient Safety（ICAPS）2024（Tokyo, Japan） 2024.02.09-11
220. 山蔭道明：招待講演2「ERASプロトコル”Warm air body heating”－術中患者加温の基礎知識」，日本ERAS®学会第2回学術集会（神戸） 2024.04.14
221. 山蔭道明：講演1「今後の日本麻酔科学会の行方は」，日本麻酔科医会連合第13回学術・政策勉強会（東京） 2024.07.27

【第22回日本内視鏡外科学会総会（東京）】 2009.12.03-05

- ◆ 及川慶浩，富山光広，矢野智之，山田秀久，山蔭道明：内視鏡外科手術の目的にかなった体温測定部位としての鼓膜温の有用性（コメディカル部門最優秀演題賞）

【日本麻酔科学会第58回大会（神戸）】 2011.06.03-05

- ◆ 石岡慶己，早瀬 知，杉野繁一，君島知彦，宮下 龍，山蔭道明：聴性誘発電位モニターaepEXは鼻部や下顎部でも記録できる（優秀演題）

【第8回麻酔科学サマーセミナー（沖縄）】 2011.06.24-26

- ◆ 高田幸昌，山内正憲，新谷知久，山蔭道明，中山禎人：肩関節術後疼痛に対する腕神経叢ブロックにおけるPCRAの効果（最優秀賞）

【日本麻酔科学会 北海道・東北支部第1回学術集会（盛岡）】 2011.09.10

- ◆ 水上奈穂美，山内正憲，渡邊昭彦，小池和彦，山蔭道明：がん緩和医療におけるせん妄の発症とせん妄の誘因因子の関係についての検討（優秀演題）

- ◆ 澤田敦史，吉川裕介，山内正憲，渡邊昭彦，山蔭道明：1%ブドウ糖加酢酸リンゲル液は手術中の脂肪・蛋白異化を抑制する（優秀演題：第1回北海道・東北支部会賞受賞）

【第18回日本静脈麻酔学会（京都）】 2011.11.26

- ◆ 早瀬 知，杉野繁一，表 雅仁，中山禎人，山内正憲，山蔭道明：セロトニン（5-HT₃）受容体の遺伝子多型はフェンタニルによる術後悪心嘔吐に関与する（JSIVA賞受賞）

【第19回麻酔蘇生談話会（ニセコ）】 2012.02.11

- ◆ 川島如仙，岩崎創史，山内正憲，渡邊昭彦，山蔭道明：術中心停止症例の検討—当院における1980年代，1990年代，2000年代の変遷—（優秀演題）

- ◆ 鈴木那央，枝長充隆，丸山大介，山蔭道明：アドレナリンの鼻腔内粘膜下注入によりST変化を伴う大きな循環変動をきたした経鼻的下垂体腫瘍摘出術の1例（優秀演題）

【第9回麻酔科学サマーセミナー（沖縄）】 2012.06.29-07.01

- ◆ 高田幸昌，山内正憲，藤宮峯子，山蔭道明：Cadaverを用いた麻酔科学ワークショップ～臨床手技教育におけるThiel法固定遺体の有用性～（優秀賞：一般部門）

- ◆ 内山結理，高田幸昌，枝長充隆，山蔭道明：エアウェイスコープガイド下気管挿管法—2種類のスパイラルチューブにおける有用性の比較検討—（優秀賞：研修医部門）

【日本麻酔科学会 北海道・東北支部第2回学術集会（札幌）】 2012.09.01

- ◆ 澤田敦史，新山幸俊，山蔭道明：神経障害性疼痛における骨髄由来ミクログリアの関与（最優秀演題）

【第13回麻酔科学ウィンターセミナーin Niseko（ニセコ）】 2013.02.09-11

- ◆ 茶木友浩，平田直之，山蔭道明：LiDCOrapid心拍出量モニタリングシステムを用いた巨大卵巣腫瘍の循環動態に及ぼす影響（最優秀演題）

【北海道・東北支部第3回学術集会（仙台）】 2013.09.14

- ◆ 早瀬 知，杉野繁一，山蔭道明：エストロゲンによる術後悪心嘔吐の機序解明（優秀演題）

- ◆ 澤田敦史，新山幸俊，山蔭道明：脳内の骨髄由来ミクログリアはIL-1 β を介して慢性疼痛による不快情動形成に関与する（優秀演題）

【日本心臓血管麻酔学会第18回学術大会（北九州）】 2013.09.27-29

- ◆ 丸山大介，平田直之，宮下 龍，川口亮一，山蔭道明：亜硝酸塩はNOSを介してラット心筋虚血後心室性不整脈を抑制する（藤田賞受賞）

【日本ペインクリニック学会第48回大会（東京）】 2014.07.24-26

- ◆ 澤田敦史，新山幸俊，山蔭道明：CCR2受容体拮抗薬は，骨髄由来ミクログリアの扁桃体への集積を抑制し，慢性痛による不安行動を改善する（最優秀演題：基礎部門）

【日本麻酔科学会第4回北海道・東北支部学術集会（札幌）】 2014.09.13

- ◆ 数馬 聡，時永泰行，高田幸昌，林 俊輔，山蔭道明：デスフルランはセボフルランと異なる機序で血管内皮依存性弛緩反応を抑制する（優秀演題）

- ◆ 丸山大介，平田直之，宮下 龍，川口亮一，吉川裕介，山蔭道明：亜硝酸塩はGap Junctionを保護することで心筋虚血後心室性不整脈を抑制する（優秀演題）

- ◆ 平川由佳，佐々木英昭，山蔭道明：骨髄穿刺針EZ-IO®を用いた成人の骨髄路確保に関する検討（優秀演題）

- ◆ 久保みのり，河村真衣子，杉目史行，岩崎創史，渡邊昭彦，山蔭道明：意識下・非意識下開頭術における麻酔法の血糖・血圧に及ぼす影響（優秀演題）

【第21回日本静脈麻酔学会（高松）】 2014.11.29

- ◆ 高田幸昌，時永泰行，数馬 聡，林 俊輔，山蔭道明：低温—復温刺激による血管張力変化に対するプロポフォールの影響および機序の検討（JSIVA賞受賞）

【第26回日本臨床モニター学会（札幌）】 2015.05.15-16

- ◆ 五十嵐友美，立花俊祐，山蔭道明：小児用イヤホン型体温計の使用経験（優秀演題賞受賞）

【第12回麻酔科学サマーセミナー（沖縄）】 2015.06.26-28

- ◆ 高橋さゆみ，中山禎人，山澤 弦，山蔭道明：困難気道モデルにおける新型Airway scopeの有用性—Airtraq，Macintosh型喉頭鏡との比較検討—（優秀賞）

【日本麻酔科学会第5回北海道・東北支部学術集会（弘前）】 2015.09.12

- ◆ 君塚基修，時永泰行，林 俊輔，山蔭道明：ロピバカインによる血管平滑筋収縮に対するセボフルランとプロポフォールの影響（優秀賞）

- ◆ 茶木友浩, 名和由布子, 玉城敬史, 平田直之, 山蔭道明: 小児人工心肺中レミフェンタニル持続投与による高血糖, 高乳酸血症予防効果 (優秀賞)
- ◆ 千田雄太郎, 立花俊祐, 山蔭道明: 前額部深部温モニタリングシステムSpotOn™の他部位での有用性 (優秀賞)
- ◆ 東口 隆, 時永泰行, 林 俊輔, 君塚基修, 数馬 聡, 山蔭道明: 高酸素分圧下でのラット血管平滑筋収縮反応に対する麻酔薬の効果の検討 (優秀賞)
- 【第16回麻酔科学ウィンターセミナーin Niseko (ニセコ)】 2016.02.05-07
- ◆ 橋本優希, 茶木友浩, 吉川裕介, 平田直之, 山蔭道明: 小児の手術室入室, 麻酔導入におけるビデオグラスの有用性 (優秀賞)
- ◆ 白井 彩, 高田結理, 立花俊祐, 枝長充隆, 山蔭道明: 下大静脈腫瘍塞栓を伴う腎悪性腫瘍術において術中経食道心エコーを用いて右房内に遊離した腫瘍塞栓子を発見し得た1症例 (優秀賞)
- ◆ 【第43回日本集中治療医学会学術集会 (神戸)】 2016.02.11-14
- ◆ 汲田 翔, 川口亮一, 西原教晃, 枝長充隆, 山蔭道明: Sonoclotを用いた血液凝固管理が人工心肺下開心術の周術期輸血量に及ぼす影響 (優秀演題)
- ◆ 【日本区域麻酔学会 (弘前)】 2016.04.15-16
- ◆ 室内健志, 岩崎創史, 山蔭道明: 乳がん手術における古典的傍脊椎ブロック法と新しい椎弓板アプローチ法の比較検討 (優秀演題: 臨床部門)
- ◆ 【日本麻酔科学会第63回学術集会 (福岡)】 2016.05.26-28
- ◆ 数馬 聡, 時永泰行, 高田幸昌, 林 俊輔, 山蔭道明: デスフルランとセボフルランは異なる機序で血管内皮依存性弛緩反応を抑制する (優秀演題)
- ◆ 田中俊光, 早瀬 知, 茶木友浩, 立花俊祐, 山蔭道明: 意識下開頭術における中断因子の検討 (優秀演題)
- ◆ 【第13回麻酔科学サマーセミナー (沖縄)】 2016.06.24-26
- ◆ 千田雄太郎, 立花俊祐, 表 雅仁, 若杉佳子, 山蔭道明: 非侵襲的深部温モニタリングシステムTemple Touch Pro™の有用性 (優秀演題賞)
- ◆ 【北海道・東北支部第6回学術集会 (札幌)】 2016.09.03
- ◆ 東口 隆, 時永泰行, 君塚基修, 数馬 聡, 林 俊輔, 山蔭道明: リンゲル液と各種HES製剤を用いた血液希釈における血小板・凝固機能の検討 (優秀演題)
- ◆ 君塚基修, 時永泰行, 東口 隆, 数馬 聡, 林 俊輔, 山蔭道明: ロピバカインによる血管平滑筋収縮に対するセボフルランとプロポフォールの影響と機序 (優秀演題)
- ◆ 救仁郷達也, 室内健志, 山本修司, 山蔭道明: Serratus Plane Blockにおけるロピバカインの用量と麻酔域の検討 (優秀演題)
- ◆ 【第32回北海道ペインクリニック学会 (札幌)】 2016.09.17
- ◆ 高田幸昌, 橘 信子, 杉目史行, 新谷知久, 山蔭道明: フェンタニル貼付剤使用中に薬剤性意識消失から交通事故を起こした1症例 (優秀演題賞)
- ◆ 【第27回日本急性血液浄化学会学術集会 (東京)】 2016.10.28-29
- ◆ 島田朋和, 千原伸也, 小川輝之, 山口真依, 中村勇輝, 室橋高男, 巽 博臣, 升田好樹, 山蔭道明: ヘモフィルターの素材の違いによるクリアランス特性 (優秀演題賞)
- ◆ 【日本麻酔科学会第64回学術集会 (福岡)】 2017.06.08-10
- ◆ 大野 翔, 名和由布子, 山蔭道明: 小児心臓手術では人工心肺中のヘモグロビン高値が術後急性腎傷害と関連する (優秀演題)
- ◆ 吉川裕介, 平田直之, 川口亮一, 茶木友浩, 山蔭道明: デクスメトミジンは高血圧性肥大心筋における虚血再灌流障害に対して直接心筋保護作用を発揮する (優秀演題: 最優秀演題賞)
- ◆ 諸原清香, 早瀬 知, 山蔭道明: TACR1遺伝子プロモーター領域のメチル化率と術後悪心嘔吐の検討 (優秀演題)
- ◆ 【第14回麻酔科学サマーセミナー (沖縄)】 2017.06.30-07.02
- ◆ 伊野亜佑美, 中山禎人, 辻口直紀, 山蔭道明: 新しいダブルルーメンチューブ用イントロロックを用いたAirway scopeによる困難気道モデルに対する気管挿管の検討 (優秀演題賞)
- ◆ 【日本麻酔科学会北海道・東北支部第7回学術集会 (秋田)】 2017.09.01
- ◆ 茶木友浩, 吉川裕介, 川口亮一, 平田直之, 山蔭道明: プロポフォールの溶媒である脂肪製剤は酸化ストレスを介して横紋筋障害を引き起こす (最優秀演題賞)
- ◆ 【第33回体液・代謝管理研究会学術集会 (札幌)】 2018.02.27
- ◆ 東口 隆, 時永泰行, 君塚基修, 数馬 聡, 濱田耕介, 山蔭道明: Hydroxyethyl starch (HES) 製剤による血液凝固障害のin vivoの検討 (優秀演題賞)
- ◆ 数馬 聡, 時永泰行, 東口 隆, 君塚基修, 濱田耕介, 山蔭道明: セボフルランは酸化ストレスによる血管内皮依存性弛緩反応およびグリコカリックスの障害を回復させる (優秀演題賞)
- ◆ 【日本麻酔科学会第65回学術集会 (横浜)】 2018.05.17-19
- ◆ 西村実夫, 平田直之, 山蔭道明: 麻酔前酸化におけるOxygen Reserve Indexと呼吸酸素濃度の比較 (優秀演題)
- ◆ 【第15回麻酔科学サマーセミナー (沖縄)】 2018.06.29-07.01
- ◆ 近藤麻美子, 佐藤 慧, 山蔭道明: O3センサーによる片肺換気中の酸素飽和度の推移ープロポフォールとデスフルランでの比較検討ー (最優秀演題賞)
- ◆ 【日本麻酔科学会北海道・東北支部第8回学術集会 (旭川)】 2018.09.01
- ◆ 数馬 聡, 時永泰行, 君塚基修, 東口 隆, 濱田耕介, 山蔭道明: セボフルランは酸化ストレスによるグリコカリックスの障害および血管内皮依存性弛緩反応の減弱をシアル酸転移酵素ST6Gal-Iの発現増強を介して回復させる (最優秀演題)
- ◆ 茶木友浩, 橋本優希, 吉川裕介, 平田直之, 時永泰行, 山蔭道明: ビデオグラス® (没入型ヘッドマウントディスプレイ) は小児の麻酔導入時不安を軽減する: 無作為ランダム化比較試験 (優秀演題)
- ◆ 濱田耕介, 時永泰行, 数馬 聡, 東口 隆, 君塚基修, 山蔭道明: アストロサイト培養細胞におけるデキサメサゾン投与によるアクアポリン4タンパク質発現の誘導: 脳浮腫の予防に向けて (優秀演題)
- ◆ 【日本麻酔科学会第66回学術集会 (神戸)】 2019.05.30-06.01

- ◆ 近藤麻美子, 佐藤 慧, 枝長充隆, 山蔭道明: 脳酸素飽和度からみた片肺換気中の適切な麻酔薬の検討ープロポフォルとデスフルランの比較ー (優秀演題)
- ◆ 【第16回麻酔科学サマセミナー (沖縄)】 2019.06.28-30
- ◆ 及川菜々子, 新山幸俊, 山蔭道明: 当院で施行されたロボット支援直腸切除術の術後管理に対する後ろ向き検証 (優秀演題賞)
- ◆ 【日本麻酔科学会北海道東北支部第9回学術集会 (仙台)】 2019.09.14
- ◆ 澤下泰明, 平田直之, 吉川裕介, 寺田拡文, 山蔭道明: Remote ischemic preconditioningは心保護効果を持つ非アシル化グレリンを分泌させ虚血再灌流傷害を減弱させる (優秀演題)
- ◆ 濱田耕介, 時永泰行, 佐藤智恵, 君塚基修, 山蔭道明: セボフルランはデスフルランと異なり, アストロサイト培養細胞の膨化を抑制する (優秀演題)
- ◆ 【日本心臓血管麻酔学会第24回学術大会 (京都)】 2019.09.20-22
- ◆ 澤下泰明, 平田直之, 吉川裕介, 寺田拡文, 山蔭道明: セボフルランは心保護作用を持つ非アシル化グレリンの分泌を促進し, 虚血再灌流傷害の軽減に関与する (優秀演題賞, 藤田賞受賞)
- ◆ 【日本麻酔科学会第67回学術集会 (神戸)】 2020.06.04-06
- ◆ 近藤麻美子, 佐藤 慧, 枝長充隆, 山蔭道明: 脳酸素飽和度からみた片肺換気中の適切な麻酔薬の検討ープロポフォルとデスフルランの比較ー (優秀演題)
- ◆ 【日本麻酔科学会第68回学術集会 (神戸)】 2021.06.03-04
- ◆ 茶木友浩, 立花俊祐, 汲田 翔, 佐藤帆奈美, 濱田耕介, 山蔭道明: 筋弛緩使用全身麻酔下患者において, i-gel®およびLMA-Supreme™使用時の頭部回旋位は, 口咽頭リーク圧を低下させる (日本麻酔科学会若手賞受賞講演・臨床)
- ◆ 【日本麻酔科学会第69回学術集会 (神戸)】 2022.06.16-18
- ◆ 松野秀太郎, 枝長充隆, 佐藤智恵, 日下部奎仁, 山蔭道明: 高齢者における抗血小板薬DOACの継続あるいは中止時のTEG6sによるモニタリング (優秀演題)
- ◆ 【日本麻酔科学会北海道・東北支部第12回学術集会 (札幌)】 2022.09.03
- ◆ 金高弘典, 前田真岐志, 吉川裕介, 大野 翔, 平田直之, 山蔭道明: 弓部大動脈瘤手術において経食道心エコーで検出したオープンステントグラフト末梢側の拡張不全と遠位部の乱流 (優秀演題)
- ◆ 【日本心臓血管麻酔学会第27回学術大会 (京都)】 2022.09.17-18
- ◆ 澤下泰明, 佐藤智恵, 平田直之, 山蔭道明: 六君子湯による心臓虚血再灌流傷害への新規治療戦略の可能性 (藤田昌雄賞候補セッション)
- ◆ 【日本麻酔科学会北海道・東北支部第13回学術集会 (仙台)】 2023.09.09
- ◆ 小泉勝嗣, 茶木友浩, 立花俊祐, 松本友美, 熊谷友絵, 山蔭道明: 頭部回旋位におけるLMA-ProSeal®およびi-gel®の口咽頭リーク圧に関する比較検討: 無作為ランダム化比較試験 (優秀演題)
- ◆ 【第28回日本神経麻酔集中治療学会 (倉敷)】 2024.07.13-14
- ◆ 西原教晃, 立花俊祐, 田中聡一, 山蔭道明: フレイルモデルのマウスにおいて, 難消化性オリゴ糖ラフィノースは腸内細菌叢の多様性維持により術後せん妄を予防する (最優秀演題)
- ◆ 【日本麻酔科学会北海道・東北支部第14回学術集会 (札幌)】 2024.09.14
- ◆ 仁木舜一, 茶木友浩, 山崎偉道, 山田 豪, 大谷真拓, 山蔭道明: McGrath MACおよびAceScope™使用時, 気管挿管に要する時間の比較検討: 無作為ランダム化比較試験 (優秀演題)
- ◆ 大谷真拓, 伊藤圭汰, 救仁郷達也, 吉川裕介, 山蔭道明: 人工心臓を使用する胸部大血管手術における急性腎障害の予測モデル: 単施設後方視的検討 (優秀演題)

他の活動

<テレビ・ラジオ出演>

1. 体温の知識の啓蒙1: 爽快TV! ビタミンH (北海道, HBC) 出演「耳式vs.脇の下. 体温計の不思議」 1998.10.14
2. 体温の知識の啓蒙2: イチオシ! (北海道, HTB) 出演「頭皮からの熱の放散と防寒」 2003.11.12
3. 体温の知識の啓蒙3: イチオシ! (北海道, HTB) 出演「シルク靴下の保温効果」 2004.01.14
4. 体温の知識の啓蒙4: 世界一受けたい授業 (日本テレビ) 出演「体温の不思議」 2007.10.27
5. 体温の知識の啓蒙5: Hana*テレビ (北海道, HBC) 出演「体温の不思議」 2008.01.17
6. 体温の知識の啓蒙6: けいざいナビ45 (北海道, TVH) 出演「鼓膜体温計」 2008.08.17
7. 体温の知識の啓蒙7: 夕焼けナビ<<聞きナビ>> (東海ラジオ) 出演「低体温について」 2008.09.15.16
8. 低体温についてコメント: スーパーニュース (北海道, UHB) 出演「トムラウシ山遭難と低体温症について」 2009.07.17
9. 低体温についてコメント: まるごと北海道 (北海道, NHK) 出演「トムラウシ山遭難と低体温症について」 2009.07.17
10. 熱中症の知識の啓蒙: つながる@きたカフェ (北海道, NHK) 出演「からだQ&A: 熱中症にご用心!」 2010.07.27
11. 緩和ケアの知識の啓蒙: スーパーニュース (北海道, UHB) 出演「女性のがん: 緩和医療」 2011.01.26
12. 大学後期研修の紹介: 札幌医科大学のI BAN (第3回) (北海道, HBC) 出演「充実の研修環境. 育て未来の専門医」 2011.05.15
13. 熱中症の知識の啓蒙: U型テレビ (北海道, UHB) 出演「熱中症」 2011.07.08
14. 熱中症の知識の啓蒙: NEWS I (北海道, HBC) 出演「熱中症」 2011.07.28
15. ペインクリニックの紹介: 医の力〜札幌医科大学最前線〜 (FM北海道Air-G) 出演「その痛み 我慢しないで!」 2011.11.26

16. 緩和医療の紹介：医の力～札幌医科大学最前線～（FM北海道Air-G）出演「がんの痛み 我慢しないで」 2012.05.26
17. 熱中症の知識の啓蒙：どさんこワイド（北海道，STV）出演「熱中症」 2012.06.29
18. 熱中症の知識の啓蒙：U型テレビ（北海道，UHB）出演「熱中症」 2012.07.05
19. 保温知識の啓蒙：U型テレビ（北海道，UHB）出演「節電中の冬の室内の保温の方法」 2013.01.10
20. 手術・熱中症知識の啓蒙：グッチーの今日ドキッ！（北海道，HBC）出演「腹腔鏡下手術・熱中症」 2013.07.04
21. 熱中症知識の啓蒙：グッチーの今日ドキッ！（北海道，HBC）出演「熱中症」 2013.07.22
22. ペインクリニック知識の啓蒙：グッチーの今日ドキッ！（北海道，HBC）出演「ペインクリニック」 2013.08.01
23. ペインクリニック知識の啓蒙：グッチーの今日ドキッ！（北海道，HBC）出演「ペインクリニック（総集編）」 2013.12.27

<医療支援>

1. 2000年有珠山噴火に伴う医療支援（洞爺村） 2000.07.12-14
2. 2007年脳死ドナー臓器摘出手術麻酔支援（札幌） 2007.02.25

<鑑定書作成>

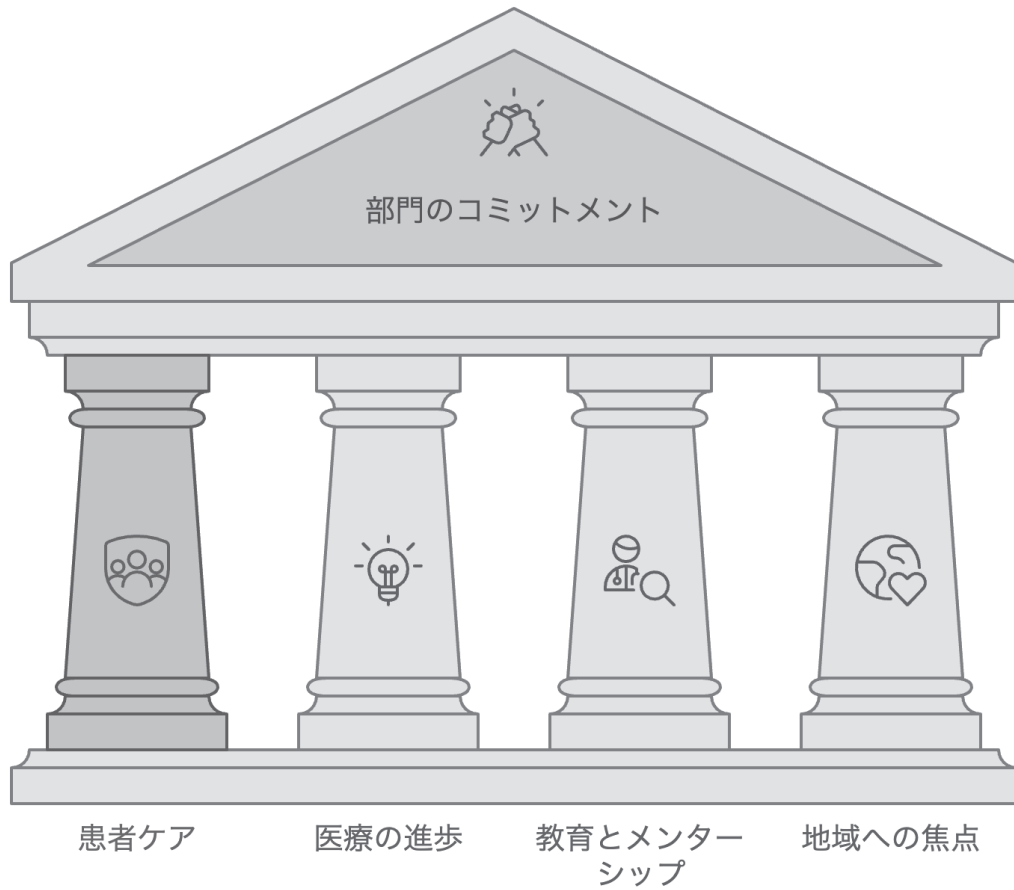
1. 医療訴訟鑑定：仙台地方裁判所平成10年（ワ）第***号事件 2001.02.26
2. 医療訴訟鑑定：***病院弁護士からの依頼 2011.03.15
3. 医療訴訟意見書：大阪地方裁判所平成23年（ワ）第***号損害賠償請求事件 2012.05.13
4. 医療訴訟意見書：福岡地方裁判所平成23年（ワ）第***号損害賠償請求事件 2014.01.10
5. 医療訴訟意見書：旭川地方裁判所平成29年（ワ）第****号損害賠償請求事件 2017.10.10

<記事（ネット記事を含む）>

1. City shares anaesthetic expertise with Japan. The Cairns Post, Saturday, August 7, 1999, p. 7
オーストラリアケアンズ市内の病院でラリンジアルマスクを研修した際の記事
2. 北海道医療新聞（2003年）「吸入麻酔薬弛緩作用－COPDモデルで解明－山蔭札幌大講師」
日本医師会医学研究助成受賞に關しての記事
3. 山蔭道明：私のブックマーク「雪国に住む大学勤務医にとっての便利な航空会社サイト」【三共株式会社ホームページ】 2005.04
<http://www.sankyo.co.jp/medical/guidance/bookmark/index.html>
<http://www.sankyo.co.jp/medical/guidance/bookmark/1B94.html>
4. 山蔭道明：35℃台は「低体温」って、知ってた？【EXCITE健康ホームページ】 2008.04
http://www.excite.co.jp/health/topics/rid_1639/
5. 山蔭道明監：低体温がもたらす体の不調を解消しよう。暮らしと健康 2008; 8月号, p. 26-9.
6. 山蔭道明：単なる“冷え”だけでは片づけられないカラダの危険信号。女性の低体温が危ない！Oggi 2008年17巻8号, p. 10.
7. 山蔭道明：監修。夏冷えの原因は低体温にあり！。NonNo 2008年38巻15号, p. 92-3.
8. 北海道医療新聞社。ベストナース（2008年8月号）「看護研究。これで安心！うまくいく！超入門らくらく使えるはじめての統計学ーすぐに使えるアプリケーションCDらくらく統計ナース付き。山蔭道明監修，及川慶浩編著。メディカ出版」
出版に際してのコメント記事掲載。
9. 山蔭道明：毎日新聞でコメント「低体温症で死亡一中高年，寒さ感知遅れ」。2009.07.18
10. 村川雅洋，山蔭道明：学会報告「2009年度日本麻酔科学会北海道・東北支部学術集会を終えて」。社団法人日本麻酔科学会NEWS LETTER 2009; 17(4)：2.
11. 山蔭道明：寄稿文「同門」。土肥修司教授退任記念誌。岐阜大学麻酔・疼痛制御学教室同門会編。2010, p.47.
12. 山蔭道明：監修・執筆「薬理学ノート」。麻酔の基礎：麻酔領域：学術情報。アストラゼネカホームページ（連載計10回）。2010
<http://med.astrazeneca.co.jp/disease/anesthetizing/masui/index.html>
13. 山蔭道明：講演5「HES and Coagulation」。FRACTA JAPAN 2010講演記録集
14. 山蔭道明：扉言葉「症例検討：麻酔歴に問題がある患者のインフォームドコンセント3」。LiSA 2010; 17：983.
15. 山蔭道明：記事「熱中症の対処法・予防法」。北海道新聞 2011.07.06朝刊掲載号（生活・暮らし）p.14.
16. 山蔭道明：記事「今夏の熱中症の傾向」。北海道新聞 2011.07.06朝刊掲載号（第1社会）p.31.
17. 山蔭道明：記事「周術期禁煙の有効性周知に学会レベルでの取り組みをー第58回日本麻酔科学会」。Medical Tribune 2011年08月18日号 p.26-7.
18. 山蔭道明：銀の知恵。ペインクリニック最前線。地域新聞フリッパー札幌南版 No.58, p.10（2011.11.1発行）
19. 山蔭道明：紹介記事「外科，麻酔の進歩で手術医療が向上ー第33回日本手術医学会」。Medical Tribune 2011; 44(49)：22.
20. 山蔭道明：紹介記事「脊髄刺激療法で慢性的痛み緩和」。北海道新聞（朝刊全道，生活・暮らし）2012, p.24.
21. 山蔭道明：紹介記事「熱中症の対策」。北海道新聞（朝刊全道，札幌圏）2013.08.01, p.25.
22. 山蔭道明：紹介記事「ひと2013：緩和医療学」。北海道新聞（朝刊全道，全道遅版，総合）2013, 08.04, p.2.
23. 山蔭道明：紹介記事「講演会（がん治療緩和）紹介」。北海道新聞（朝刊全道，胆振圏）2013.11.26
24. 山蔭道明：紹介記事「講演会（がん緩和医療）紹介」。北海道新聞（室蘭民放）2013.11.27
25. 山蔭道明：紹介記事「JA Clinical Reports創刊」。日本麻酔科学会ニューズレター 2015, 23(1)：p.2.
26. 山蔭道明：紹介記事「安全なペインクリニック診療に向けてー有害事象報告，ガイドラインの活用をー。Medical Tribune 2016; 49(37)：p.14.

<学生支援>

1. 札幌医科大学POPS研究会 顧問 2008.04～
2. 第57回札幌医科大学医大祭一医学展 世界一受けたい授業
講演「ここがすごい！麻酔科学」 2008.06.22
3. 札幌医科大学スケート部 顧問 2011.04～2024.03



このたび、札幌医科大学医学部麻酔科学講座の歩みと業績をまとめたこの冊子を、皆様にお届けできることを誇りに思います。創設以来、当講座は地域医療における中核的存在として、時には困難な状況にも直面しながら、常に医療の進歩に貢献してまいりました。その歩みは、ひとえに関係者の皆様の絶大なるご支援とご指導によるものであり、心から感謝の意を表します。

振り返れば、1957年の開講以来、多くの先達のご尽力と、日々の臨床、教育、そして研究における真摯な努力が積み重ねられ、今日の札幌医科大学麻酔科学講座の礎が築かれてきました。特に、ここ数年のパンデミックによる試練の中で、医療現場が極限の状況にさらされる中でも、皆様からの温かいご支援に支えられ、困難を乗り越えることができました。新たな医療の在り方を模索し、さらには技術革新の最前線でリーダーシップを発揮できたのも、皆様の励ましとご助力があったからこそです。

今後も、医療の最前線での役割を担い続け、地域に根ざした医療を提供し続けることに使命感を持っています。また、次世代を担う若い医師たちを育成し、彼らが新たな課題に果敢に挑戦できるような環境を整えていくことが、重要な責務と考えています。このような取り組みを進める上で、皆様からの絶え間ないご指導、ご鞭撻が欠かせないものであると、改めて感じています。

これからも、麻酔科学のさらなる発展を目指し、常に最新の知見と技術を取り入れながら、患者様に最良の医療を提供するための努力を惜しみません。そして、未来の医療を切り開くために、教室員と共に邁進してまいります。どうか引き続き、皆様からのご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

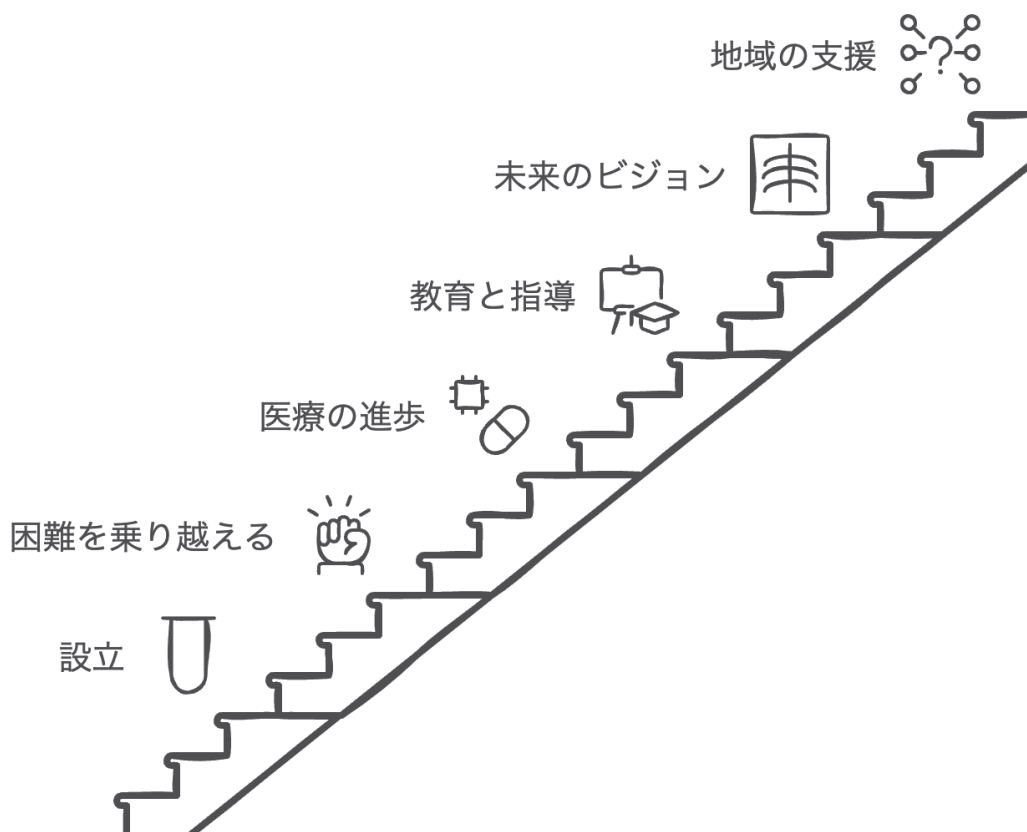
結びに、これまでの多大なるご厚情に深く感謝申し上げるとともに、皆様のますますのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。そして、今後も共に、医療の未来を築いていくためのご協力をお願い申し上げます。

2024年12月

札幌医科大学医学部麻酔科学講座 教授

山蔭 道明

札幌医科大学麻酔科学講座の歩み





公益社団法人 The 73rd Annual Meeting of the Japanese Society of Anesthesiologists

日本麻酔科学会 第73回学術集会

麻酔科学を究める
Master the Secrets of Anesthesiology

会期
2026
5.21 Thu. 23 Sat.

WEB配信期間
Viewing Period 2026.5.21 Thu. 0.000

会場
パシフィコ横浜
横浜ベイホテル東急
WEB配信

Venue
PACIFICO YOKOHAMA
THE YOKOHAMA BAY HOTEL TOKYU
On line

会長 山蔭 道明 (札幌医科大学附属病院)
Chairman Michiaki Yamakage
Sapporo Medical University Hospital

学術集会に関するお問い合わせ

公益社団法人日本麻酔科学会事務局
〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-2
神戸キメックセンタービル3階

Japanese Society of Anesthesiologists
Kobe KIMEC Center Building 3F 1-5-2 Minatogima-Minamimachi,
Chuo-ku, Kobe 650-0047 Japan

日本麻酔科学会第73回学術集会

検索



<https://73th.anesth-meeting.org/>

演題募集期間 Abstract submission period

2025.11.1 Sat. 12.1 Mon. noon



第30回日本医療ガス学会

2027

学術集会

9:00-15:00

併催イベント

16:00-20:00

安全でかつ患者に役立つ医療ガスを追求する

場所：未定（札幌市内）

日程：未定（2027年秋）

札幌医科大学医学部麻酔科学講座
開講70周年記念事業

- ・講演会
- ・記念写真撮影
- ・記念祝賀会

学会参加に併せて、是非ご参加ください。

TEL:011-688-9662

FAX: 011-614-8430

札幌医科大学医学部麻酔科学講座

就任後のイベント(1)

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
麻酔学講座から麻酔科学講座に改名 教授就任	同大緩和医療学寄付講座教授 兼務 第26回北海道ペインクリニック学会 主催 同大集中治療医学教授 兼務 バンクーバー冬季五輪	東日本大震災 第19回日本静脈麻酔学会 主催 Journal of Anesthesia, Editorial Board 第29回北海道ペインクリニック学会 主催 富士山 世界遺産	日麻第4回北海道東北支部学術集会 主催 教授就任5周年 御嶽山 噴火 日本麻酔科学会理事 就任 日本臨床麻酔科学会理事 就任 日本ペインクリニック学会理事 就任 日本心臓血管麻酔学会学会常任理事 就任 JA Clinical Reports ,Editor-in-Chief	トランプ氏 米大統領に就任 第21回北海道緩和医療研究会 主催 Journal of Anesthesia, Editor-in-Chief 第33回体液・代謝管理研究会 主催	教授就任10周年 ラグビーW杯 日本開催 平成から令和へ	日麻第10回北海道東北支部学術集会 主催 新型コロナウイルス感染症 パンデミック 第25回日本神経麻酔集中治療学会 主催 第2521回Awake Craniotomy学会 主催 第25回日本心臓血管麻酔学会 主催	日本麻酔科学会理事長就任 日本臨床麻酔学会第41回学術大会 主催 夏季オリンピック 東京開催					
新入教室員 (人数)												
7	18	9	9	11	13	5	4	18	9	18	11	10

当科関連教授（現在続いているか、または私が教授就任以降に就任、敬称略）

川真田樹人（信州大麻酔科）

松本真希（文教大学看護学科）

宮部雅幸（三重大臨床麻酔部）

藤田 智（旭川医大救急医学）

成松英智（札幌医大救急医学）

山内正憲（東北大麻酔科）

今泉 均（東京医大集中治療科）

川股知之（和歌山医大麻酔科）

升田好樹（札幌医大集中治療医学）

新山幸俊（秋田大麻酔科）

就任後のイベント(2)

2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
ロシア 知ウ 北床ク 京観ラ 冬光イ 季船ナ 五沈侵 輪没攻	日本麻酔科学会理事長就任 二期目	還暦 日本麻酔科学会理事長就任 二期目	教授就任15周年記念 気道管理学会第7回大会主催	日本麻酔科学会理事長退任	日本麻酔科学会第73回大会 主催 ミラノ冬季五輪	日本医療ガス学会第30回大会 主催 麻酔科学講座開講70周年記念	教授職定年 ロサンゼルス夏季五輪			麻酔科学講座開講75周年記念	古希	
新入教室員（人数）												
8	9	9	11									

当科関連教授（現在続いているか、または私が教授就任以降に就任、敬称略）

川真樹人（信州大麻酔科）

成松英智（札幌医大救急医学）

山内正憲（東北大麻酔科）

川股知之（和歌山医大麻酔科）

升田好樹（札幌医大集中治療医学）

新山幸俊（秋田大麻酔科）

平田直之（熊本大麻酔科）